



清俗紀聞

第二

			卷之二	樂帙
			居家	

在四
六冊

37
3522
2



門 77
號 3522
卷 2

清俗紀聞卷之二

居家

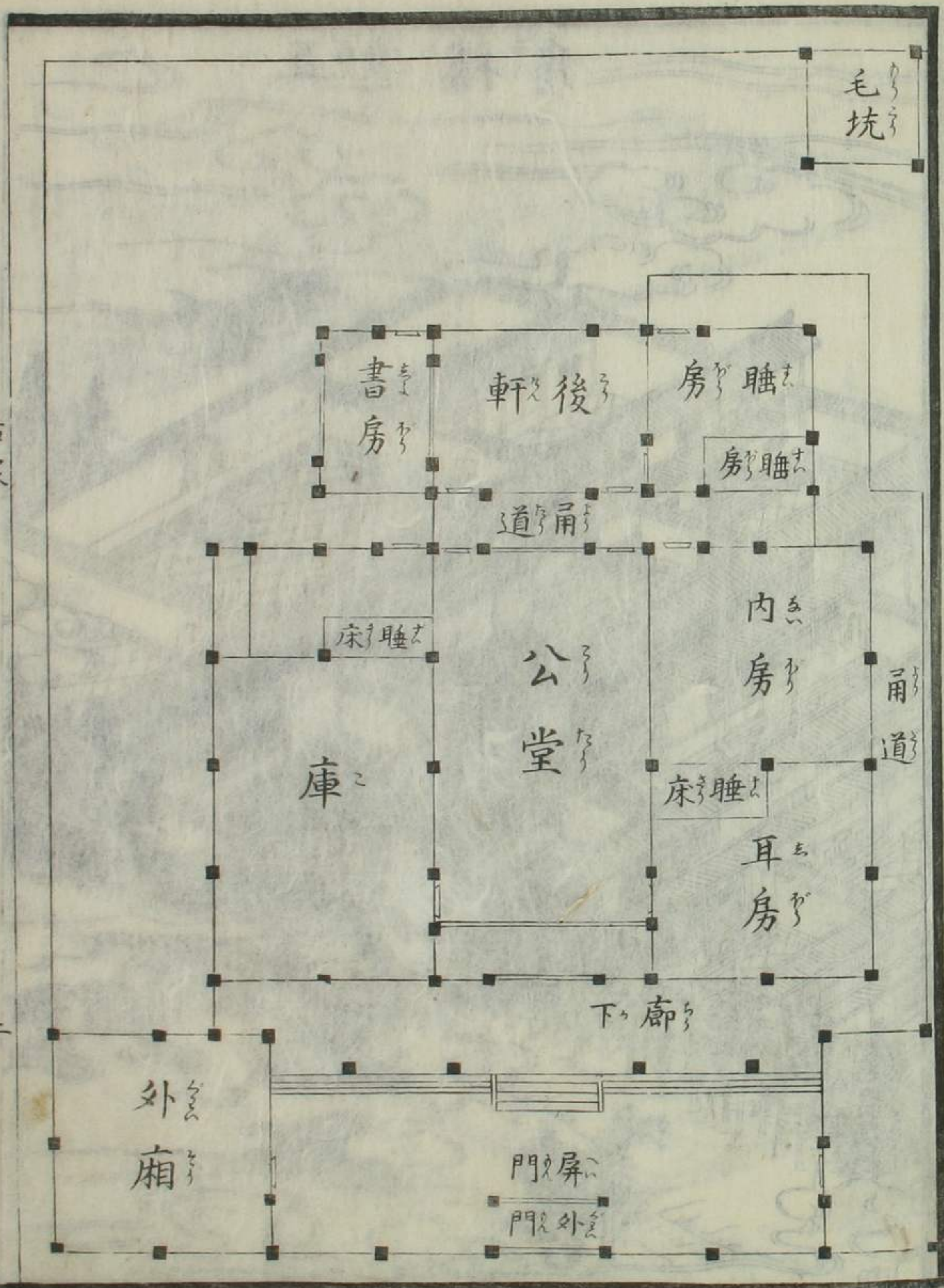
○居家の制は作の各大小廣狭比別ありて同一やをよとては皆瓦葺みして之約
 外南より泥牆板牆正面より大門を設け大門より二間三間行内儀門をたす
 儀門の内(玄關)向の板敷廣一間或は二間客入あど或は陰比時ハ此向より應
 對は是は廳堂と云ふ一外廳廳堂の兩側空地を設け樹木等植たり
 あり又一方書房或は造作をかもつ廳をせし奥の方には柱をく廳堂或
 建まは内廳と云ふ大戸を是を兩楹建て川堂内廳と分別すあるあり
 内廳の側(書房)を設け是より内房へ通ふ一楹に建てつけたるあり
 内房の別み建ふあり其奥服の方厨下あり惣して柱を圓方等しかり
 を廳堂むけは多く圓柱或は用由柱毎み礎を並礎も圓方或は六角等不



居家

昭和41年12月20日寄
原安三郎氏贈

居家



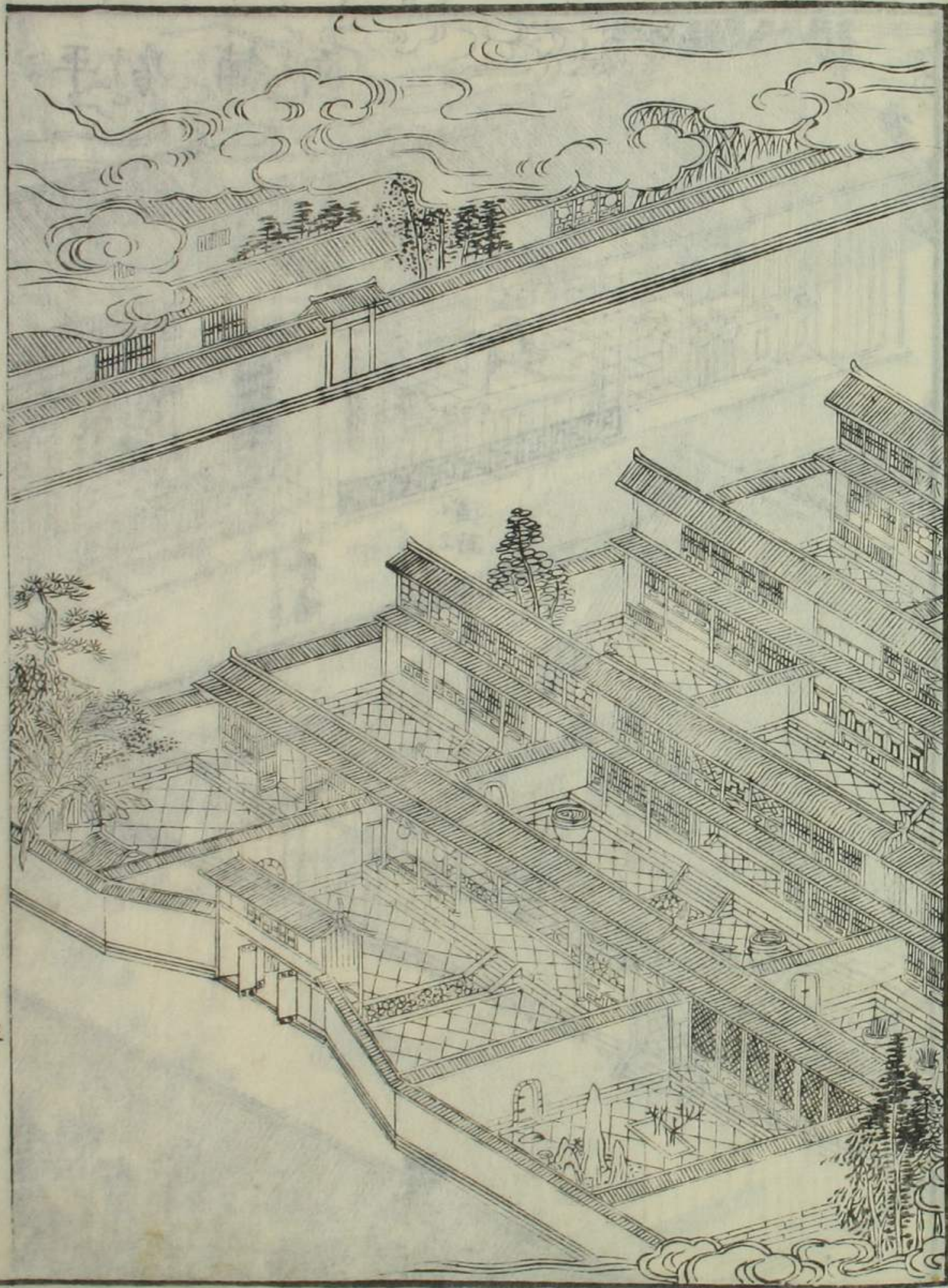
浴室
柴庫
小戸平房

浴室
柴庫

小戸平房

同あり壁の磚をぬく土母で築く厚は一尺程ありて上は白灰塗り
 黄土赤土等好に上塗り色土制度定式あり屋中柱は床
 を張るに方ありひの龜甲形の瓦敷敷き且瓦敷敷き又厚板板敷き
 軒の代りたきふもあり内房厨下等の床を張る板敷敷き又
 土間もあり通行の路次々何止も土間ありひの平石瓦敷敷き又
 下廊の高等九六七八と一丈程あり

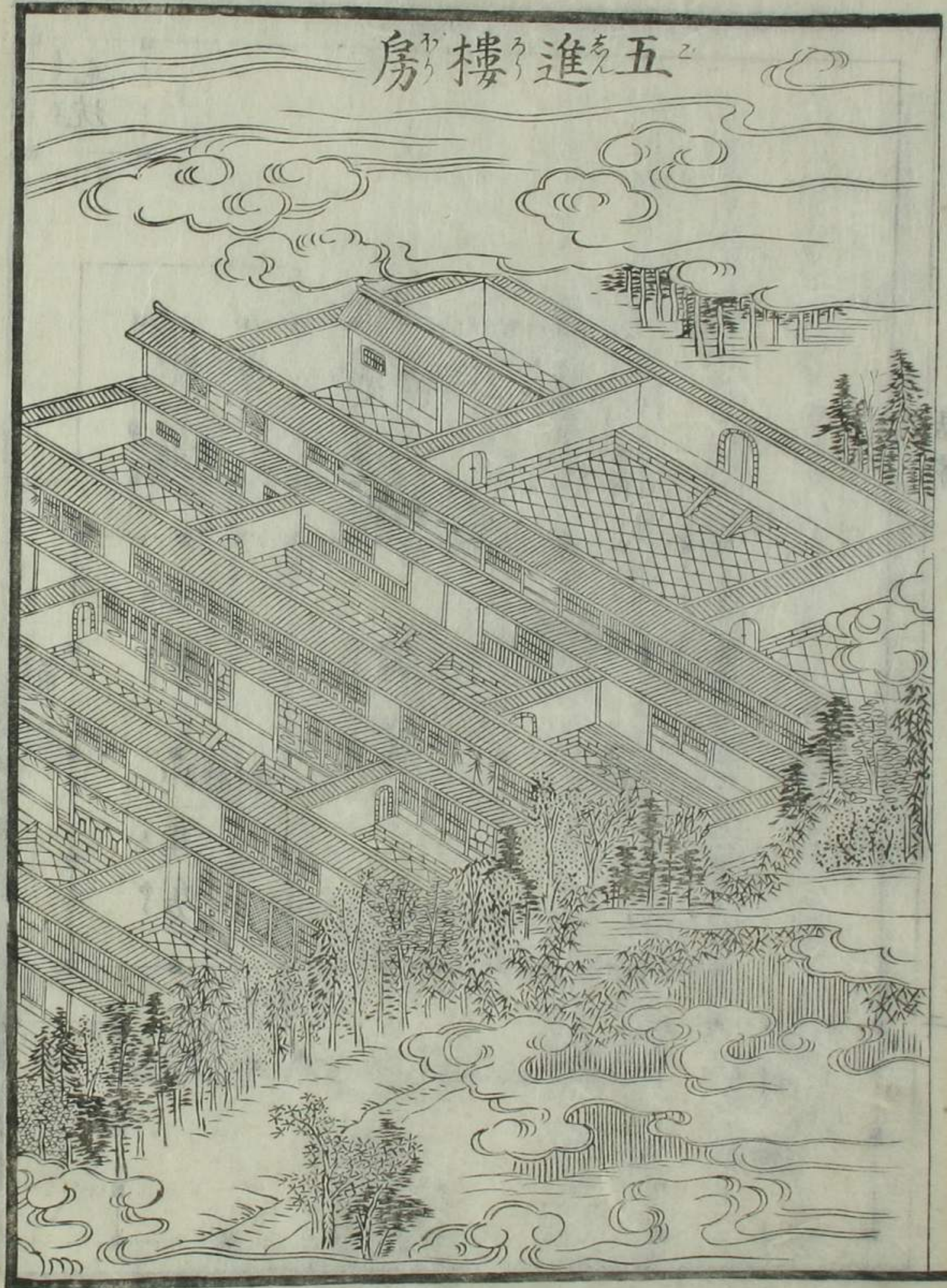
厨房

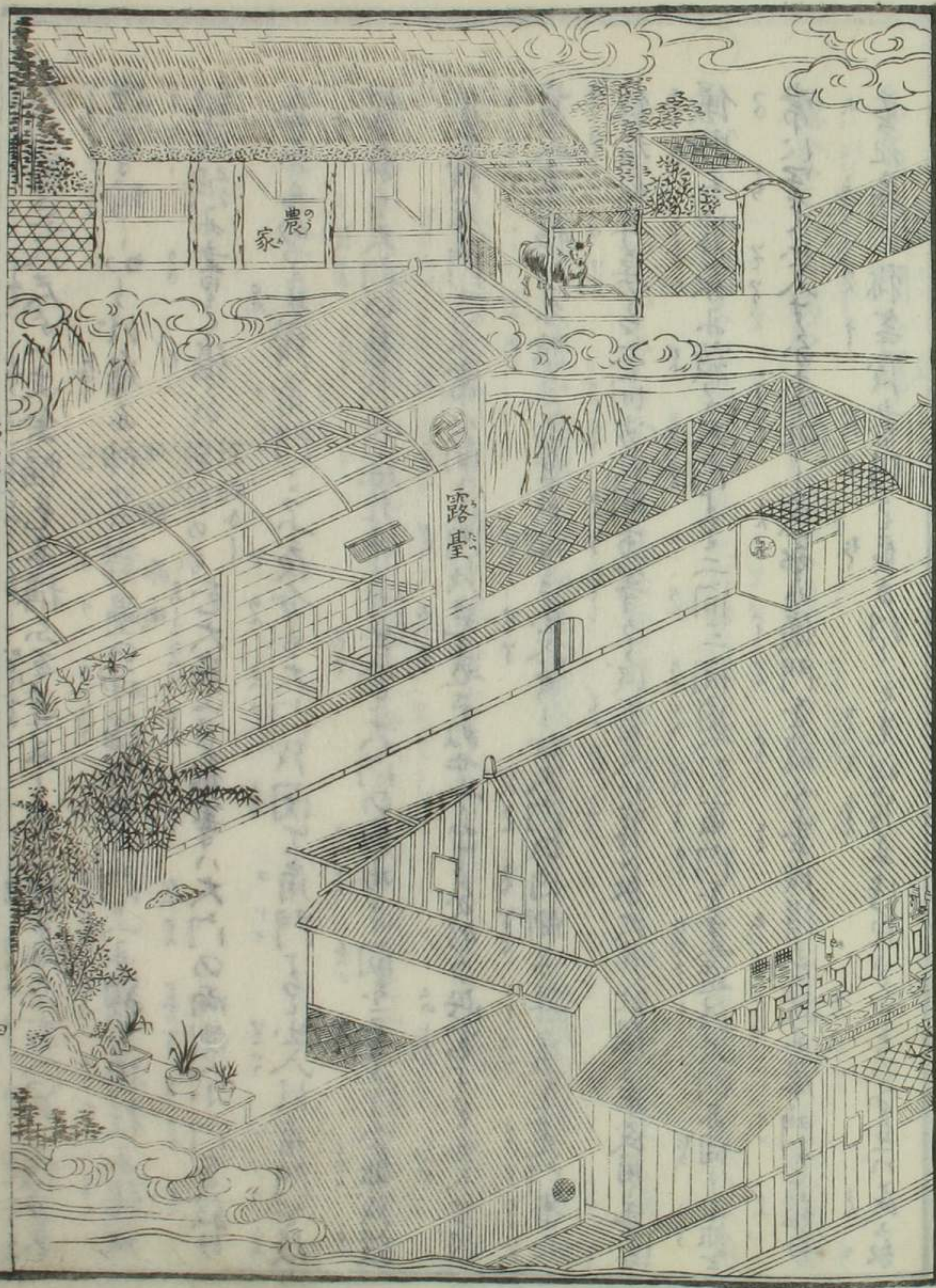


居家

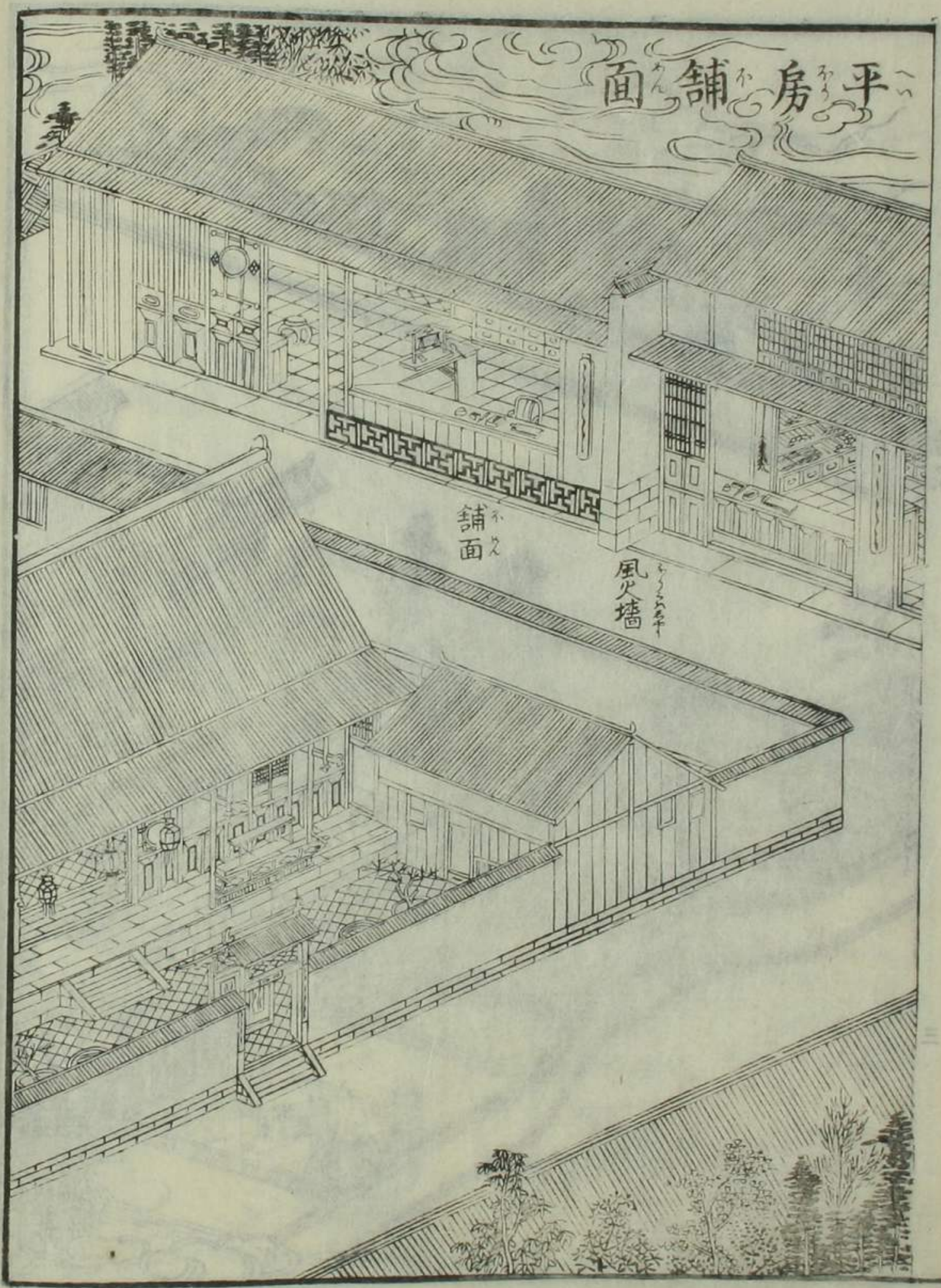
三

五進樓房





居亦

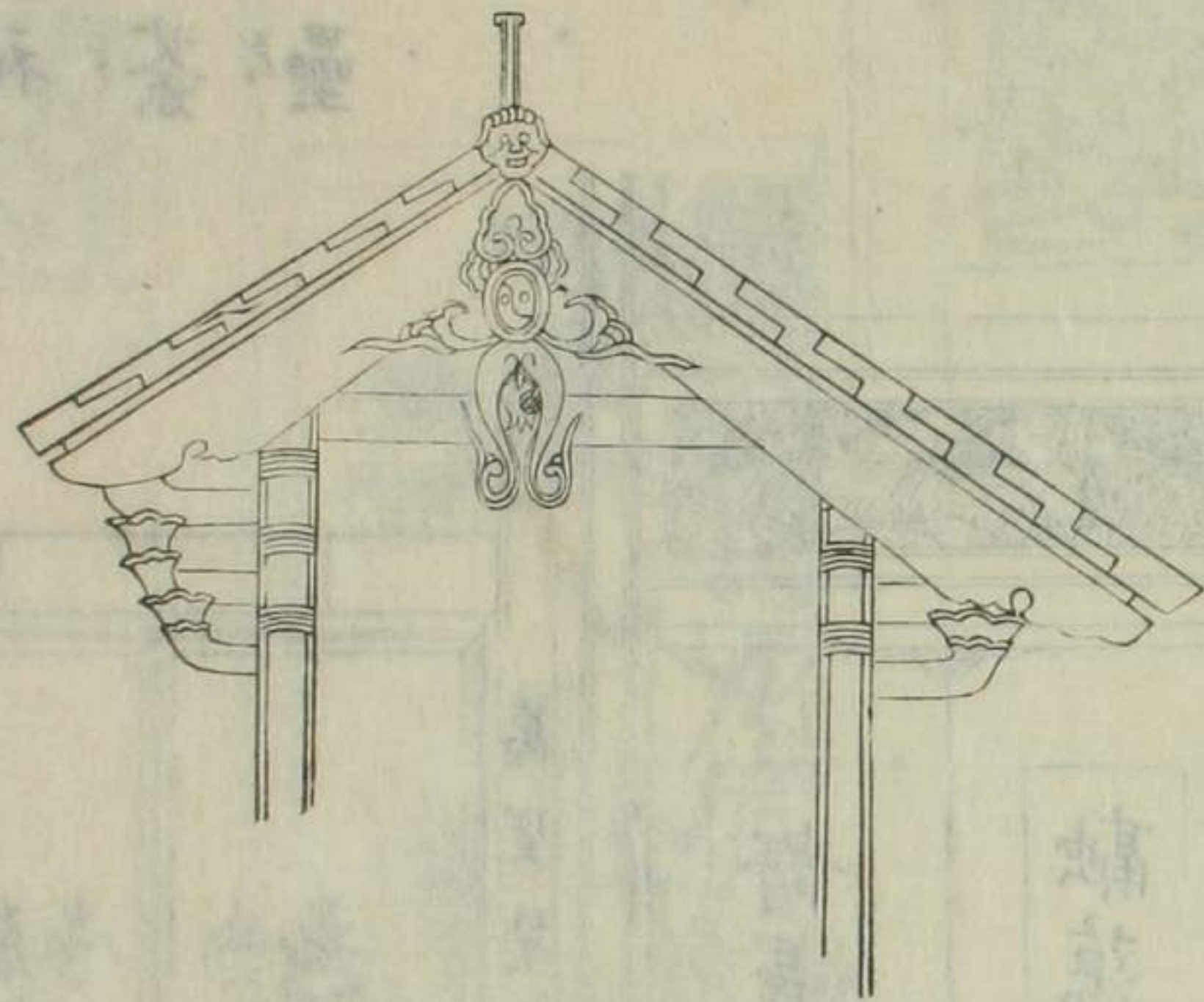


○大門高三七八尺分一丈余幅是稱ふ瓦葺みして二枚扉扉左右に柱方
礎等均しからし扉扉神茶樹壘の神儀成張り門上額を掛柱は襖
紅唐紙を書き張る額縁の向ふに大家官家等ハ大門の両側小門を設け
あかもあまは是成角門と云夜分は大門成開て角門より出入り角門を設
けずから大門の扉成行開れりして出入り大門の内側一間を置くと扉成設
く是成屏門と云常の開く内成見透るぬあまは出入り此の出入り
貴人高位の來臨は止し成開き出入り大門の内側耳房を建門番人
住居は耳房と二間方二間方等々は番人の官家大戸に限る平民用は事
儀門は官家敷設く大門より二間二間内(引取門を建造法大門は同一扉を
常に穿て出入り事れ)氏家は儀門を設け事成得は屏門を設け
成は扉扉襖等成書張る扉の門を先祖官家は成は扉の扉は氏家

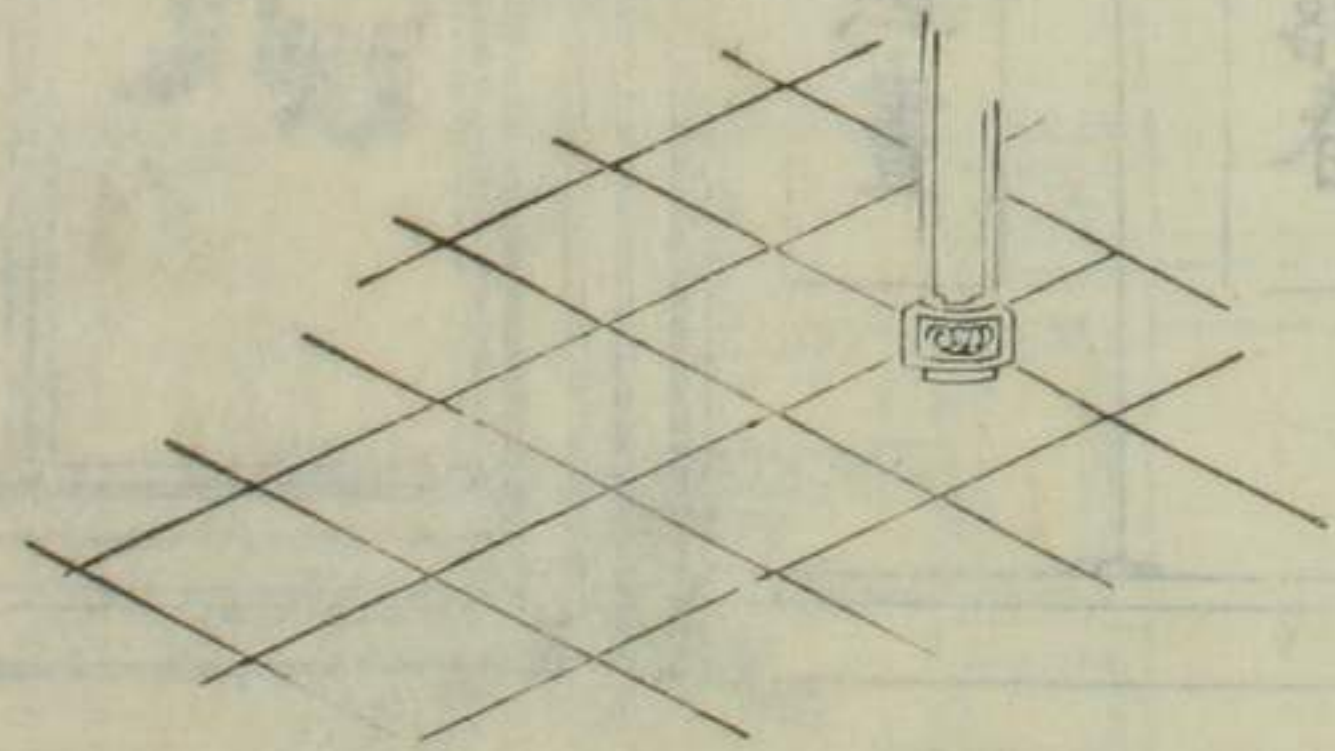
あかも儀門を設く

○廳堂大小不同は儀門の内敷設く入口は扉二枚あり一回板間の大小に寄
て和くか下は軒を去れた右壁柱一本ごとく礎を正方圓あり六角
等ひとくか下は堂の正面は扉は中好は扉成あり之拂のちり卓子成並
書画掛物成の上額を打両方(襖成は卓の上より香爐花瓶を並兩
側(洋木紫檀紫竹等の椅子杓子を去れた客人は正不請して坐せ免
談話は正面の兩服は中間は宛明く出入口は扉を二枚設け是勝
よりの出入口は

外門之側面



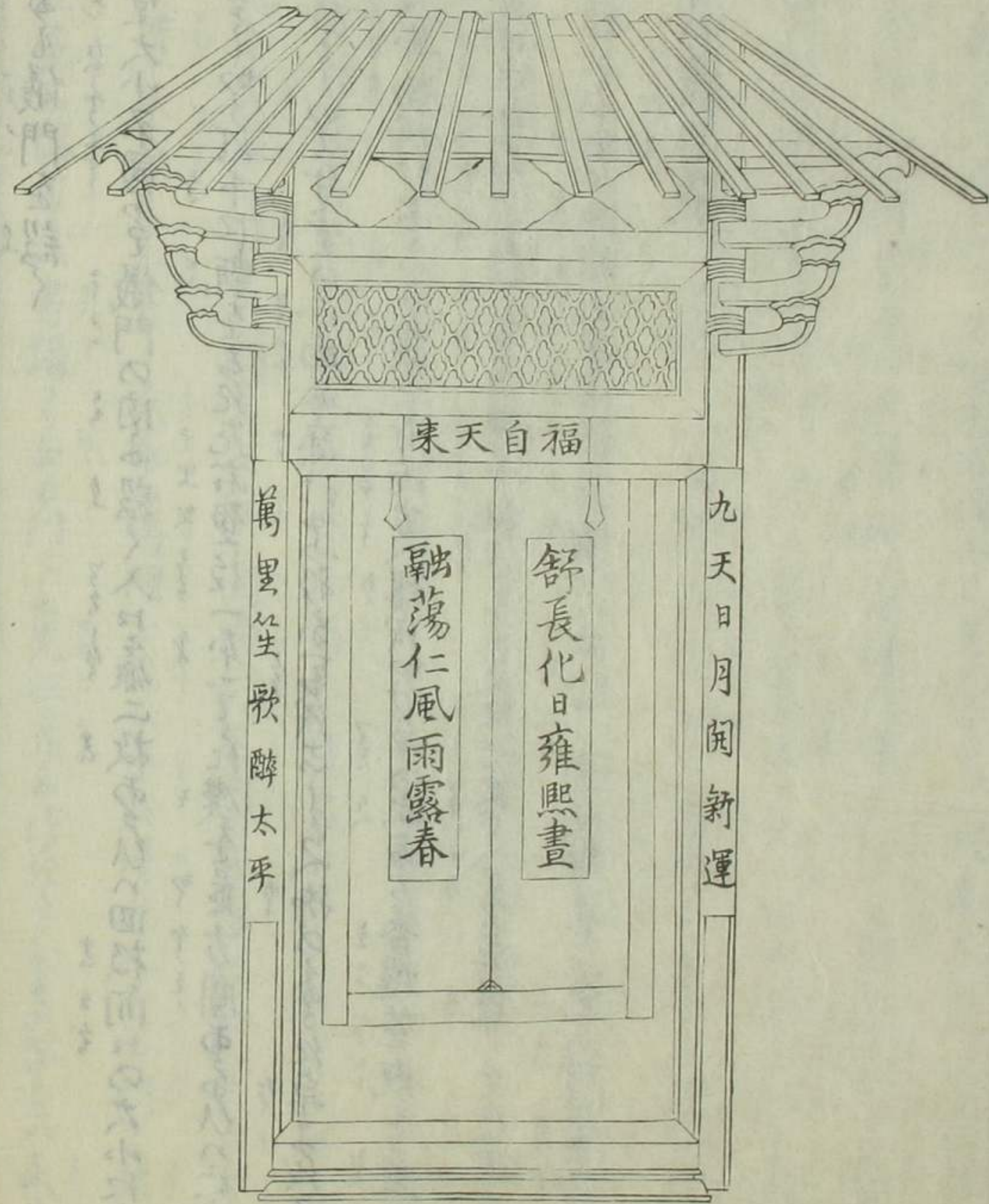
晴窗二風雨霽春



居家

六

外門之正面



福自天來

融蕩仁風雨露春

舒長化日雍熙晝

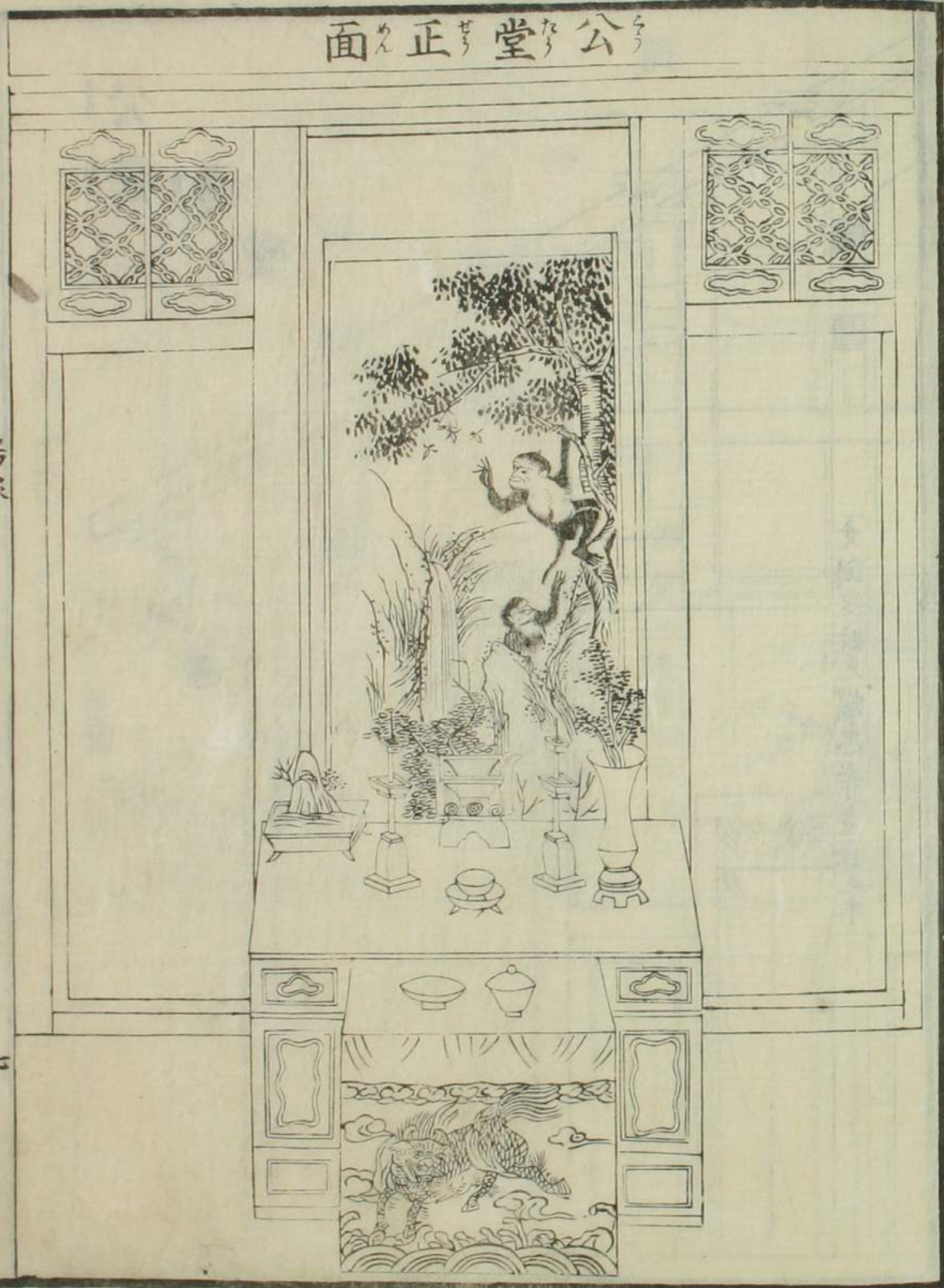
九天日月開新運

萬里笙歌醉太平

公堂正名面

居家

七



屏門扇

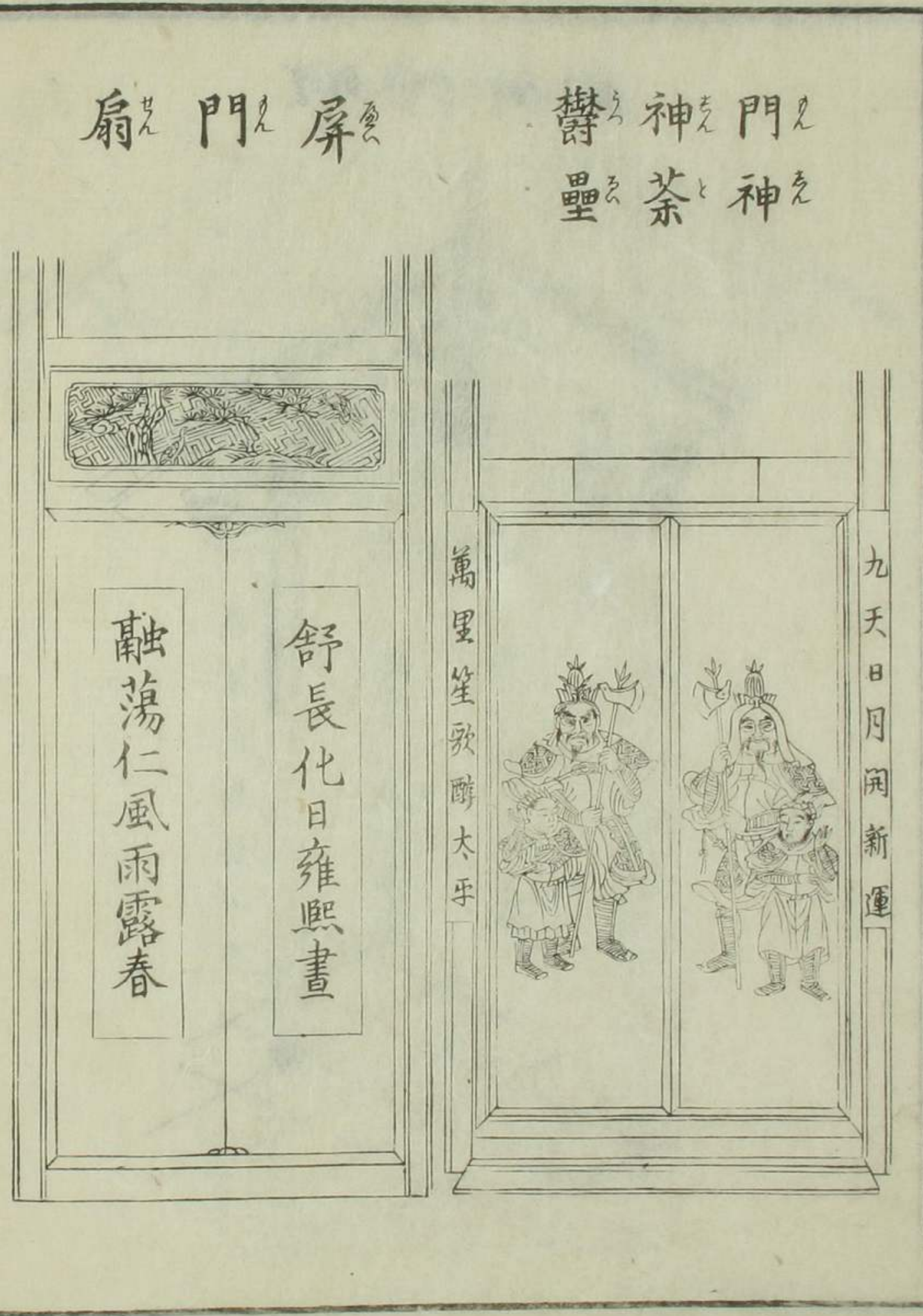
門神
神荼
鬱壘

融蕩仁風雨露春

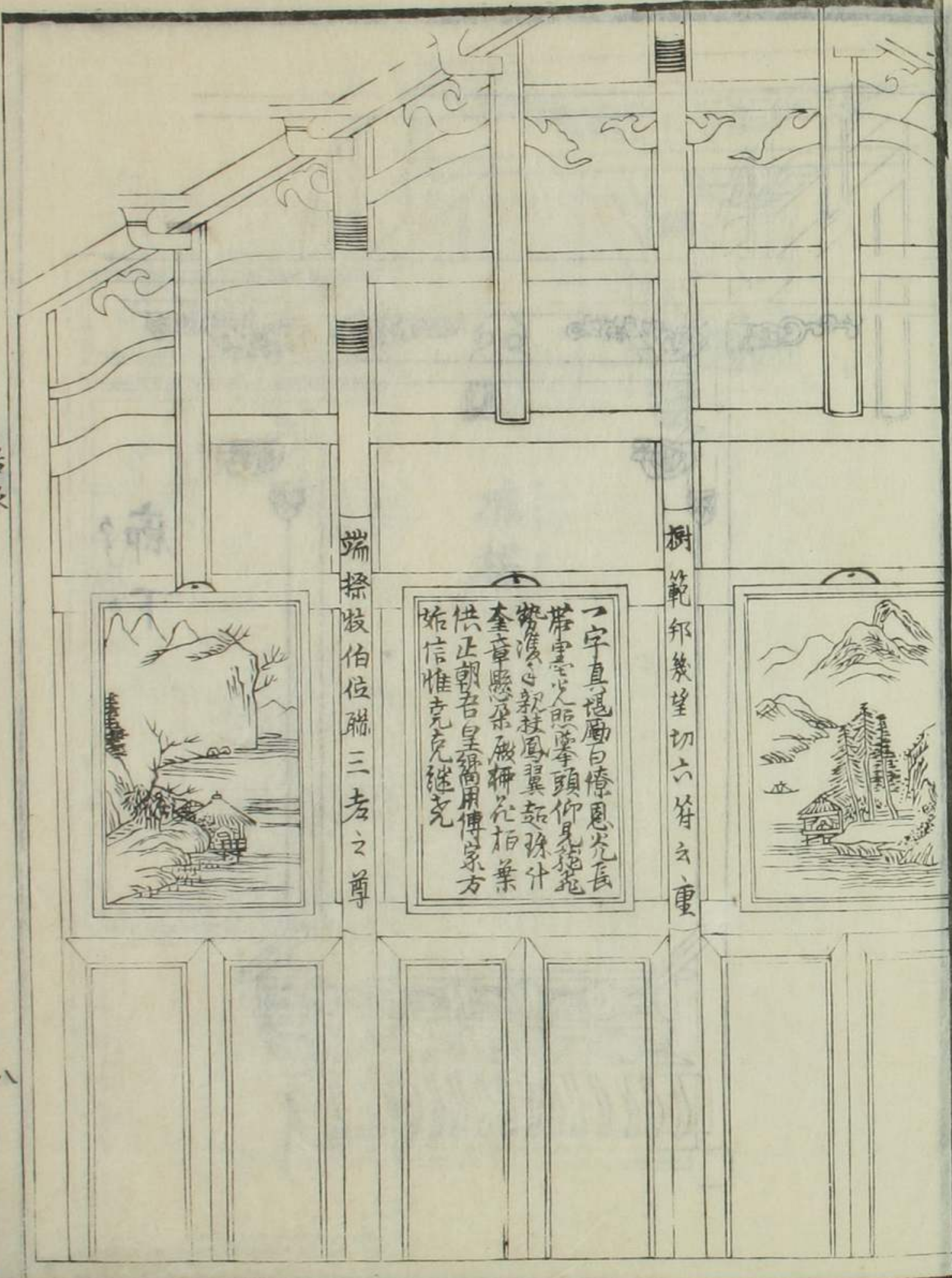
舒長化日雍熙晝

萬里笙歌醉太平

九天日月開新運



居家

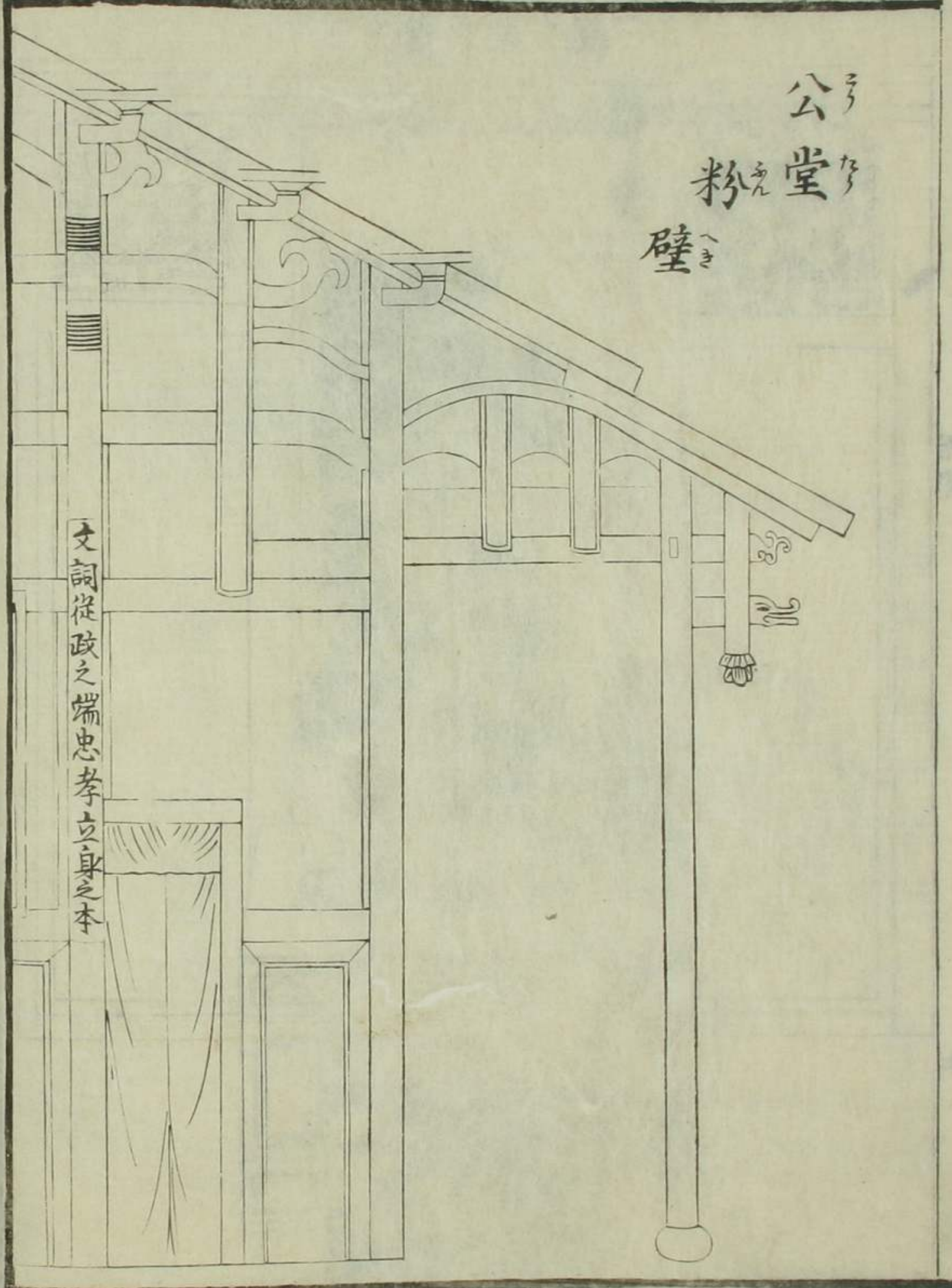


端操叔伯位聯三考之尊

樹範邦幾望切六符之重

一字直堪勵白億恩光長
 楷字少人昭筆頭仰見德苑
 欒漢白親枝鳳翼起珠什
 奎章懸采殿榭花柏葉
 供正朝名皇籍用傳家方
 始信惟克克繼克

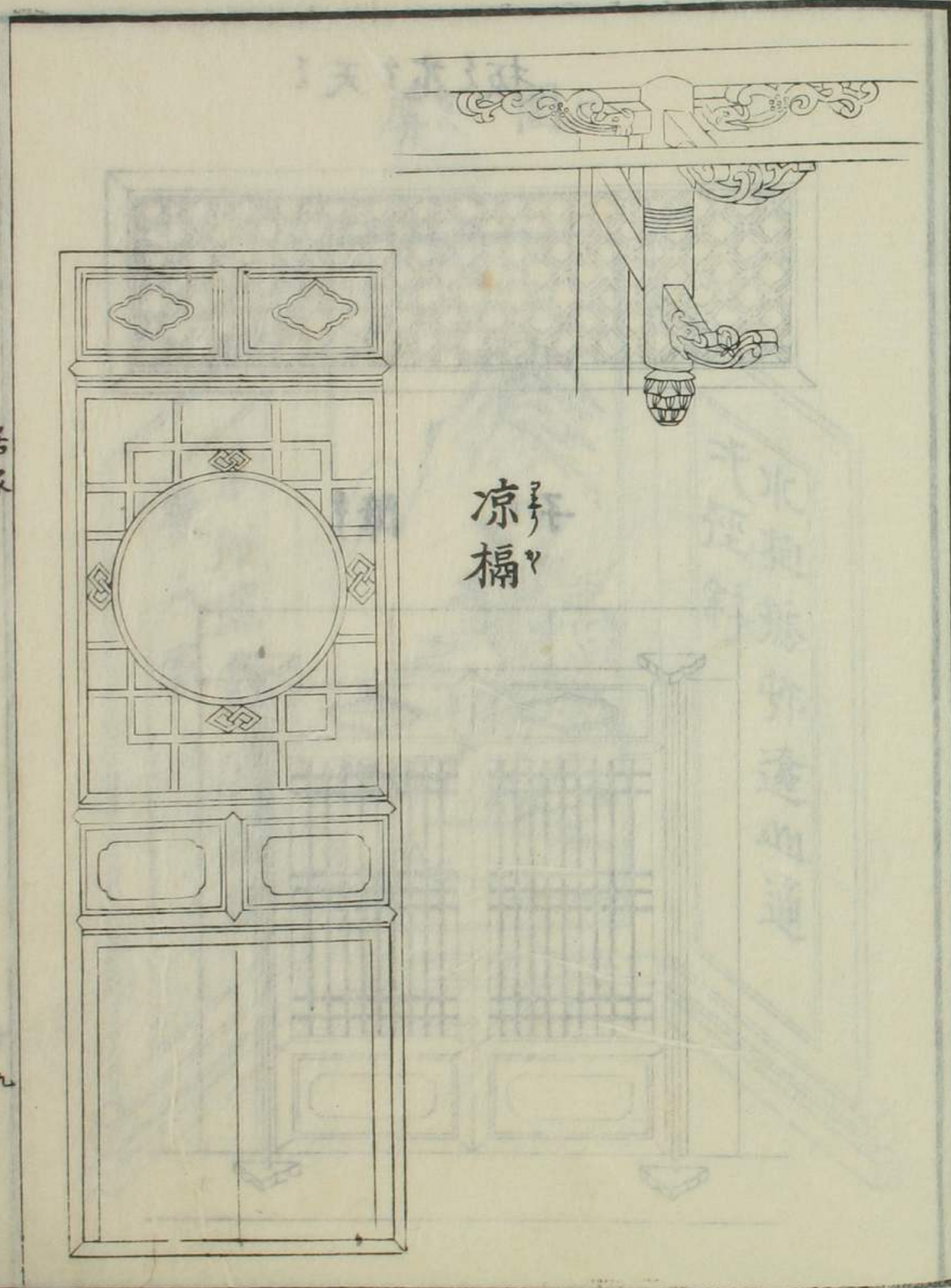
公堂
 粉壁



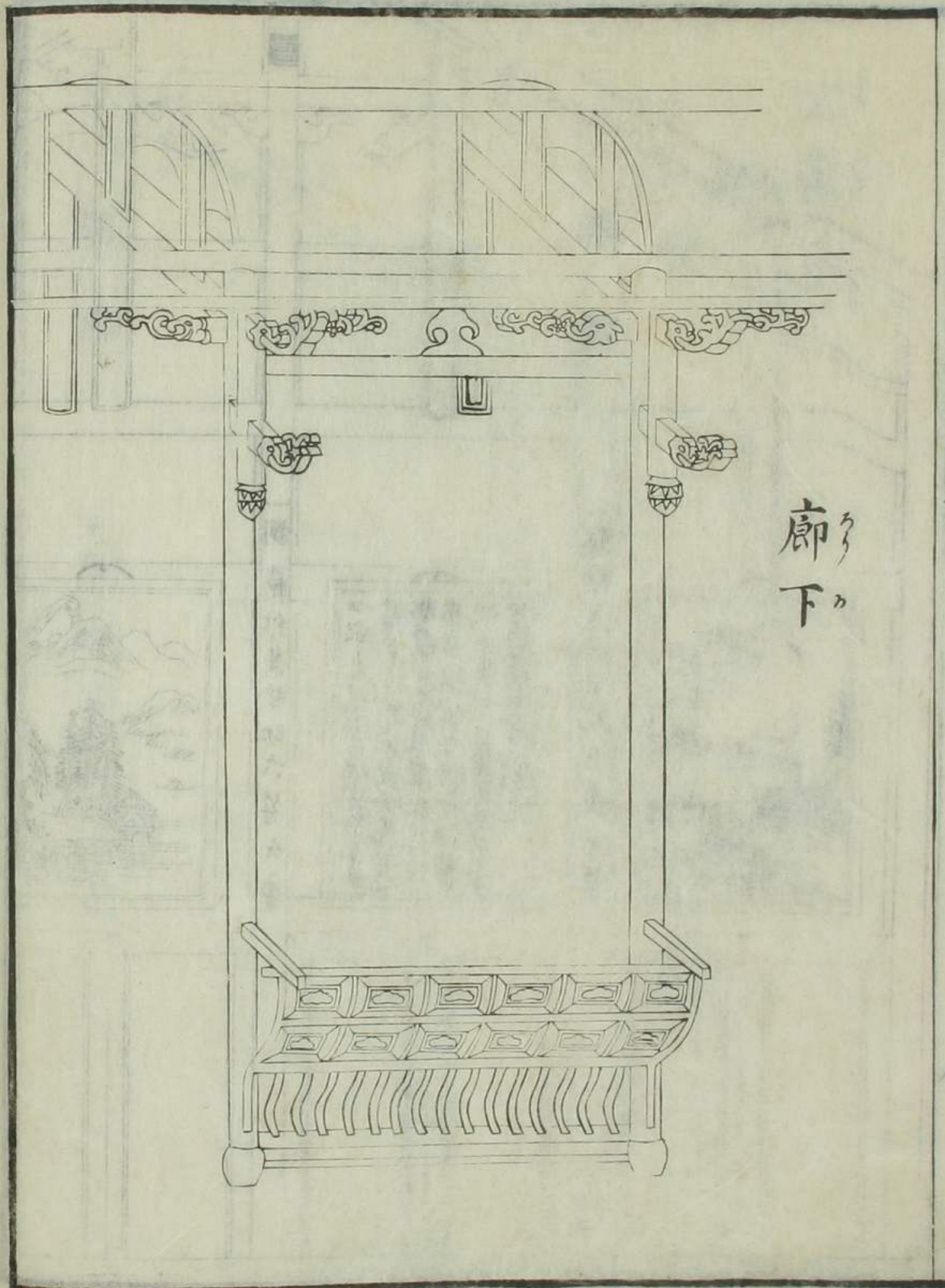
文詞從政之端忠孝立身之本

居象

九



凉榻



廊下

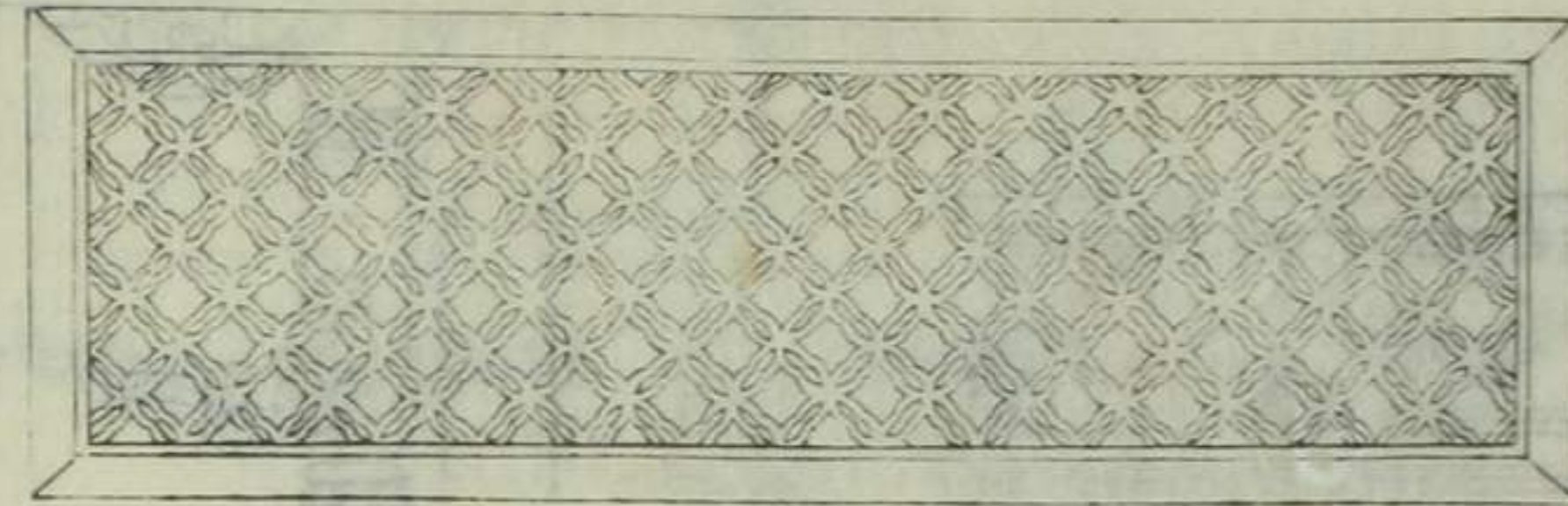
屏圍



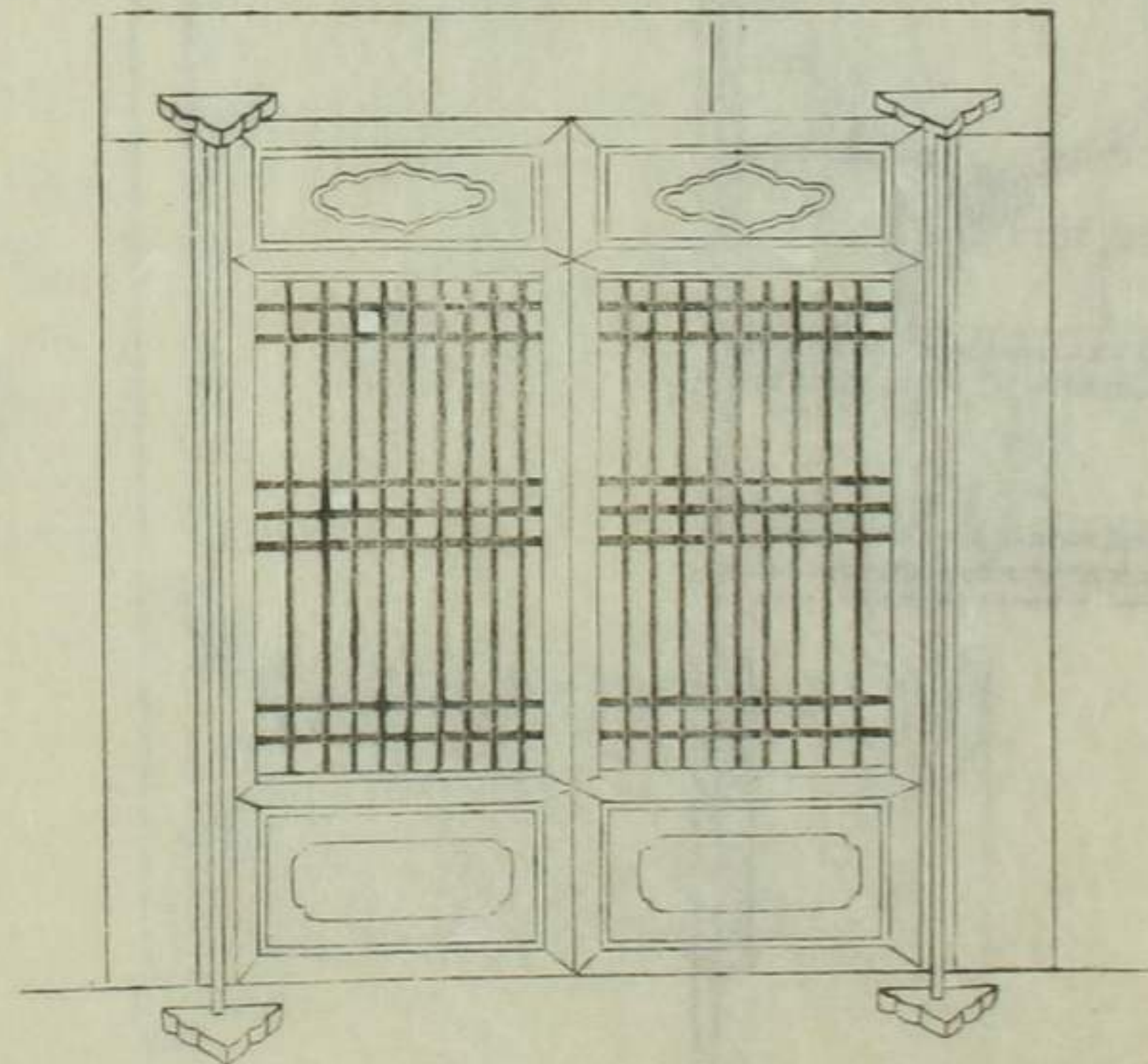
居家

+

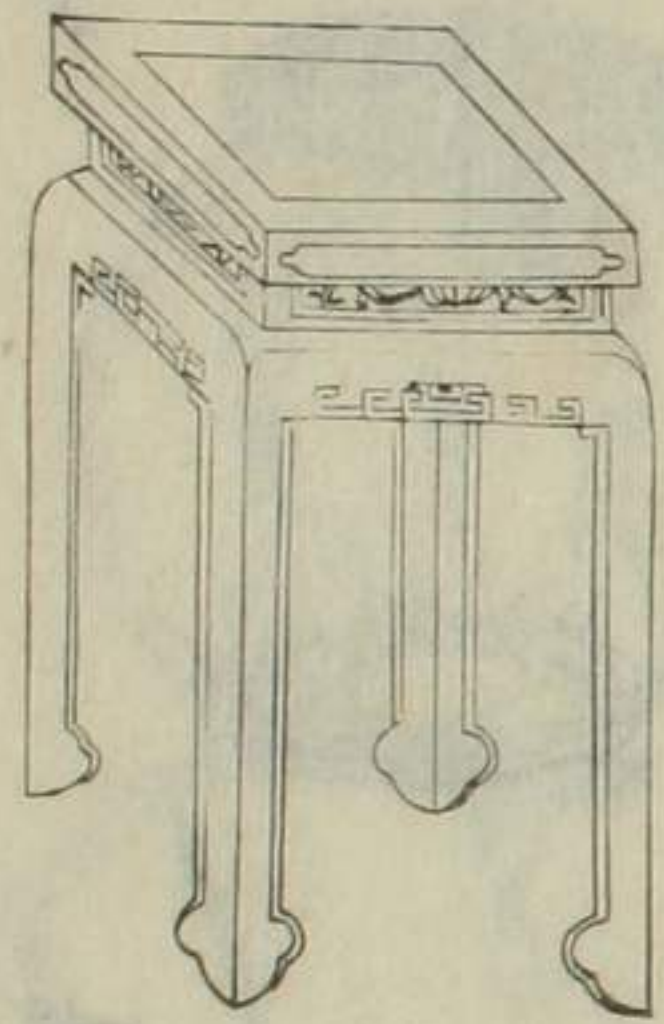
板花天



子障

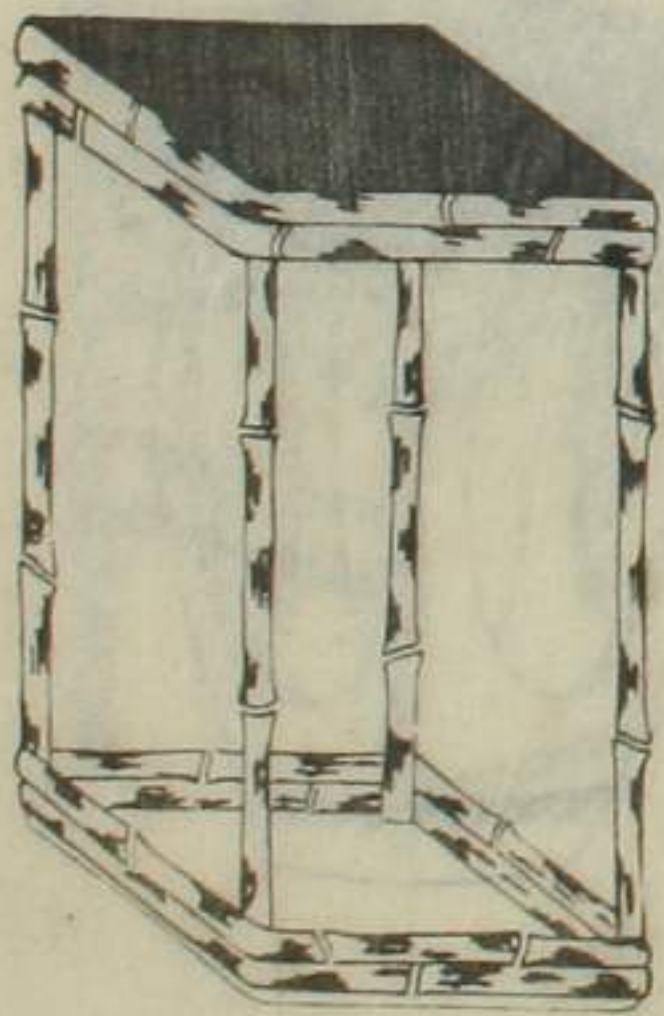


杓子



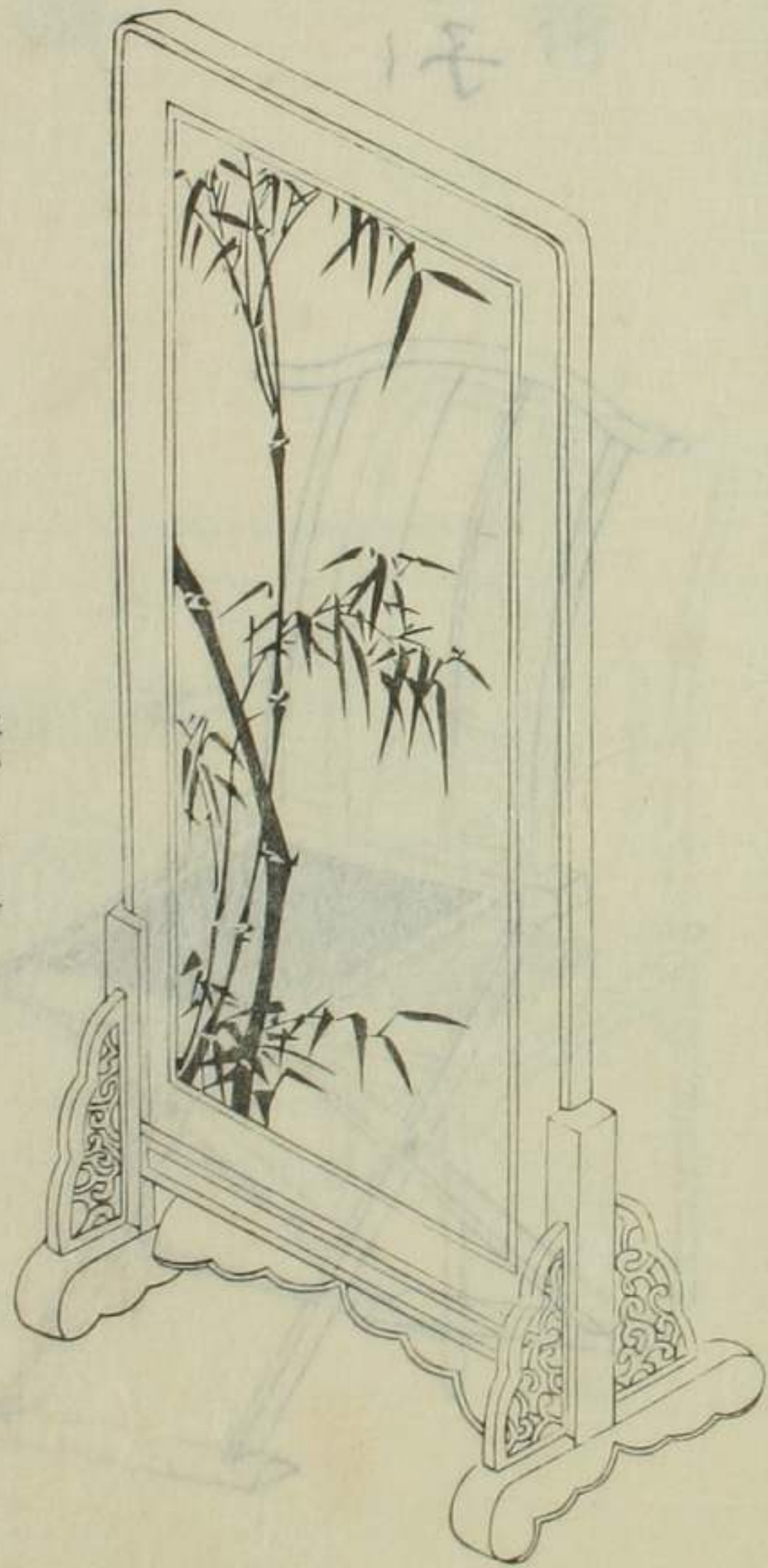
居券

同上

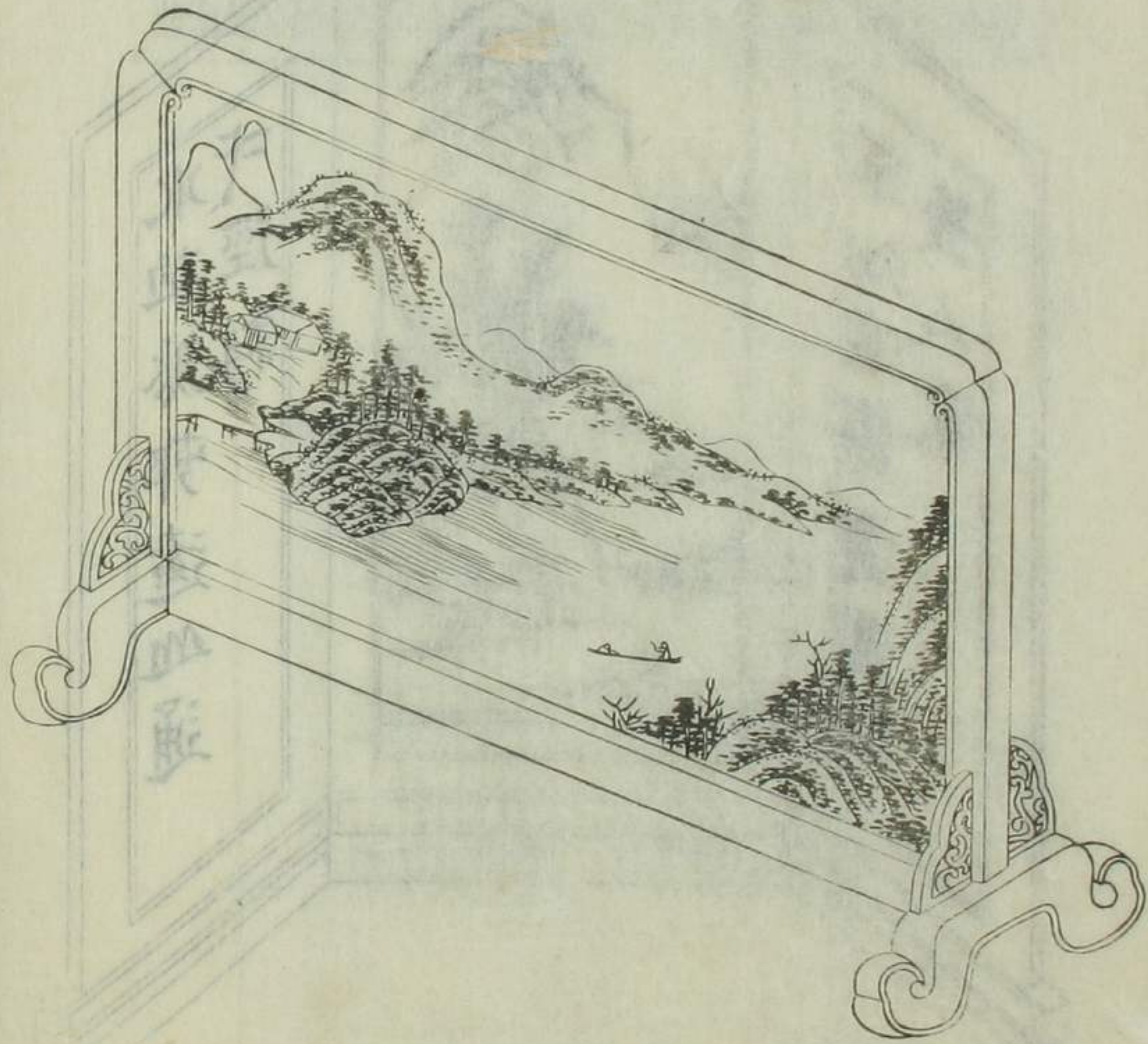


十一

挿屏

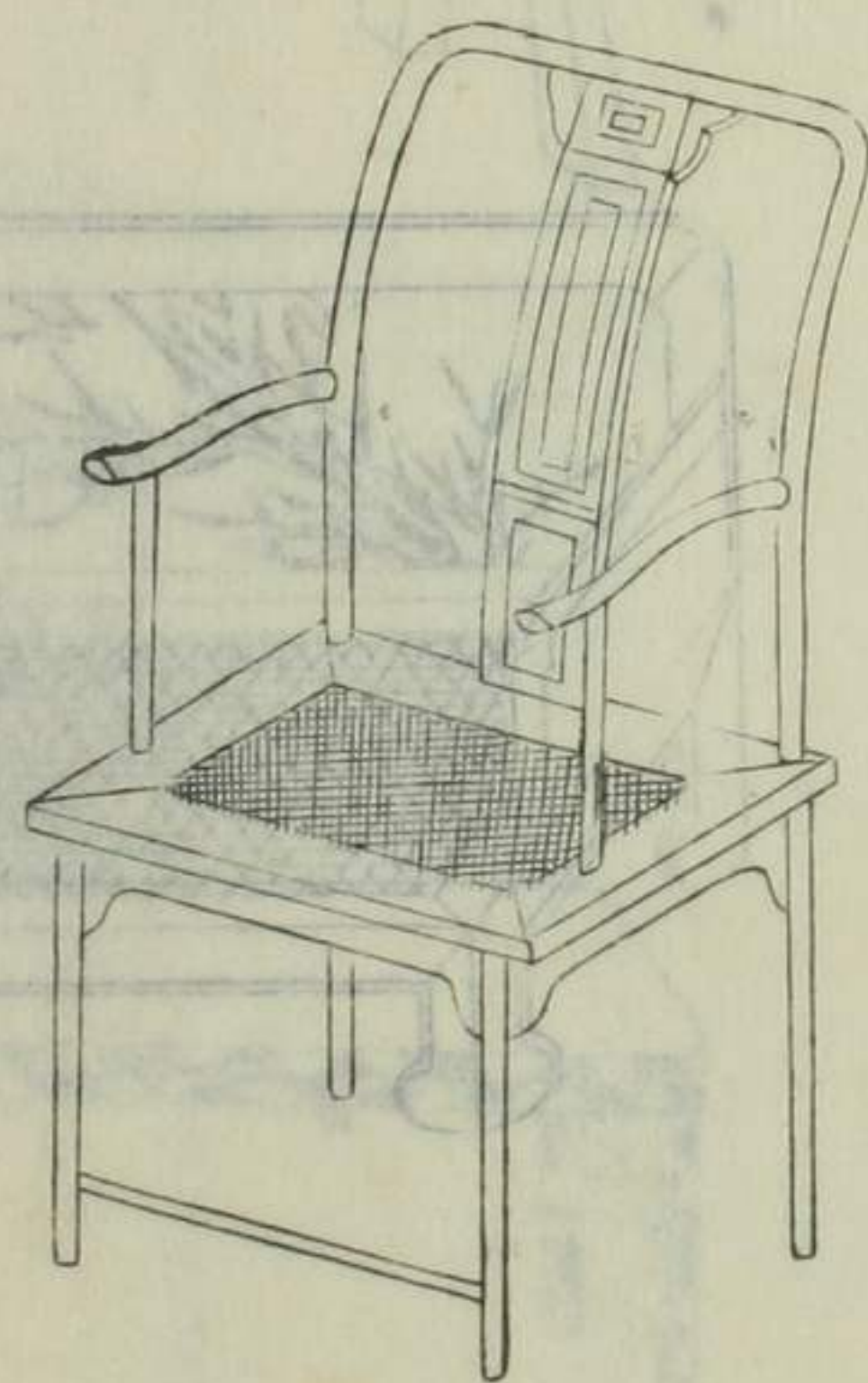


掩障



竹^{たけ}
椅^い

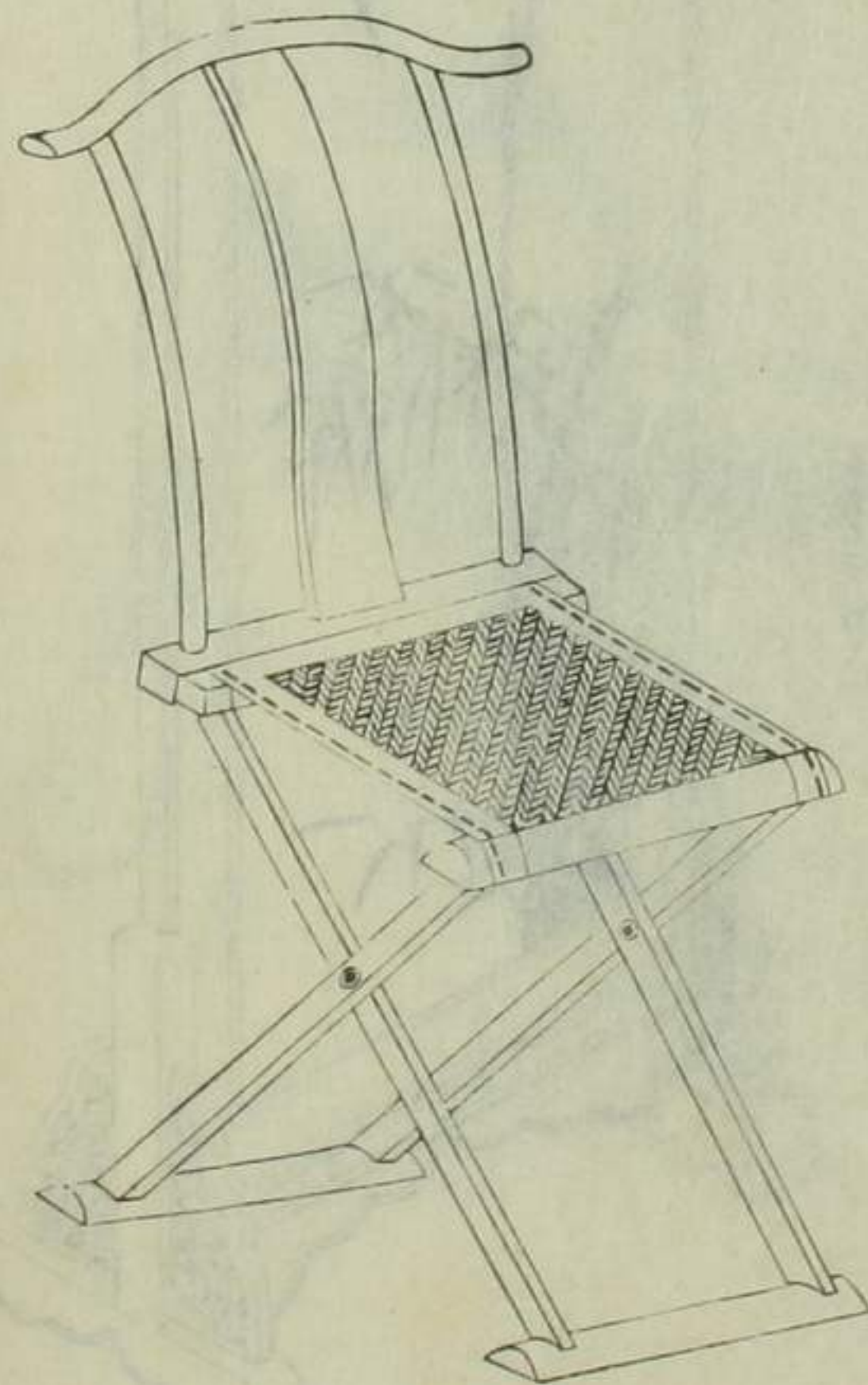
靠^{こゝろ}
椅^い



居家

七

交^{まじ}
椅^い
子^こ



杓^{さく}
子^こ



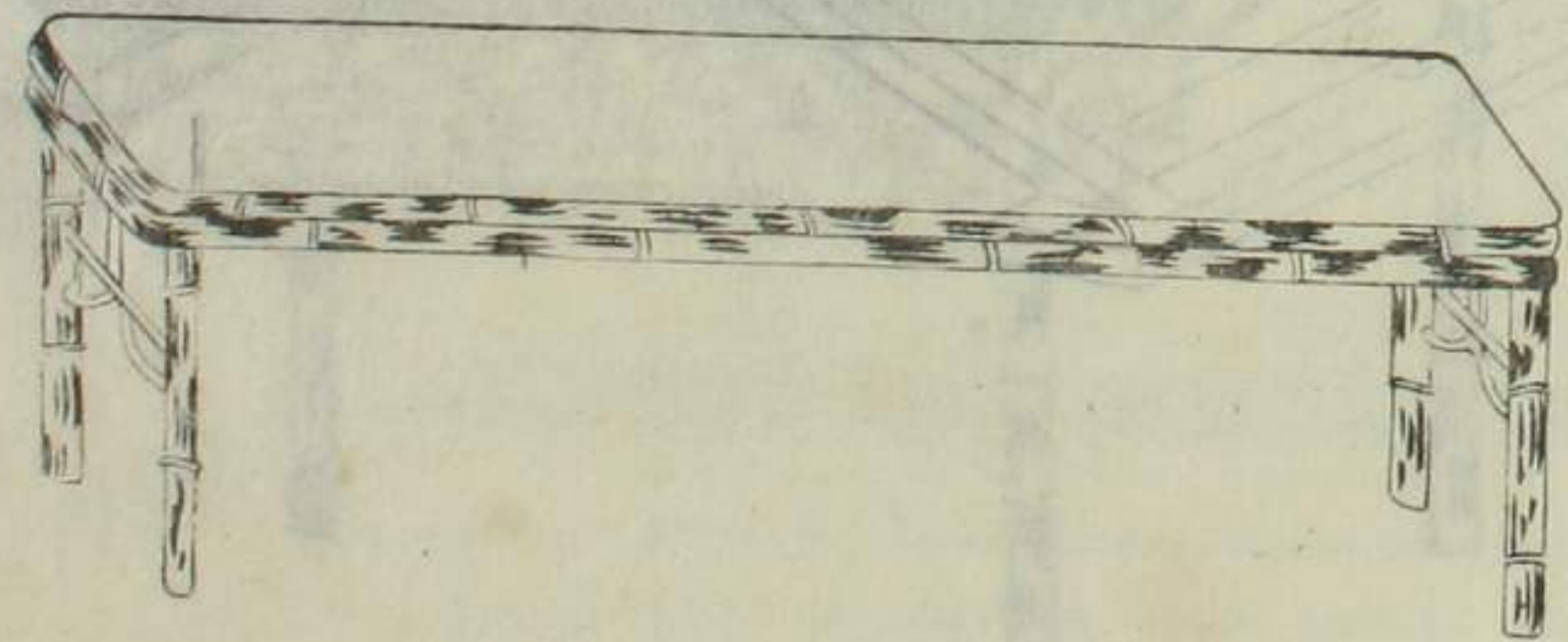
磁^ま
鼓^こ
橙^{だい}



板イタ
檯イタ



竹タケ
檯イタ

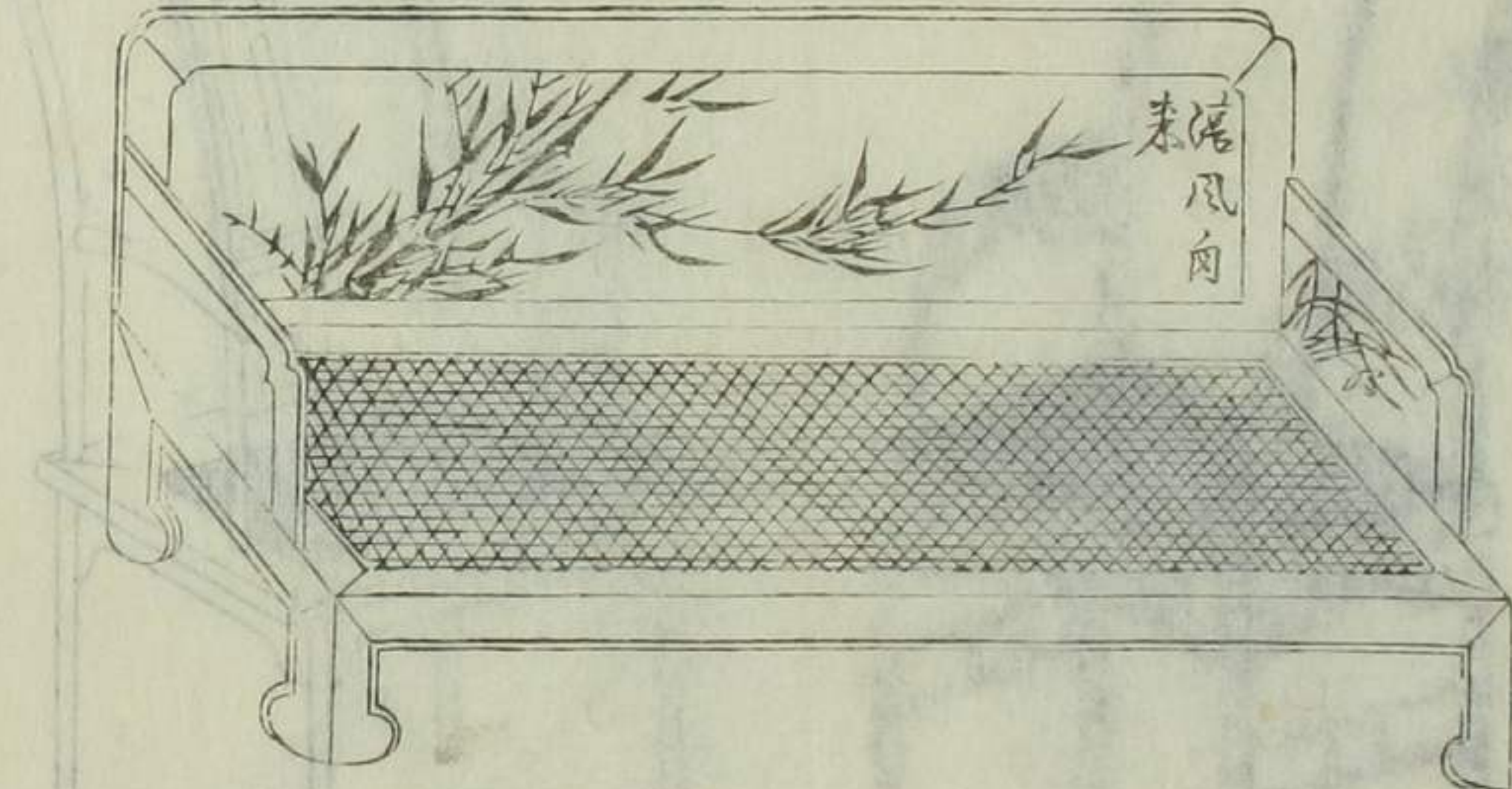


居家

十三

榻イタ

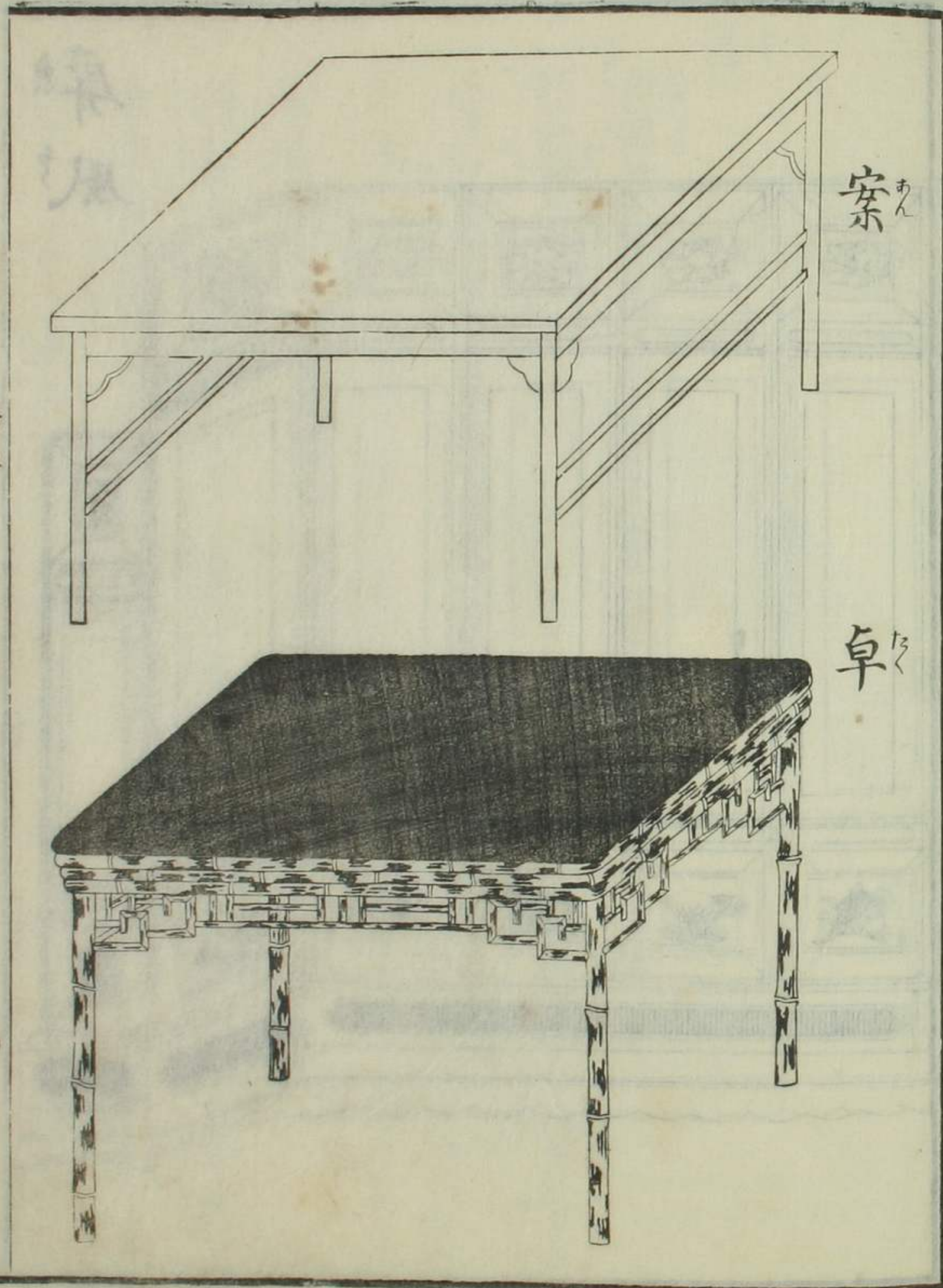
交マ
持テ
子コ



末スエ
風カゼ
角カド

居家

十四

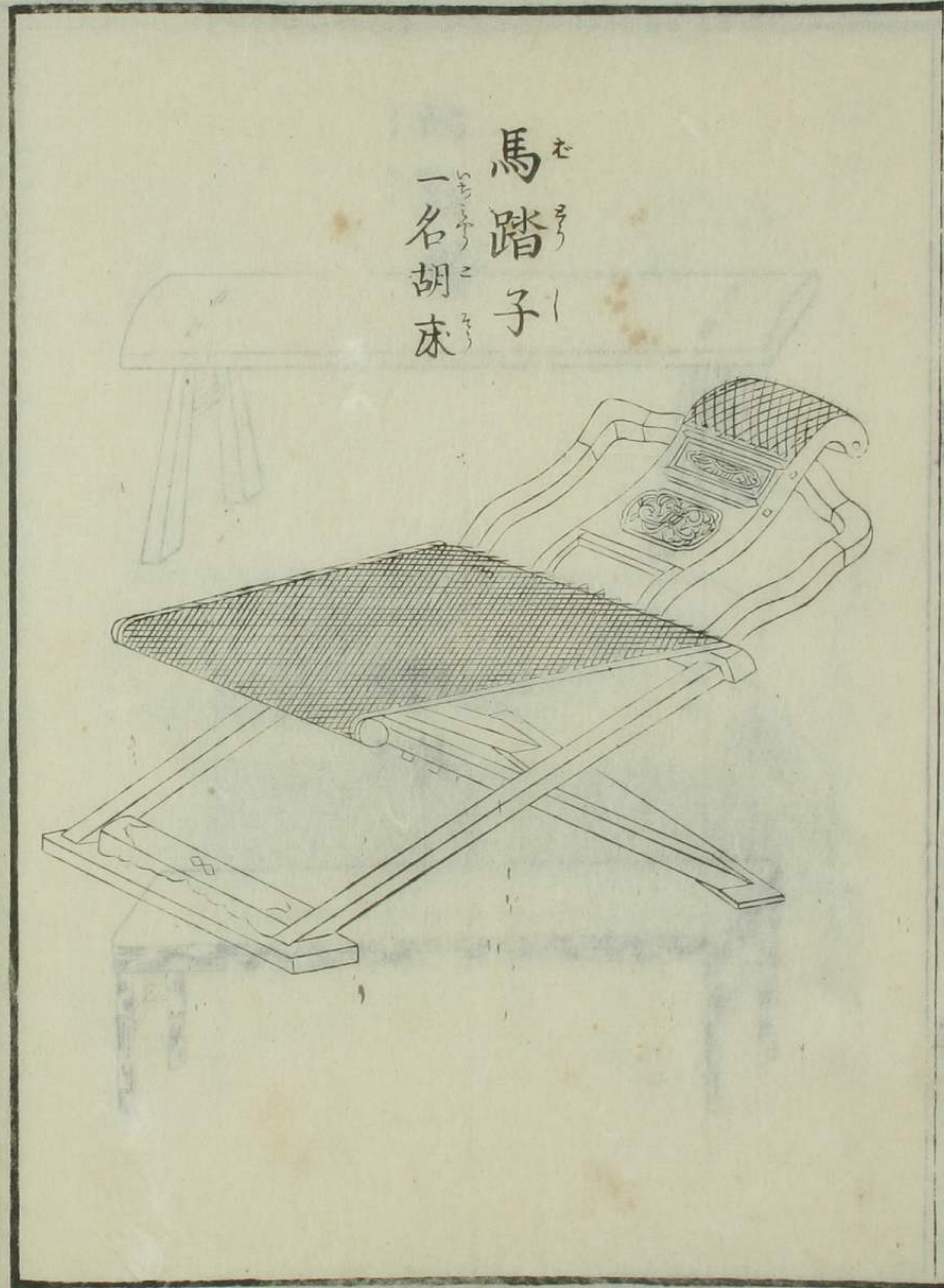


案あん

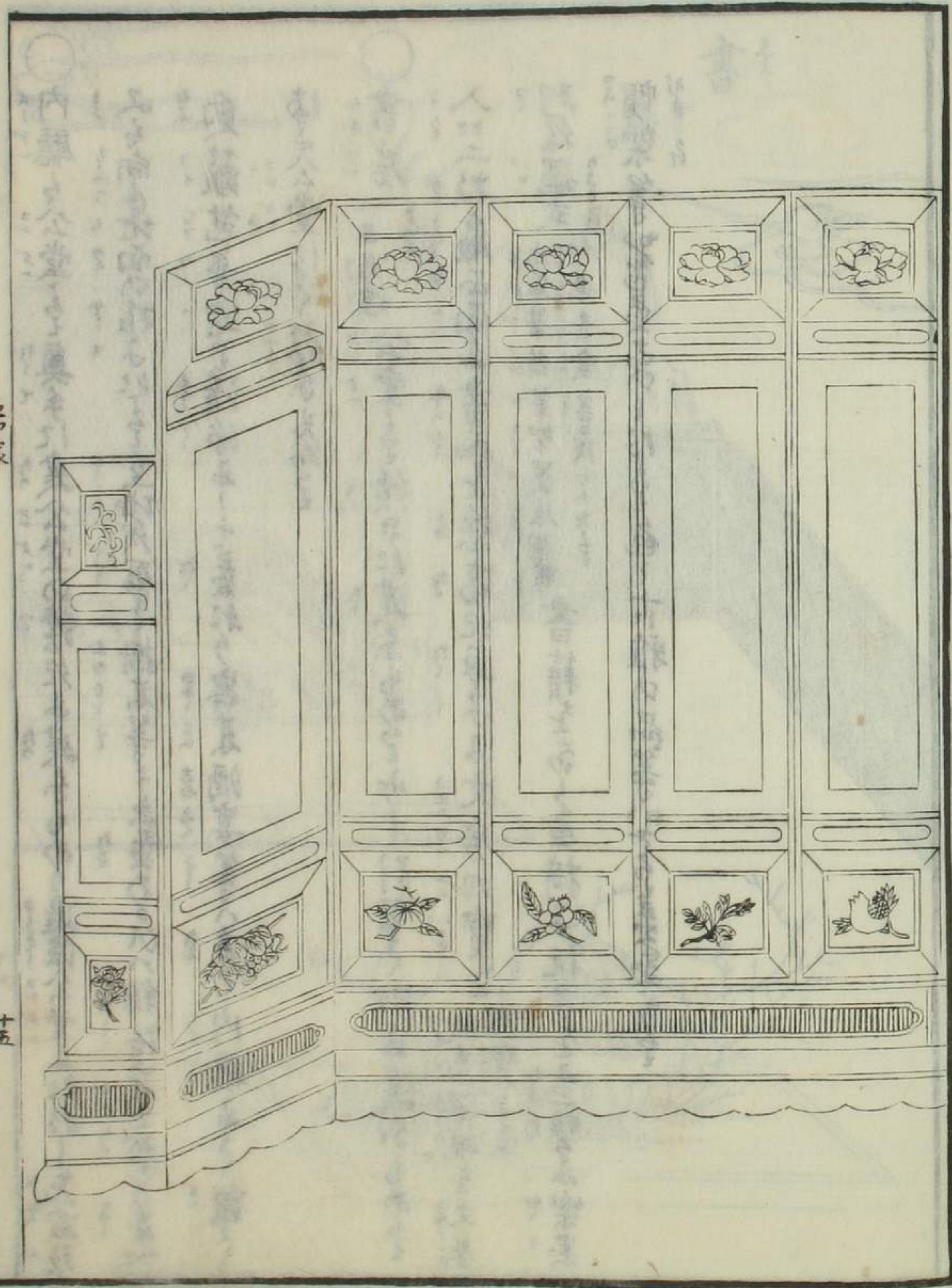
卓しやく

居家

十四



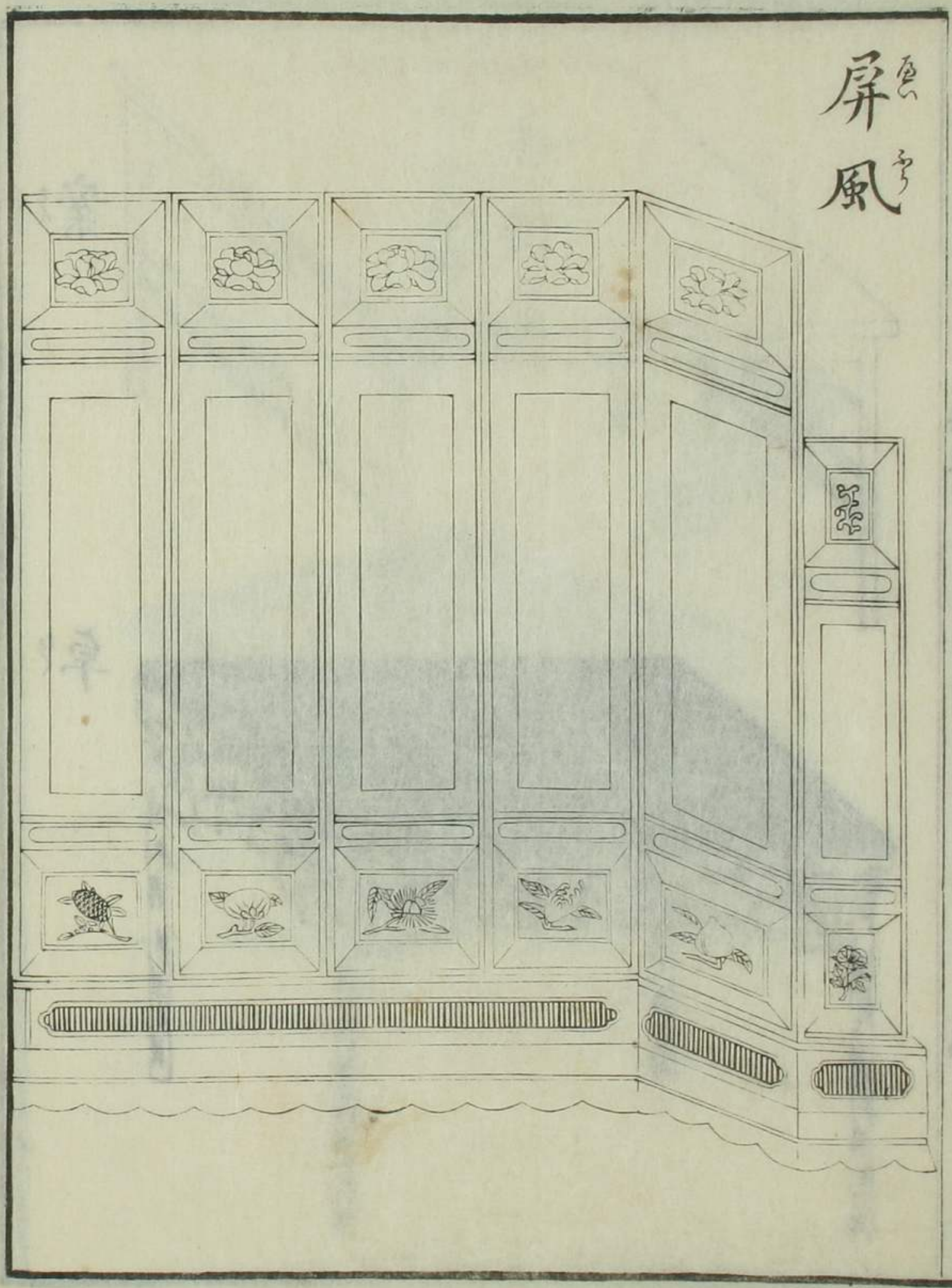
馬踏子まふみこ
一名胡床こしよ

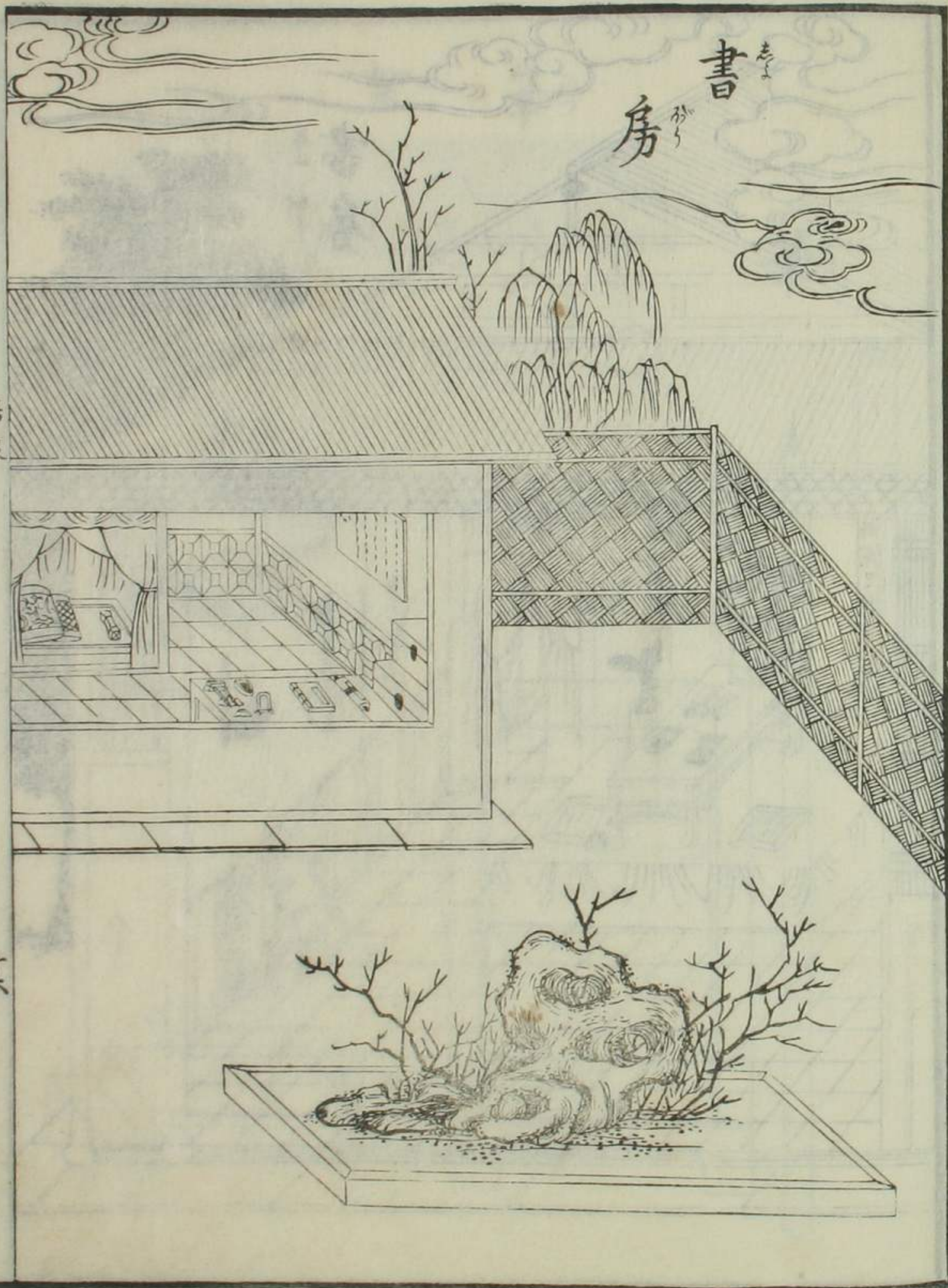


居家

十五

屏風



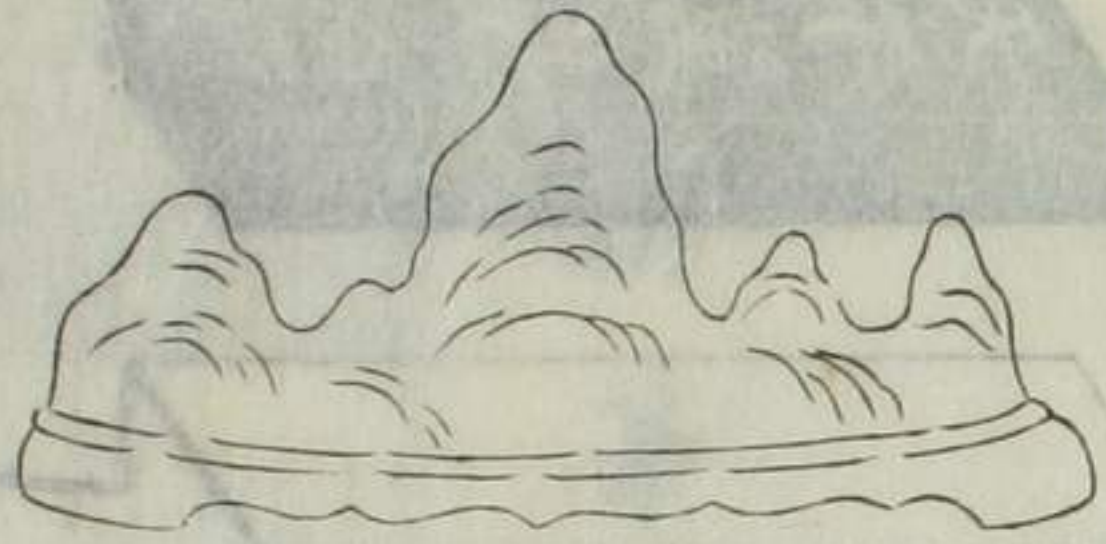


居家

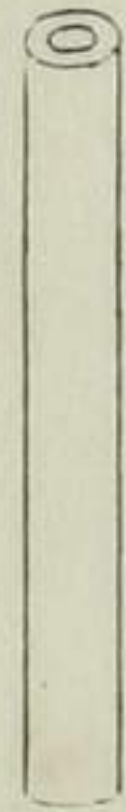
十六

○内廳々公堂スイテン コンダンとて奥手に建公堂の傍に建ふあり造法公堂スウソウ コンダンより好く丸右狀
 又々向々地面の根子に作る空地キチ取々樹木等々を造るあり以の幹柱の草花を造る
 向々離芭等造る清浄キヨウジヨウにして並れり客來酒宴等々多く内廳スイテンありて
 向々公堂コンダンに於て遊アソブふも有り
 ○書房シイワン 一み居イ居イ公堂コンダンとて傍に建ふもあり少一引取々別々建ふもあり
 入口二枚々扉ヒラに面々書画を懸高タカク卓子タクシ文房四寶ブンパウシヨウを
 列ツラ列ツラ擺式ハヒ 水盂スイゴ筆筒ヒツツツ筆架ヒツカ墨床スミト圖書トショ
 印色インシキ香盒カウキョウ等々ナニナニ 書籍シヨクをあり魚椅子イサノイシ杭子カウシを並ナラ並ナラ樂器ガクキ
 帽カウマ如米等カウメナドかき置カキヅふも有り色々古雅の品等コウガのヒナドかき置カキヅ置ヅ置ヅ

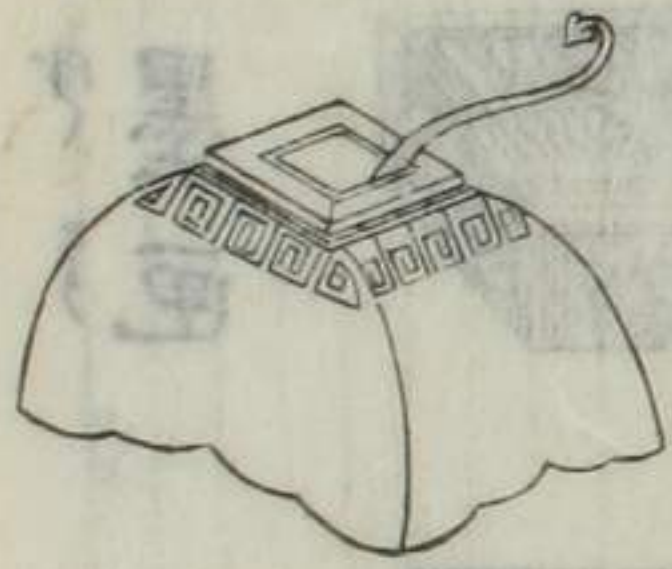
架の筆



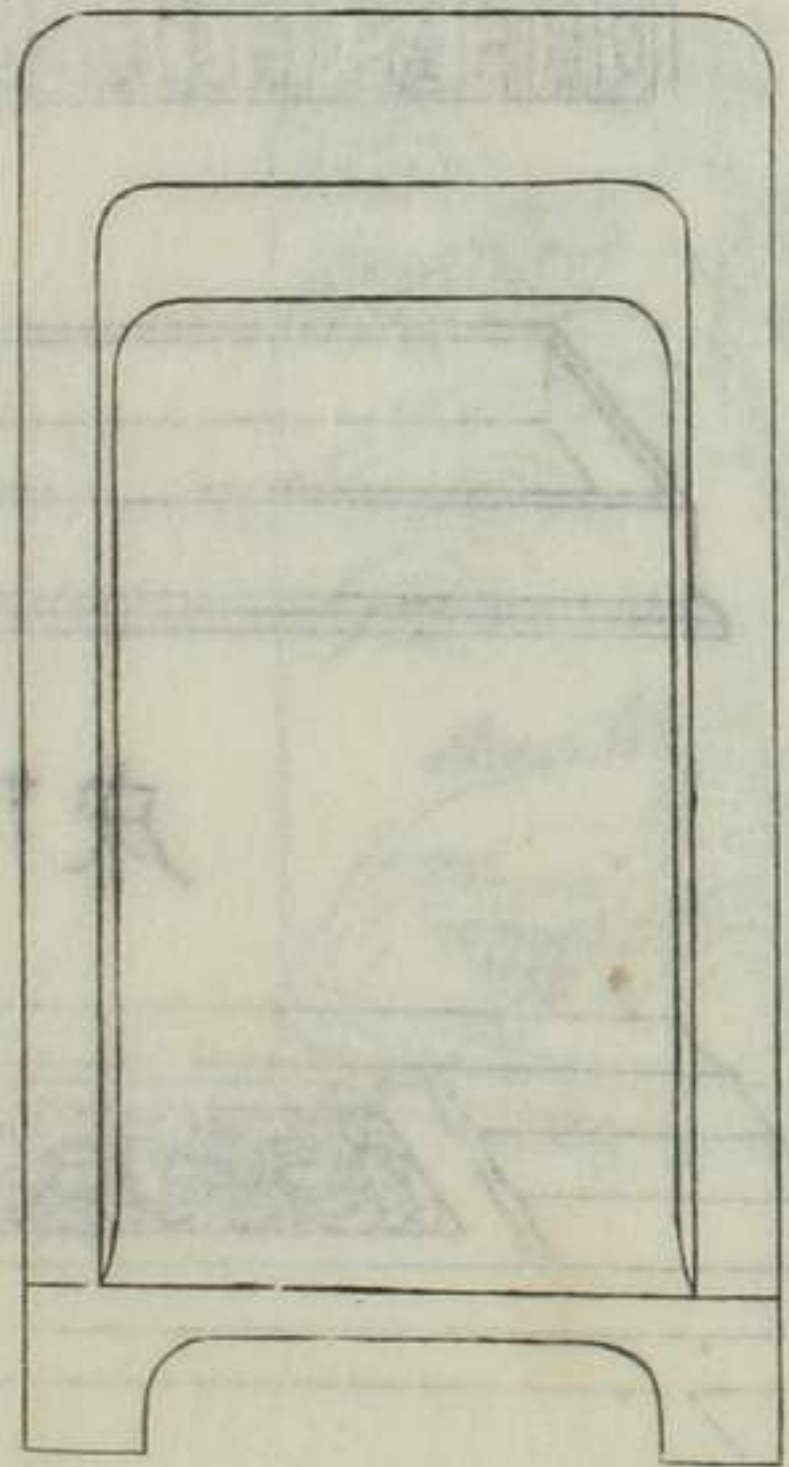
筆



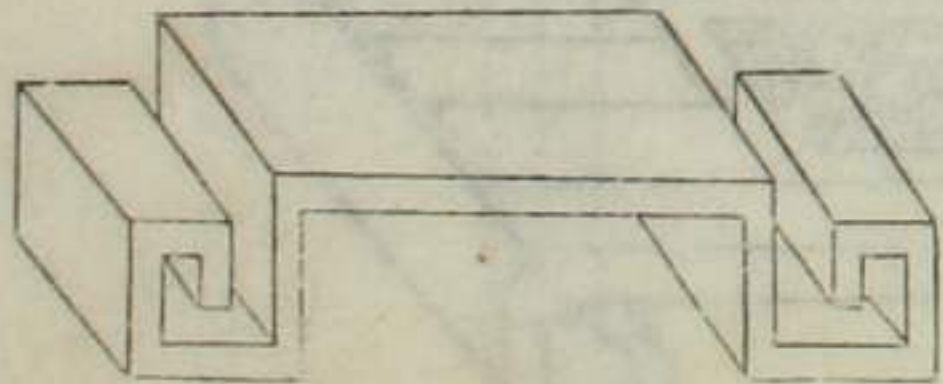
水盂



硯端



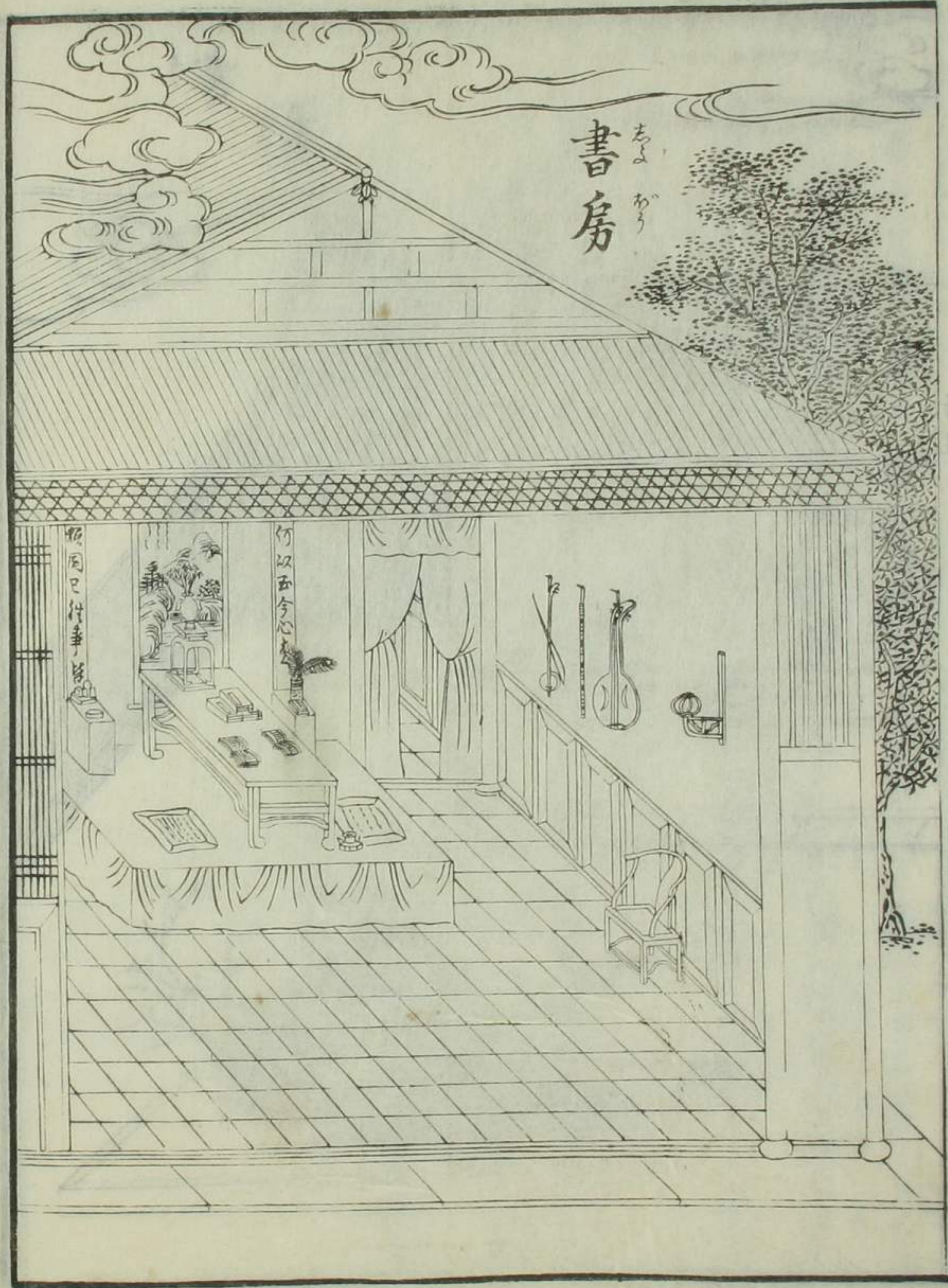
墨床

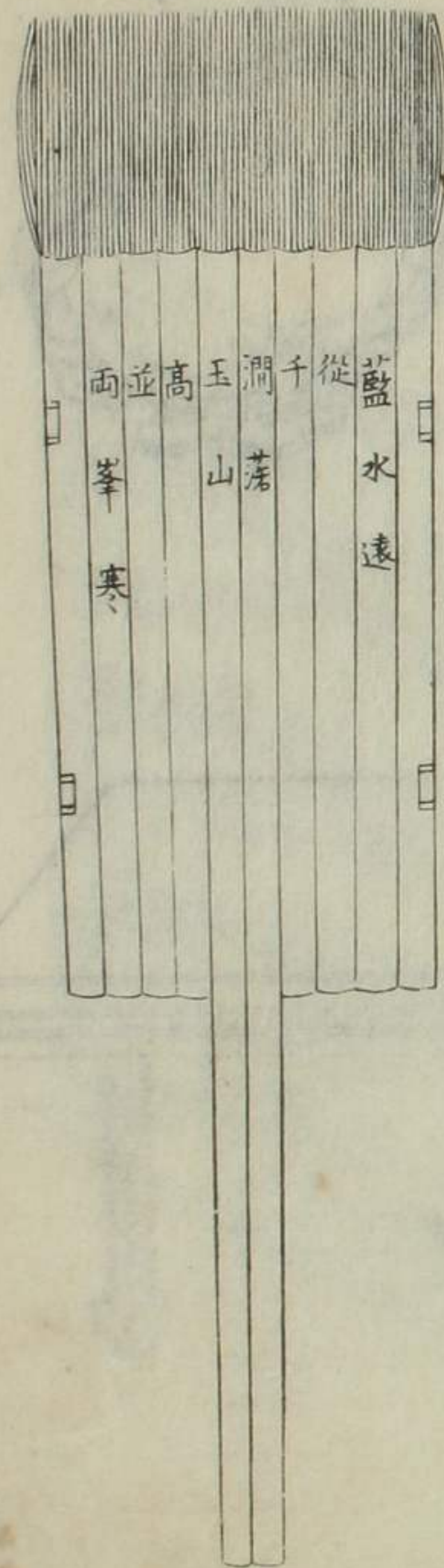


居家

十七

書房



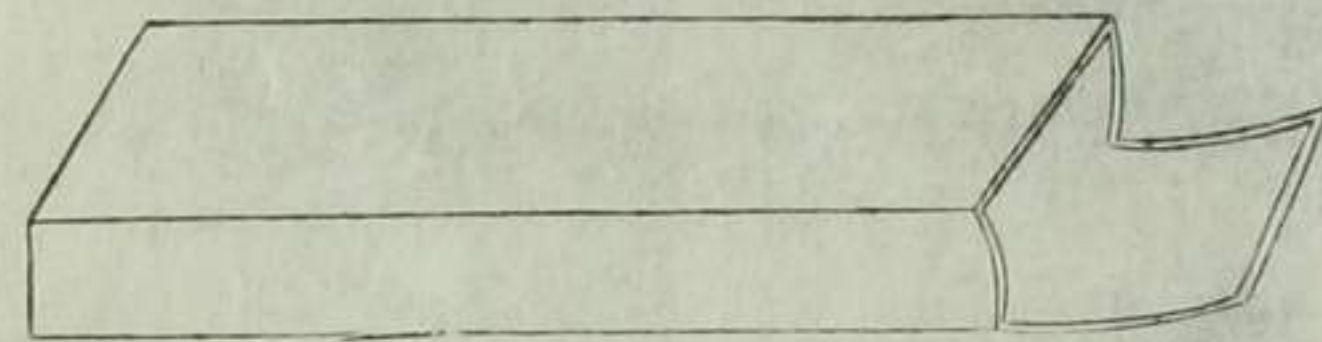


排筆

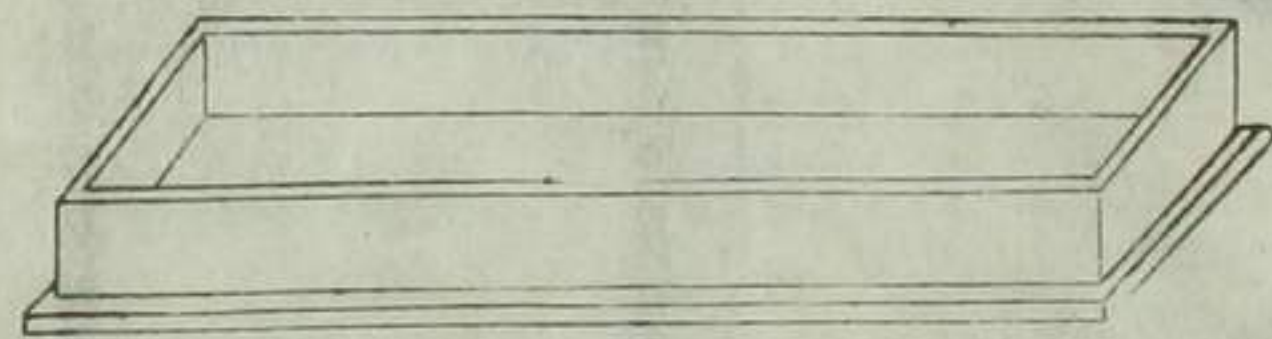
筆筒



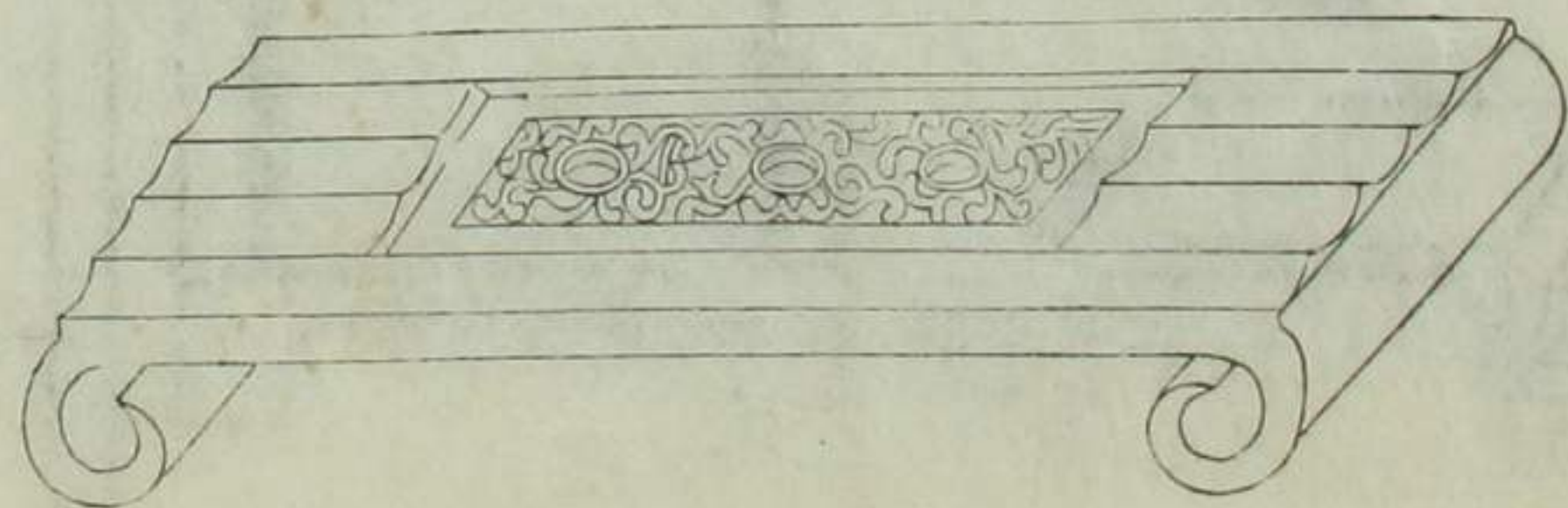
徽墨

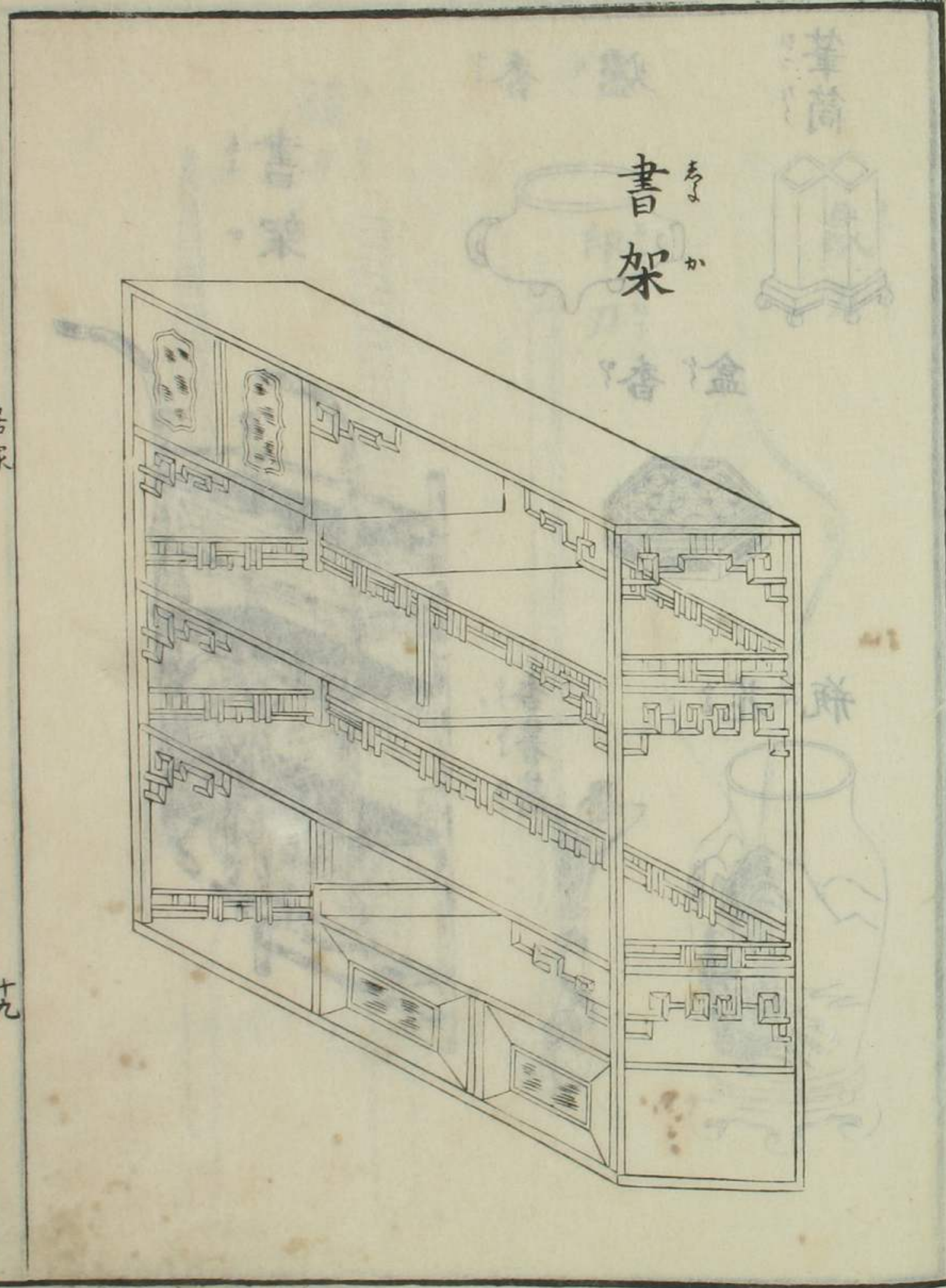


墨匣



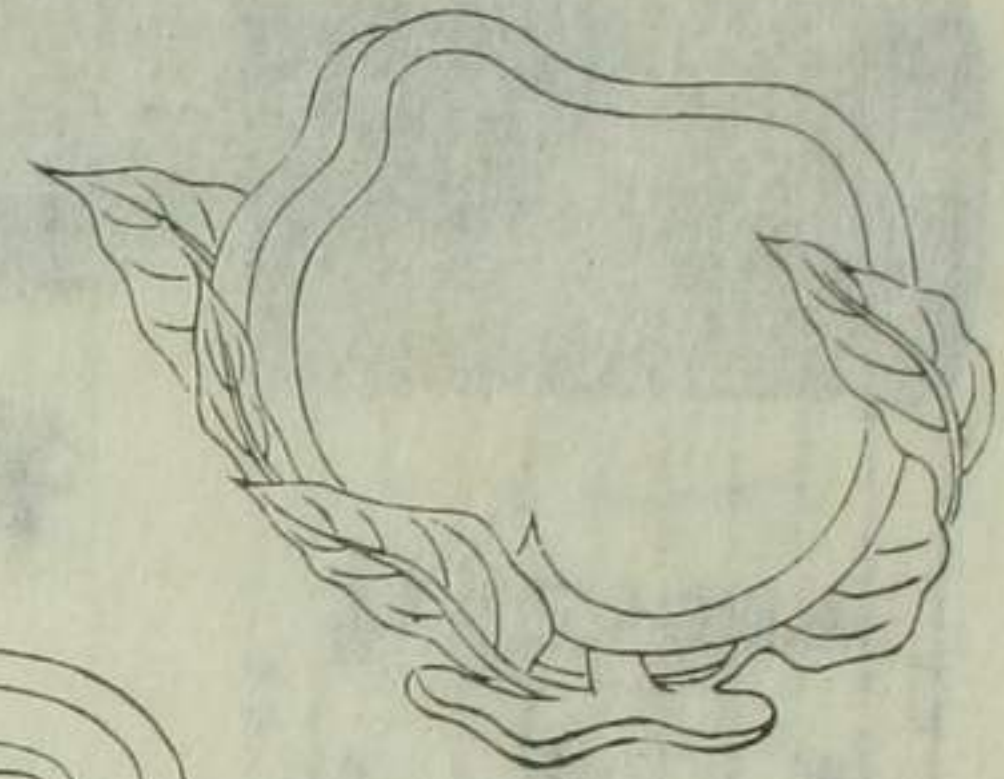
床筆



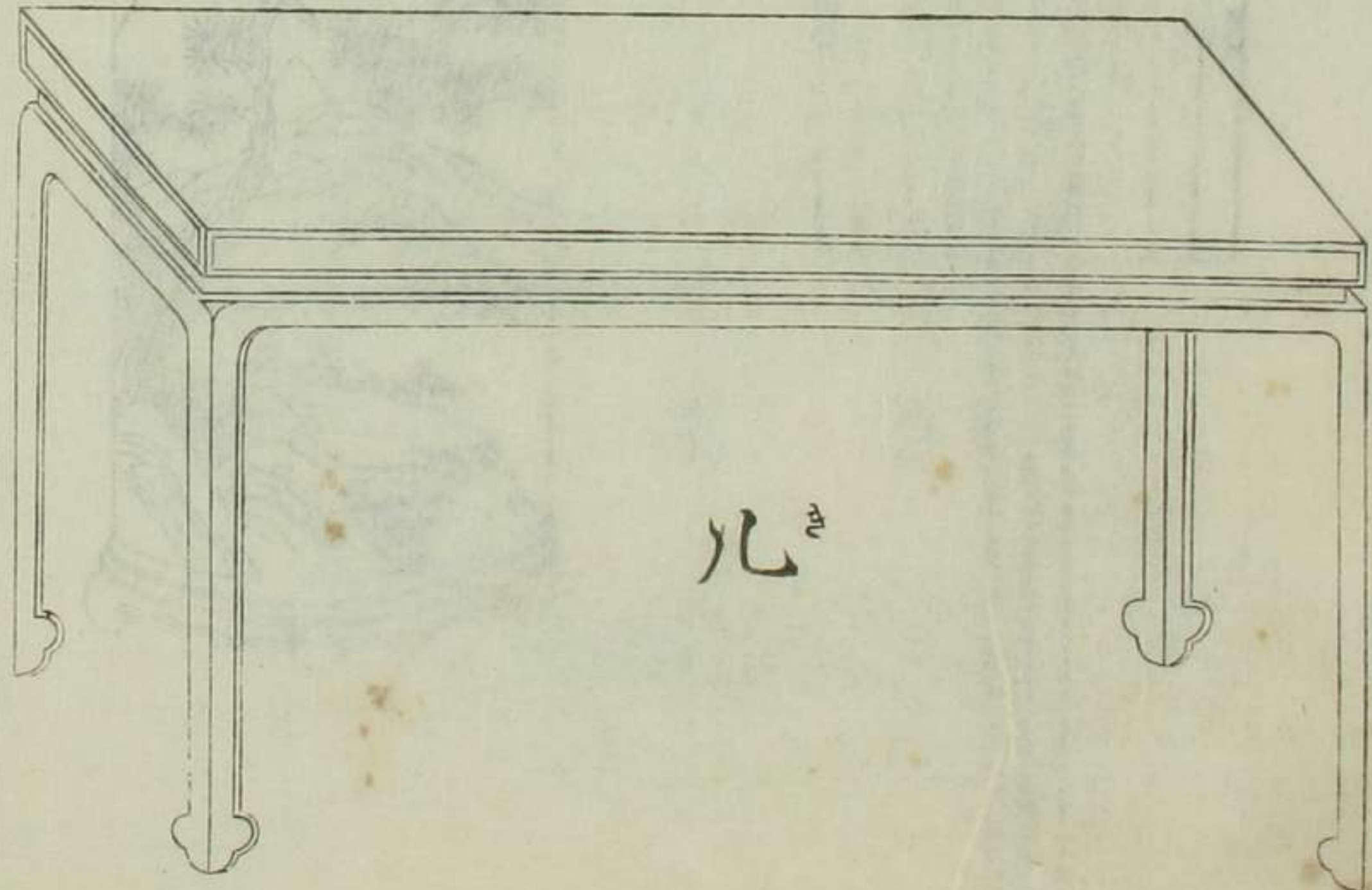


書架

洗筆

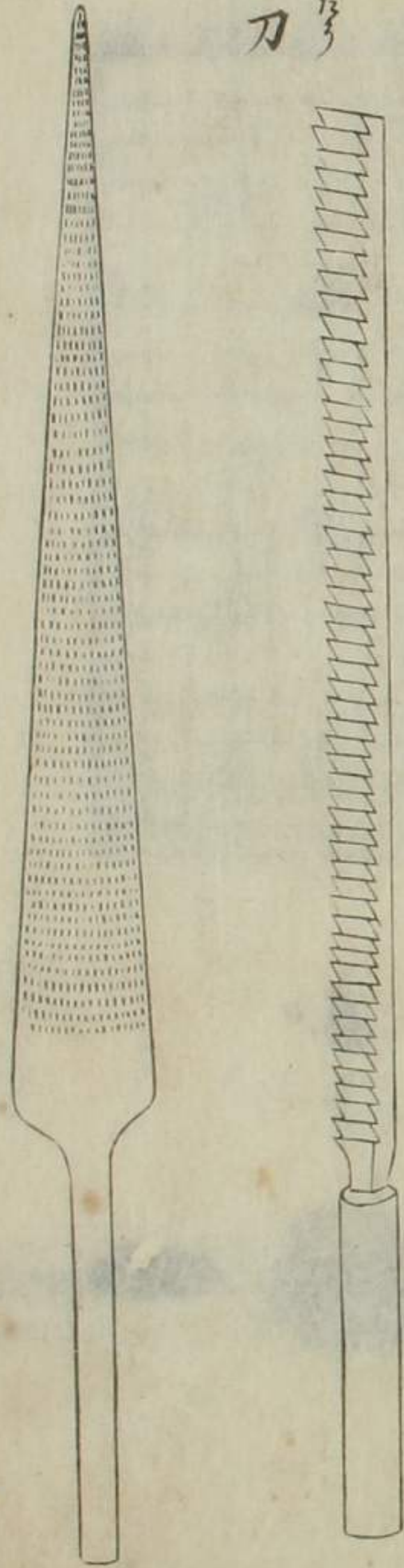


玉鎮紙

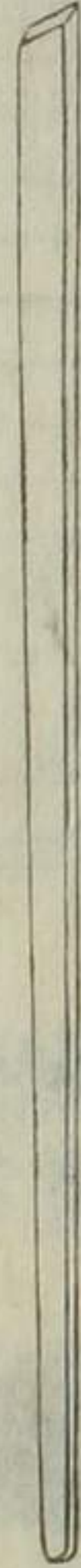


几

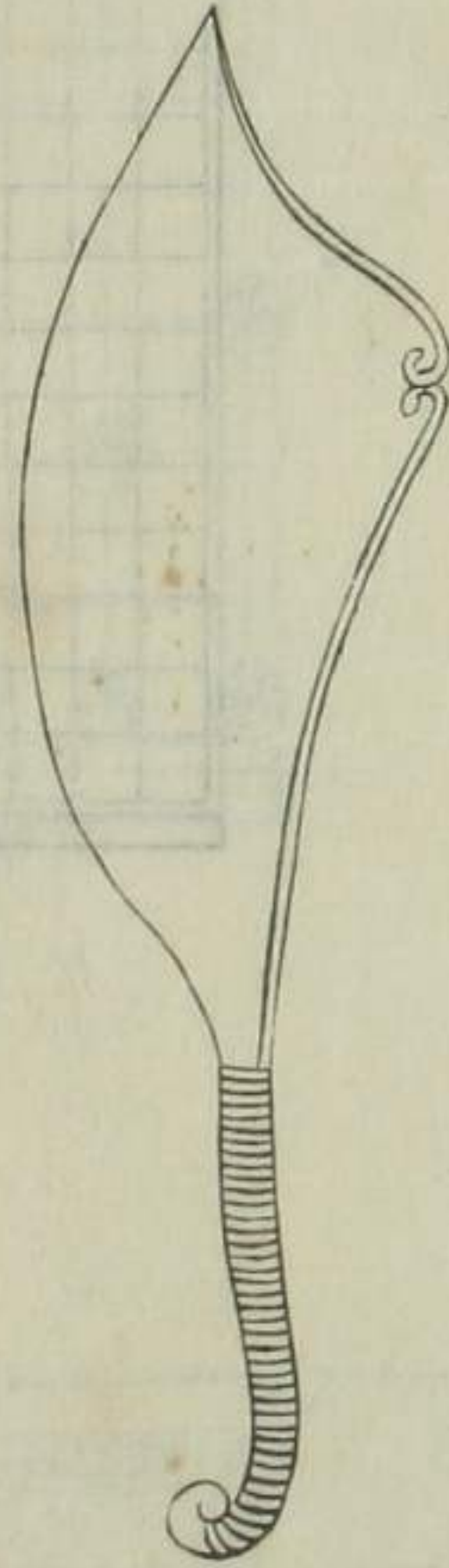
錯刀



印刀



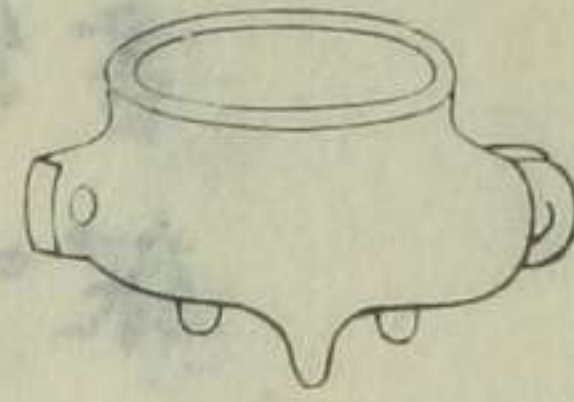
裁刀



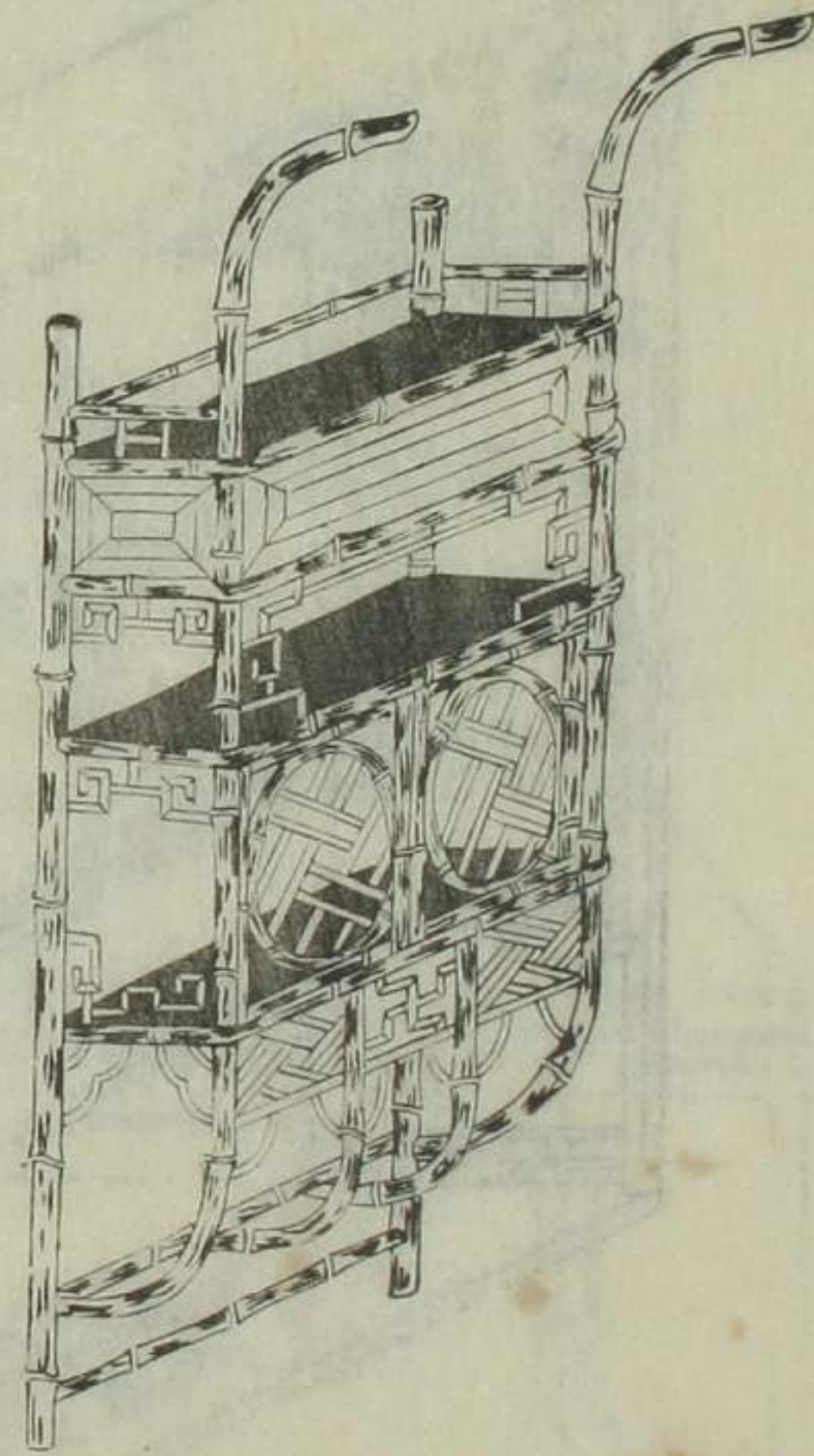
筆筒



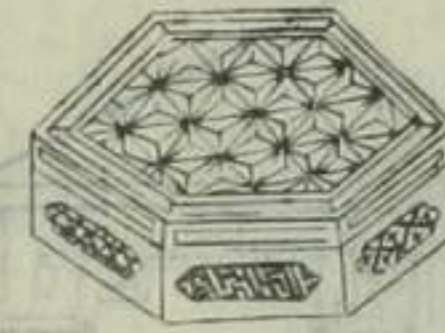
香爐



書架



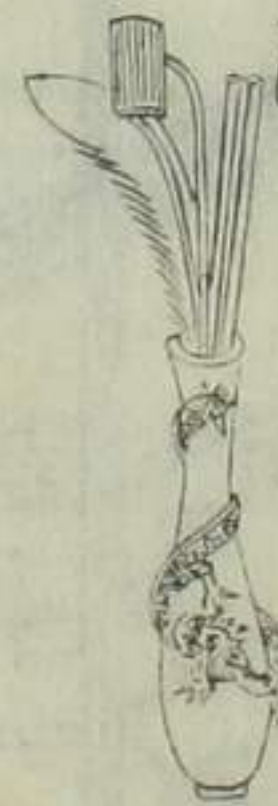
香盒



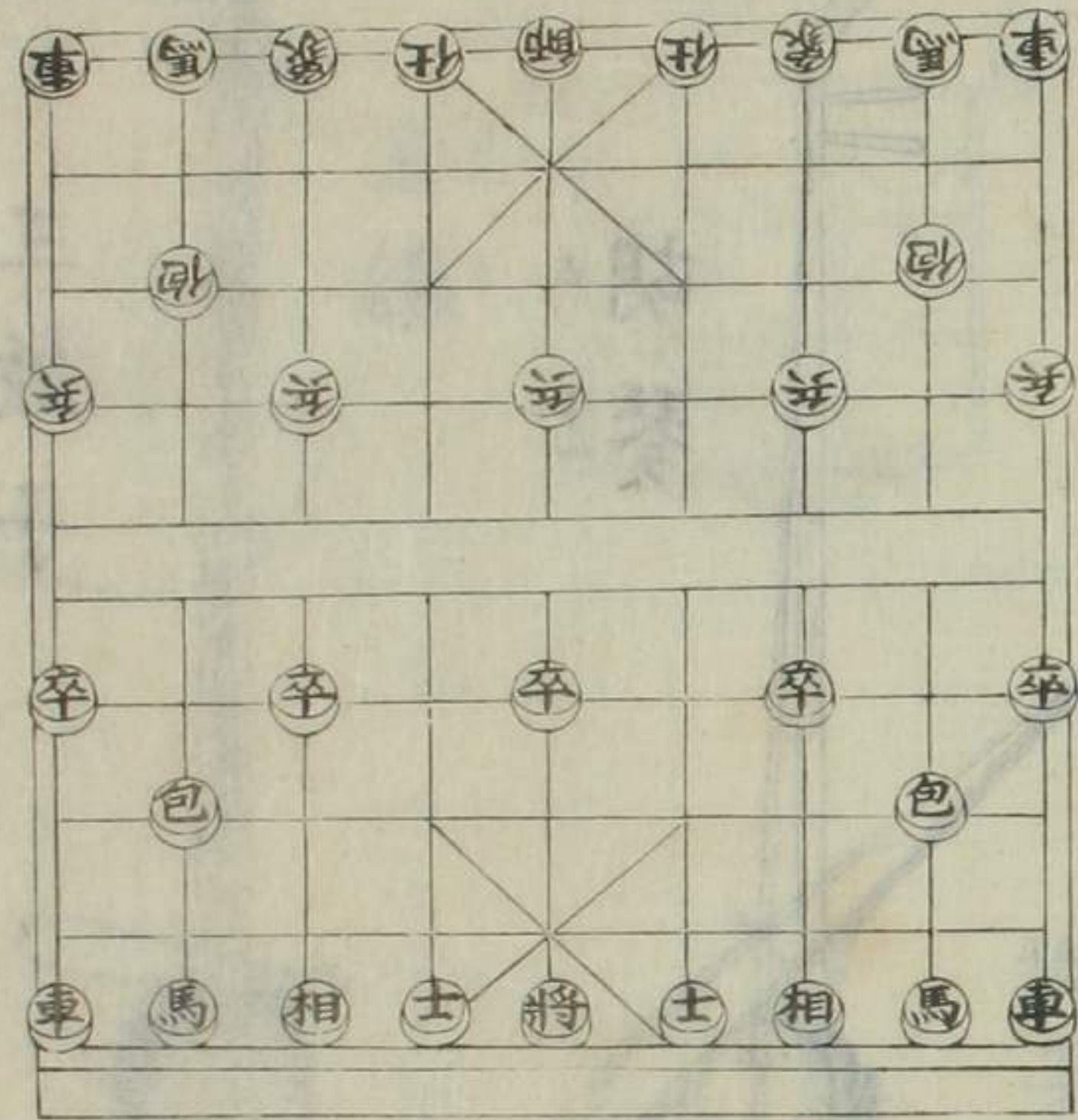
花瓶



香箸筒

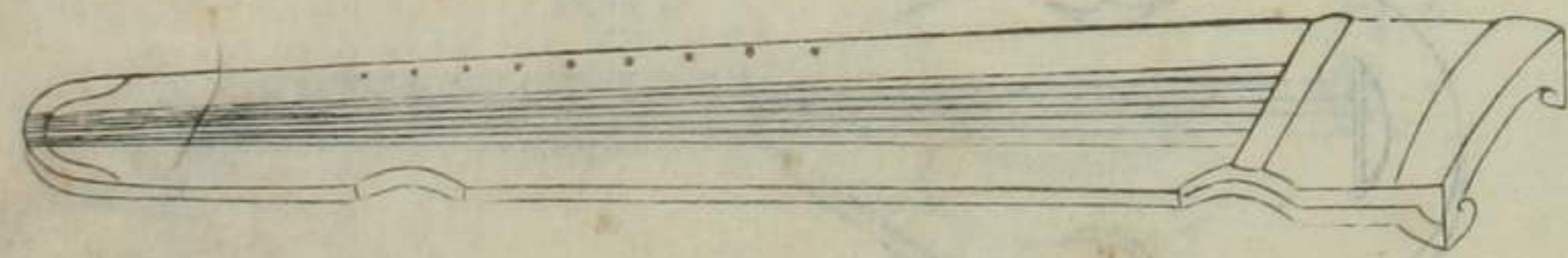


象棋盤



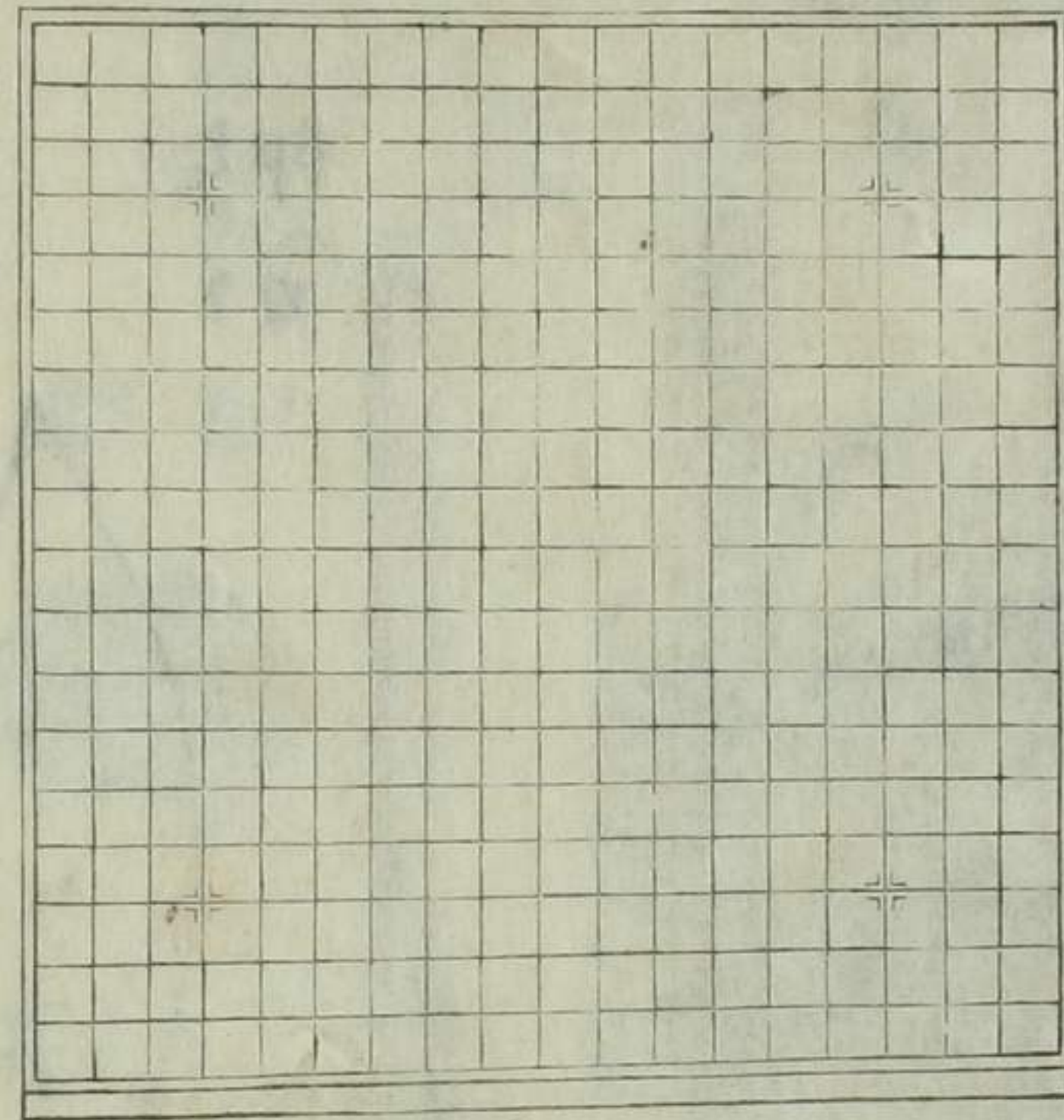
居家

琴



九

碁盤

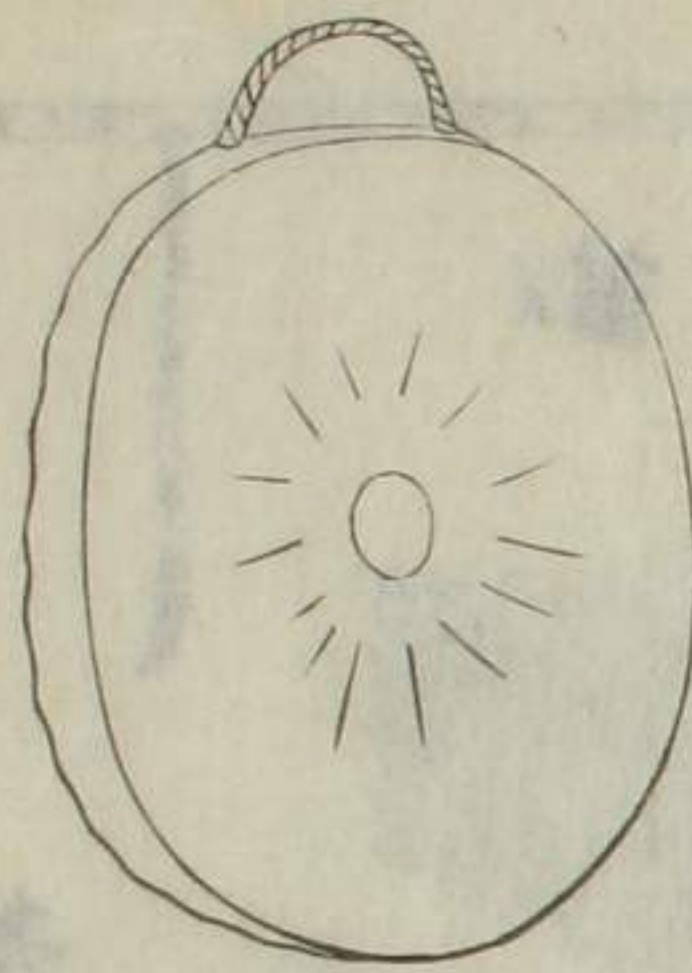


碁筒

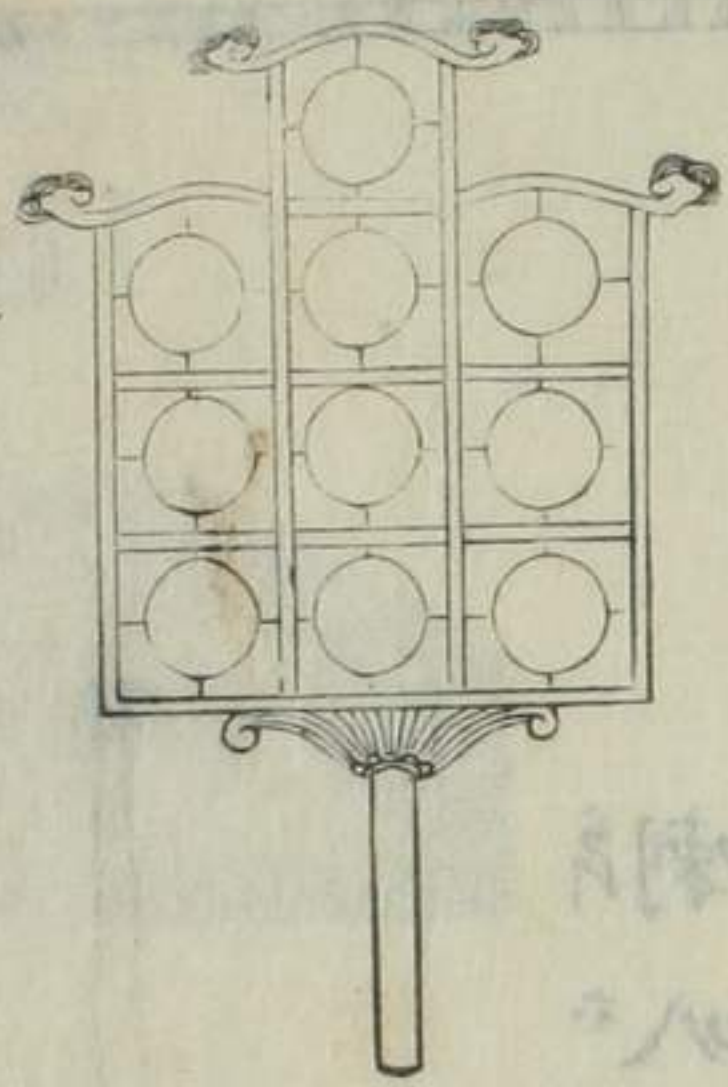
碁子



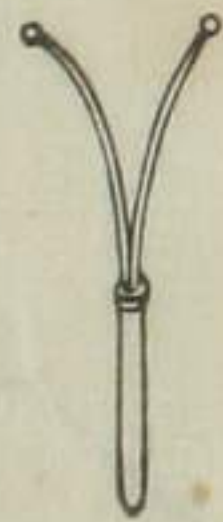
十



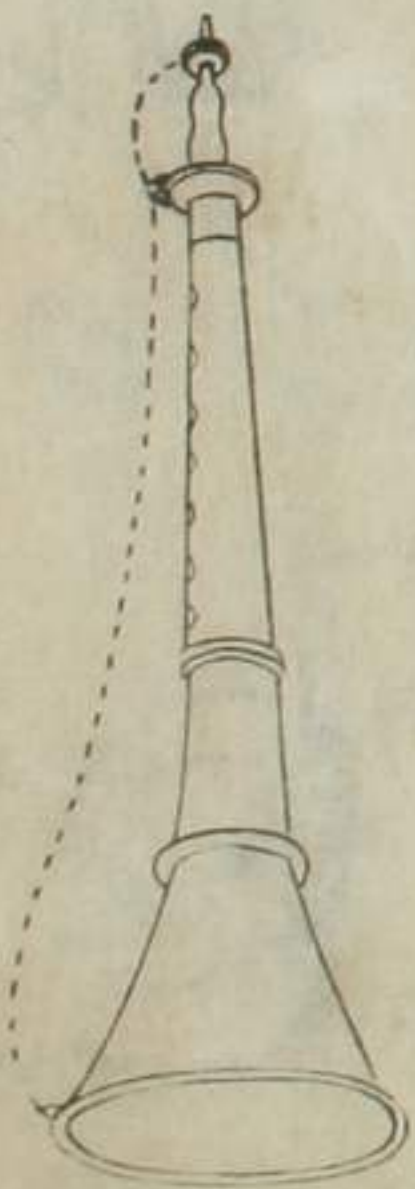
金鑼えら



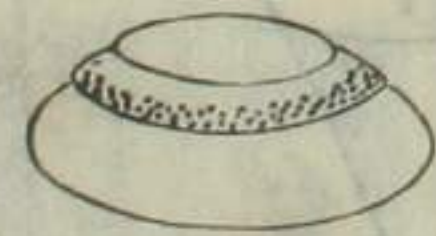
雲鑼えら



撿子えら



鎖呐えら

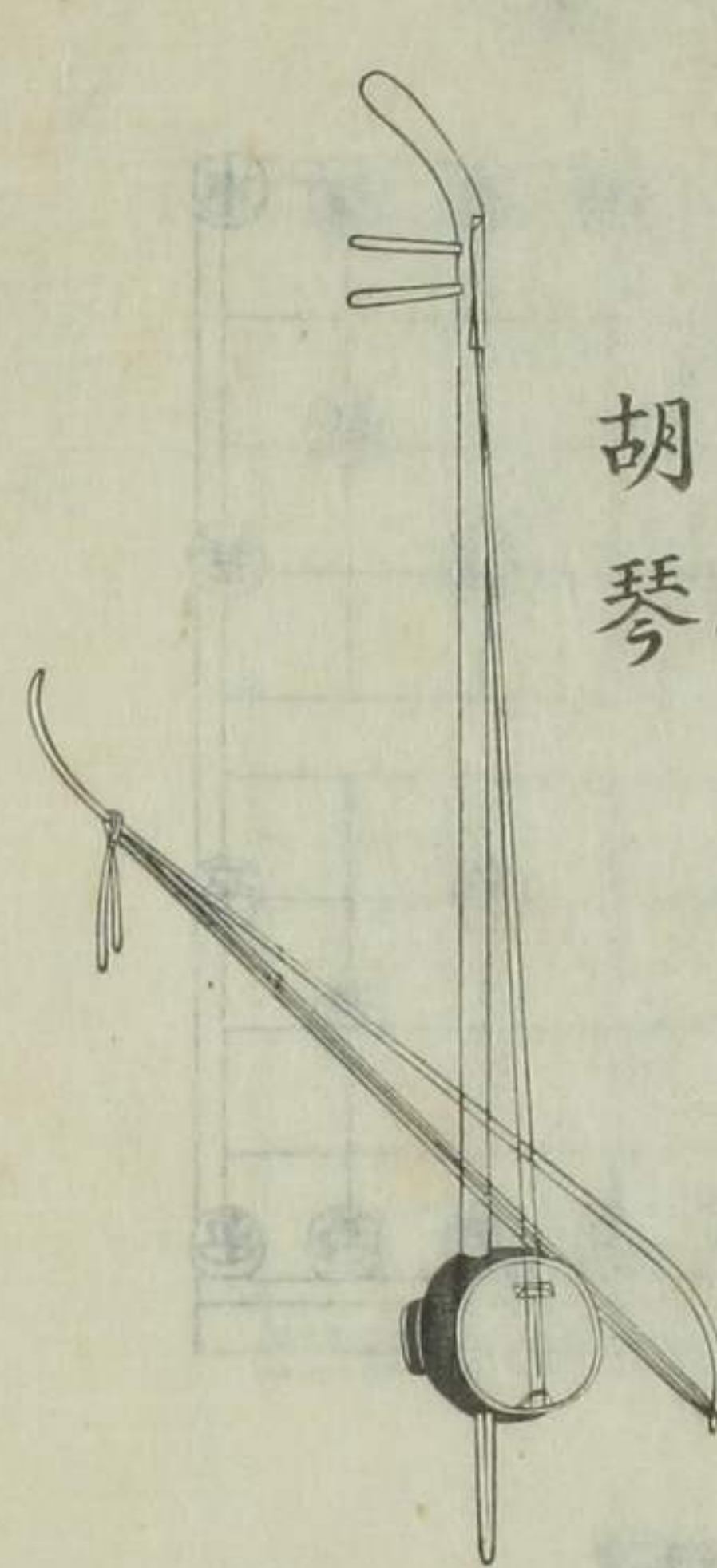


月鼓えら

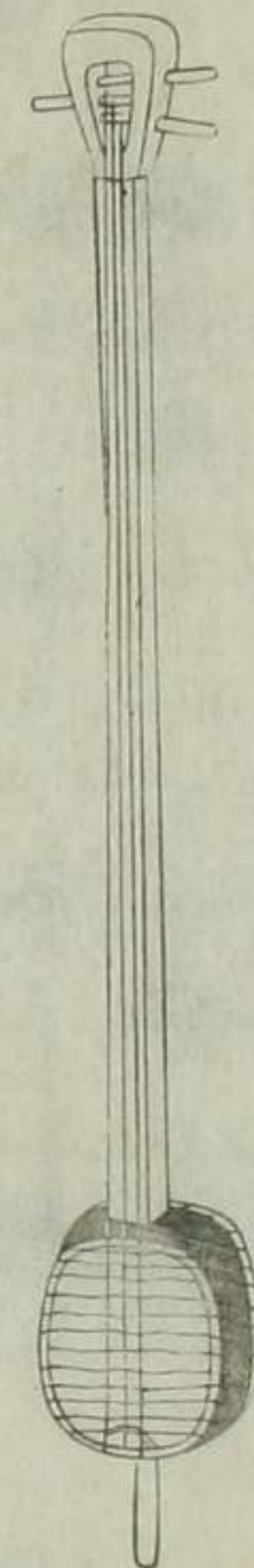


居家

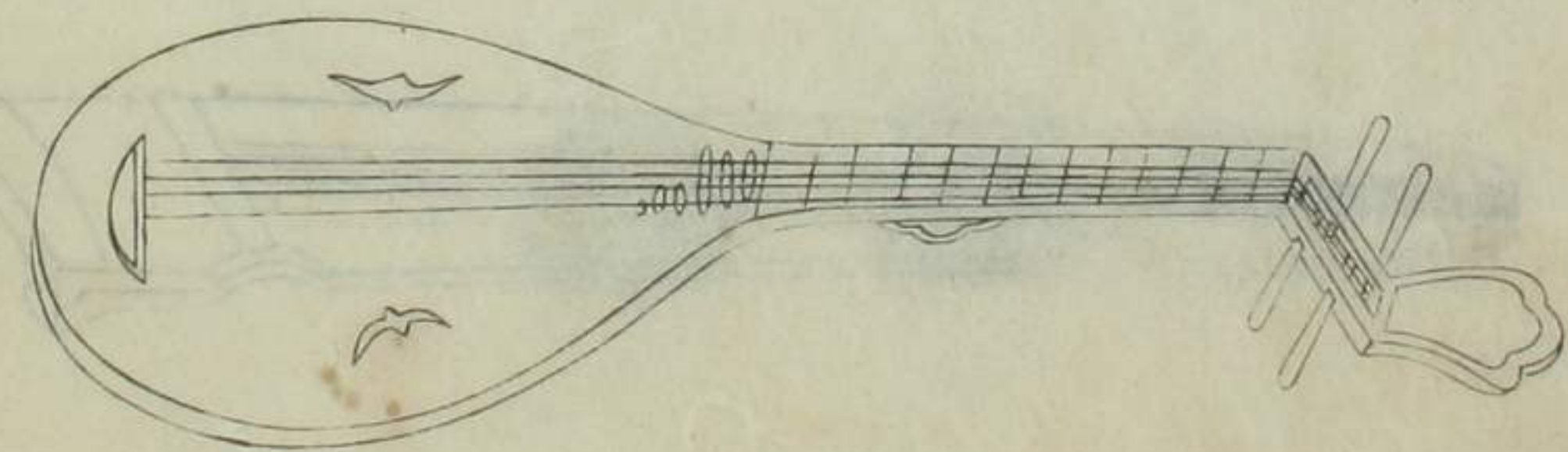
九二



胡琴えら



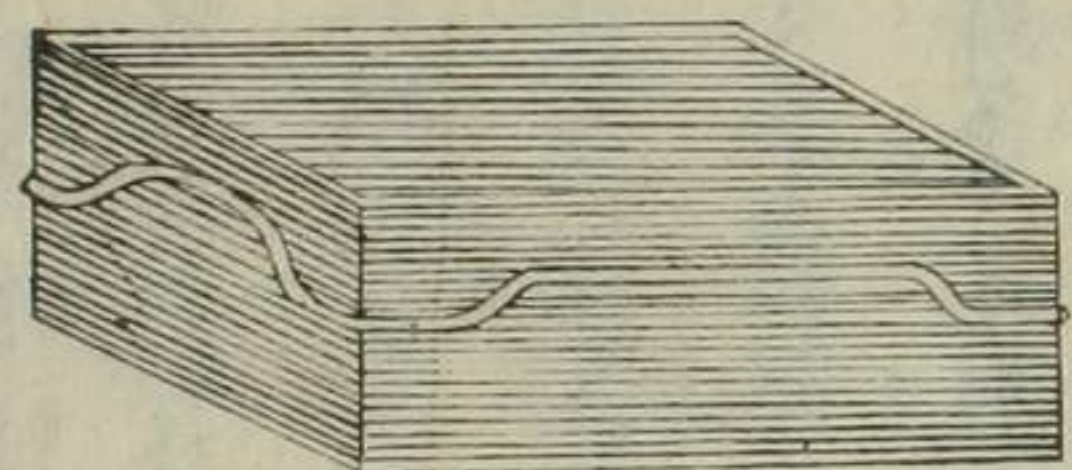
三絃子えら



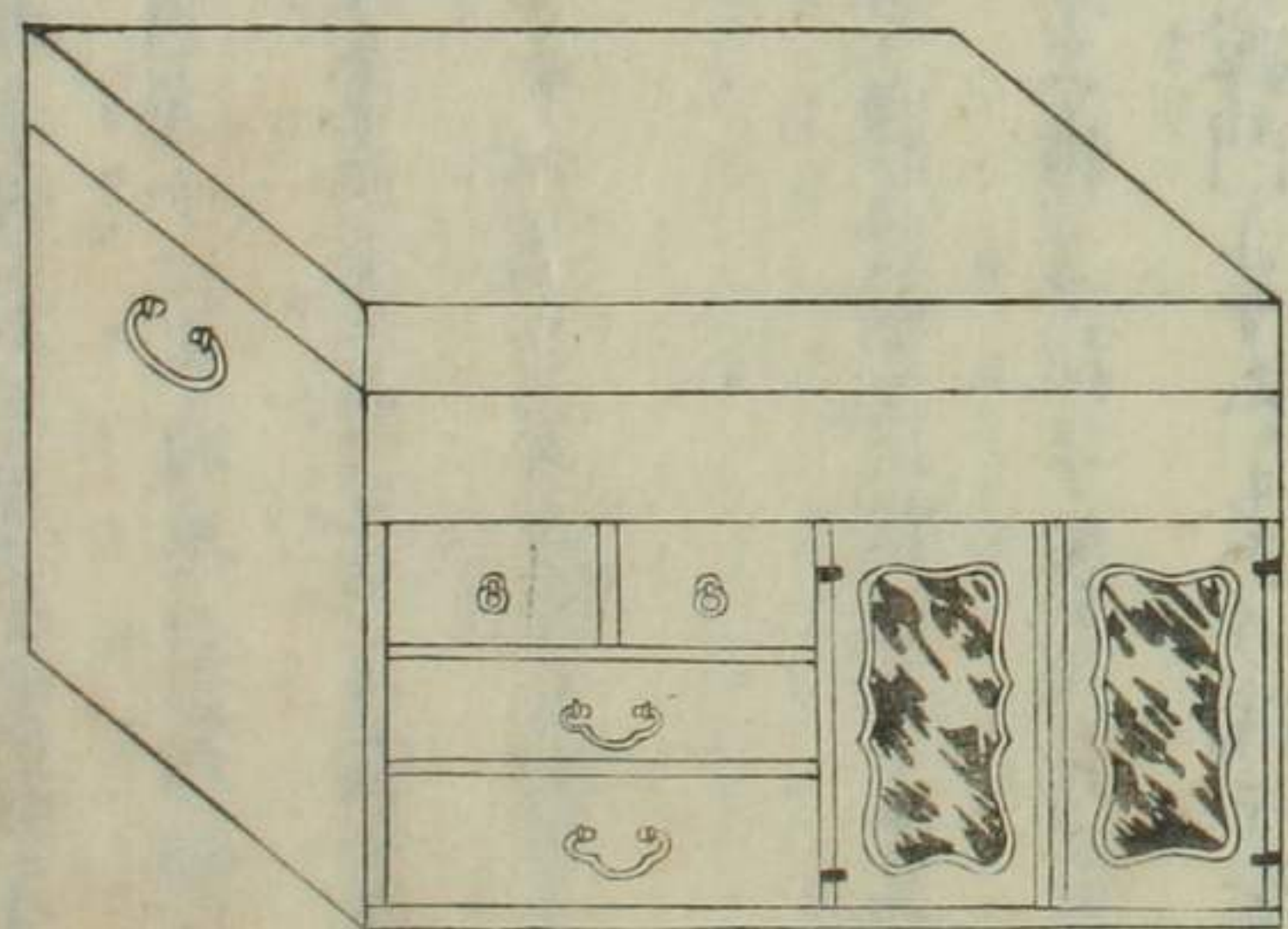
琵琶えら

十

紙箱



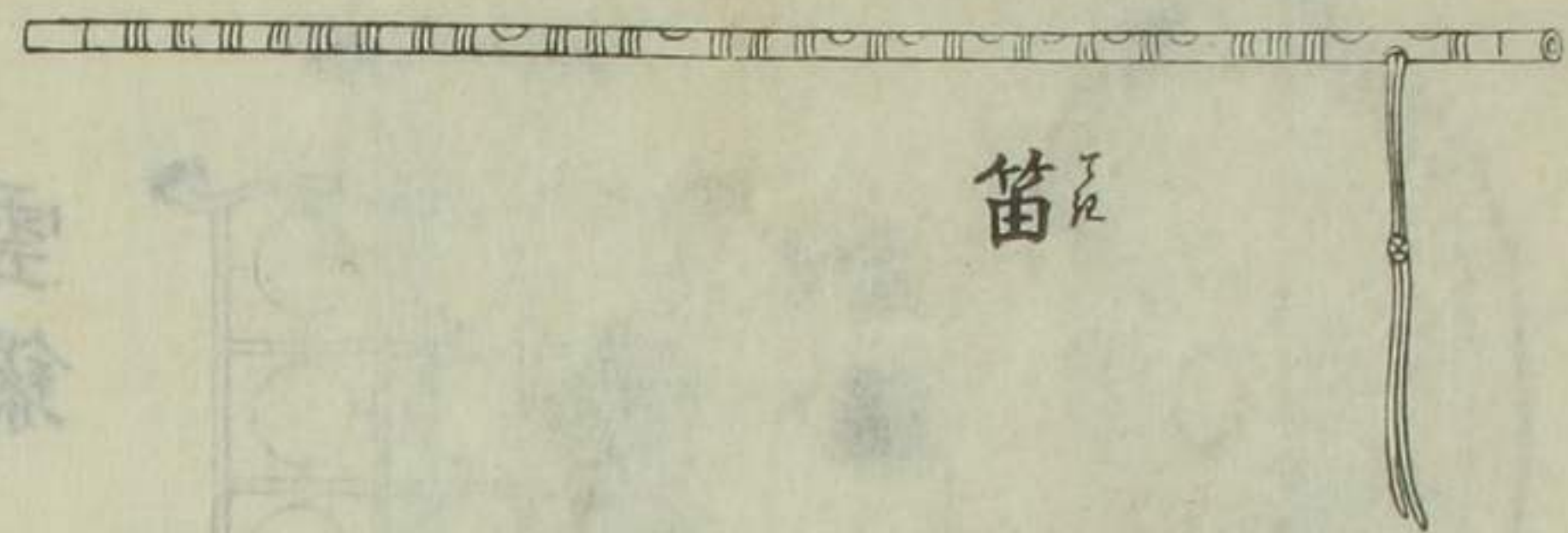
文具箱



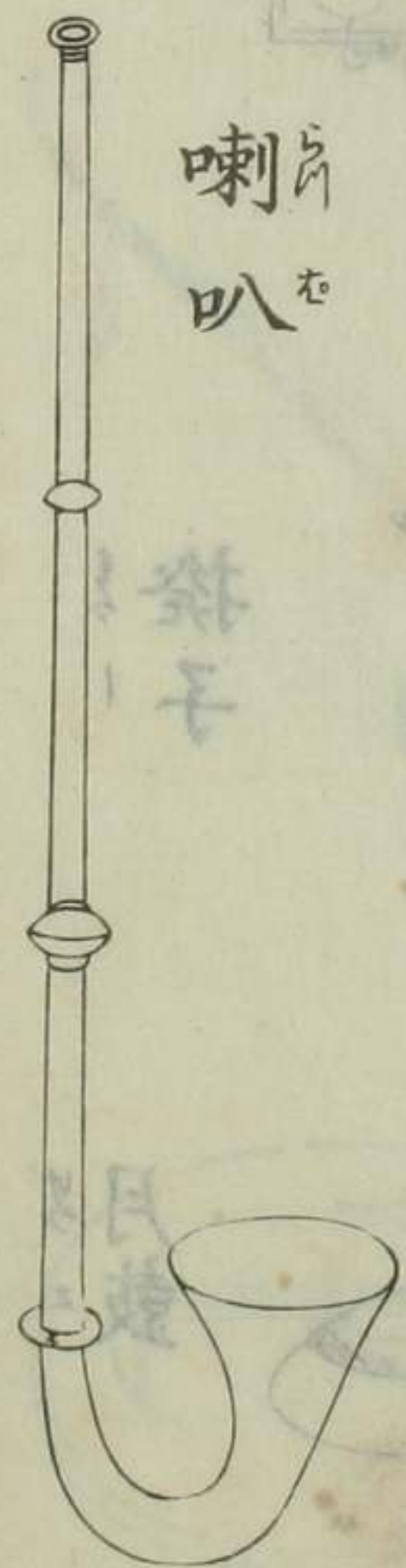
居家

六三

笛

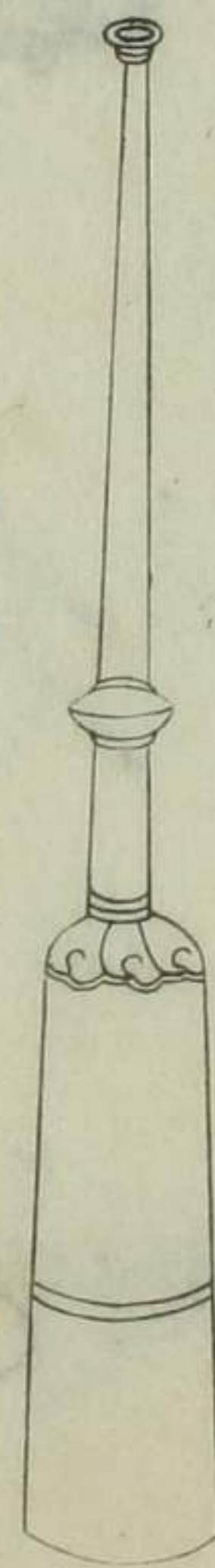


喇叭

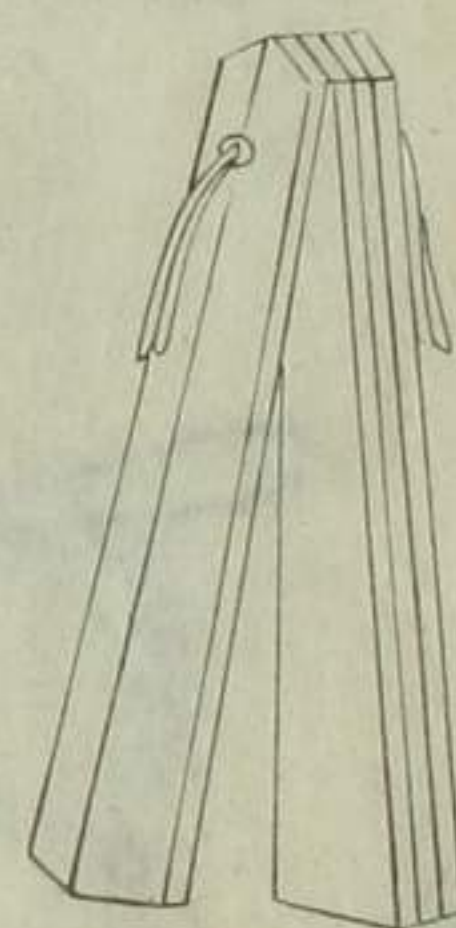


銅角

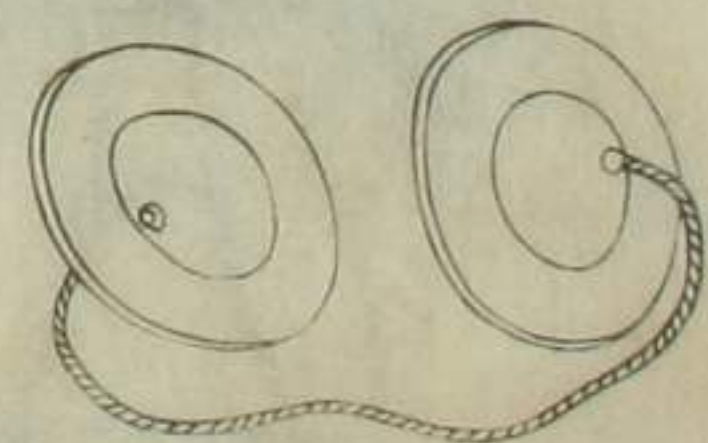
一名 唢囉



拍板



小鈸



○内房ナイフ 女の居間おんなのいま 奥手に設け入口布簾おくて かいの ぶしん をかき二枚扉ふたまいのしり 夜分々内よる 下した 關鎖かんさく 以もつて

内うち の隅すみ 子こ 亦また 睡床すいじょう を設け其側そのはた 一向いっこう 小衣箱せういじょう 金銀箱きんぎんじょう 手道具てどうぐ 具家財ぐけざい 等ら 以もつて 入いれ 出入口でいりぐち 之の 隙ひま を設けて關鎖かんさく 以もつて 片側かたがは 小卓せうたく 子こ 或ある 女に 此こ 手道具てどうぐ 針箱はりばこ 鏡臺きやうたい 等ら

を多くおほく 置おき 下に椅子いす 杭子かきこ 或ある 至壁いたしま に帽架ぼうか ありあり 三弦さんげん 琵琶ひば 等ら 或ある 或ある もありあり 便所べんじょ 通とほ 入口いりぐち 小麻鞋せまぎ を並面なみめん 盆架ぼんか 小面盆せうめんぼん を並手なみて 巾きん をかけ並内房なみないふ

の上うへ 小樓せうろう を設け女子に 此こ 寢所ねじょ 等ら 以もつて 樓上ろうじょう 上下じやうげ 小板せうばん 或ある 或ある 胡梯こてい を極ごく 樓上ろうじょう 残のこ らば拭板ふきばん ありあり 入口いりぐち 二枚ふたまい

扉しり 安やす 藤蓆ふじせ 毛氈けせん 等ら 或ある 或ある 卓子たくし 椅子いす 杭子かきこ 等ら 或ある 或ある 窓まど 方圓ほうえん 均ひとし かつらかつら 扉しり 左右さゆう 屏びん ありあり 或ある 或ある 障門てんもん ありあり 或ある 或ある 欄干らんかん ありあり 樓ろう の先さき 露臺ろたい 或ある 設け地ち 柱はしら を建樓たてろう 以もつて 竹板たけばん 或ある 床とこ の下した 或ある 或ある 三方さんぱう に欄干らんかん 或ある 或ある 上うへ 小架せうか 子こ を造つく して幔まん を張は ぎ見み 或ある 或ある 露臺ろたい ありあり 内

房ふ の樓ろう 小多せうた 用もち 以もつて 書房しよぼう 等ら の樓ろう 小設せうせつ け夏節かせつ の涼所すずしろ 或ある 或ある 内房ないふ の樓ろう へ女子に 等ら 此こ 住居ぢゆう 所じょ 寢所ねじょ ありあり 或ある 或ある 窓まど 之の 常じょう に簾しり 或ある 或ある 外見がいけん を避さ ぶたり

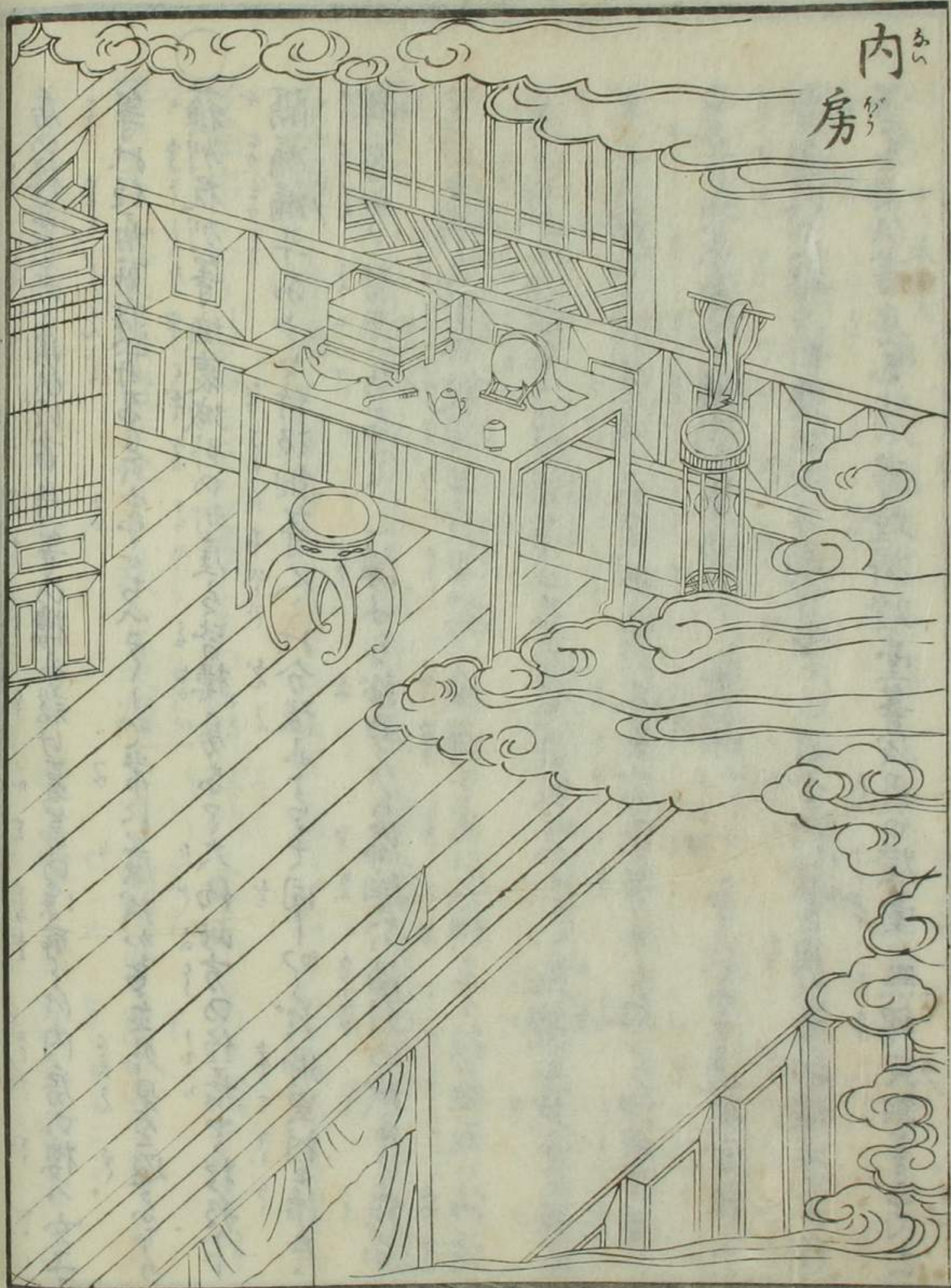
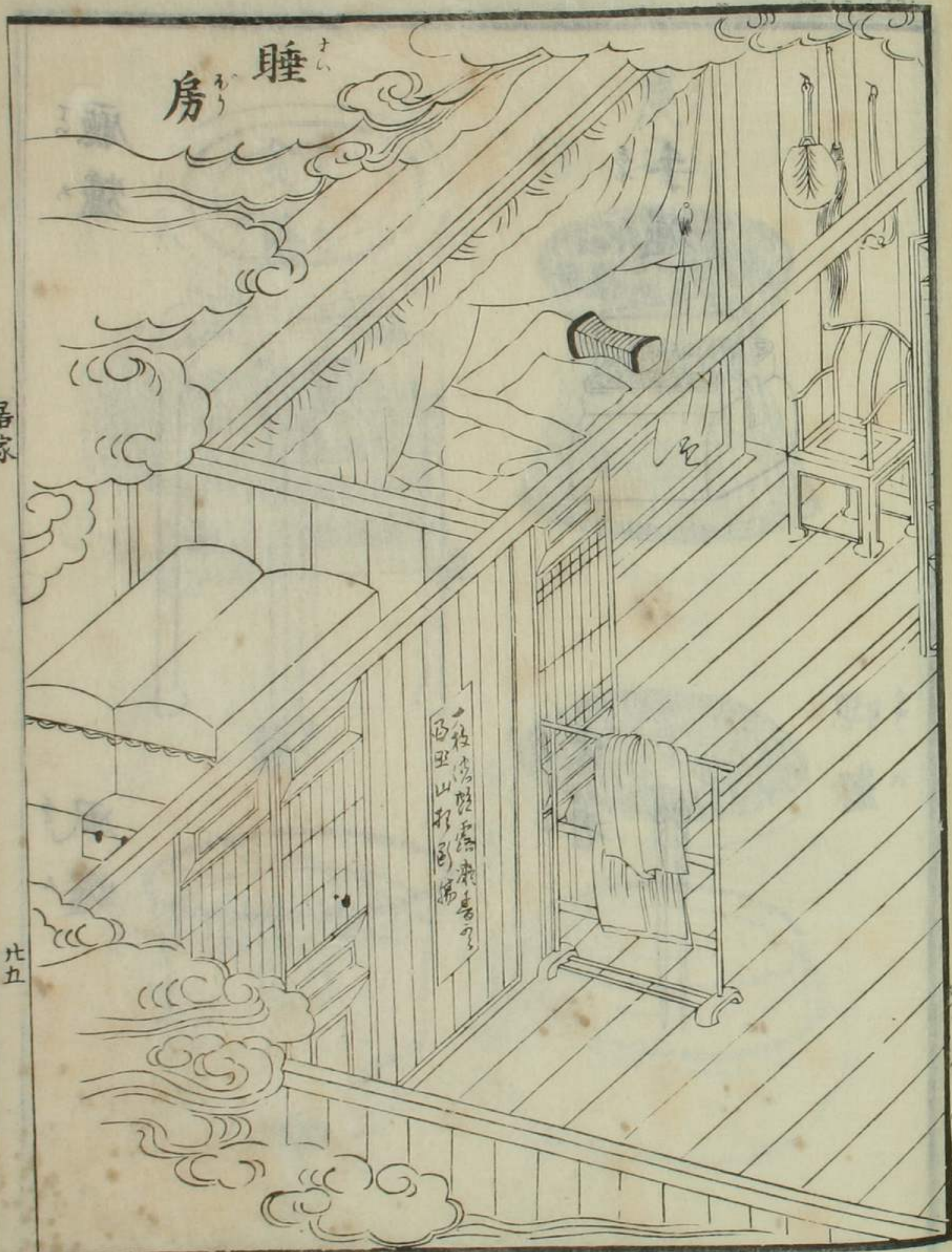
○蕨別わづらべつ 杭列かきりよく 等ら 城裏じやうり 城外じやうり の町屋まちや 等ら 皆樓房みなろうぼう ありあり 大物おほもの 此方こなた の住居ぢゆう 或ある 或ある 竹板たけばん 銅等どうとう 人ひと 此分こぶん 限かぎ ありあり 或ある 或ある 同おな かつらかつら 綿里わたぢり 村むら 居い 或ある 或ある 隔漏かくろう 漏斗ろうと ありあり 竹板たけばん 銅等どうとう 人ひと 此分こぶん 限かぎ ありあり 或ある 或ある 同おな かつらかつら 綿里わたぢり 村むら 居い 或ある 或ある 樓房ろうぼう 小皆せうみな 平房へいぼう ありあり ○障子てんし 小紗せうさ ありあり 或ある 或ある 綿わた 又また 油引あぶらひき の紙かみ ありあり 張は ち

窓まど 小明瓦せうめいわ 雲母うんぼ 玻璃はり 等ら 或ある 或ある 用もち 以もつて 或ある 或ある 何なに 止とど 小板せうばん 或ある 或ある 紗障せあぢやう ありあり 或ある 或ある 上うへ 小地ぢ 板ばん 或ある 或ある 或ある 或ある 屏びん 等ら 或ある 或ある 或ある 或ある 天花てんか 板ばん ありあり ○仰塵おやしん 小紙せうし ありあり 張は ち

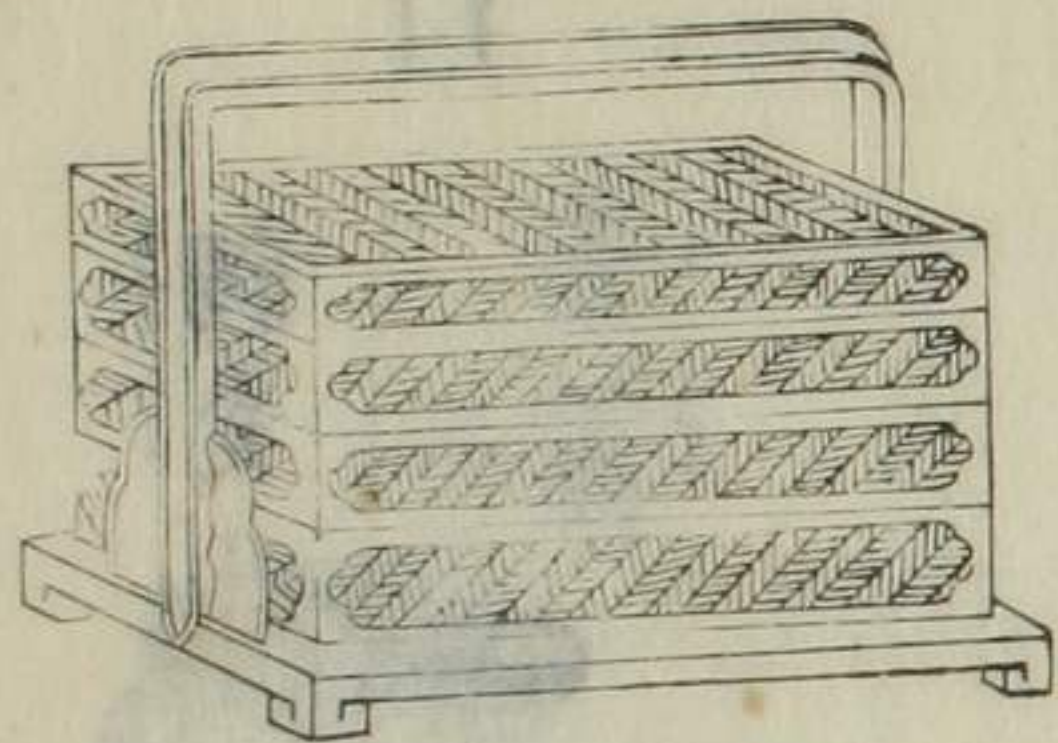
草紙くさし の繪え ありあり 或ある 或ある 或ある 或ある 書或しよ 或ある 或ある 合天井あいつうぢやう ありあり 或ある 或ある 大家おほや 官家くわんけ 等ら ありあり 或ある 或ある 都みやこ 小仰塵せうしん 用もち 以もつて 此小戸ここの の窓まど ありあり 同おな 用もち 以もつて 小事せうじ ありあり ○衣箱いじやう 又また 衣櫃いこ ありあり 或ある 或ある 或ある 或ある 小手せうて 道具どうぐ 金銀きんぎん 入いれ

單筒たんづつ 格かく の類るい 小臥房せうぶいぼう の側わき ありあり 或ある 或ある ○夜分よる 行燈ぎやうてい 用もち 以もつて 或ある 或ある 紗燈せあてい 羊角やうかく 燈てい 等ら 用もち 以もつて 書房しよぼう ありあり 或ある 或ある 書燈しよてい 掛燈かてい 臺たい 等ら 用もち 以もつて 白燈臺はくてい 臺たい 點錫てんせき 黃銅わうどう 等ら ありあり 或ある 或ある

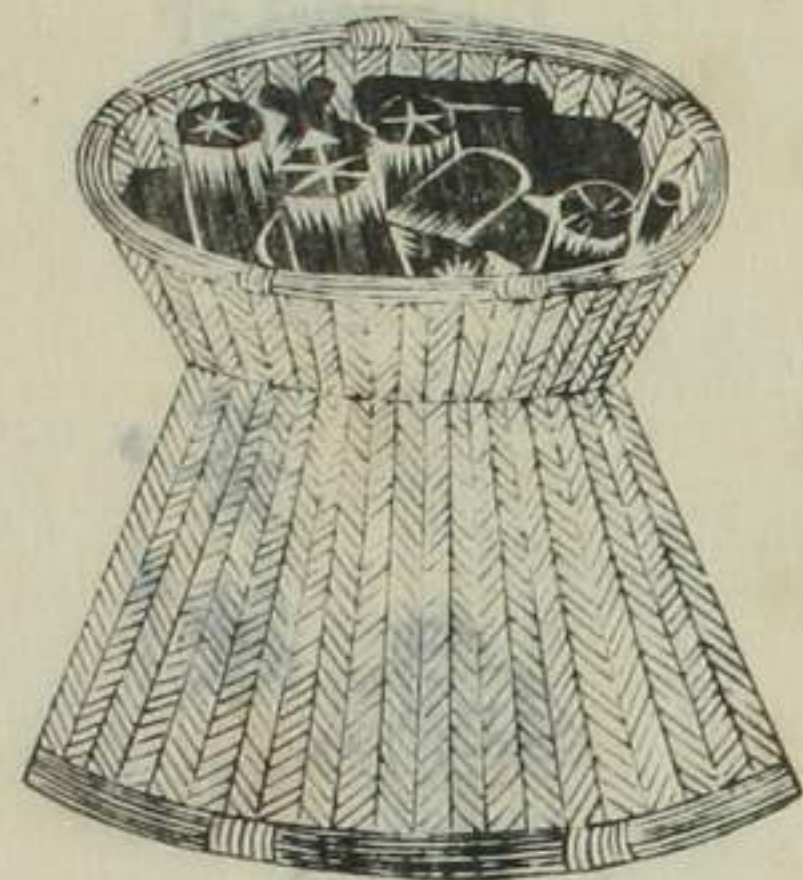
等ら 用もち 以もつて 書房しよぼう ありあり 或ある 或ある 書燈しよてい 掛燈かてい 臺たい 等ら 用もち 以もつて 白燈臺はくてい 臺たい 點錫てんせき 黃銅わうどう 等ら ありあり 或ある 或ある



食籃あぐら



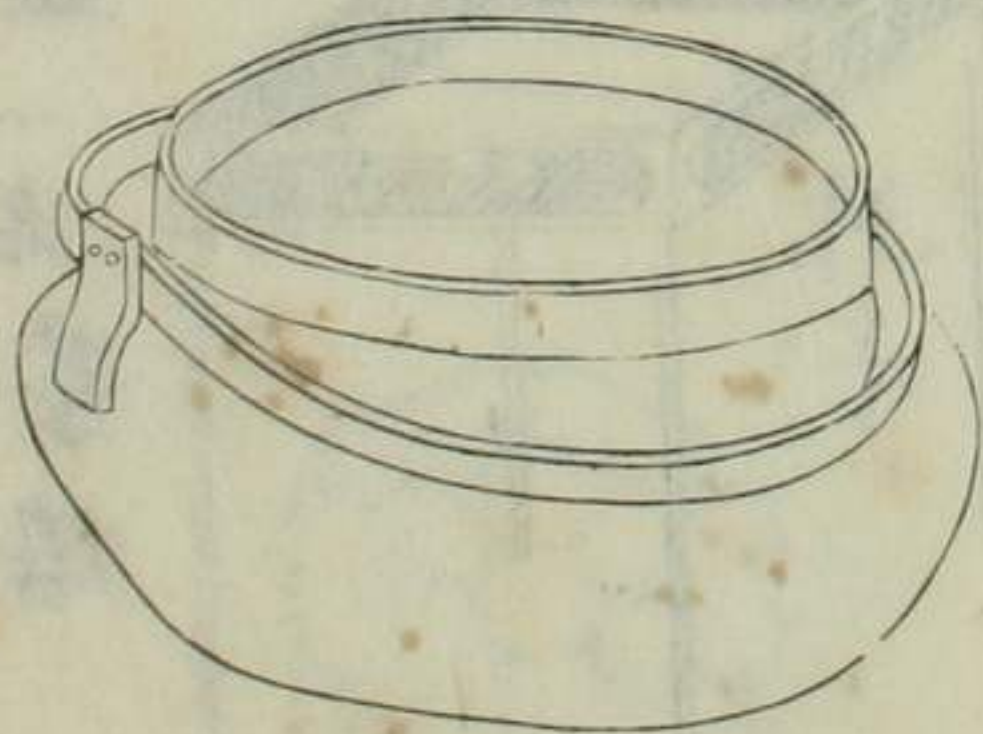
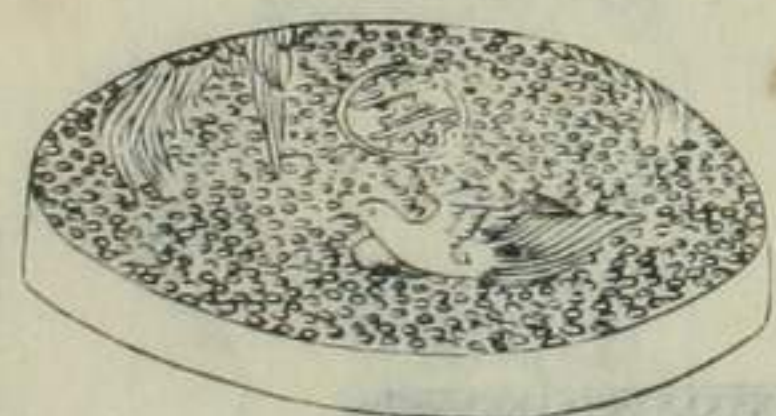
炭斗すみ



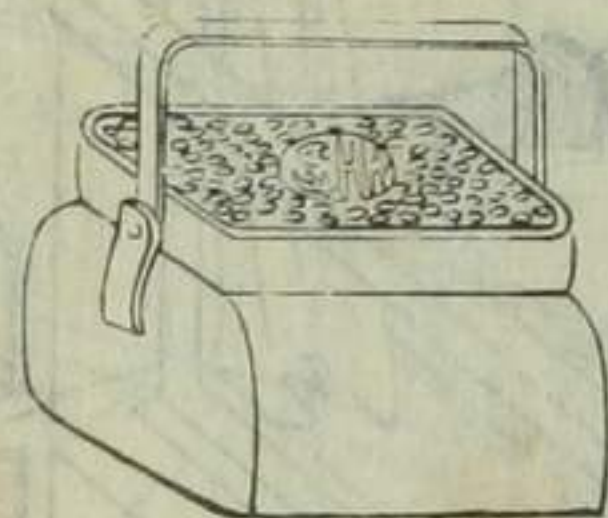
盤ばん



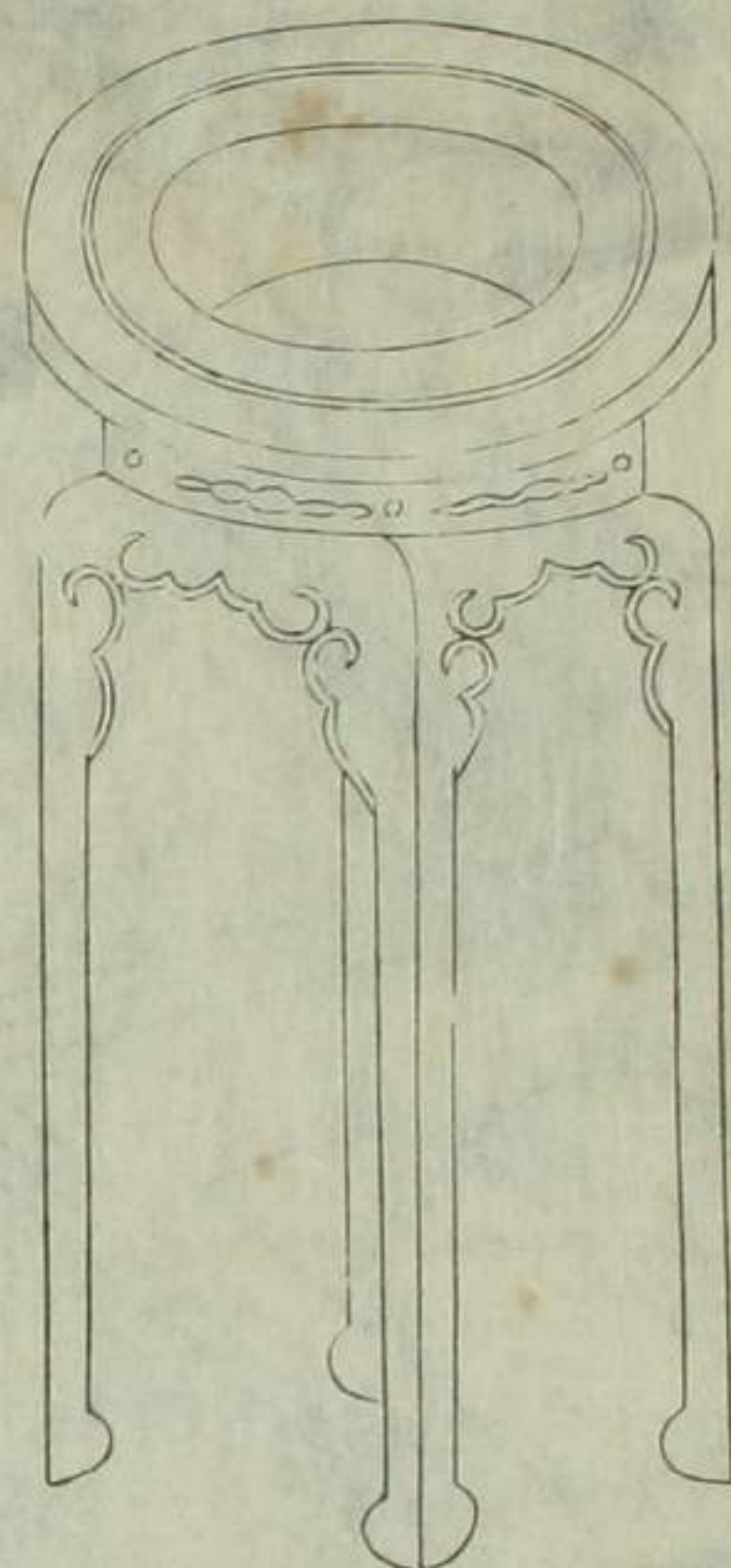
脚爐かき



手爐あぐら



廳爐とら



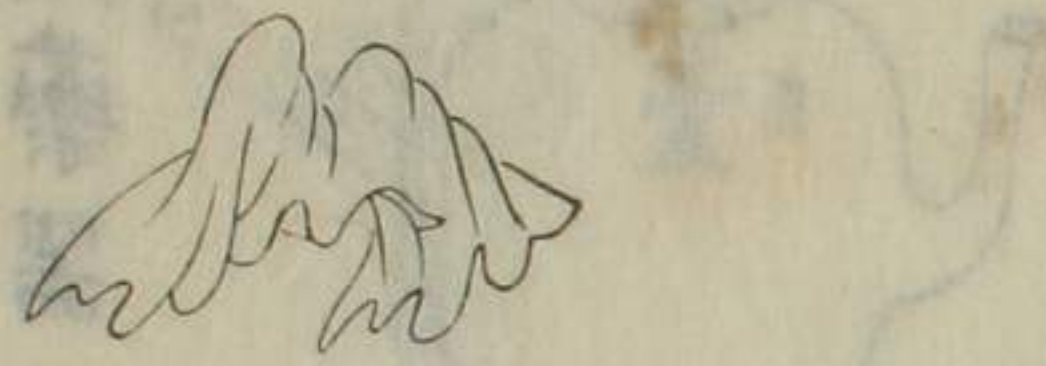
火箸あき



風爐かまど



布ぬい 抹ま

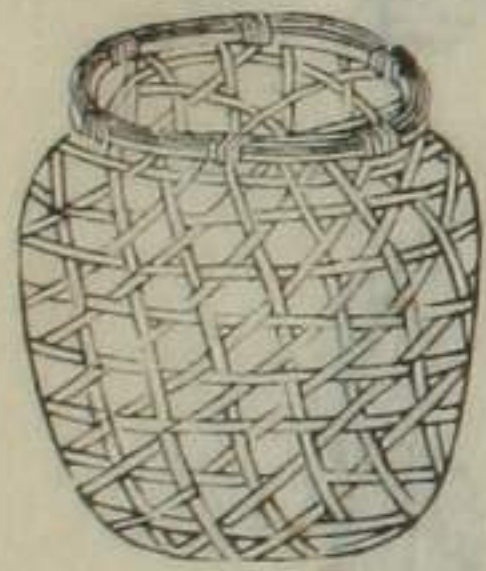


茶ちや

罐かん



茶ちや
籃らん



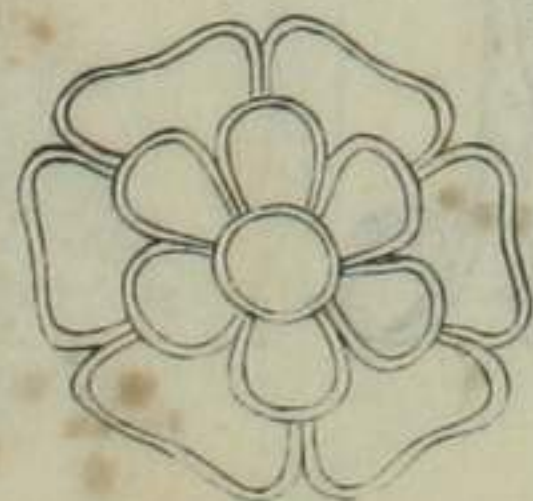
茶ちや
瓶びん



茶ちや
罐かん



托たく
子こ



居い 茶ちや

九く 七しち

筋すぢ



小せう
碟てつ



茶ちや
鍾しゆん



調てう
羹かう



茗めい
壺こ



烘かう
籃らん 一名いちめい 茶ちや 焙ばい

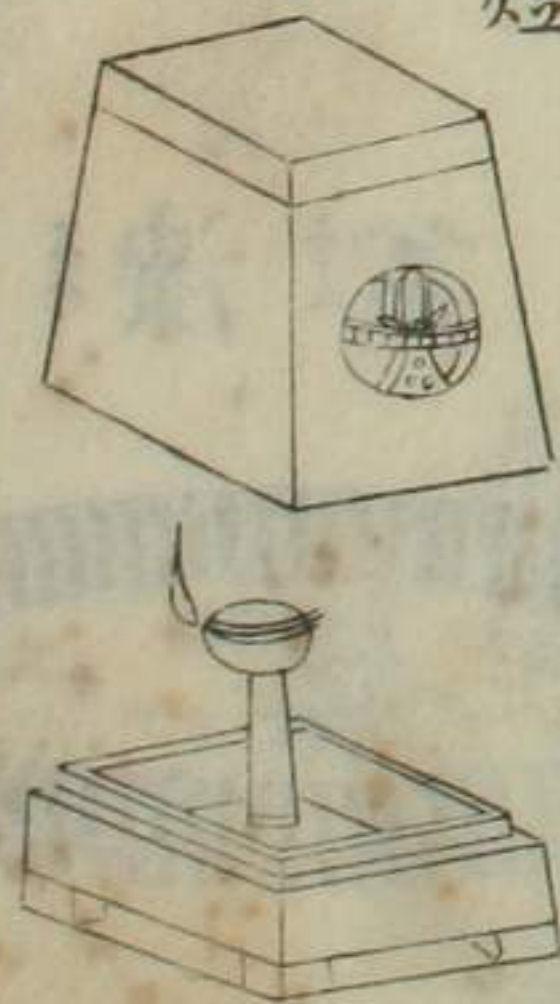




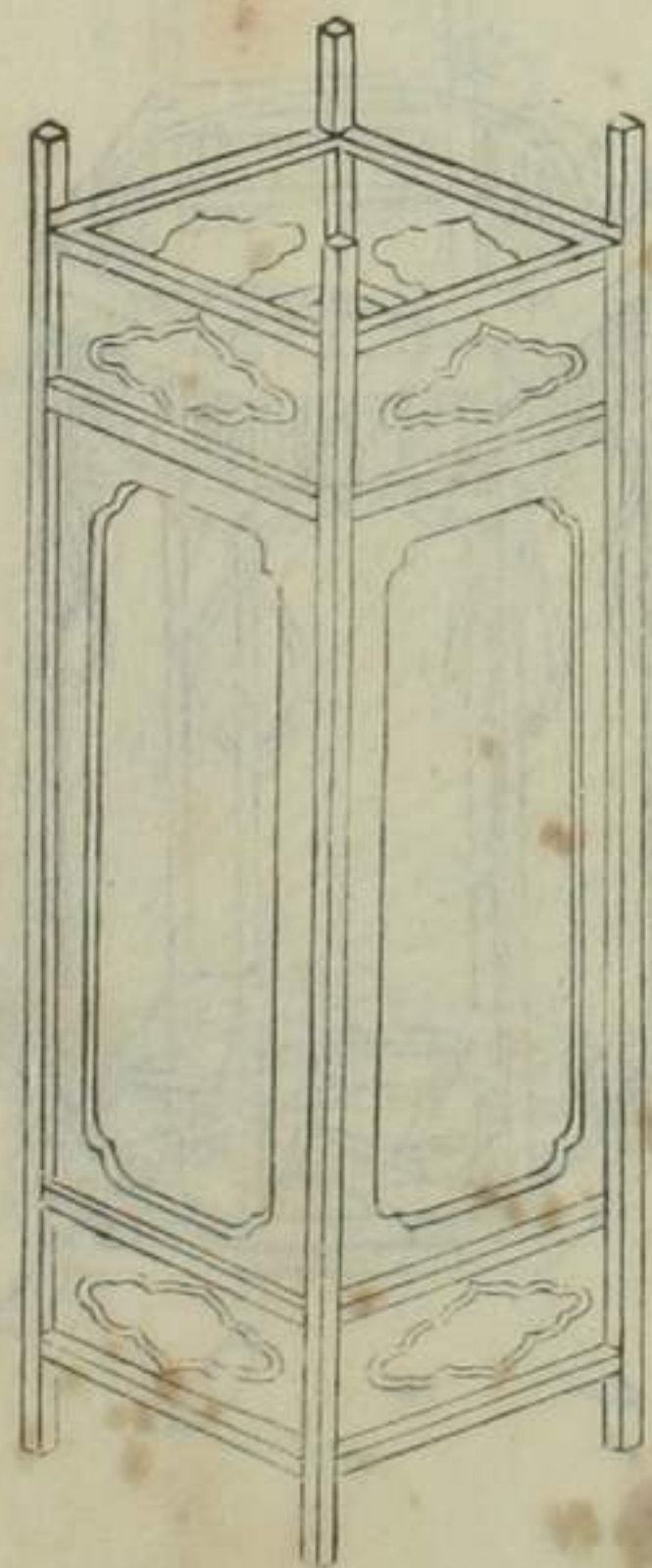
燭臺



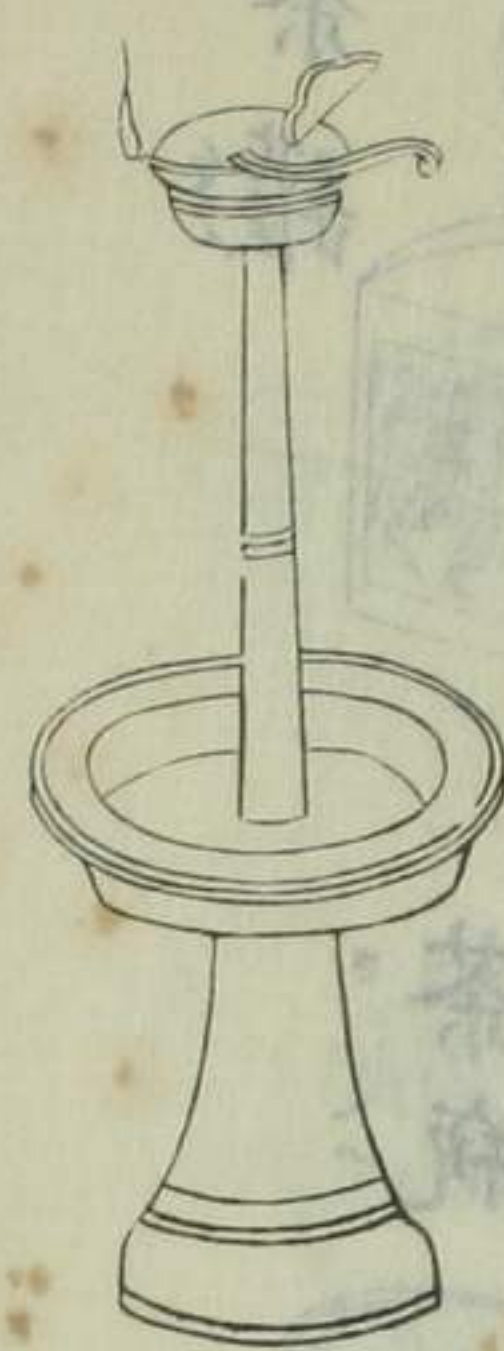
掛燈



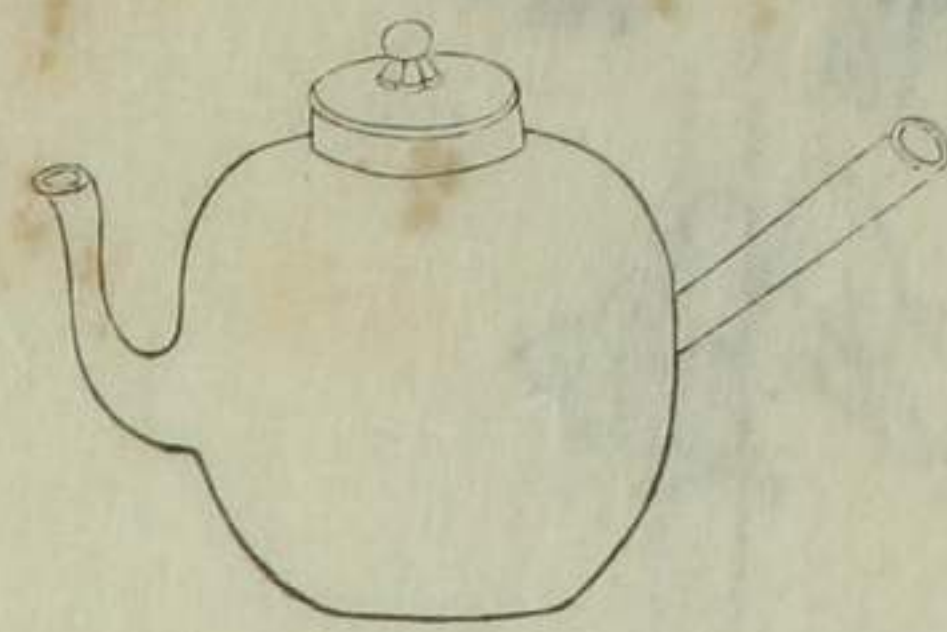
書燈



書燈架

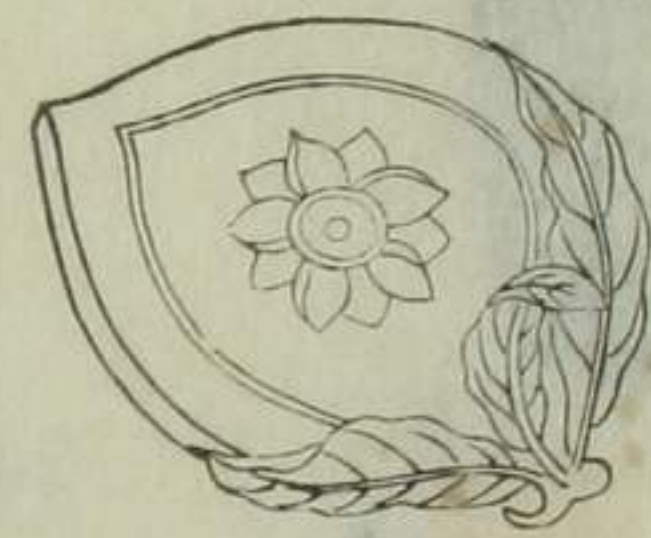


燈臺



煎藥器

托子



蠟剪



盛春

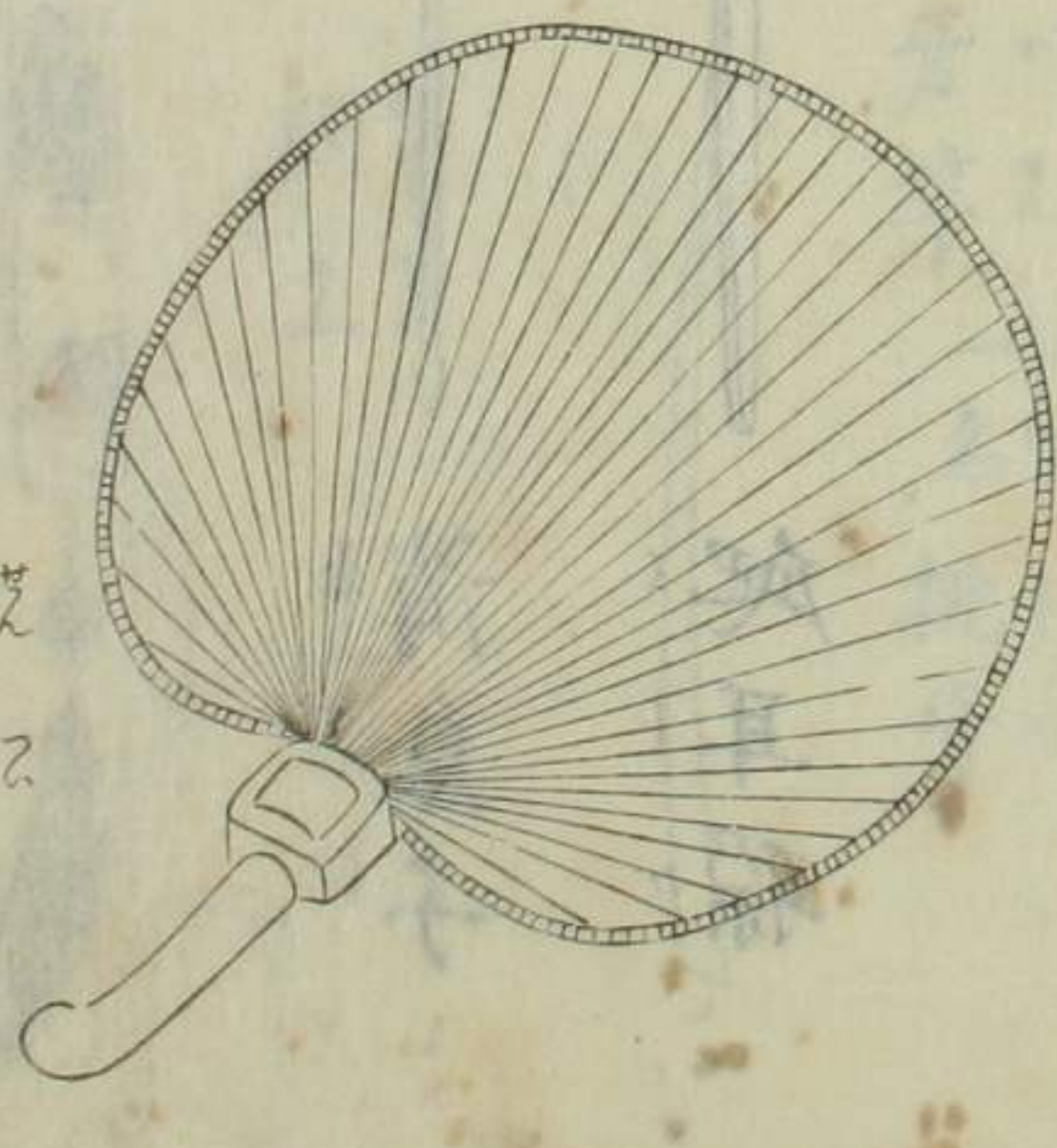




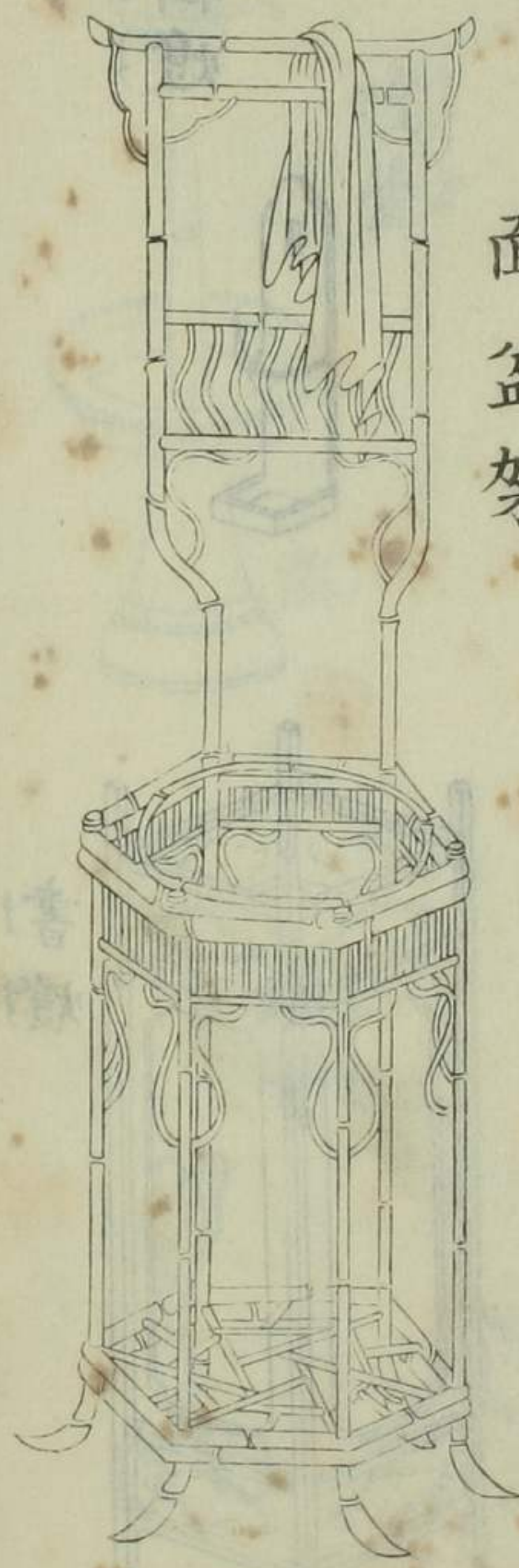
扇袋 (sensu-bukuro)



葵扇 (kikyo)

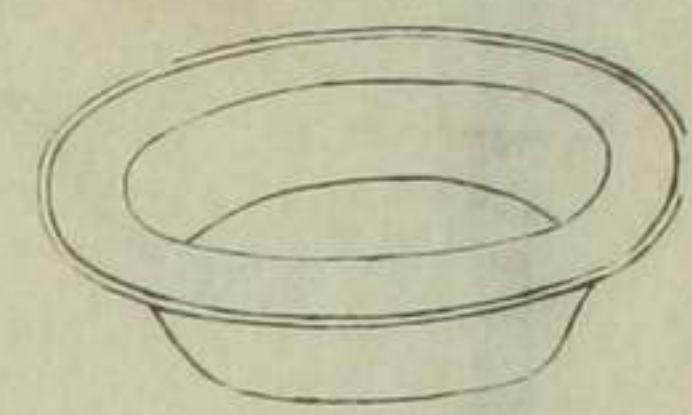


扇墜 (sensu-otoshi)

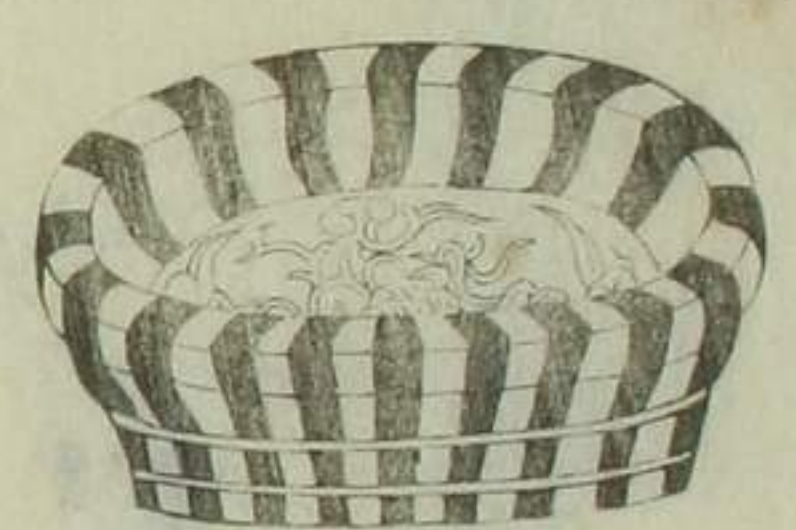


面盆架 (menbon-kago)

盆面 (bonmen)



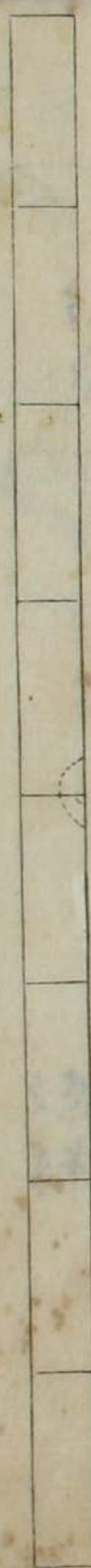
同上 (ドウジョウ)



盆漆 (bonshiki)



量尺 リヤウシツ



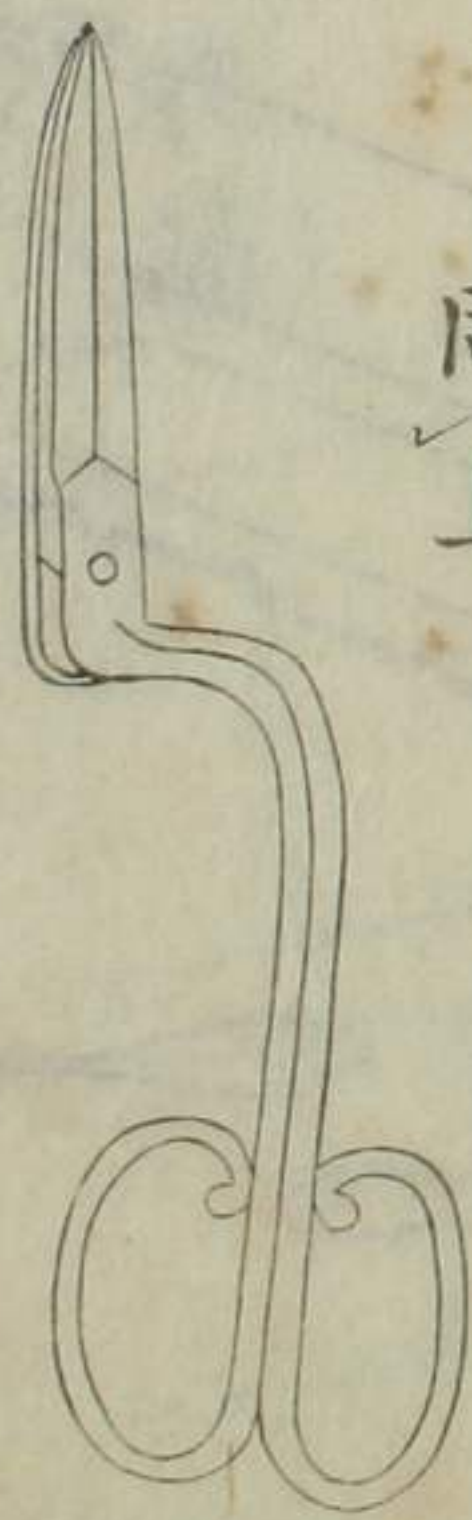
剪刀 シヤウ



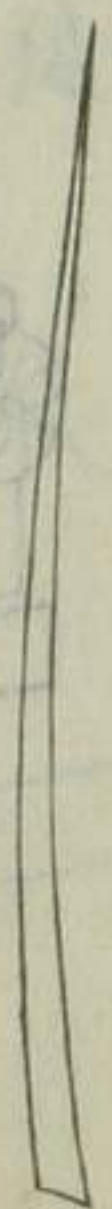
鑷子 シヤウジ



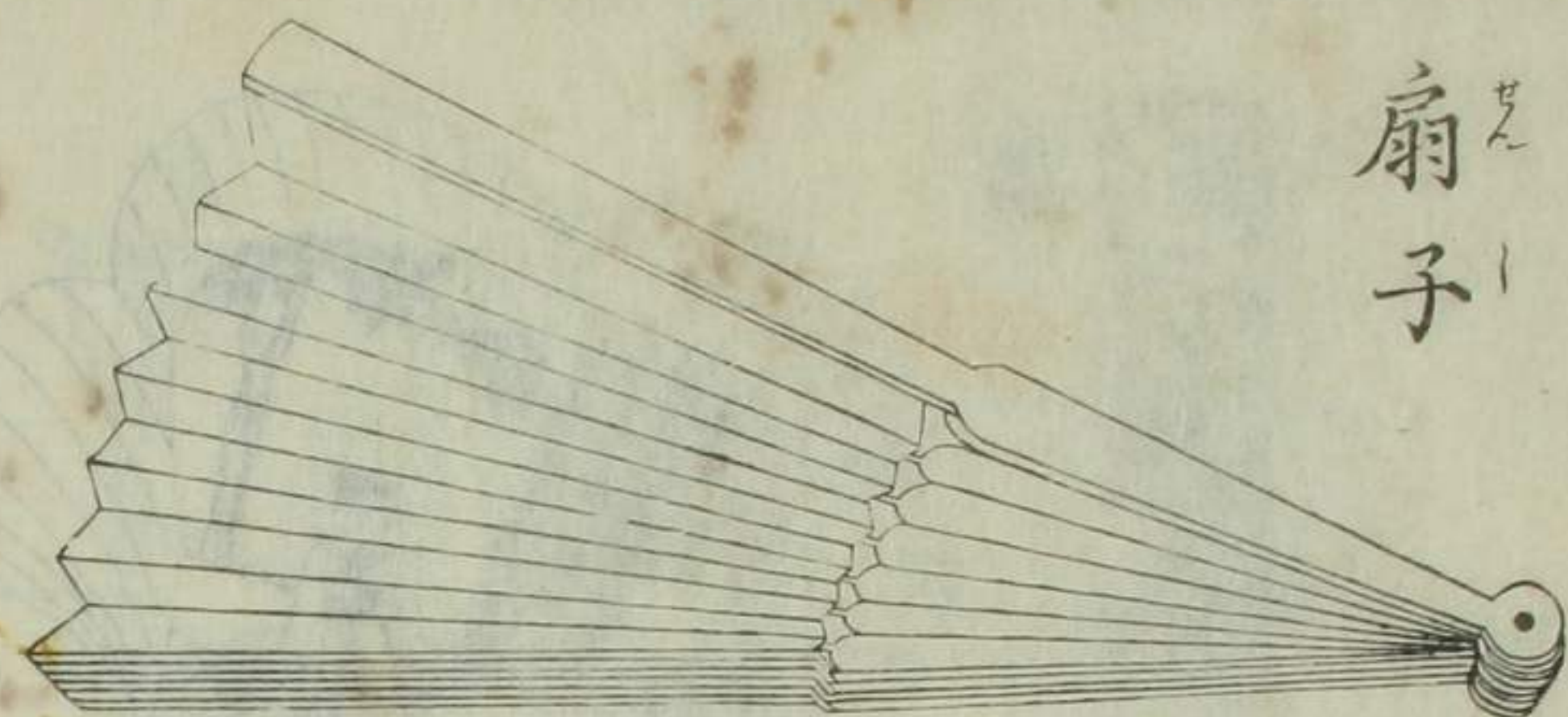
同上 ドウジョウ



牙竿 一名挑牙 カサナ 一名チョウガ



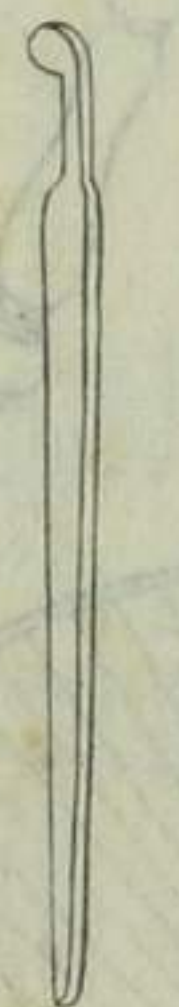
扇子 シヤウシ



消息筒 シヤウシツ



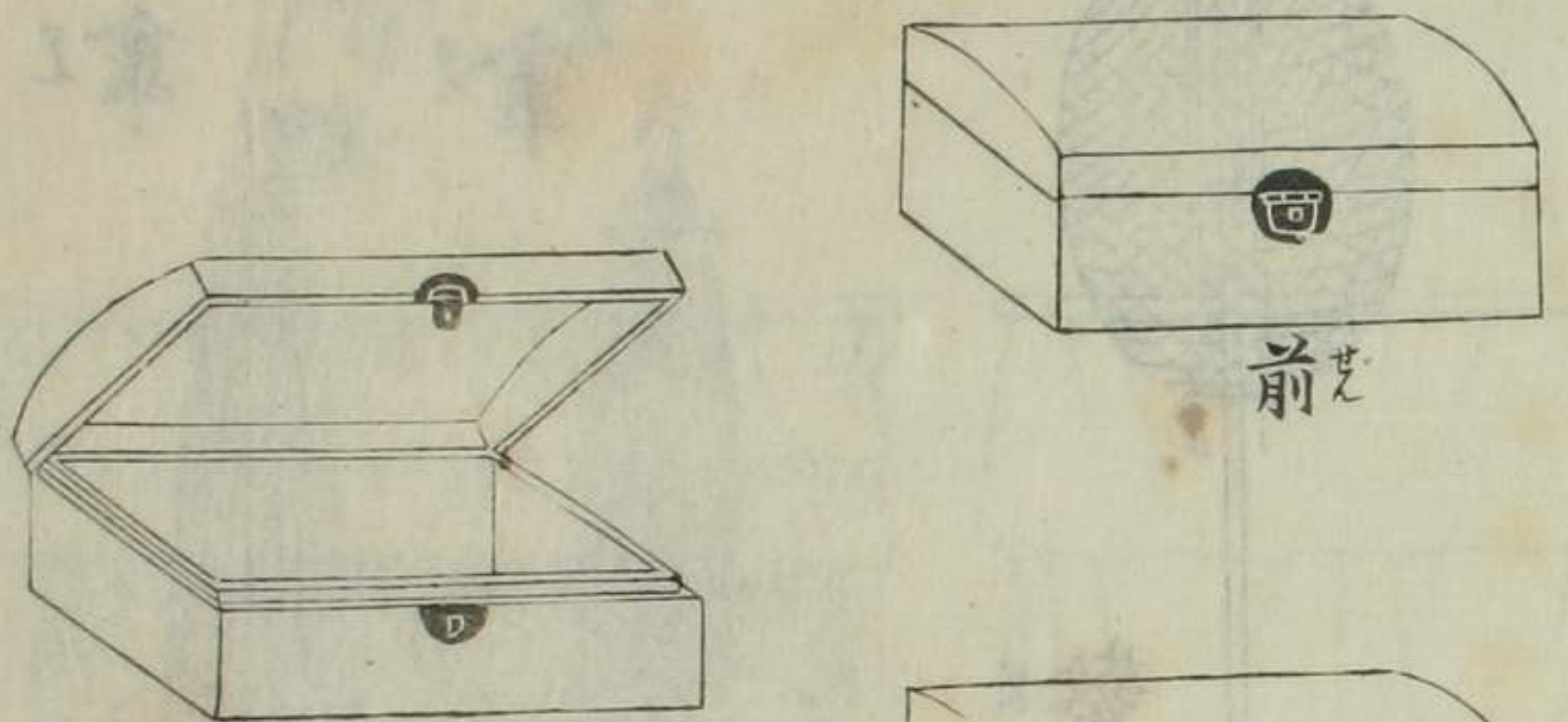
爬耳聾 カミミソウ



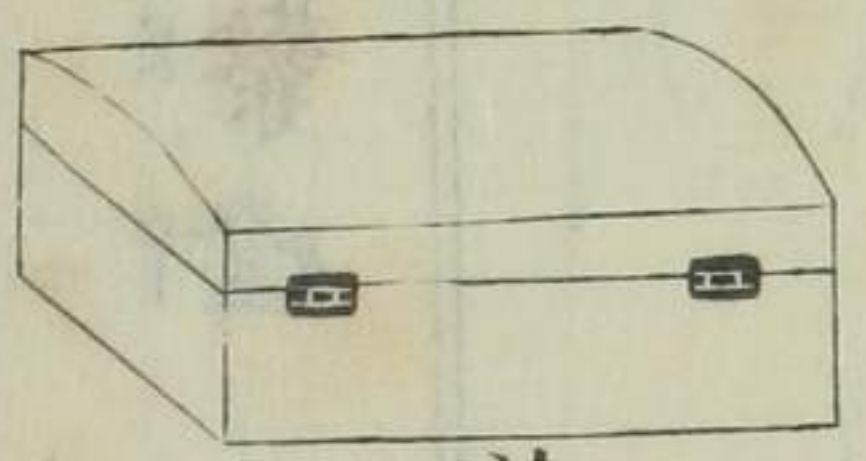
消息子 シヤウシ



箱皮

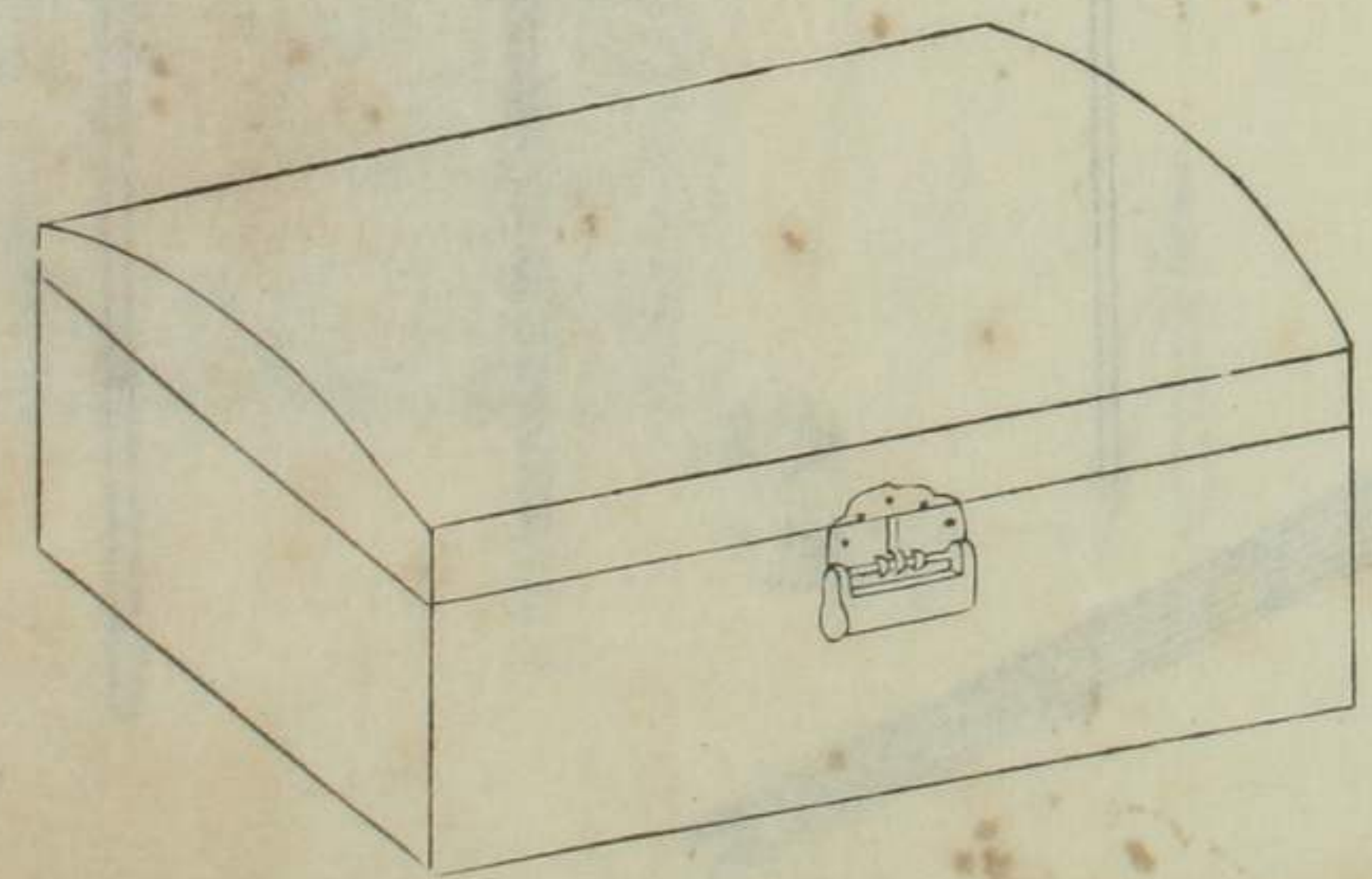


前



後

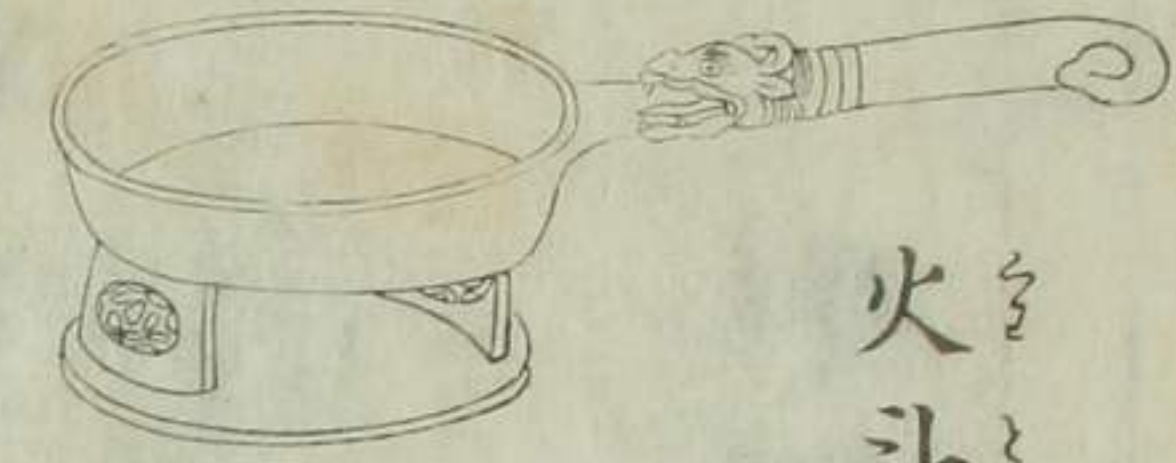
衣箱



居家

三

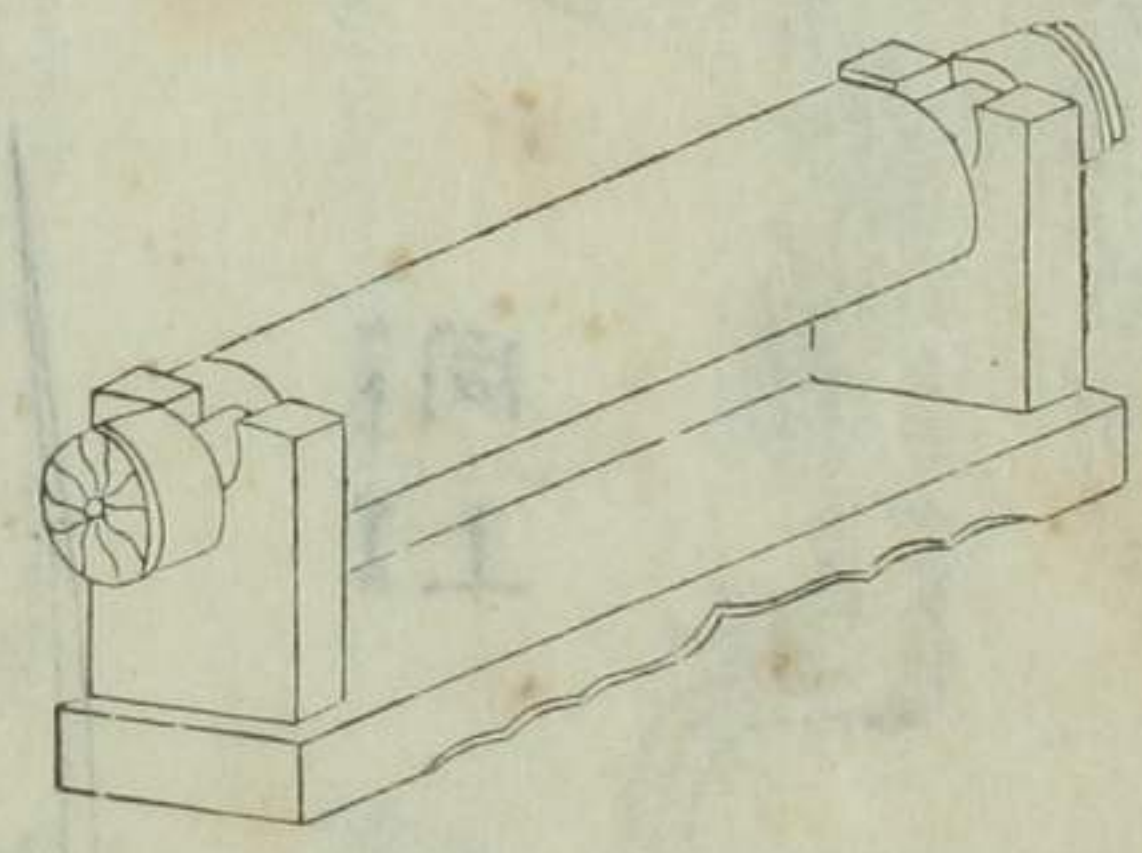
熨斗



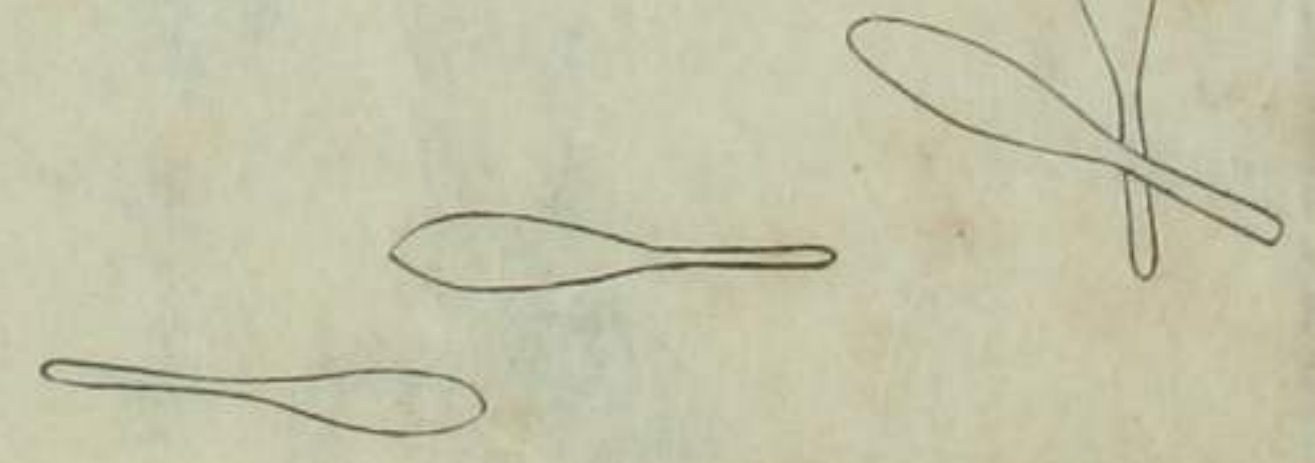
火斗



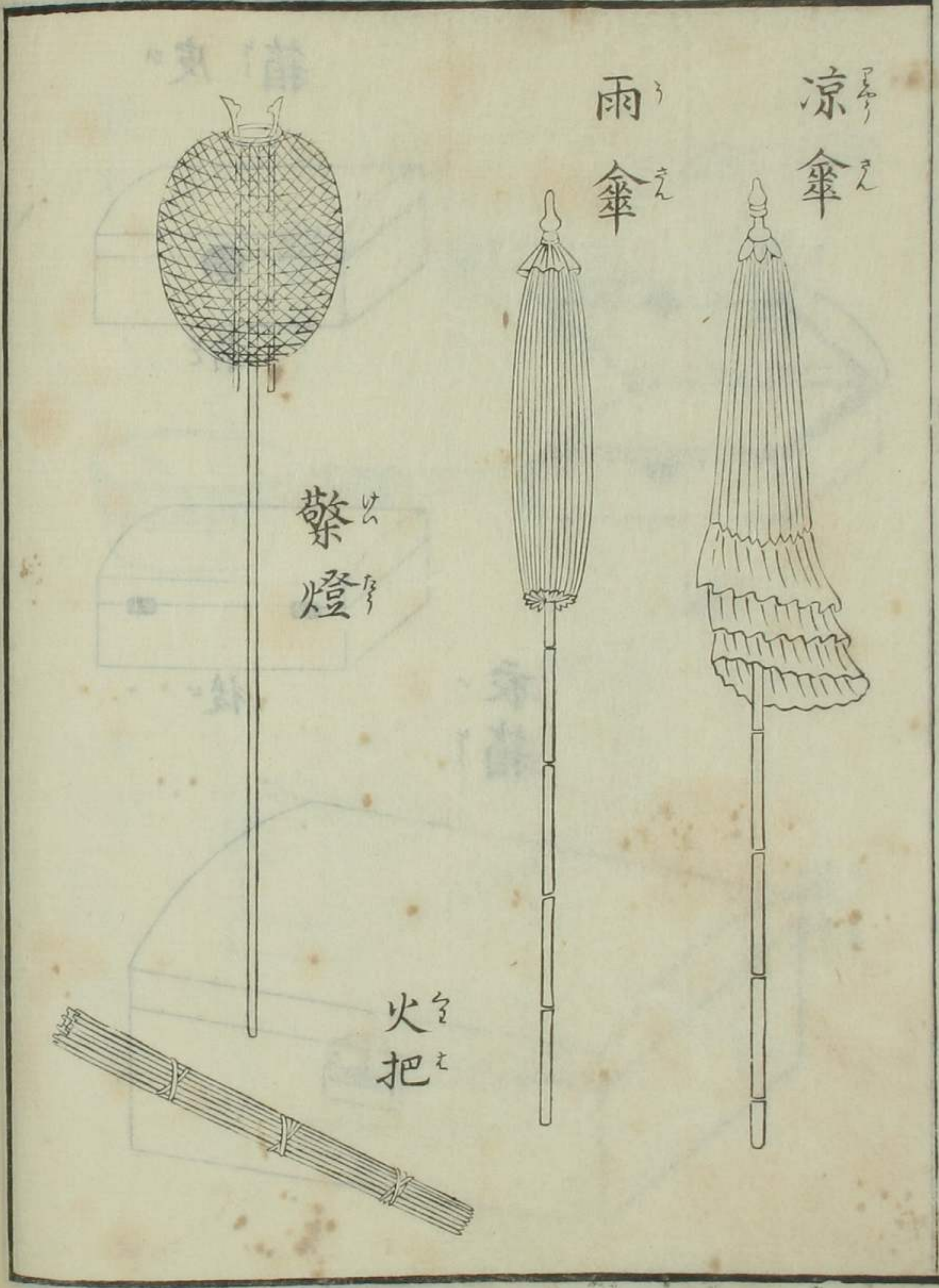
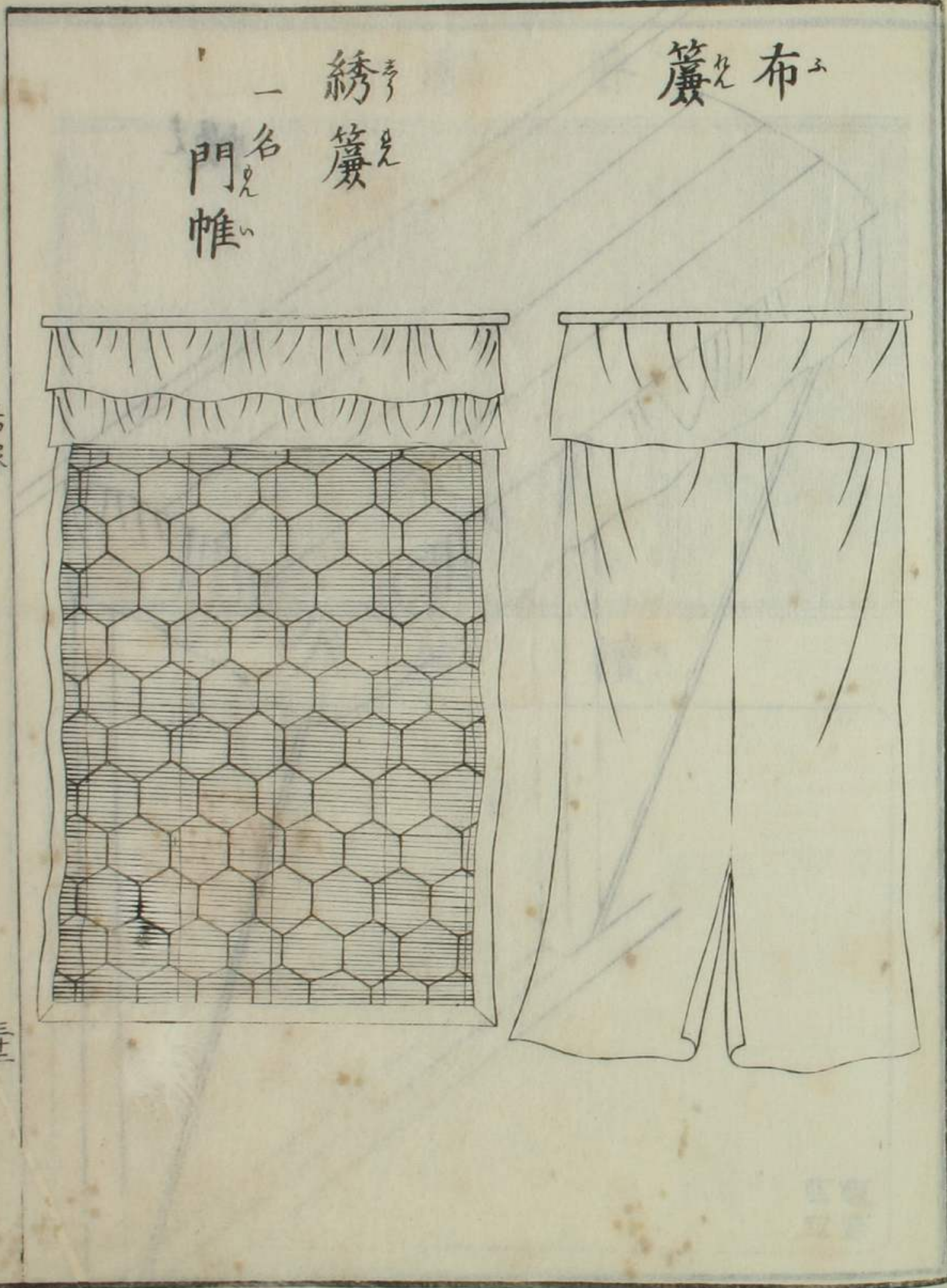
碓



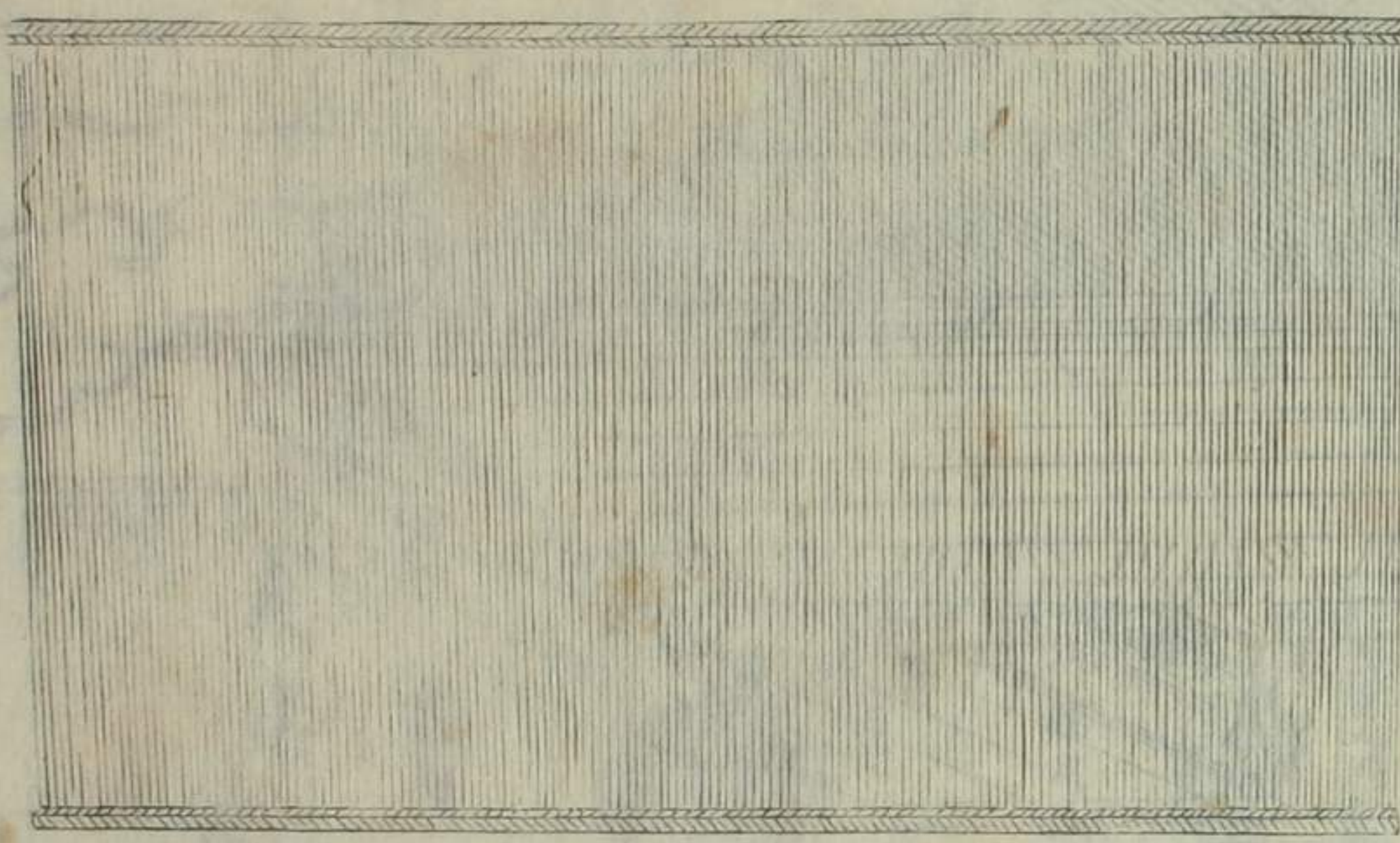
碓杵



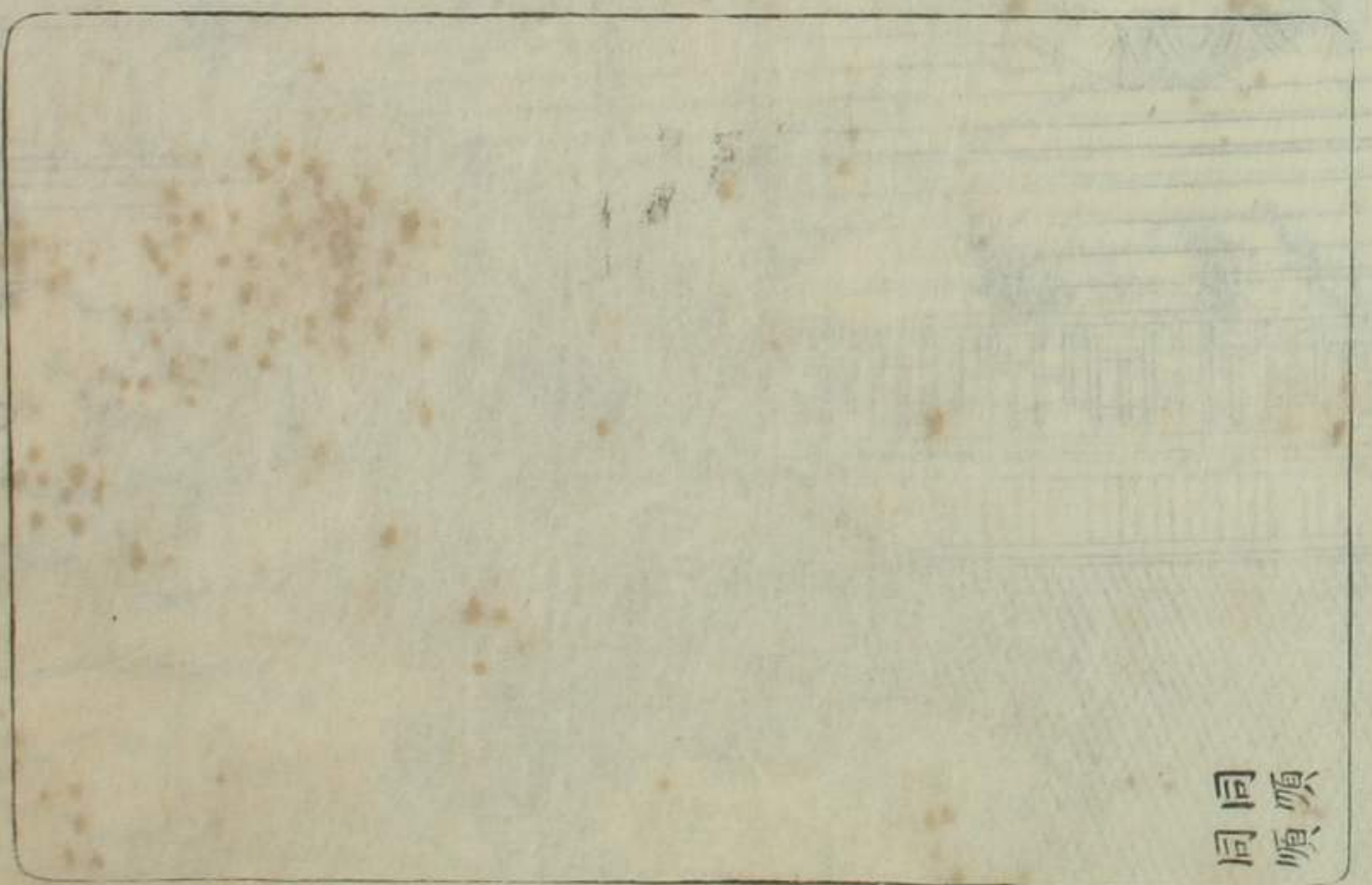
天
平
一
枚
杵
一
枚



簾せん 簾せん



條じょう 鐘かね



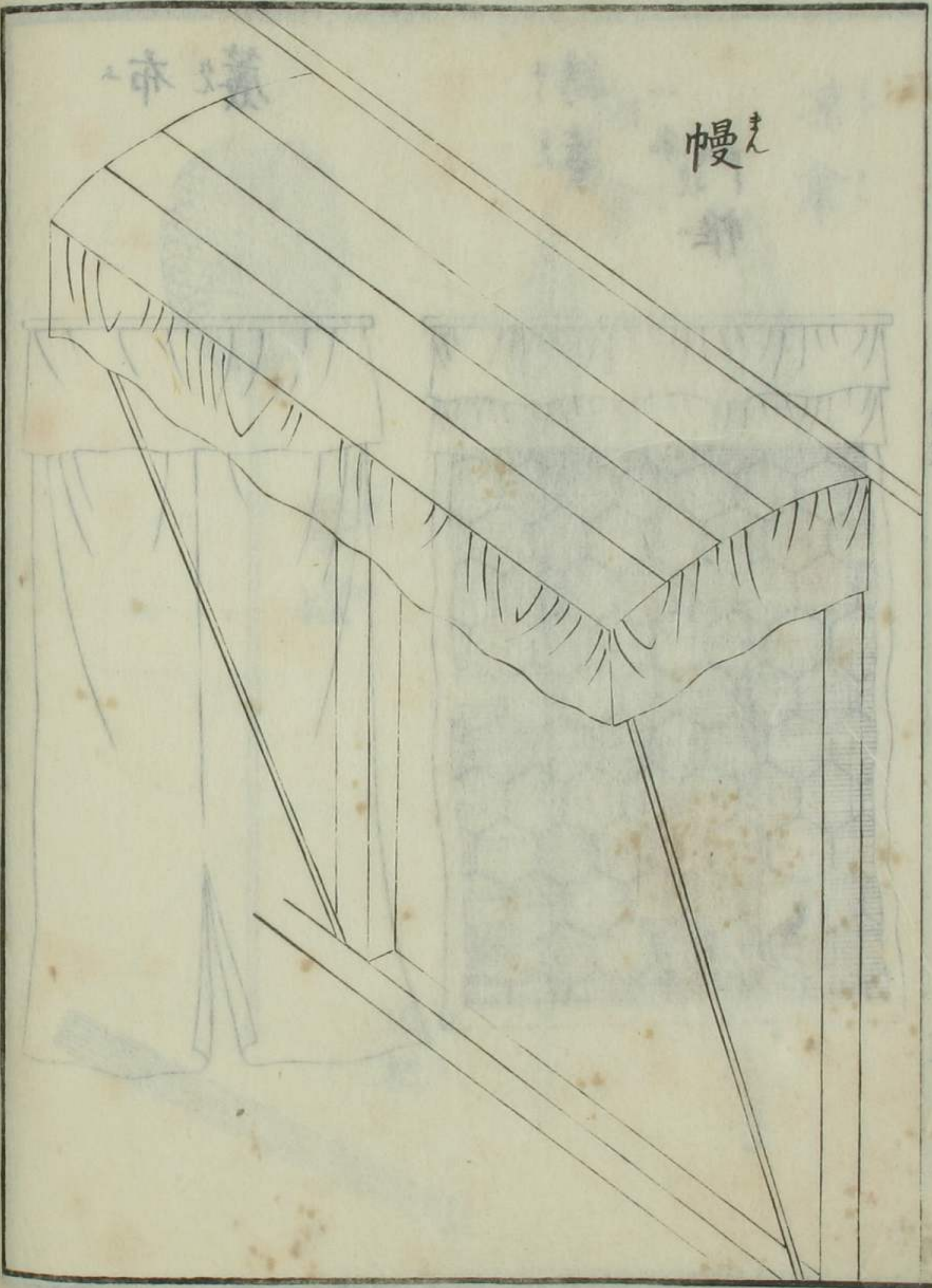
同順

居家

三十三

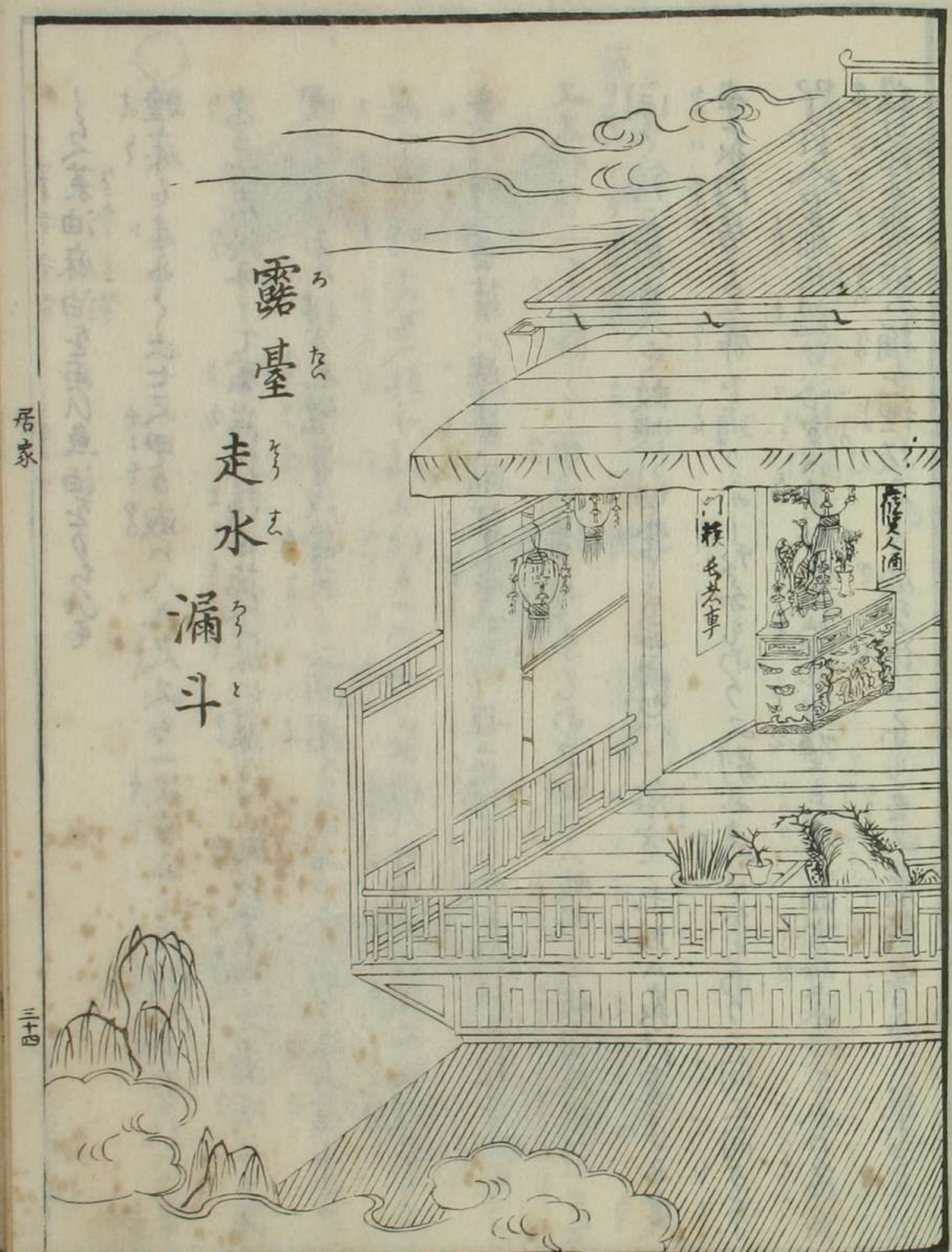
帷ゐ 帷ゐ

幔まんと



帷

三十三



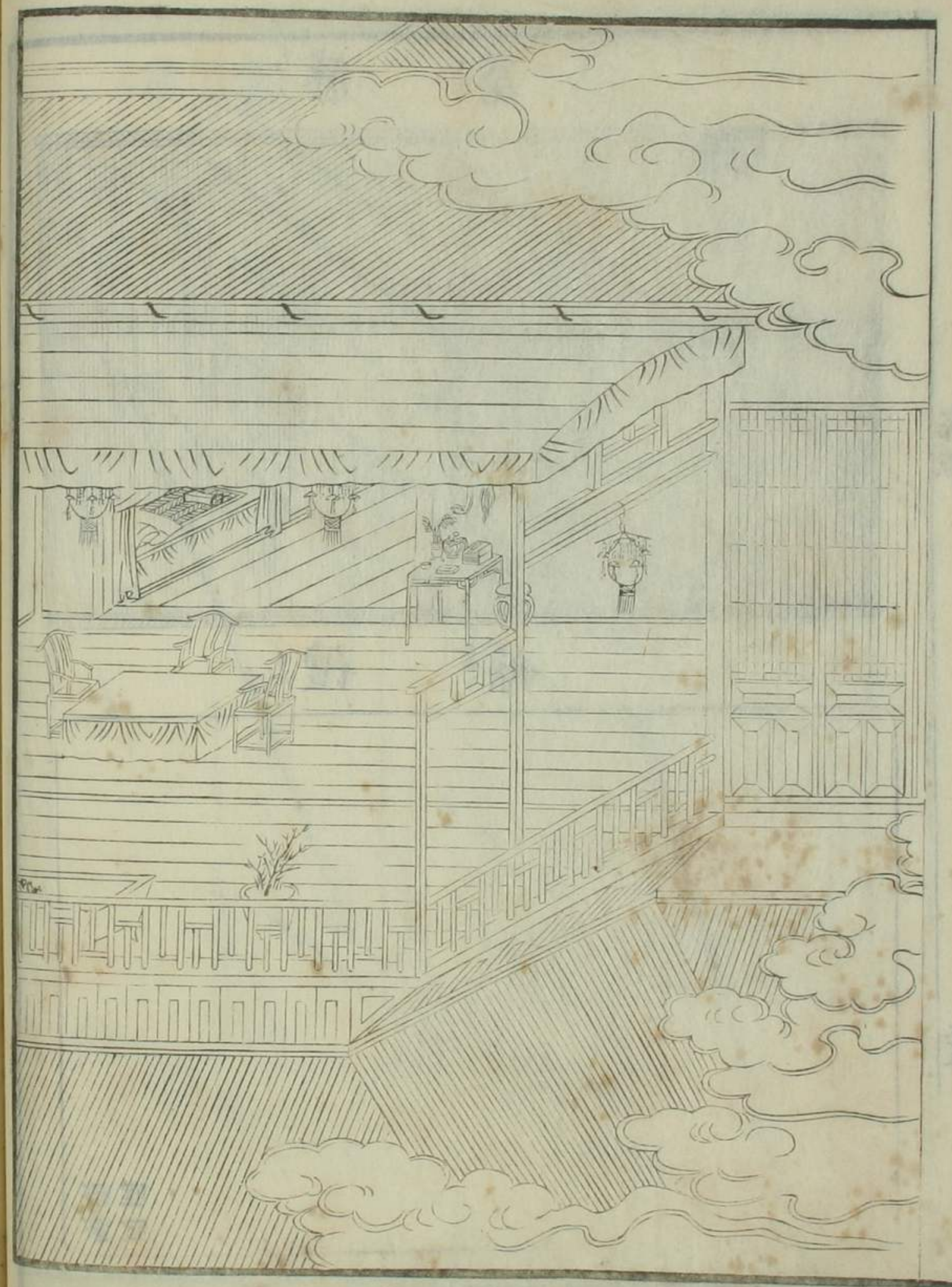
露臺

走水

漏斗

居家

三十四

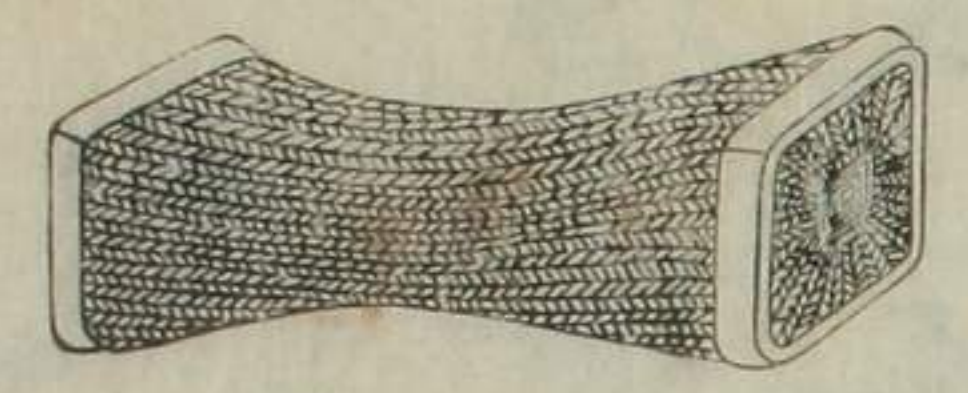


ツアチ テニウ
 菜油麻油を用ひ魚油をのちひ也

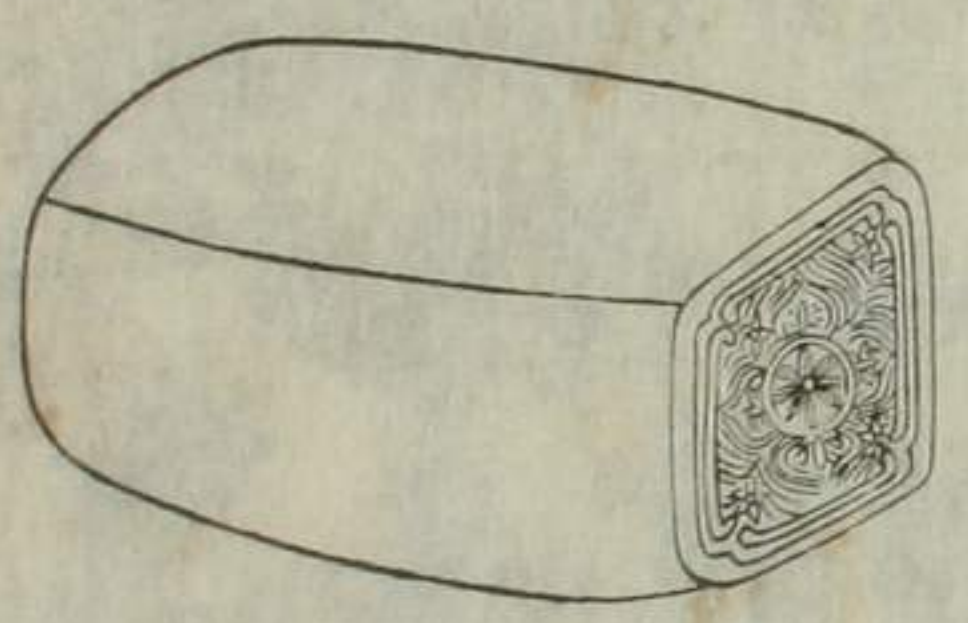
○睡床を本わく六七尺四方或は八九尺又は一丈方おして柱に本わくは六本
 高さ二尺程おして取崩し移し易し床に簾とふ物成其之蒲團又ふ蒲
 團これに分はんはう毛氈等成其之蒲團を愛用ゆふあり冬は暖あま
 居(夏は涼あま)移す移し易し家毎に家内人数の外二組三組程宛も用
 意に貯へる簾ハ藤簾棕簾等かゝる睡床の天井は板成たふもあり
 又本竹を二三本流しそ布成張らたふもあり四方の蚊帳を掛至蚊帳の一方を
 開く鉤お掛出入の蚊帳の四季ともお用也 ○浴室毛坑ハ家内裏にお建
 本家内房より廊下通るおしたふもあり又別お建たふもあり二間二間方等
 かゝる入口扉成設け浴室ハ下に石成四方壁毛坑も四方壁おして入口は扉成
 設け地お甕或は桶を埋板お床を張らたふもあり石甕等お築き其上

お板を本わくも女人数の都て毛坑(便お行)馬桶を用也内房の隅におし
 隔る板成て圍ハ内に馬桶を至て使用は夜分ハ睡床の側にお馬桶を寄置也

簾枕一名 方枕



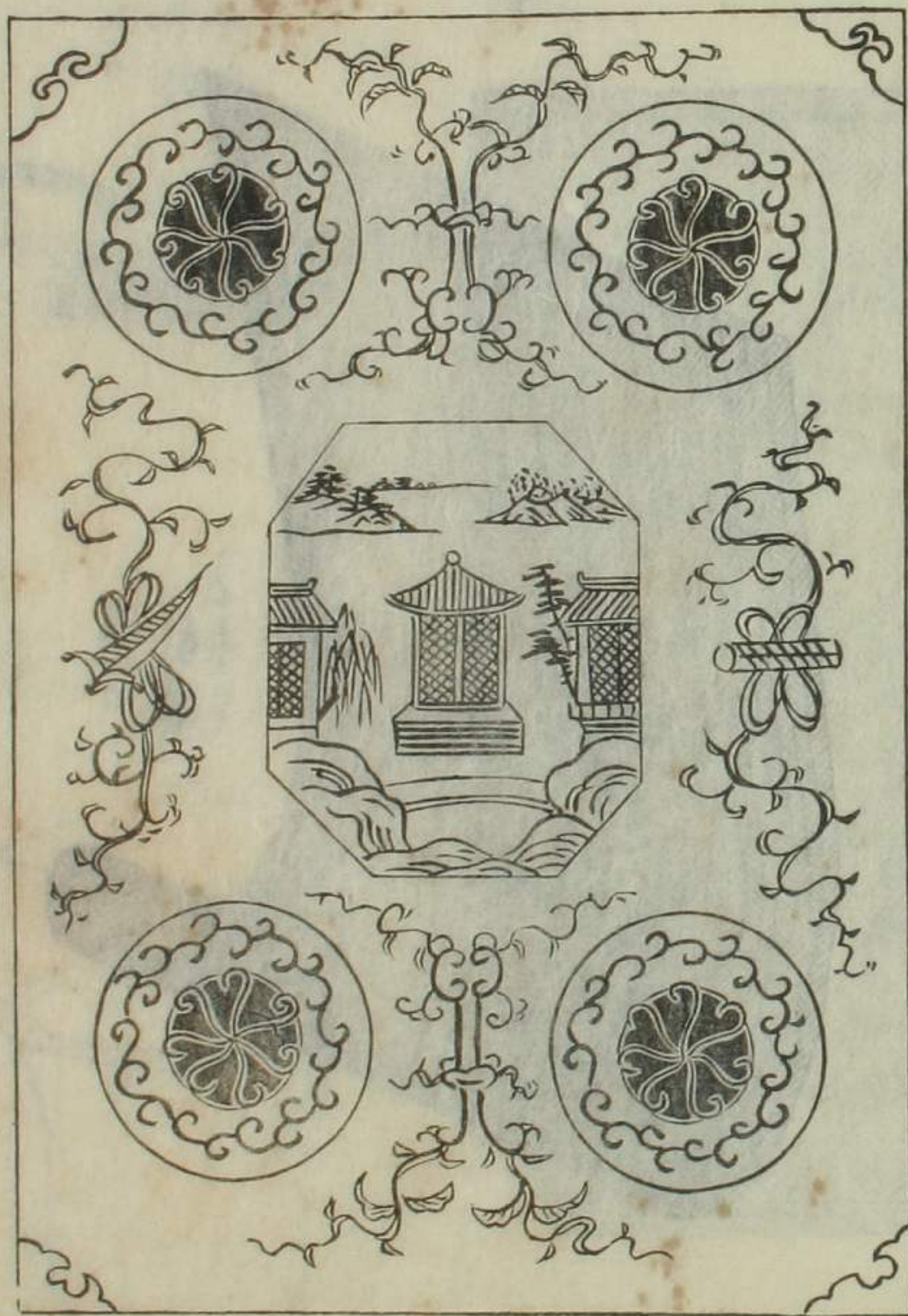
布枕一名 綉枕



褥坐



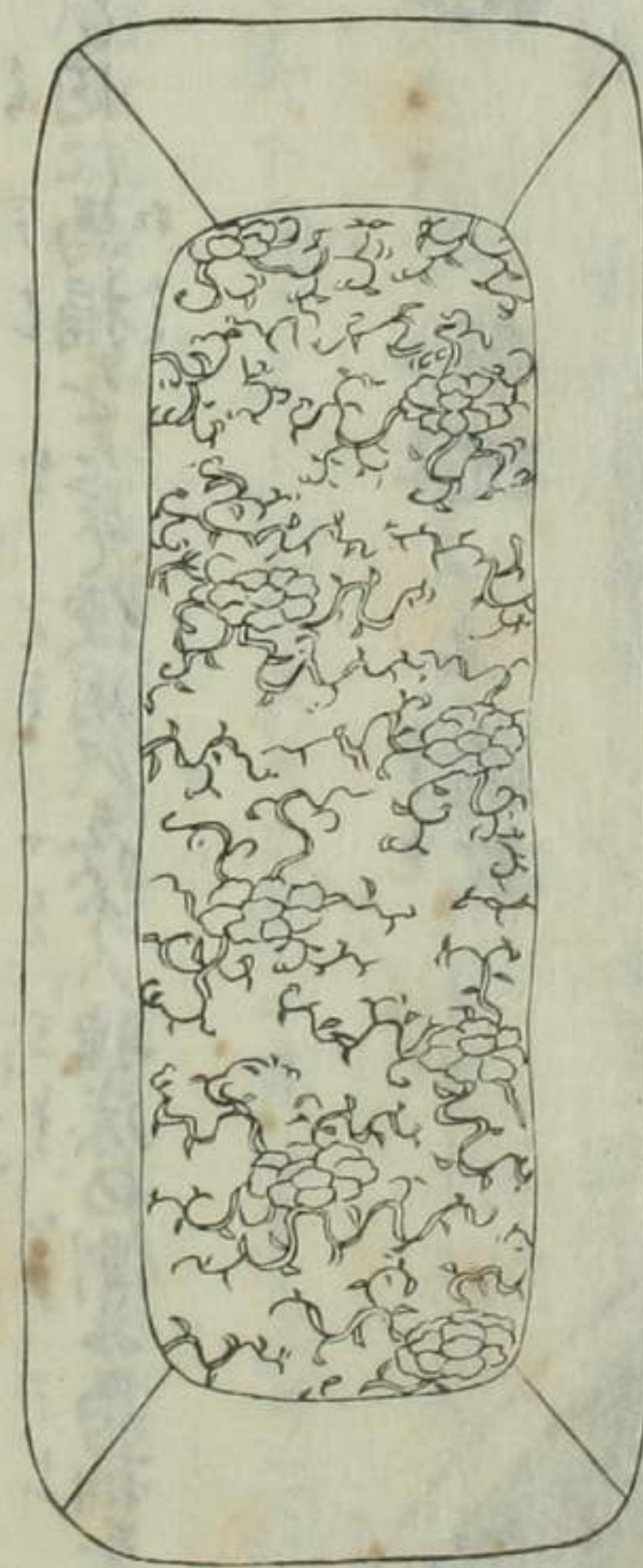
花毯



居家

三六

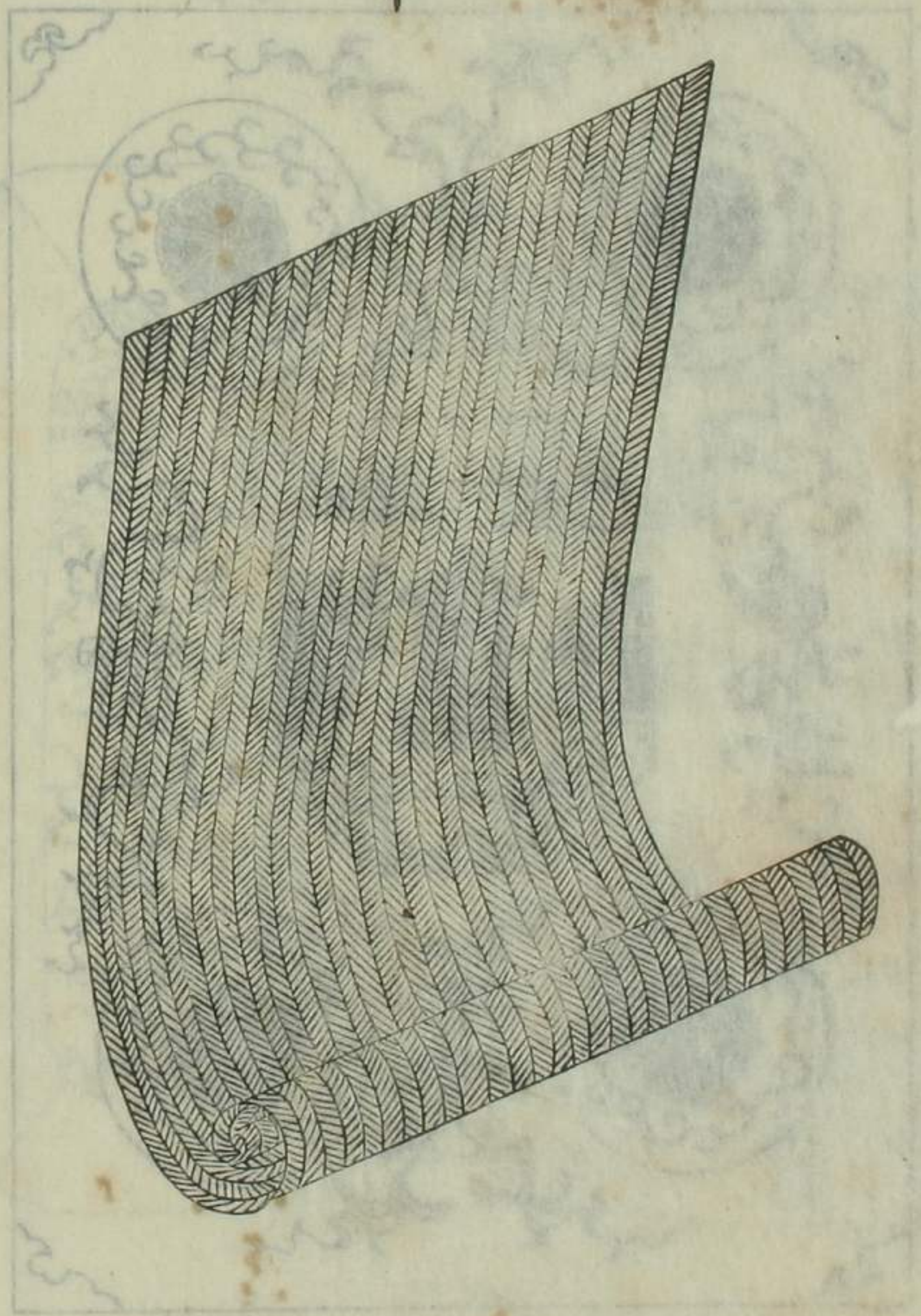
褥



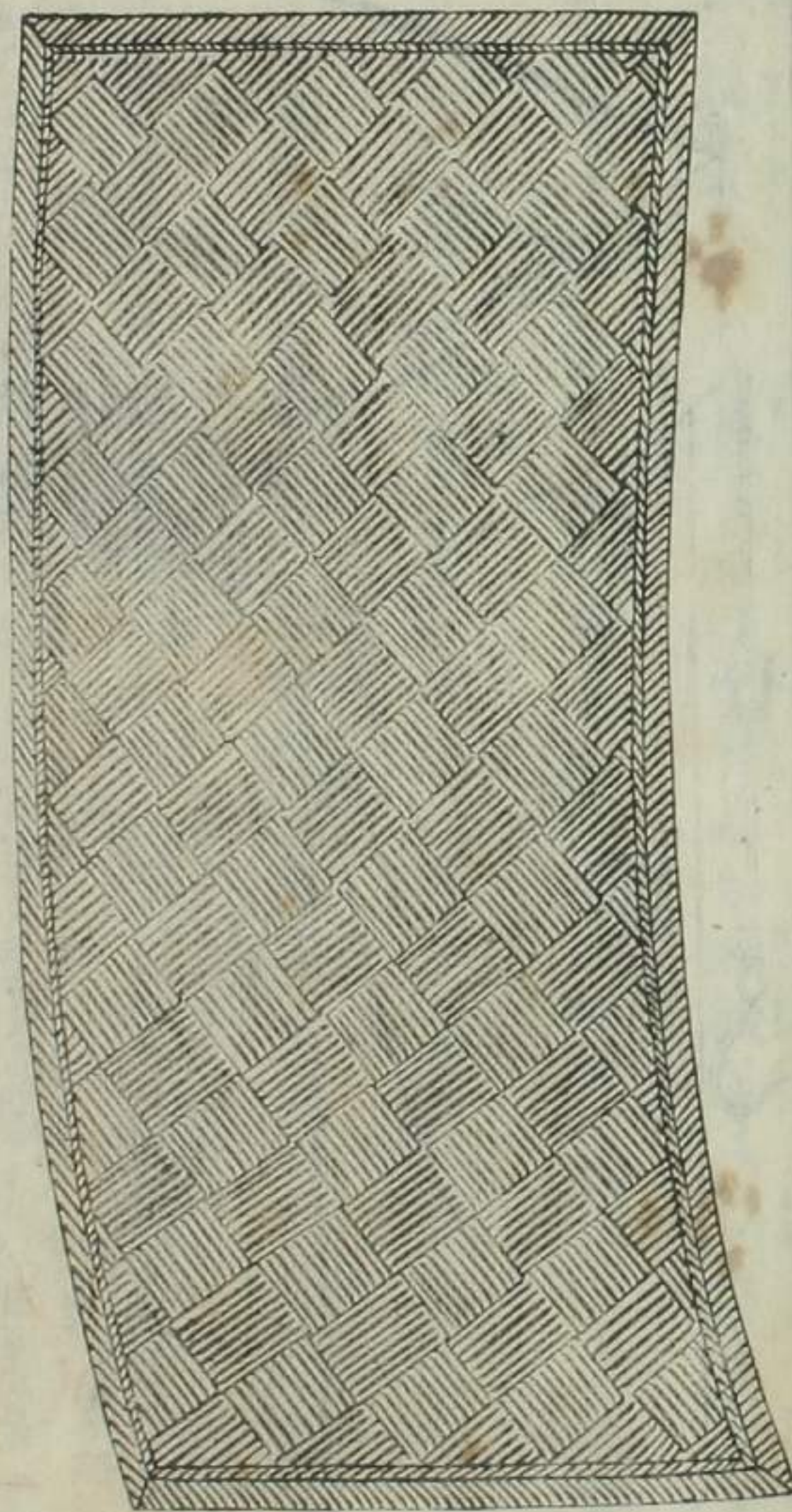
被



簞たね



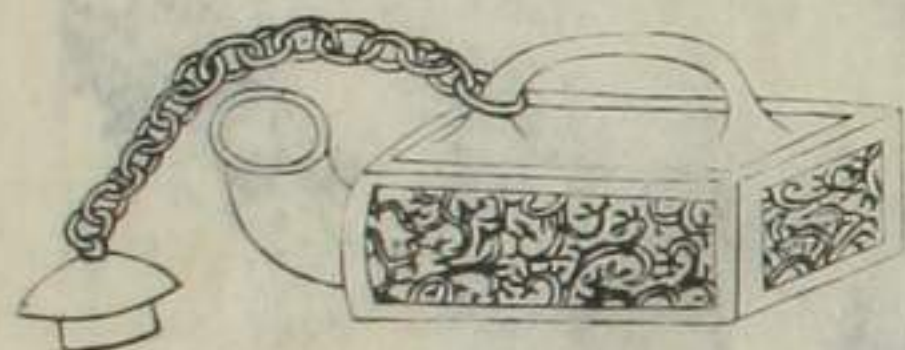
筵せん



溺瓶みまろびん

一名夜不收やふさう

志し



居家

馬桶ばづく

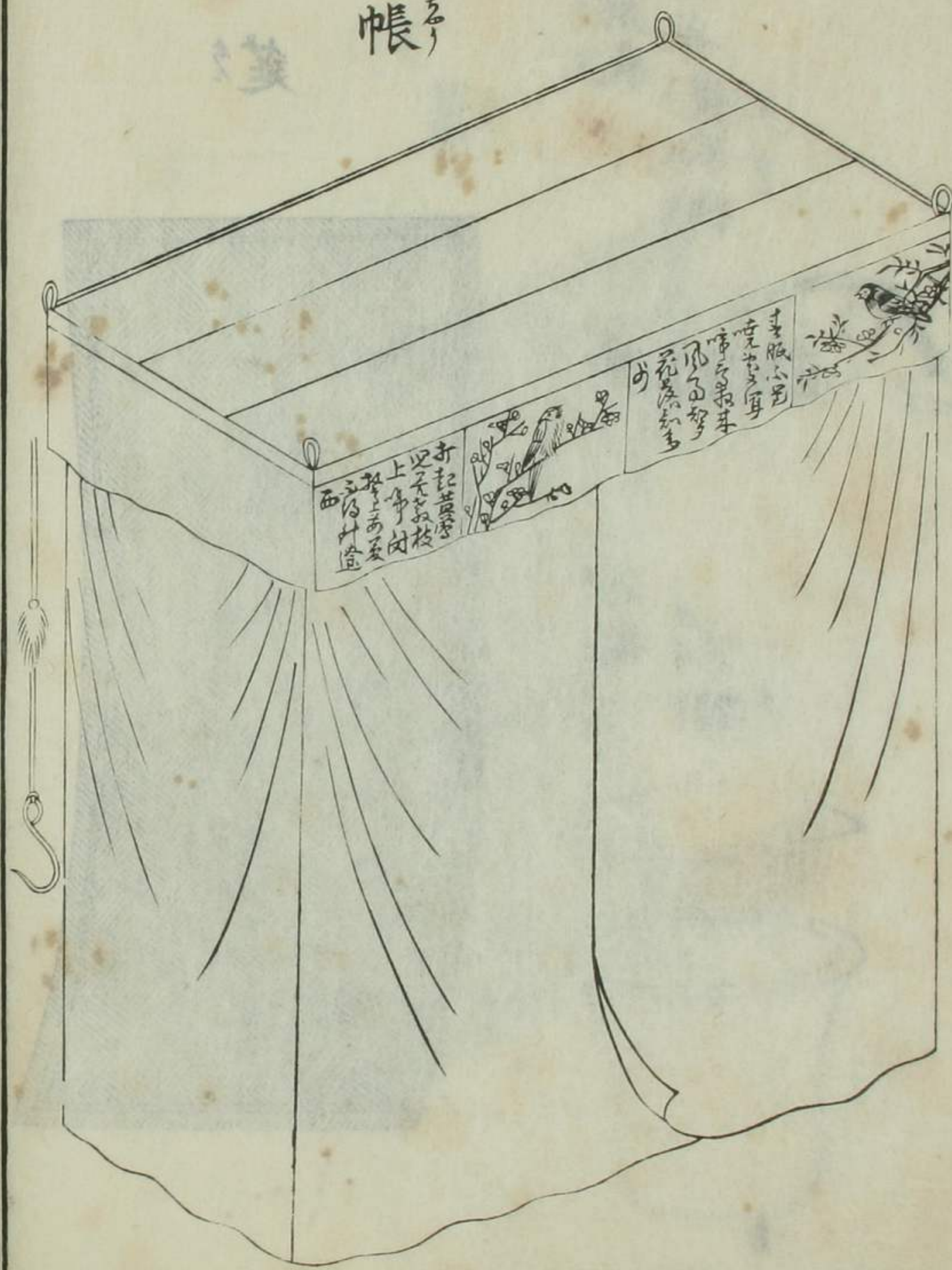
一名浄桶じやうづく

かか

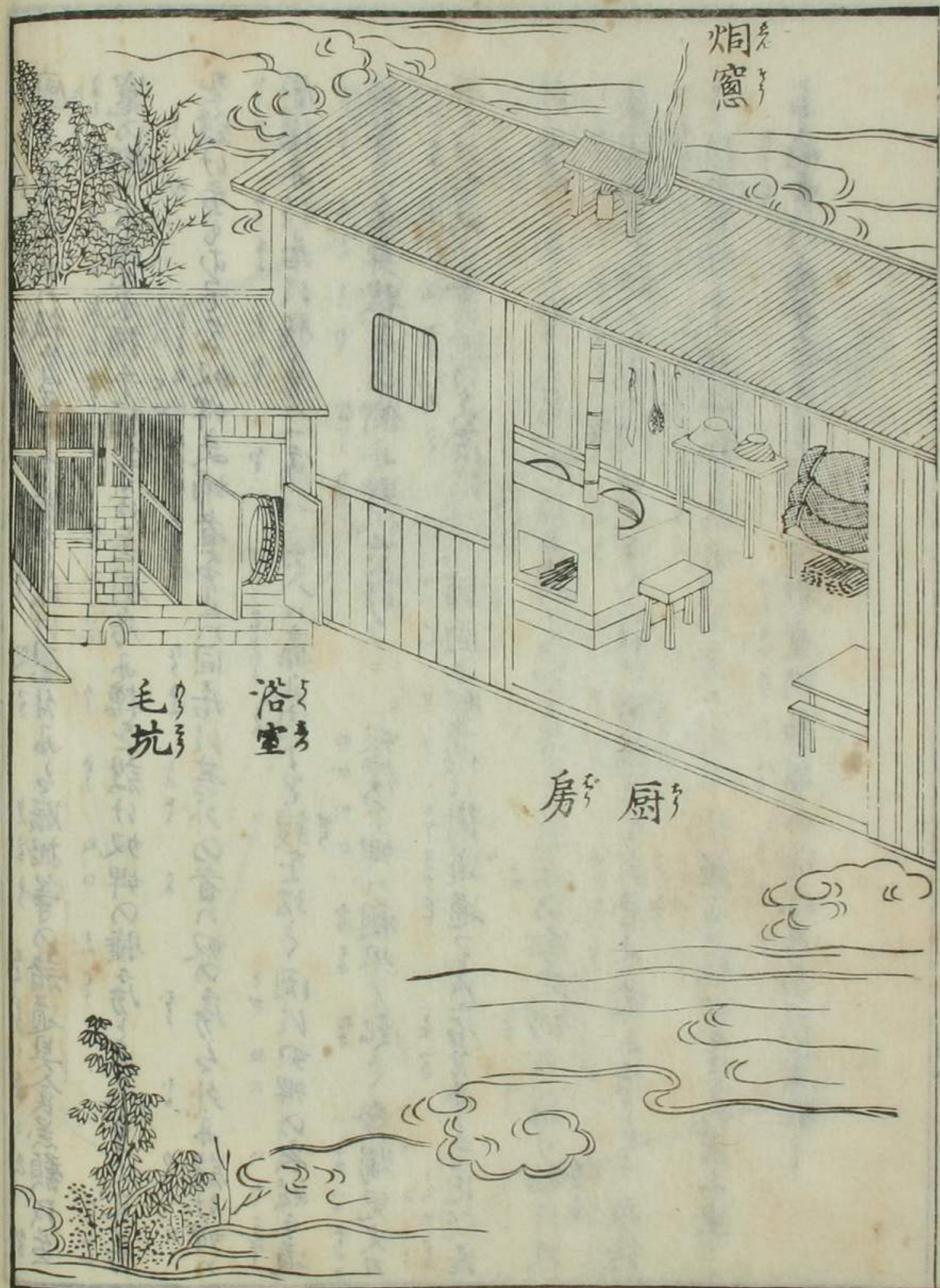
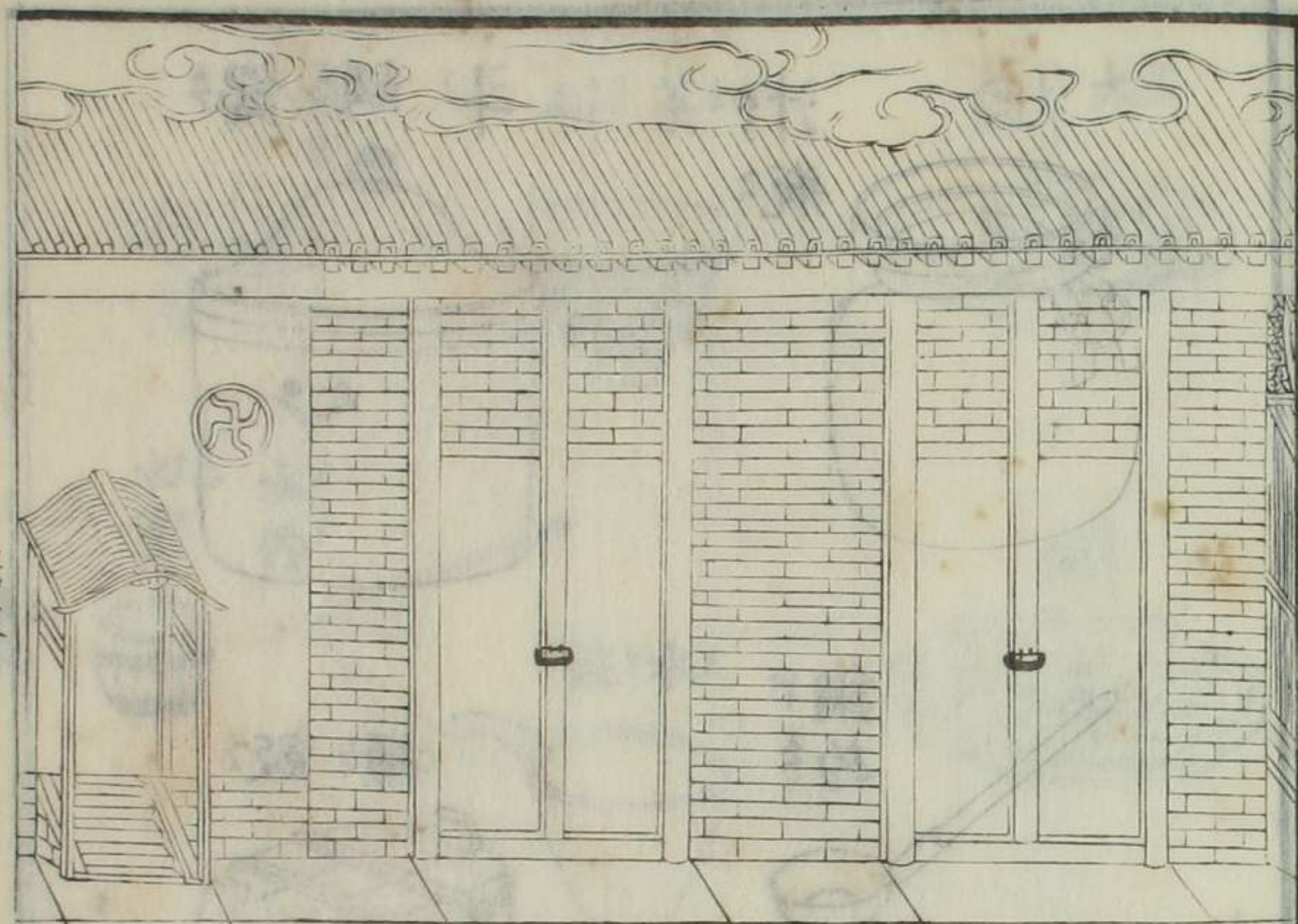


三七

帳



厨下イナの土間とま或は板敷いたじきに電かまを設けか懸付かづめと膳ぜん等らの精進しやうじん具ぐ食く美み類るい成なり並ならに
 竈かまどの側わき水甕みづがは水桶みづく手桶てづく等ら成なり厨房いんぼう小樓ころうを設けか奴婢ぬひの睡房すいぼうと又またと耳房みみぼう
 を設けか並ならにあをあ奴婢ぬひ夫婦ふうふ者もの並ならにあ同居どうきにあ其外そのほかの者ものの奴ぬの房ぼうと外ほかに設けか婢ひの
 厨樓いんろう小住こぢ居い以も睡房すいぼうの一房いつぼうづ出入口でいりぐち扉かど内うちと鎖かぎを以も閉と以も奴婢ぬひの衣服いふく手道てだう
 具ぐ等らの自身みづかみ睡房すいぼうの側わき貯たくわへ並ならに
 石火刀いしひたなを以も煮炊にちの支度しどに
 鋪面ふせんの制衣せいゐ化けの街道かいだう通とほる成なり店たな月つきにあ内住うちぢ居い
 續つづみ建たてるあもあり又また店たなの別べつ楹てい建たてるあもあり等らの店たなの向むかひあ成なり設かけ物もの件けん成なり
 至端物したんぶつ藥種やくしゆ店たな等らの側わき天平ていへいを設けか銀櫃ぎんくを至主ししゆ管くだ其その店たなに坐まして代銀たしろ錢せん
 等ら改かめ銀櫃ぎんく入帳いれちやう記きを其その余あれ小名こな々々天平ていへい銀櫃ぎんく等ら設かけせる人ひと店たなに坐まして
 高賣たかひ以も商賣しやうばいとくも内住うちぢ居い廳堂りやうだう内房うちぼう等らの造作ぞうさく異いなる事ことなり

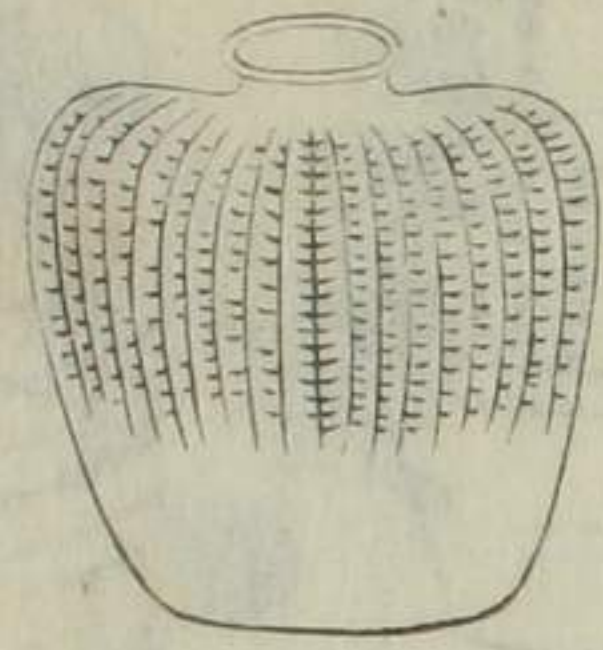




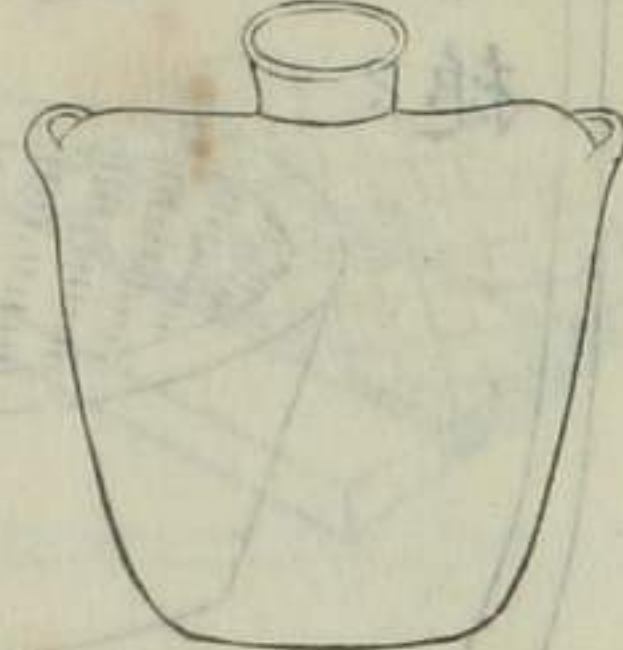
缸之酒



罎之油



罎之酒



居家



漏斗



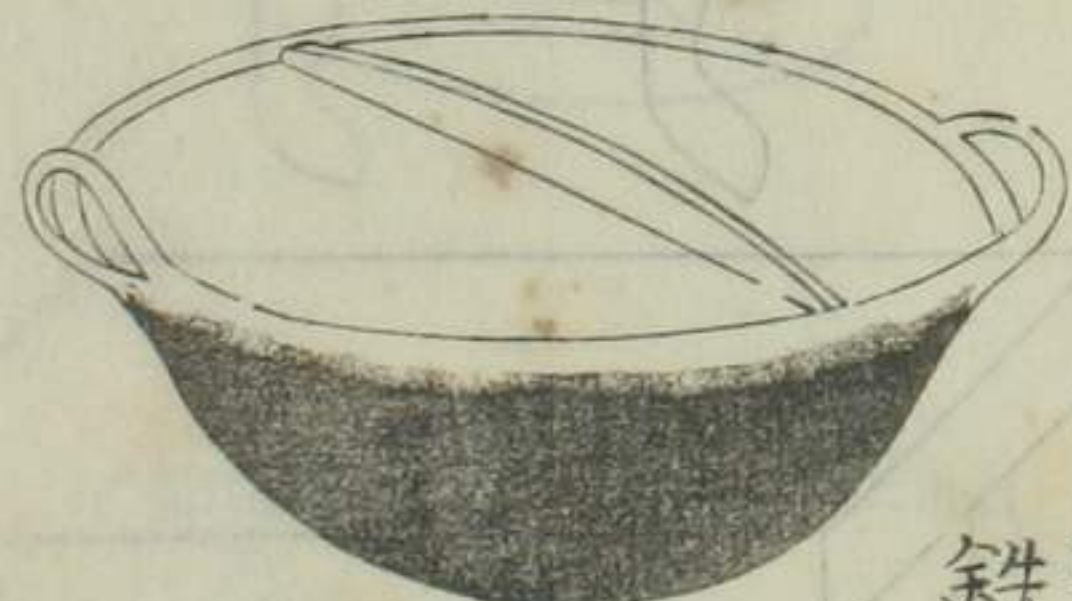
油壺



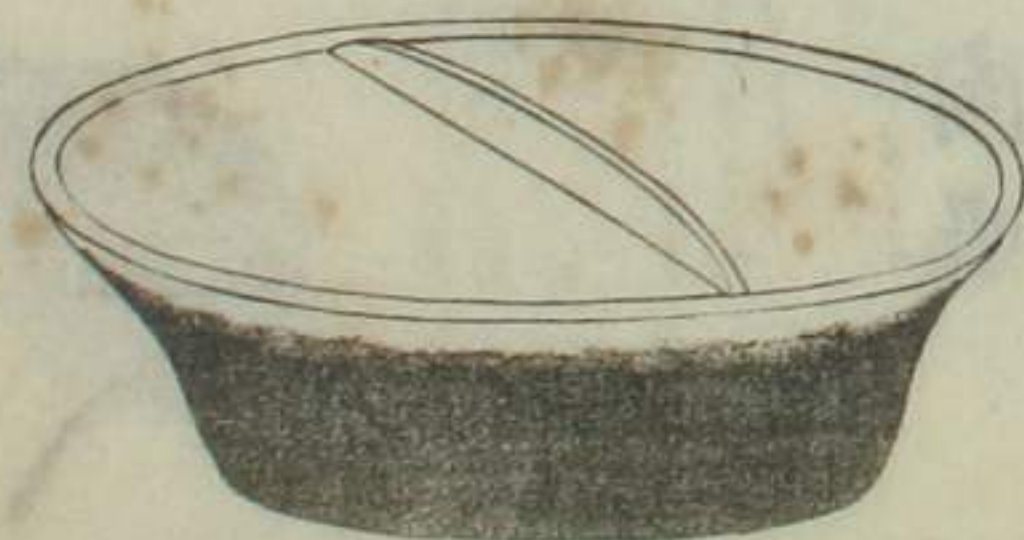
將酒缸



煖鍋



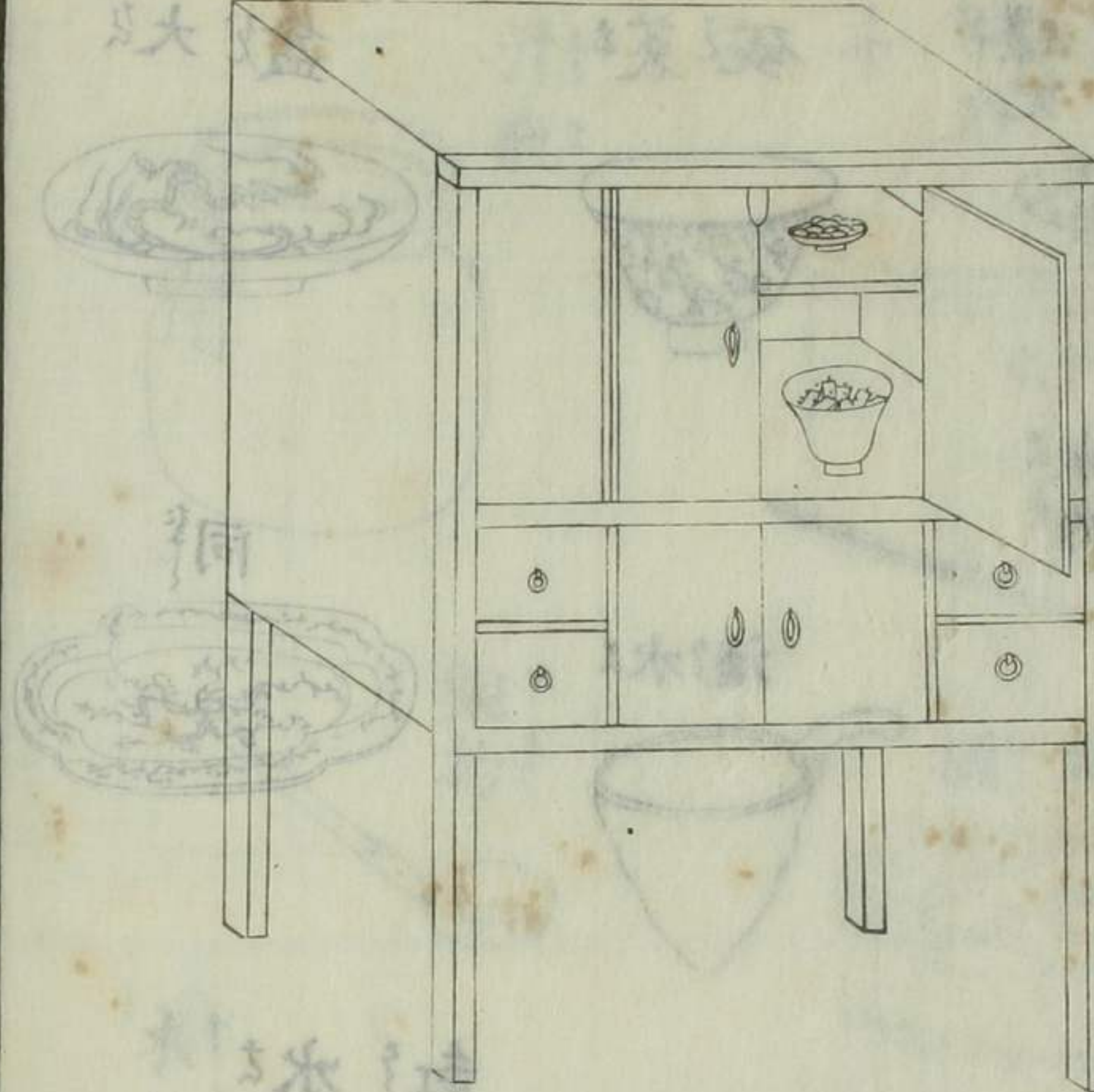
鉄鍋



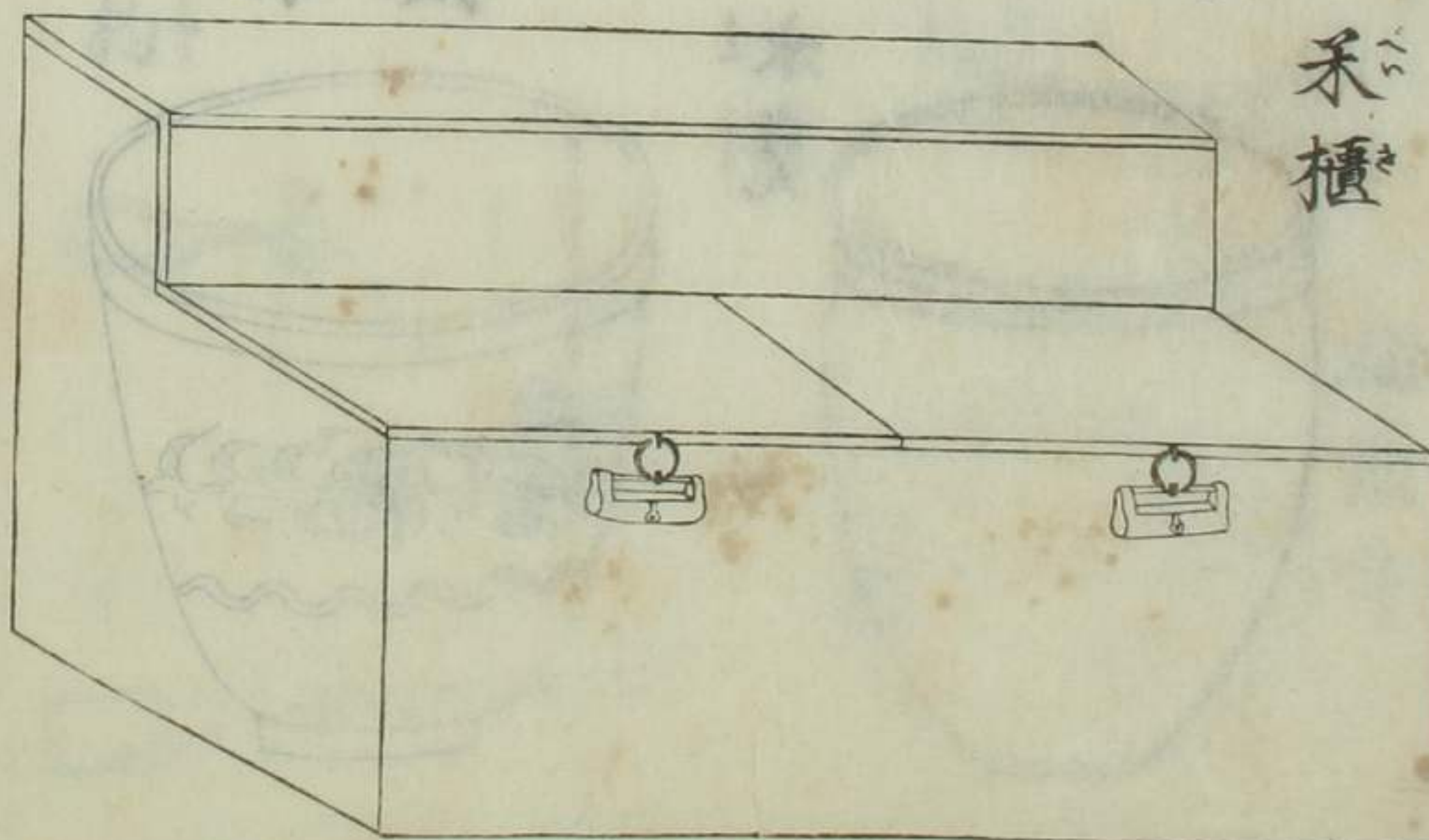
平底鍋

空

大



厨櫃

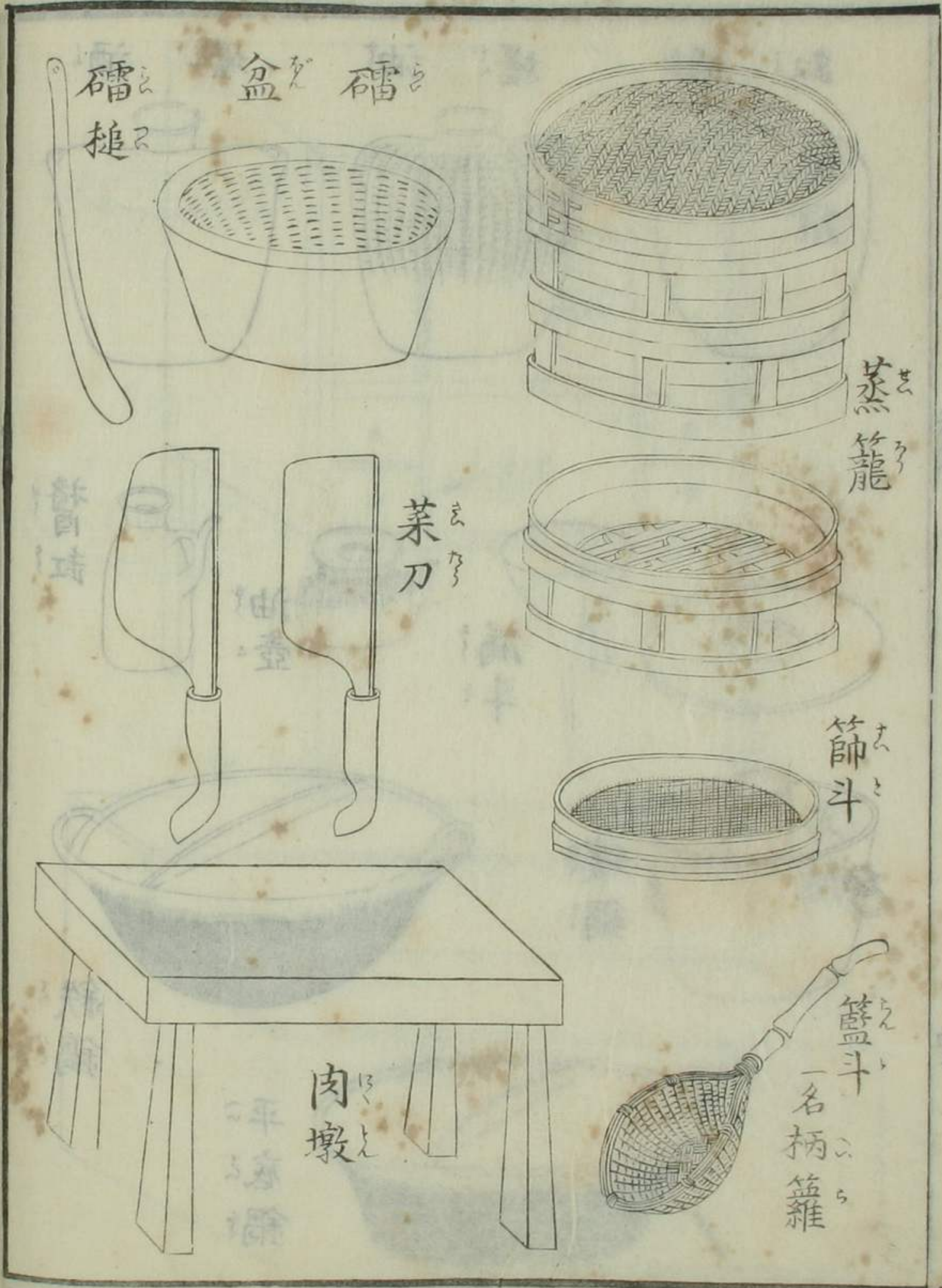


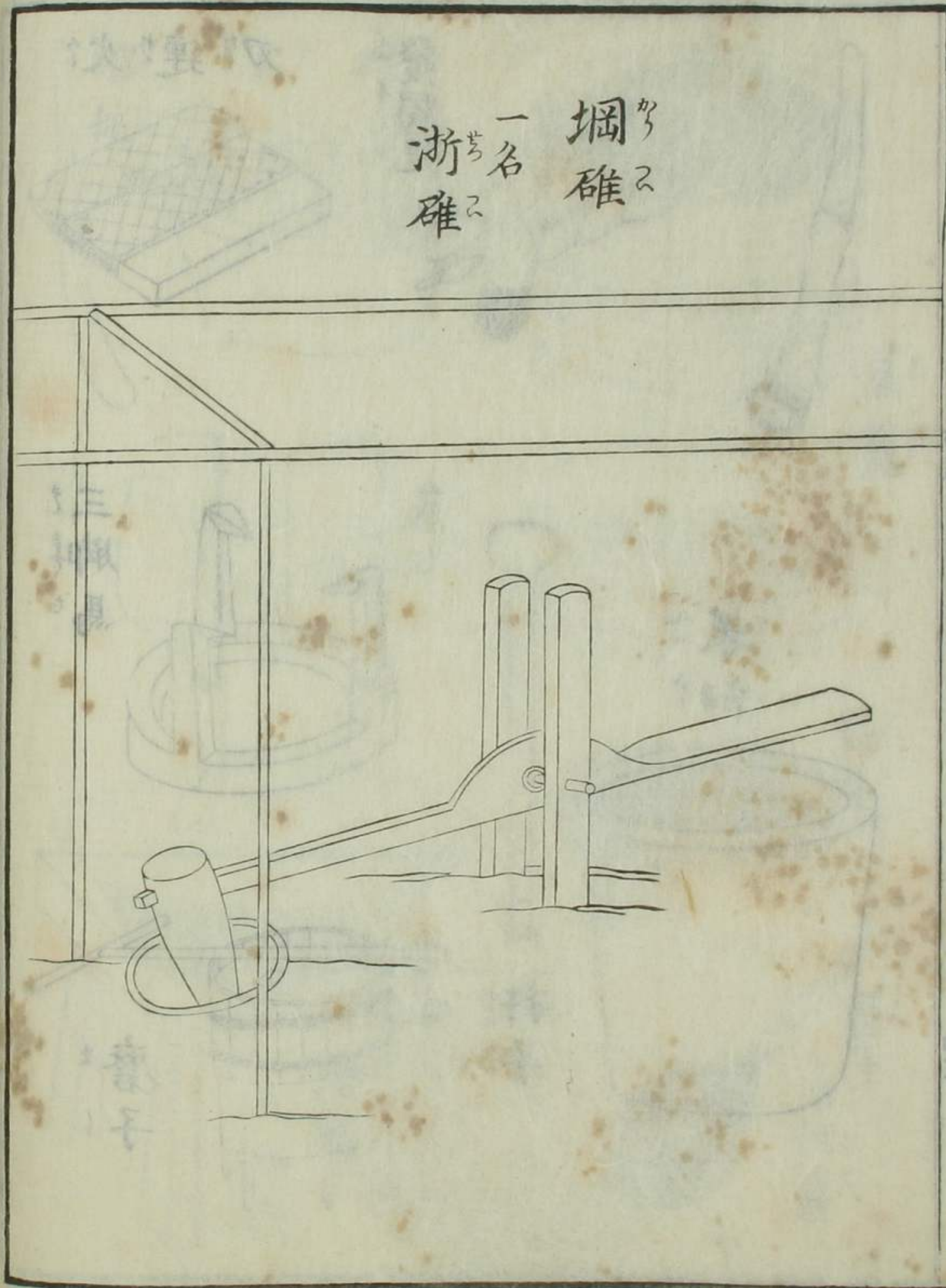
采櫃

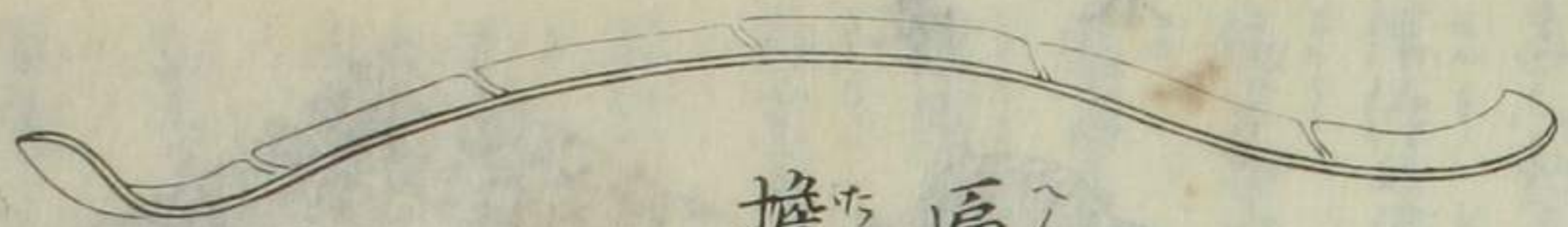


居家

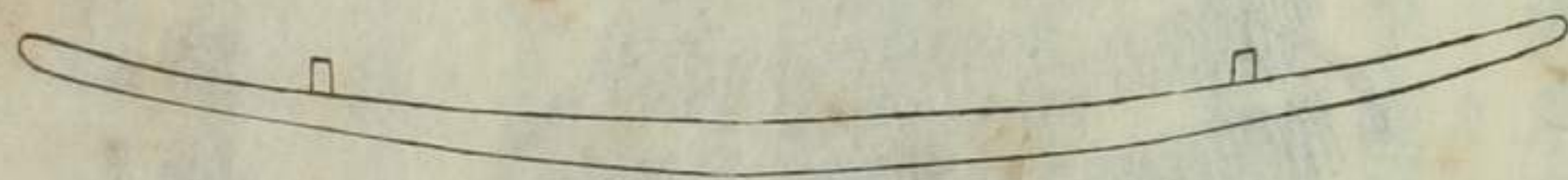
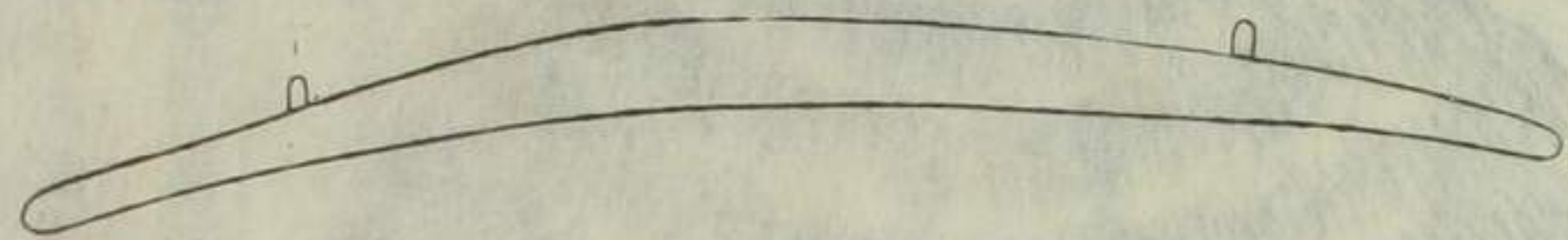
四十二







擔 匾



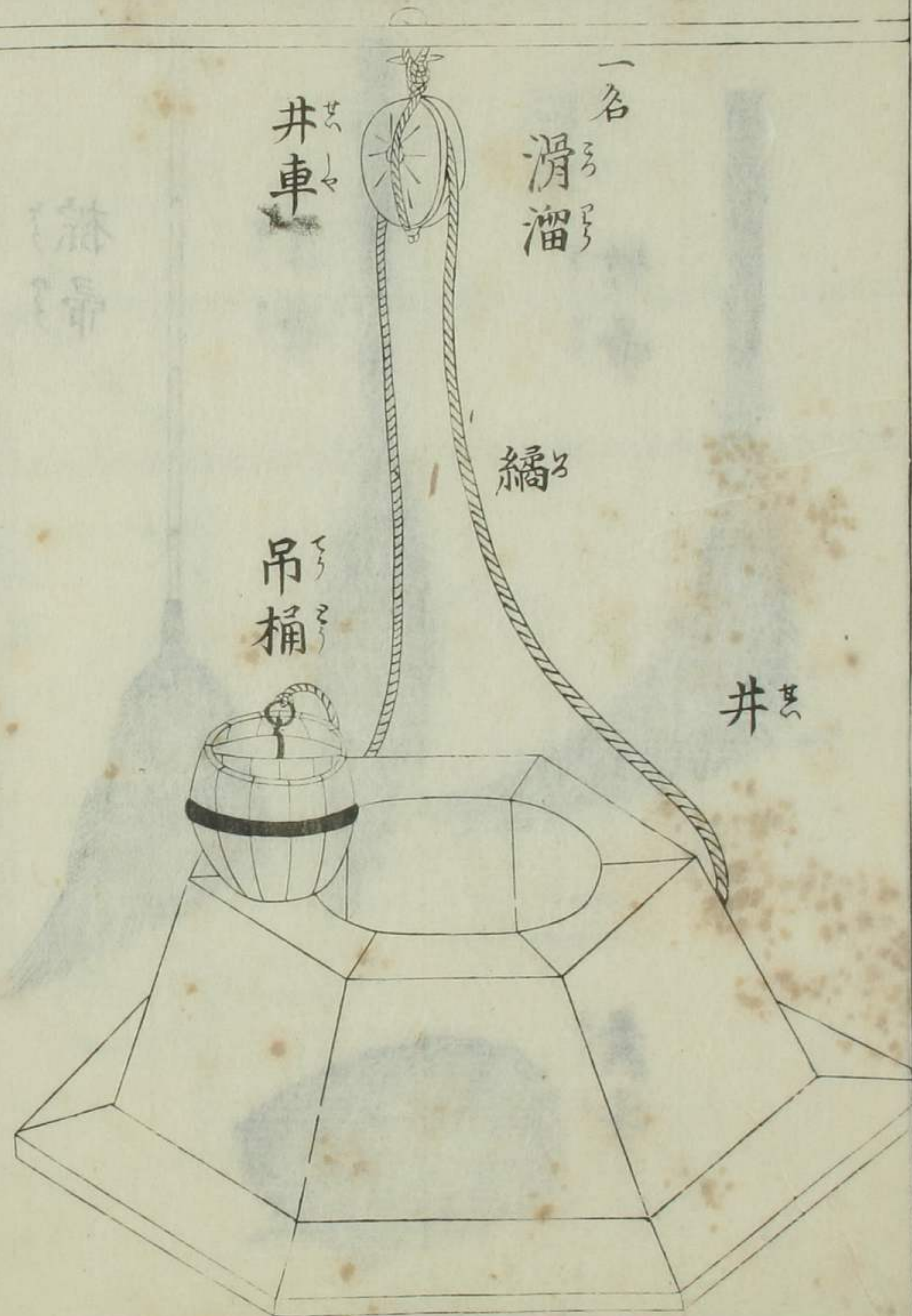
提 籃



提 水 桶

居 表

四 十



井 車

滑 溜

繩

吊 桶

井

一 名

衣 蓑



笠

提桶

浴盆

主人起て梳洗畢く便服のまゝ内房の椅子に坐して茶たとの家廟ありて
 信作の佛神を拜し家内起掃を朝飯吃て朝を惣し粥を吃し又稀飯も
 遠方より行くと又と化み出く用事等其勤ふ時と肉麩を食てす事有
 常ゆらふ綿の綿紬の小衫に上り背心馬褂ありて袍と人顔を着し頭
 睡帽を一冊小帽戴きて人面被すかゝると外出の時と大帽を戴き外套を着し
 扱食事の時と二三歳頃の男女未夫とて吃すを父子兄弟姉妹に限る子婦を
 公公と同席せ給兄弟の婦と夫の兄弟と同席せ給多く男子は外房に吃し婦
 女は内房に吃し給仕の奴婢の類あり朝飯をみて後方勤ふ者ありて行商工
 人脚夫坐商等何れも其の職分より家事もほろく見はる給ひて
 不事皆同し常の衣服小衫馬褂背心外套
 女坐し針線等多し大戸に水とて妻女衣類を縫事あり切細工あり

繡花挑花ヌイロハナ好ヨクすスふルはハ中ナカのノ小コ戸コ等トのノ衣イ類ル等ト目メ妻メ女メ

此業コノノのノ儀ノ男女オノメとシテ面オモ洗シめル先マ袖スエをマ捲マ上マめルきメぬル所トみテ洗シ目メ茶チ

後ノチ水ミヅ洗シめル中ノにシテ衣イ類ルをマ汚キすル中ノにシテ食クハ事コトの時トキにシテ陸リキ心ココロをマ付ツ衣イ類ルをマ汚キすル中ノにシテ

着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

坐マすル中ノにシテ身ミをマ定メめル端ヘ坐マすル中ノにシテ身ミをマ定メめル端ヘ坐マすル中ノにシテ身ミをマ定メめル端ヘ

倚ヨ靠カせル美ミ人ニとシテ對タ坐マすル中ノにシテ身ミをマ定メめル端ヘ坐マすル中ノにシテ身ミをマ定メめル端ヘ

立タちマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

近チカくシテ壁カ壁カにシテ倚ヨ靠カすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

琴コト不フ事コト大オホにシテ濁ナるル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

高タカにシテ登ノりマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

貴キとシテ跳ハ足タすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

言コト語ゴとシテ常トキにシテ衣イ減マるル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

俏セウとシテ喧ケン嘩カすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

先マにシテ傲オウとシテ物モノのノ長チカ短ミダをマ裁カいマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

飲イン食シキとシテ身ミをマ飲クめル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ手テ代ニ掛カかテあリてシテ相アいハひマすル中ノにシテ

世セにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

小コ心シン代ニ掛カかテあリてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

男オト子コ四シ五イ歳サイ五イ六ロク歳サイ小コあリてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

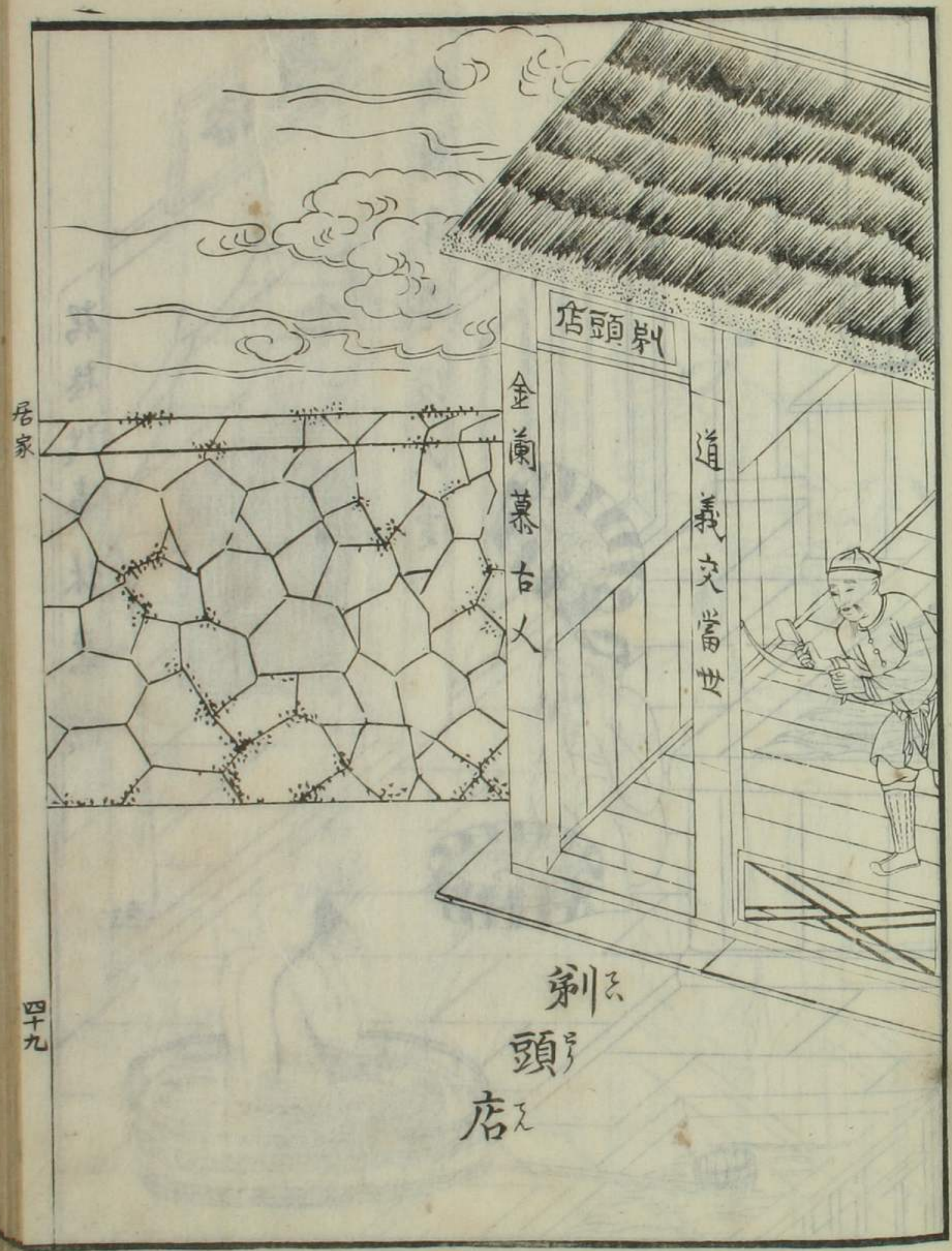
教ケウ中ノにシテ女メ小コ書シヤ法ホウ法ホウ教ケウをマ教ケへル中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

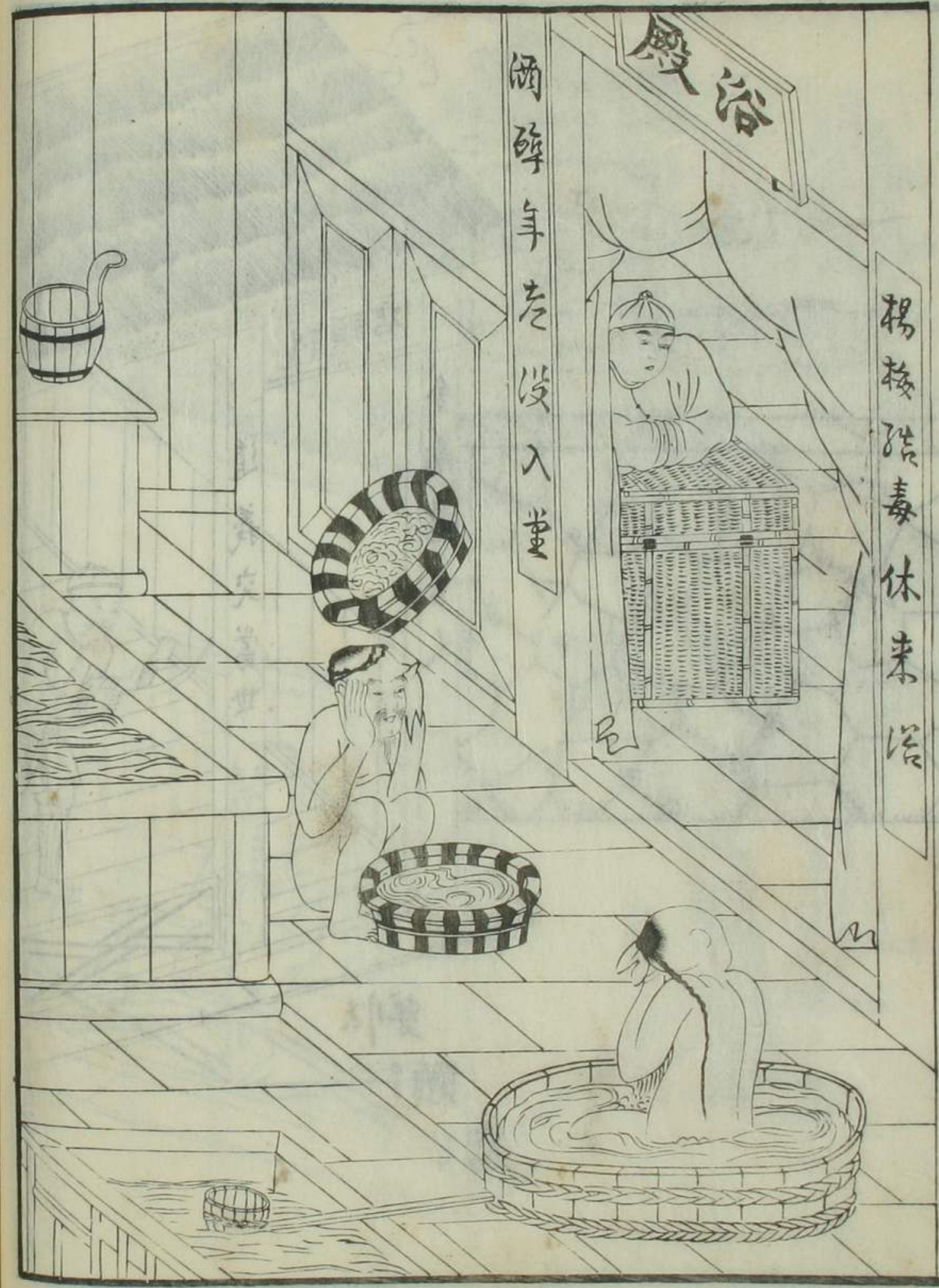
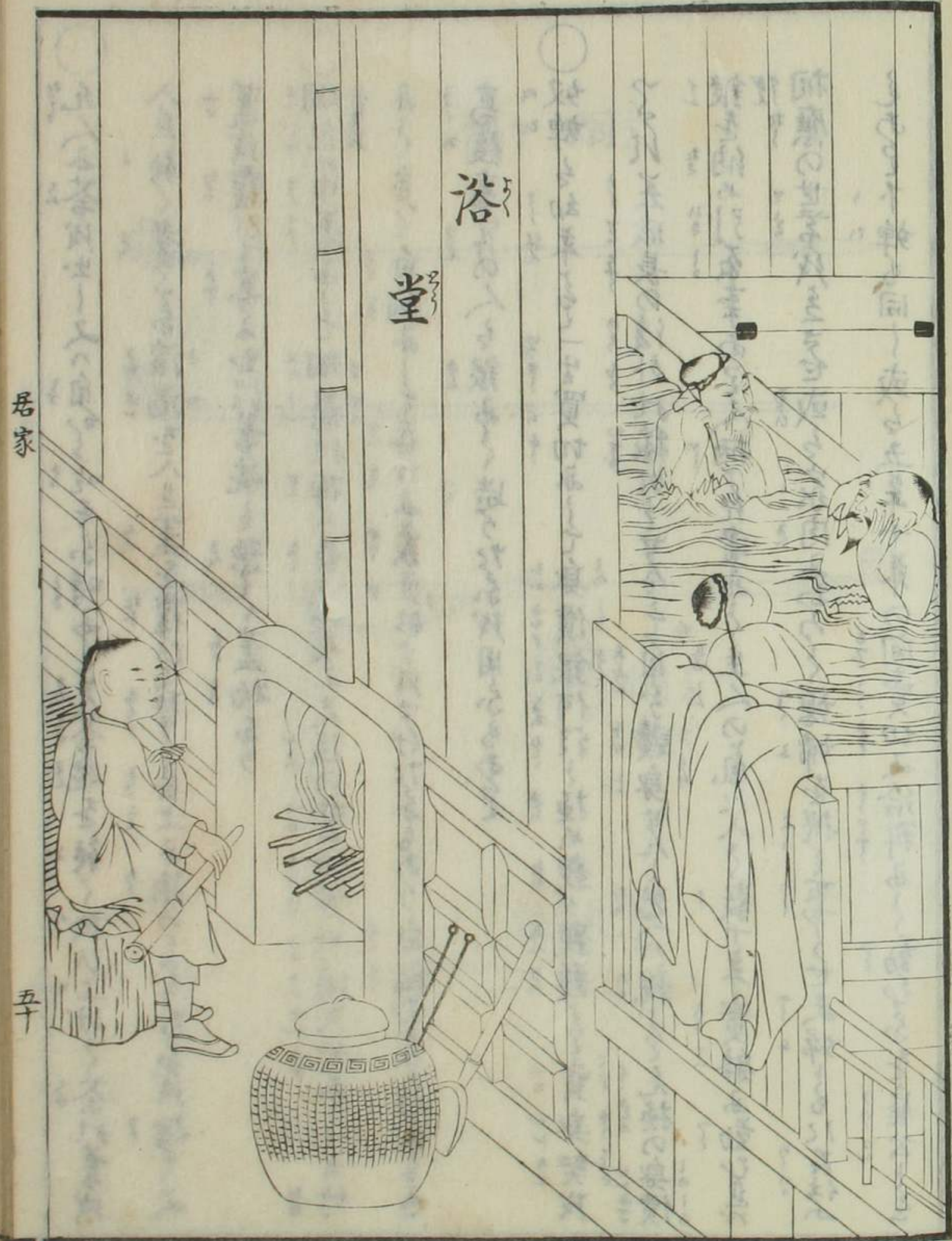
楷カイ書シヤとシテ教ケへル中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

師シ傳デン成ニ受ケふル中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ着キ成ニ脱キ小コ衣イをマ穿キてシテ中ノにシテ

理の又管家と云く金銀の出入其外他一引を承者なり此方此手代のおと、
 然と云く中戸以下此家より至一人自分料理の事多し ○惣と云く浴の曆本に
 湯沐の日剃頭此日あり其日三四日代隔く浴日湯の中に入れて浴する事
 絶てなく多く浴盆に湯を盛る事手巾を浸し強くと惣身を拭く事多し
 ○農夫雇工等此小戸に浴室あり湯沐以浴室の浴池に八九尺方或一丈二尺
 方の大なる箱に湯を盛る二十人二十人程も入居し浴室の主人又此家人の
 顔衣櫃を預る者あり是れ湯に入る人其櫃に號數を記して其鑰匙も號
 數の札を付て手巾中と同一號數の札を付て其櫃に浴衣を懸け入居し
 在りし浴池に入れて洗浴すそ右れ手巾と鑰匙の號數を照し櫃を開き湯銭銭
 掛ひ衣裳を着て湯銭銭一人茶三銅あり ○盆湯と云くあり一人一口宛の木盆
 を備へ一口宛仕切て一人宛湯浴せしむ是れ一人茶三銅あり死す

○惣と云く長類の洗濯は年々少なる老媽の指ある者好く世に承す事多し不
 奴僕之類も計り事あり或は寡婦等し此者賃銭を承り湯世承す事あり
 冬々手爐代因ひ極寒中好く手足冷る時ハ脚爐も火代入る一尺を覆ひ椅子
 の前或は睡床の前も好く足を其上に置て温め又ハ一向の所に火代入る
 火鉢も火代入る二つ三つも居る事多し火鉢の側も好く手代あつ事あり
 地爐石爐と云く此方の巨燵の好み地に爐を掛く事あり此の南方
 温暖れ土地あり用ひむ
 ○往來の書翰ハ皆紅唐紙或ハ斗方紙箋紙を以て紙も好く免封筒に
 入し僕も持せ遣は亦并盆み入る遣はも好く吊袋も好く白紙を用ひ願書も
 奏事紙を以て折紙みして上も全啓副啓ハ文字ありハみ筋封を紅
 粉摺紙にたふあり是を格紙と云





○ 凡人み茶成出し又の自から吃きふ時母も先茶碗を能く拭ひ上げ茶は重成

入仕能く煮くふ滾湯を入仕蓋を覆ひて暫く煮上り泡の多たら成捨て又

蓋成覆ひて客み出し茶碗と物と蓋物あり

○ 烟包の中着みして烟筒は棹の長さ二尺二寸位の紫竹方竹通天竹ふくふ竹

みく多く白銅みして呑口は象牙の成すげたるあり白銅をくく形ふく

高役高官の人と銀めく造つた成用ふあり

○ 奴婢と幼年と一生買切みして身價銀何程と極め親親親類と賣身契成

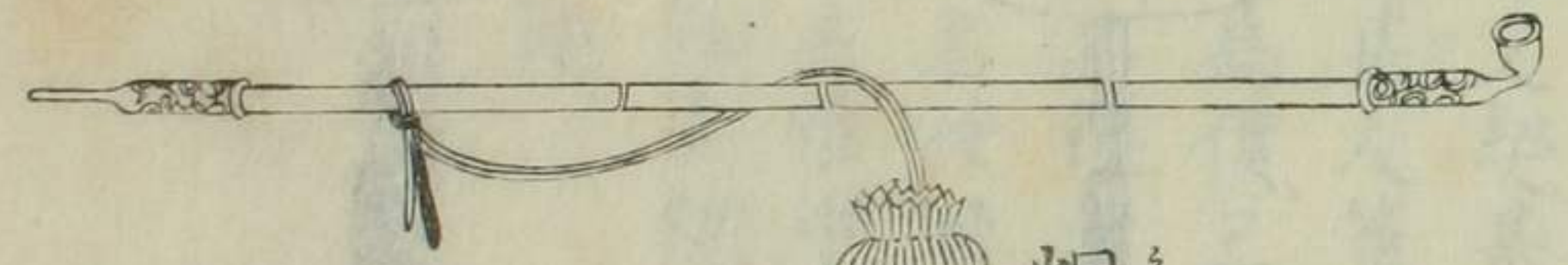
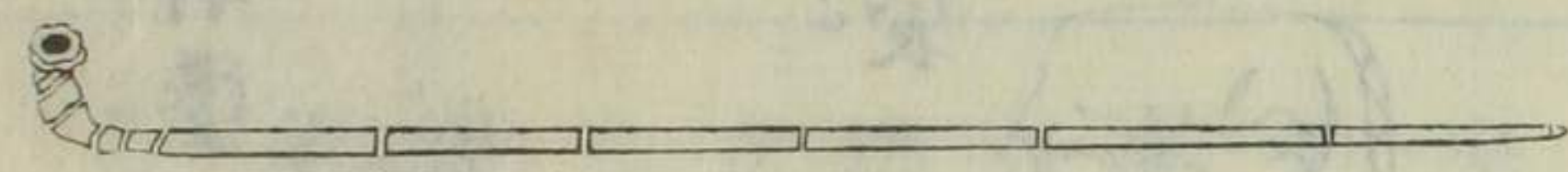
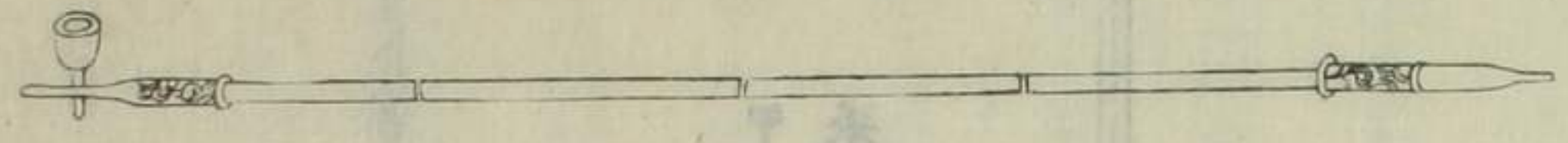
つるは美成長の後外れ稼めとせんそ自分贖身せんと思ひ親よとえ極の身價

銀を納め引取事ある人柄と成者めく主人の氣に入と数十年實躰め勤む止の

相應の世帯成させ或る家内みわく媳婦を撰と取とせ主婦ともは仕ふ

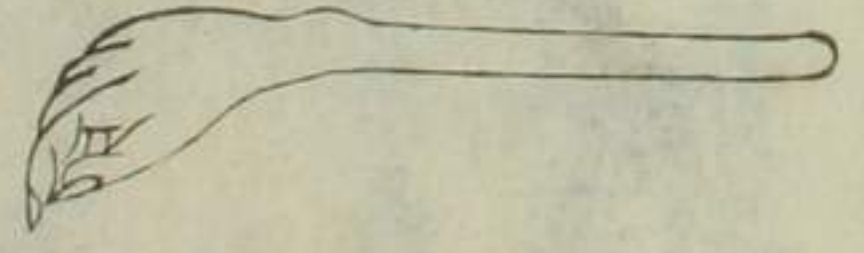
とあり下婢も同一或る五年十年の間賣切又給料めく勤むを雇ふと云

烟筒



煙包

杖丸



賣身文契式

立賣身文契某人今因衣食不週情願
 央中保某人等將自己所生嫡子某賣
 到某府為僕三面議定自價七折制錢
 若干兩其錢當日一併收足自賣之後
 任憑更名使喚倘有不測各聽天命如
 逃逃走失惟中保是問追還並無異言
 立此賣身文契存照

計開

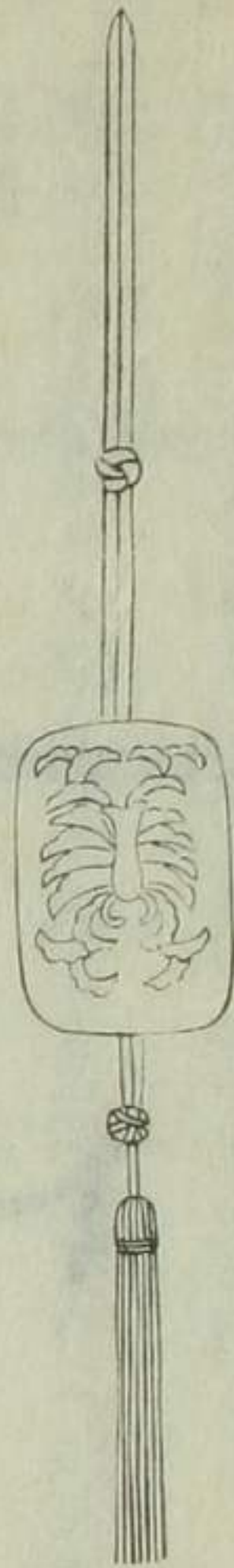
某現年若干歲某月某日某時生原籍某府某縣某鄉人
 年月 日立賣身文契某人畫押

中保

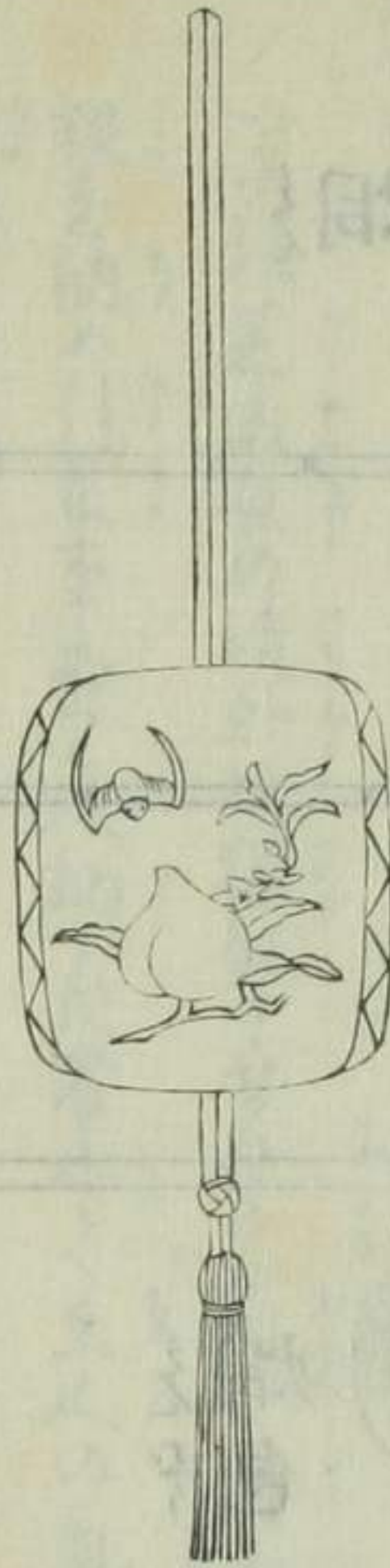
某人畫押

某人畫押

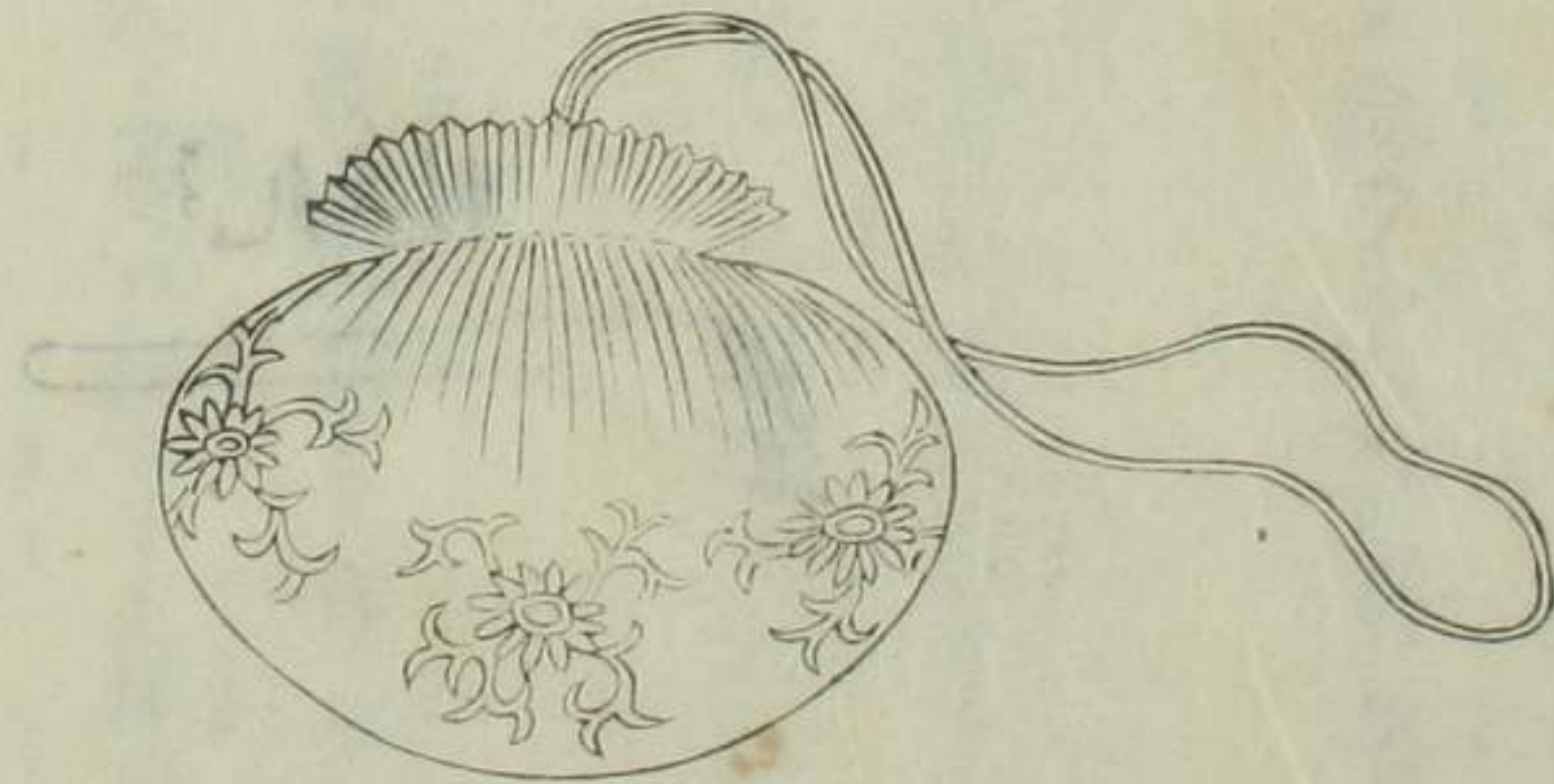
扇墜



香袋



香包



大抵辛錢と一ヶ年五六十月等かゝり一生買切の身價と三十貫文五十貫文と正も
 不同あつて婢と皆買切ぬと

○九五節あつて婚儀の中は不臨時は親ひあつて一人もあつては親儀を
 乞ふ事あつて此れをいふは親儀を乞ふ事或は親儀を乞ふ事廣く甲頭を呼ひ
 目録の中は親儀事あつて門前には一人もあつては銅錢五六十文あつて
 百文二百文もあつて甲頭とて投票を持越して門前も貼くはぬ
 票を張るとなれば一人一人もあつては親儀
 官所より尋等の用事あつて又る名成園など時あつて兼局或は
 官家も帖持せしむるは行向ひ帖を主人もつて用事あつては
 とふ又居宅あつては保長等も通し其人も通す事あり

立賣與文學果入令因不食不取計贈



一應乞巧頭上人打發母許強索

収票

奢綸 竈
 端陽喜慶
 日遊 薑

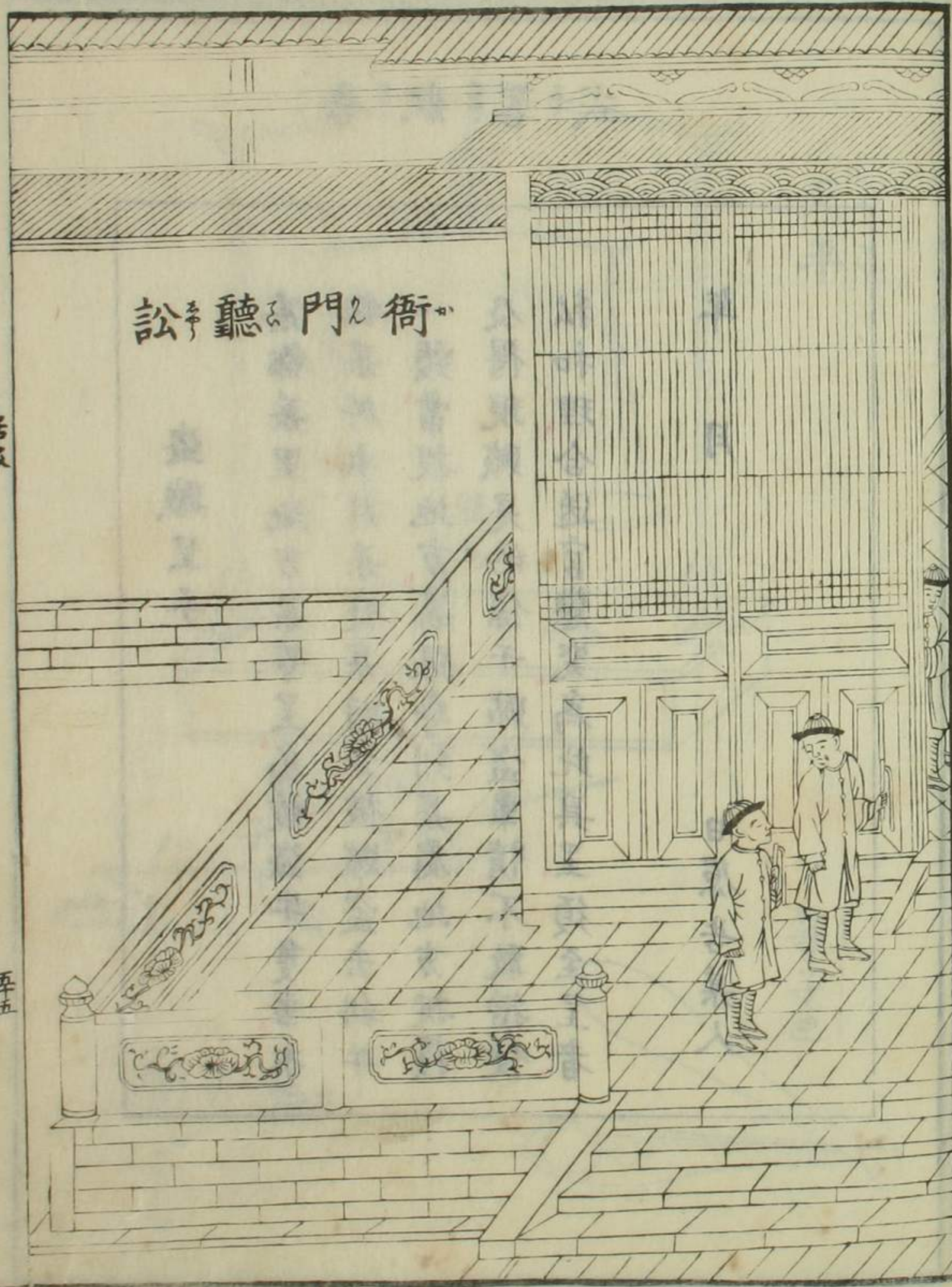
或
 新春喜慶
 新冬大發

居家

手三

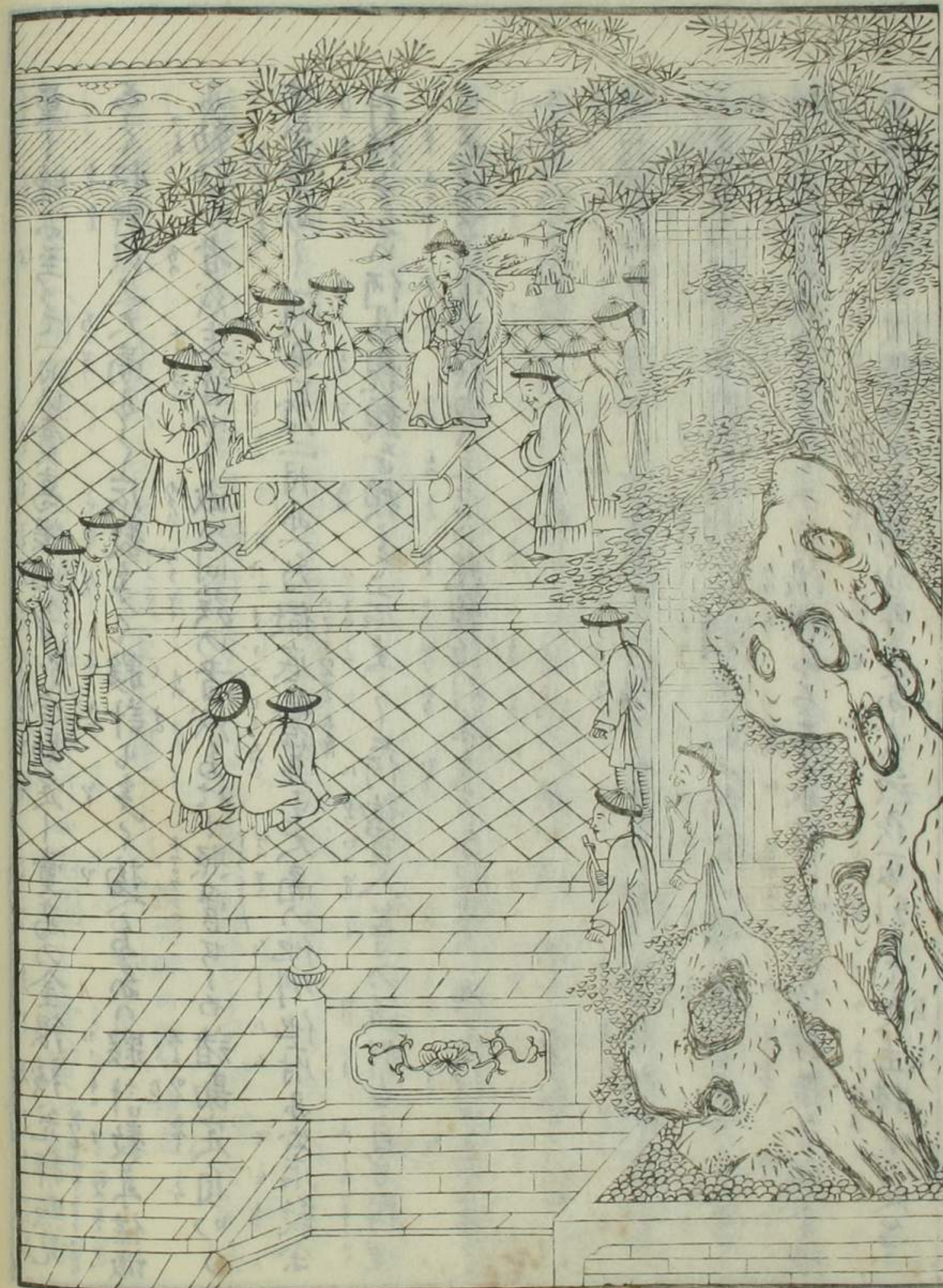
○卯の刻衙門に別屬は吏胥出仕すは奉官堂におお此時皂隸の尺輕たす
領文牌を持われは諸官前より公文の申覆をまゝ持するは役人以後
傳述みずき事ハ舖司み後を其次み投文牌を持出は訴詔の者訴收
直み奉官の公案此上み至て退く其次み稟事牌を持出れハ機密の事
等奉官み至達は奉者出く口稟す右の事くもみ過犯の者成ふ
出ハ裁許也 ○吏胥は卯の刻衙門に出仕は是を點卯とす午の刻み退食
其政事み後ハ者ハ午飯まで又出仕は此方ハ御用日ハ放告日期とす
訴詔箱に投文牌み當る奉官ハ政事閑暇の所人ハの好くもして
詩文書學あはしハ琴棋射等ハは家奉ハ都會とハ辨理を朝暮
自身み家奉成あはしハ政事を專一とす 投文牌の圖ハ領文
高家ハ主人朝飯畢とて店成見信ハ夥計み指圖して賣買ハ駈引酌

量ハ晚み至て一日の賣高帳面等引合勘定ハ賣高の金銀錢兌換點見
多く收貯ハ又大高ハ店數多く夥計も多し拘るは夥計數年信
み勤た奉者代主管ハ或ハ同族の者成ハ照管せは諸勘定自
す奉事ハ一月ハ二月ハ徹底磨算ハ大高ハ他州他府ハ出店數余
計持るハ何ハ親類を頼るハ店主ハ荷物買入等の引引ハ自身料理
其差遠方の場別成或ハ主店の親類引み成ハ一將を任せ是もあ
賣高の金銀錢一月二月ハ勘定ハ其店ハ入用を張ハ余ハ奉家ハ後ハ討
債ハ端午仲秋年邊此三節を定ハ其限りみあ止ハ債主或ハ貨物賒賣の取
み書ハ成遣ハを夥計ハ向ハに債を討ハ物束の通り拂ハあり又此奉ハ
延ハ再限ハ拂方ハ奉ハ限期ハ奉奉永ハ主人ハ直夜諸帳を廻ハ金限
を改ハ記帳ハ欠帳ハ点を掛ハ奉奉奉ハ終夜取引ハ欠主ハ拵不足等



居家

五



六

告狀畧式

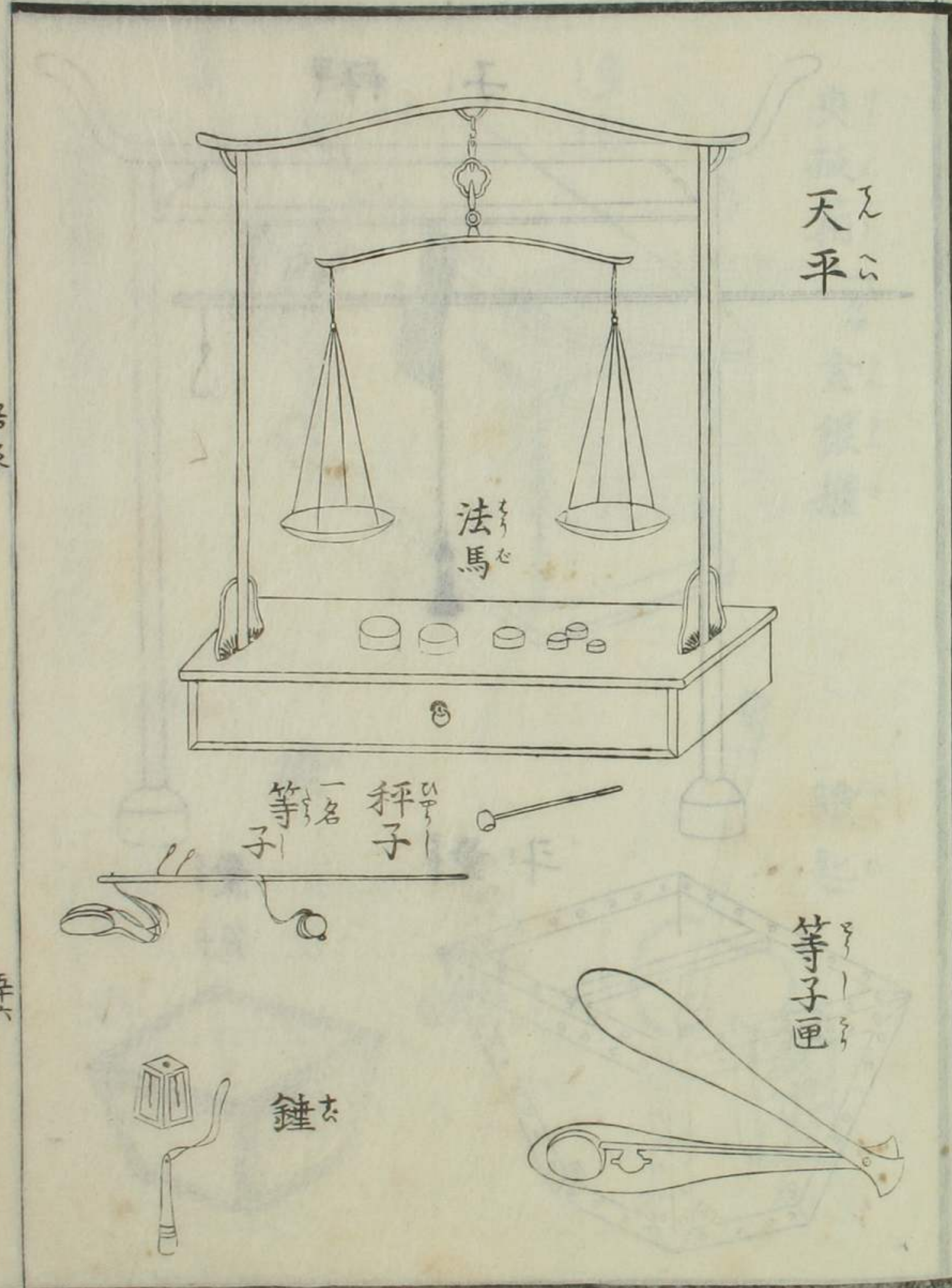
盜賊呈子

某都某里地方某等呈為被盜牛隻事本
 都某於本月某夜某時分被賊盜去耕牛
 一頭當投地方某跟尋到某處地方捉獲
 及得現賊是的係干賊盜事情不敢擅便
 私和理合送官懲究為此具呈須至呈者

年 月

日原告某人

天平



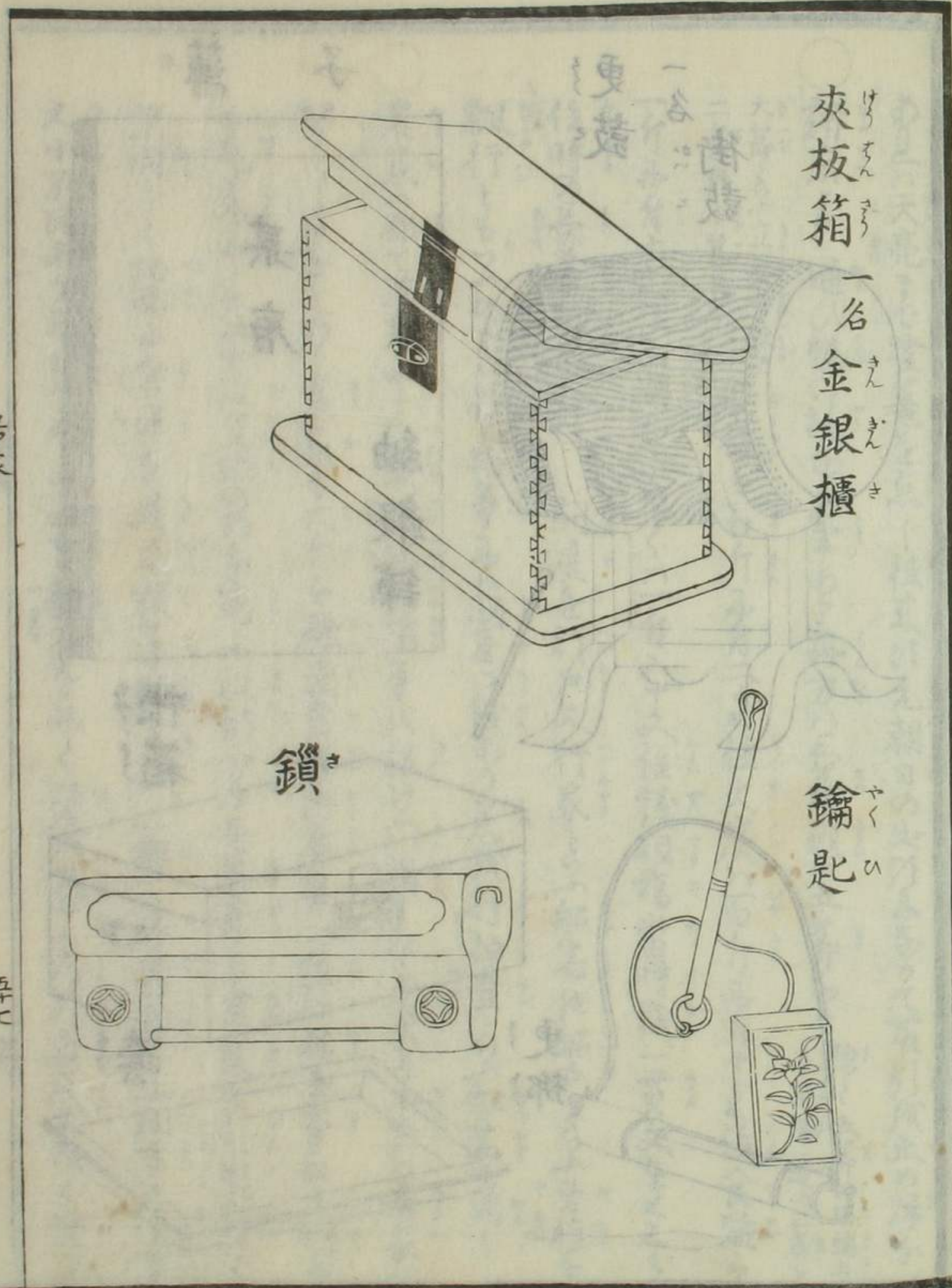
法馬

秤子
 等子

等子匣

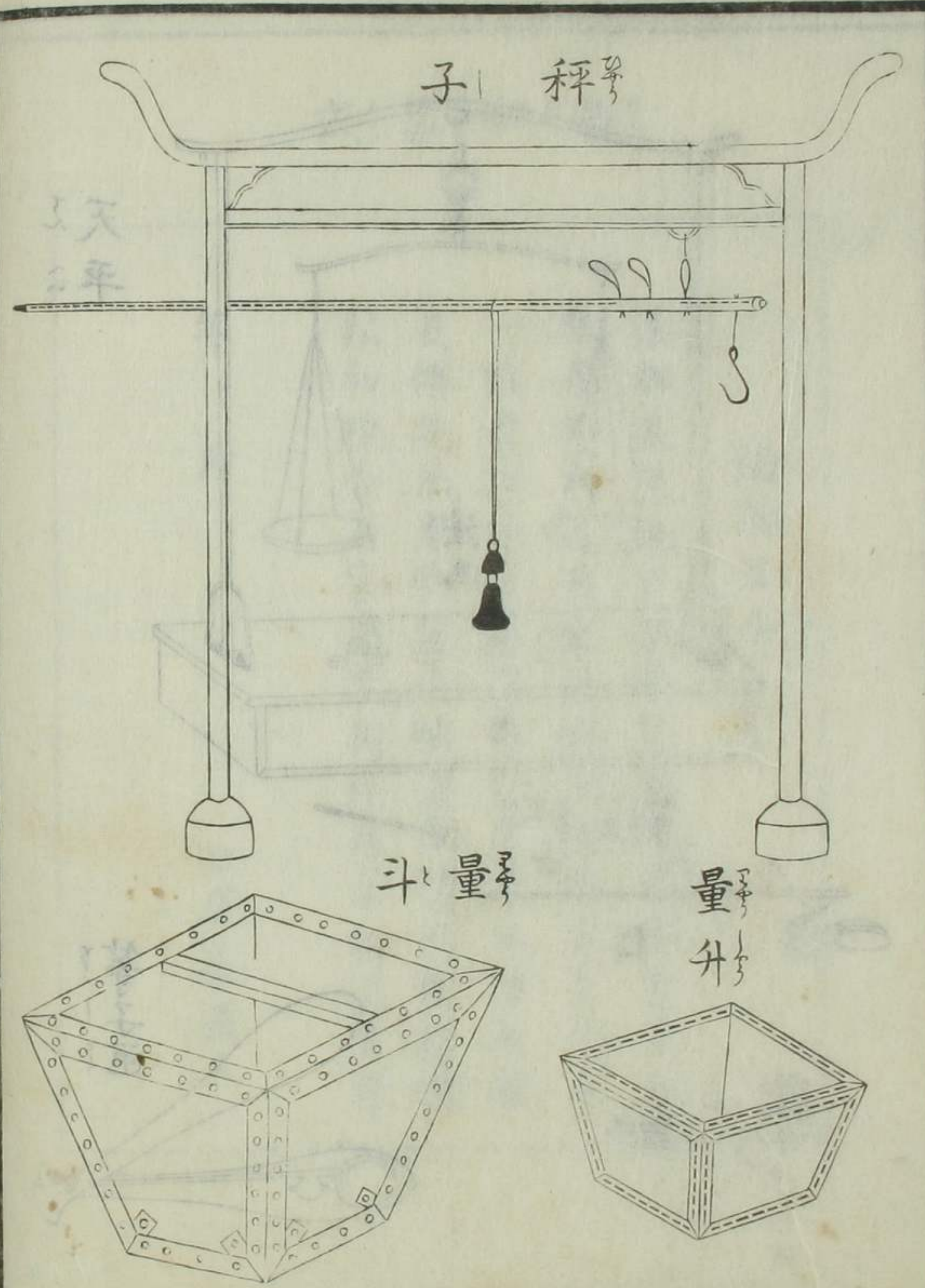
錘

居家



五七

秤子



五七

子 簿

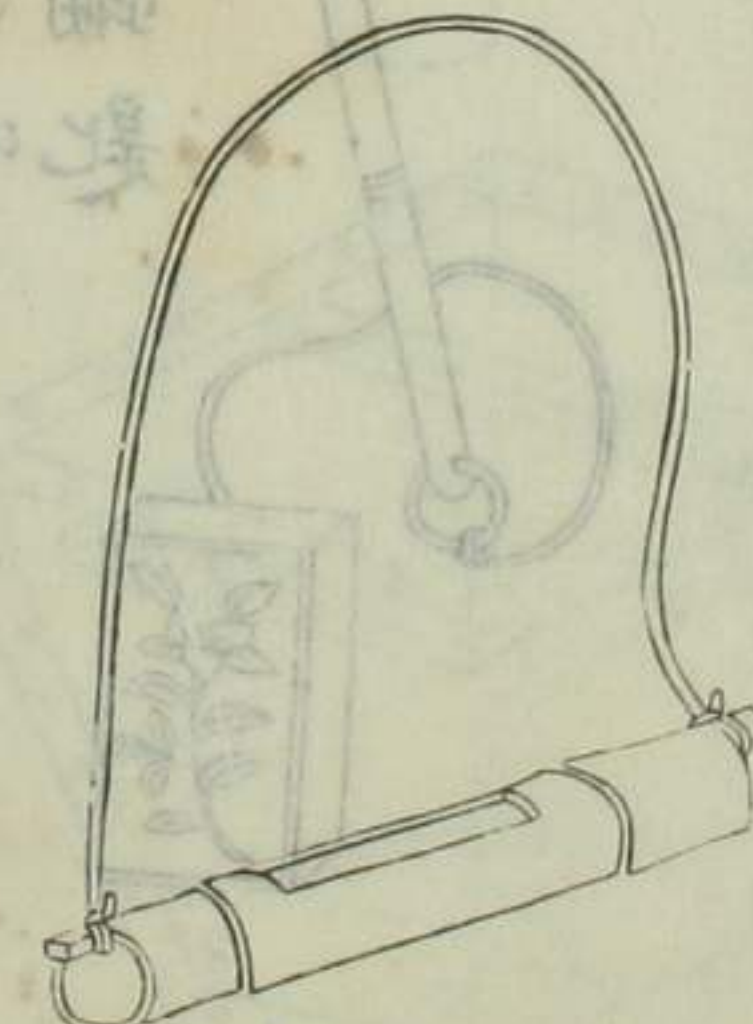
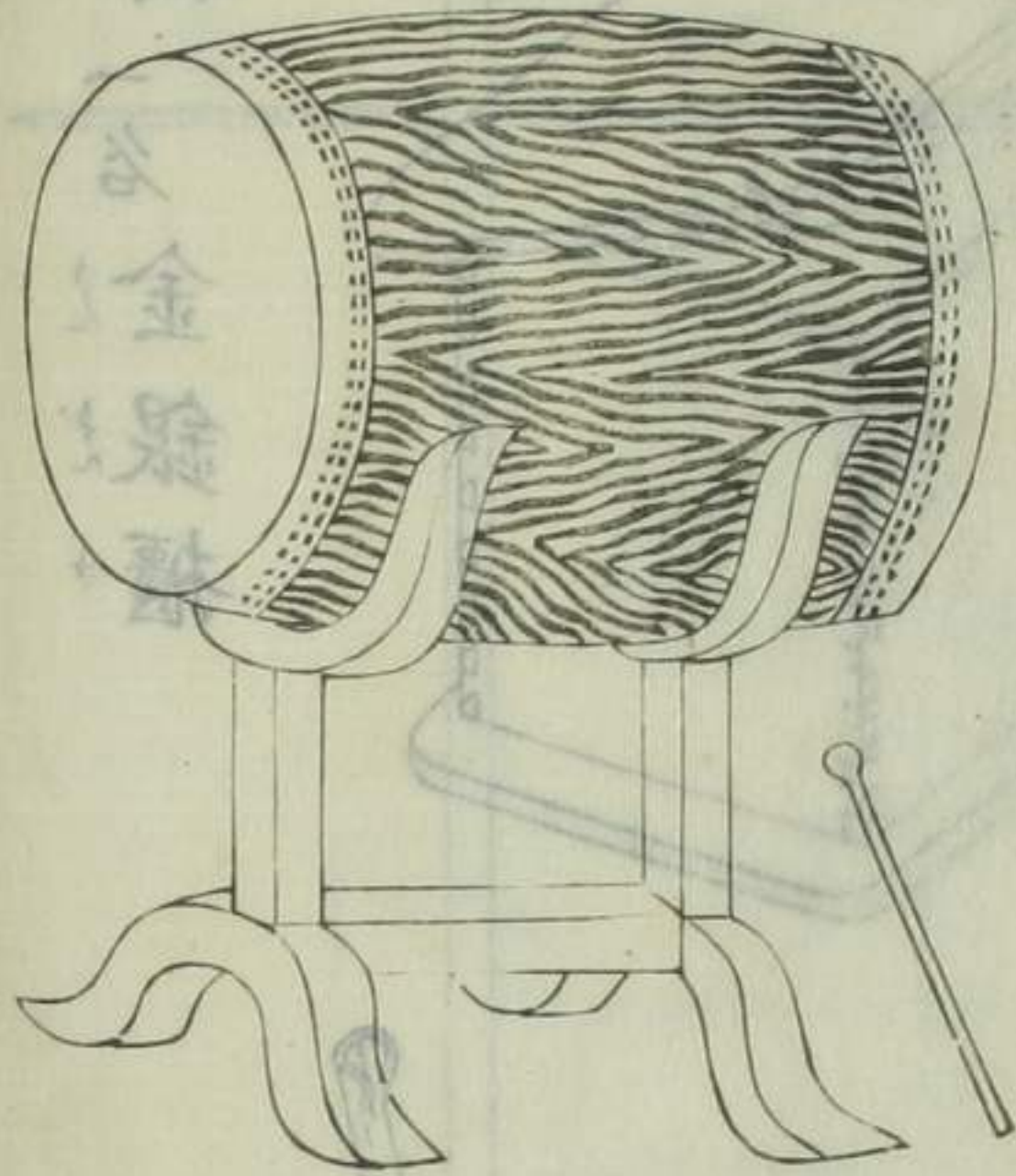
某府

紬 緞 鋪

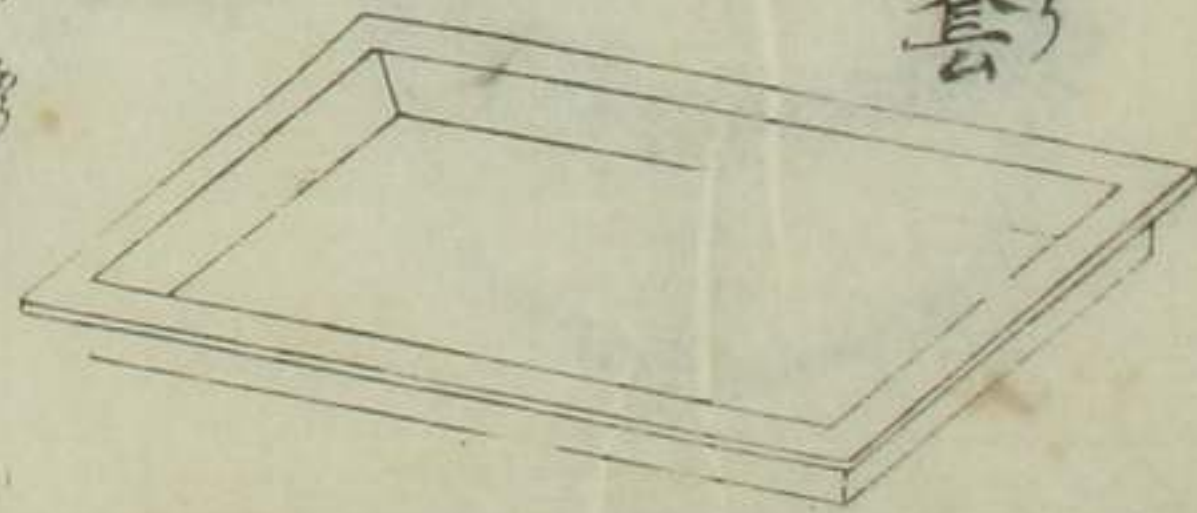
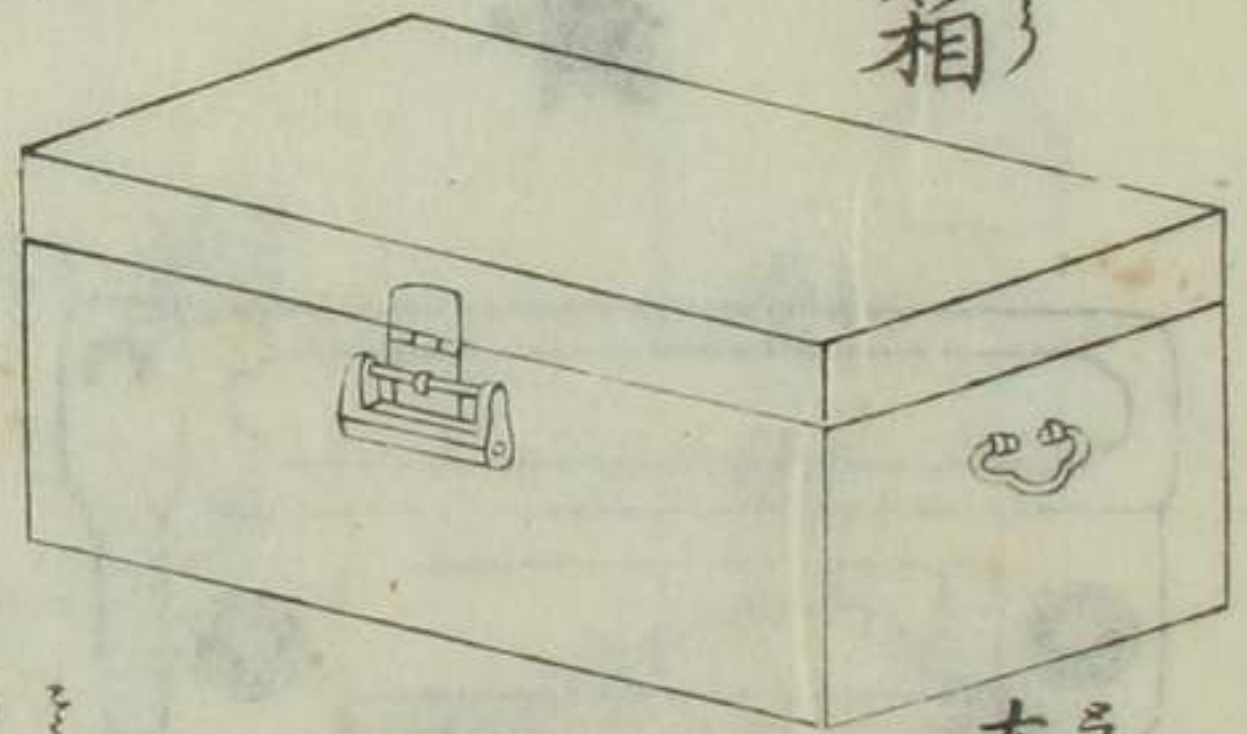
帳 箱

套

更鼓 一名 街鼓



更 柳



あはれ天亮了を燈籠を点し往來に元朝日の出はみありて取引成止り帰る

諸店より通ひ帳の松あり来あり拂方の二節或は五節あり

大節より立夏中秋の 柴担より百斤より二斗位火炭の百斤より十斗位食鹽と

二節成小節とあり 一斤より十文位山國もむく一斤より十文位銭相場當時銭一貫文と三分

位時の長居等あり ○ 間屋を行戸又行家と云船宿成船戸と云牙行を

飄行とも云物ゆく賣物等あり間屋は錢あり是成打抽豊とも云船宿も同一

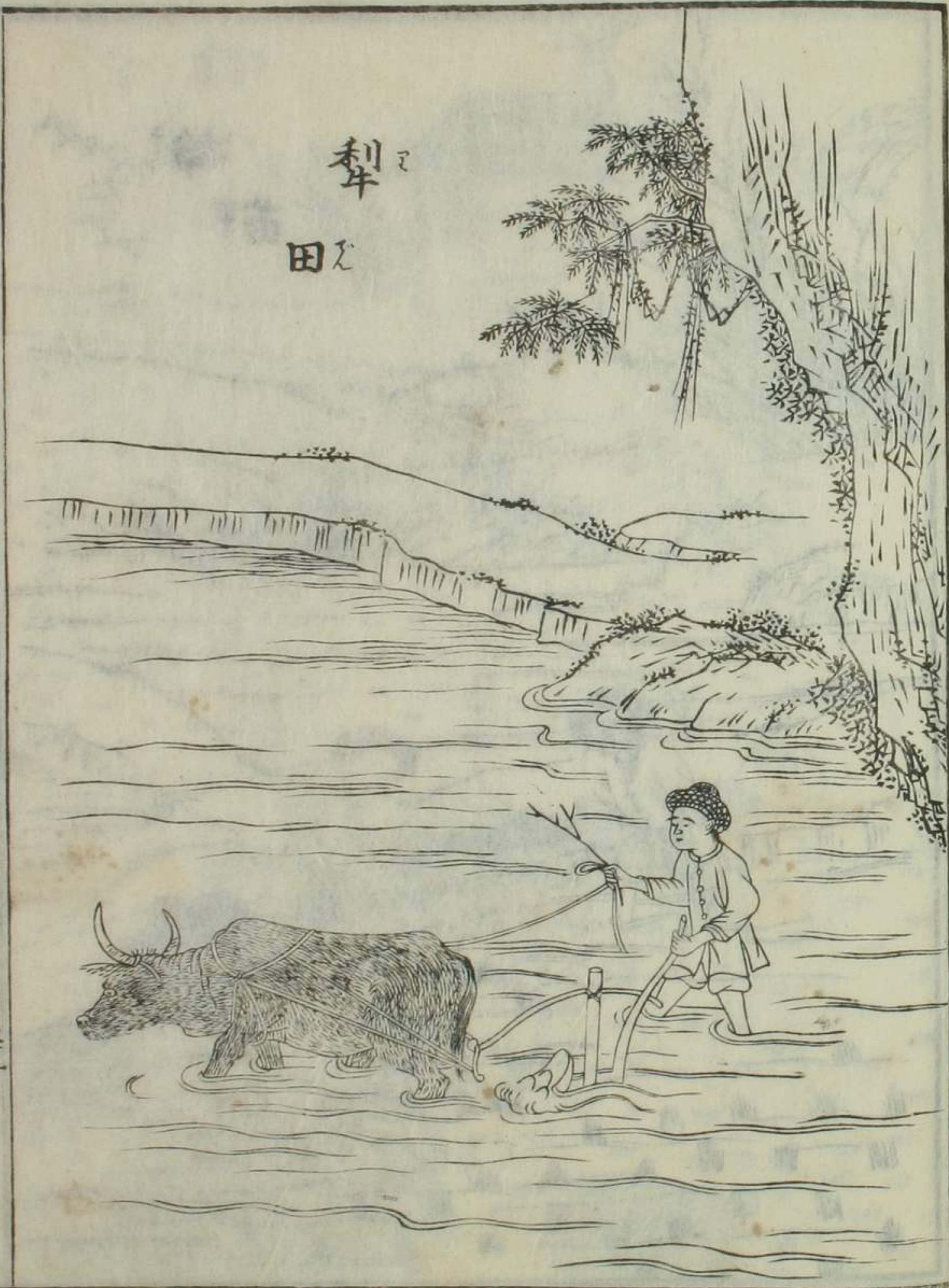
農家の都て草葺かして表泥板板等成設け門構したるあり小戸は居家

かりに云ふあり農家も大戸と廳堂書房内房等の設け異ふ事あり何と

も瓦葺かして之を後空地のあり所は収納小屋を草葺か建是を打交場と

不同く地面は倉庫を建米穀等貯へ置 ○ 都て庫藏倉と二間方三間方

大小不同あり瓦葺かして四方甃石を以て礎成道の上内外白灰土はく塗る

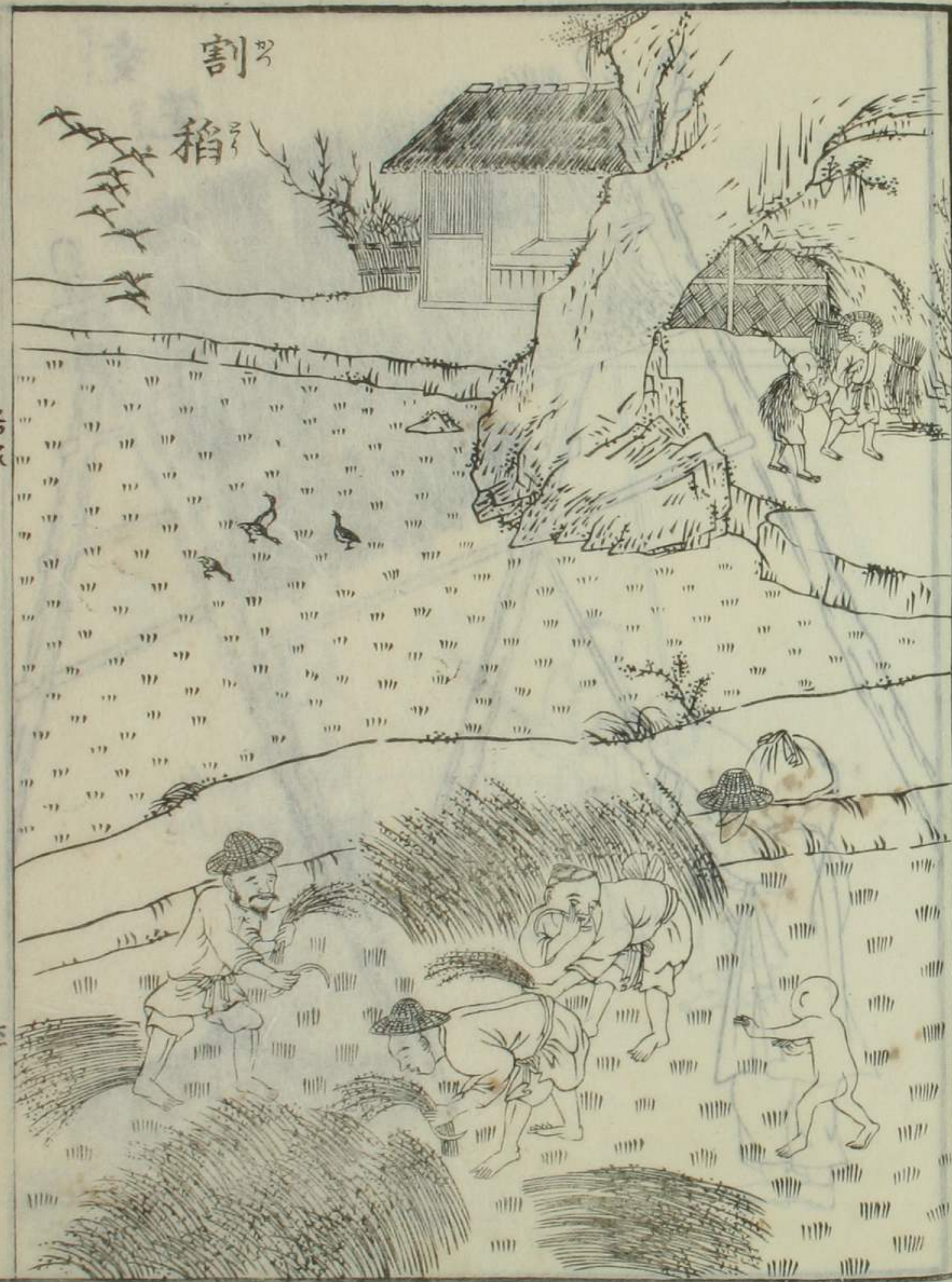


犁田

居家

五十九

一方(出入)口設け内と板扉外ハ土扇みして關鎖内み樓を造るたふとあり
 年建もあり兩方(小)く牕代明け五樓を造る庫藏と柱代三樓を造るは樓か
 年建の庫藏と多く柱を用ひて四方軌めく筑上屋根の(一)桁(梁)を造るは
 後(蓋)を修り瓦葺葺下(之)間或る軌石を敷儀物等積込みと本成模(一)
 高積並形(一)農家(一)朝早く起て耕作(一)動(一)耕作(一)の敏(一)閑(一)はる(一)て朝出
 の遅速(一)あり(一)多(一)く(一)の(一)即(一)此(一)刻(一)に(一)朝(一)飯(一)を(一)吃(一)田(一)園(一)め(一)往(一)く(一)近(一)所(一)は
 帰宅して吃(一)美(一)遠(一)方(一)や(一)れ(一)の(一)家(一)内(一)と(一)食(一)事(一)を(一)調(一)碗(一)四(一)等(一)の(一)類(一)を(一)竹(一)籃(一)
 入(一)且(一)女(一)房(一)あり(一)小(一)女(一)等(一)持(一)行(一)て(一)吃(一)む(一)暮(一)茶(一)み(一)帰(一)宅(一)一(一)晩(一)飯(一)を(一)吃(一)休(一)息(一)は
 美耕作(一)並(一)多(一)れ(一)時(一)次(一)又(一)ら(一)至(一)く(一)小(一)戸(一)の(一)農(一)夫(一)或(一)は(一)佃(一)戸(一)等(一)の(一)女(一)房(一)も(一)に(一)出(一)て(一)耕作(一)
 子(一)も(一)あり(一)家(一)内(一)残(一)ら(一)ぬ(一)耕作(一)み(一)時(一)ら(一)食(一)事(一)朝(一)と(一)用(一)意(一)して(一)持(一)越(一)田(一)代(一)み(一)あ
 吃(一)む(一)か(一)と(一)あり(一)耕作(一)の(一)物(一)米(一)麦(一)等(一)収(一)納(一)して(一)例(一)の(一)お(一)く(一)官(一)糧(一)を(一)あ(一)き(一)先(一)除(一)か(一)る(一)



木
碓



居家

空

麦
笊





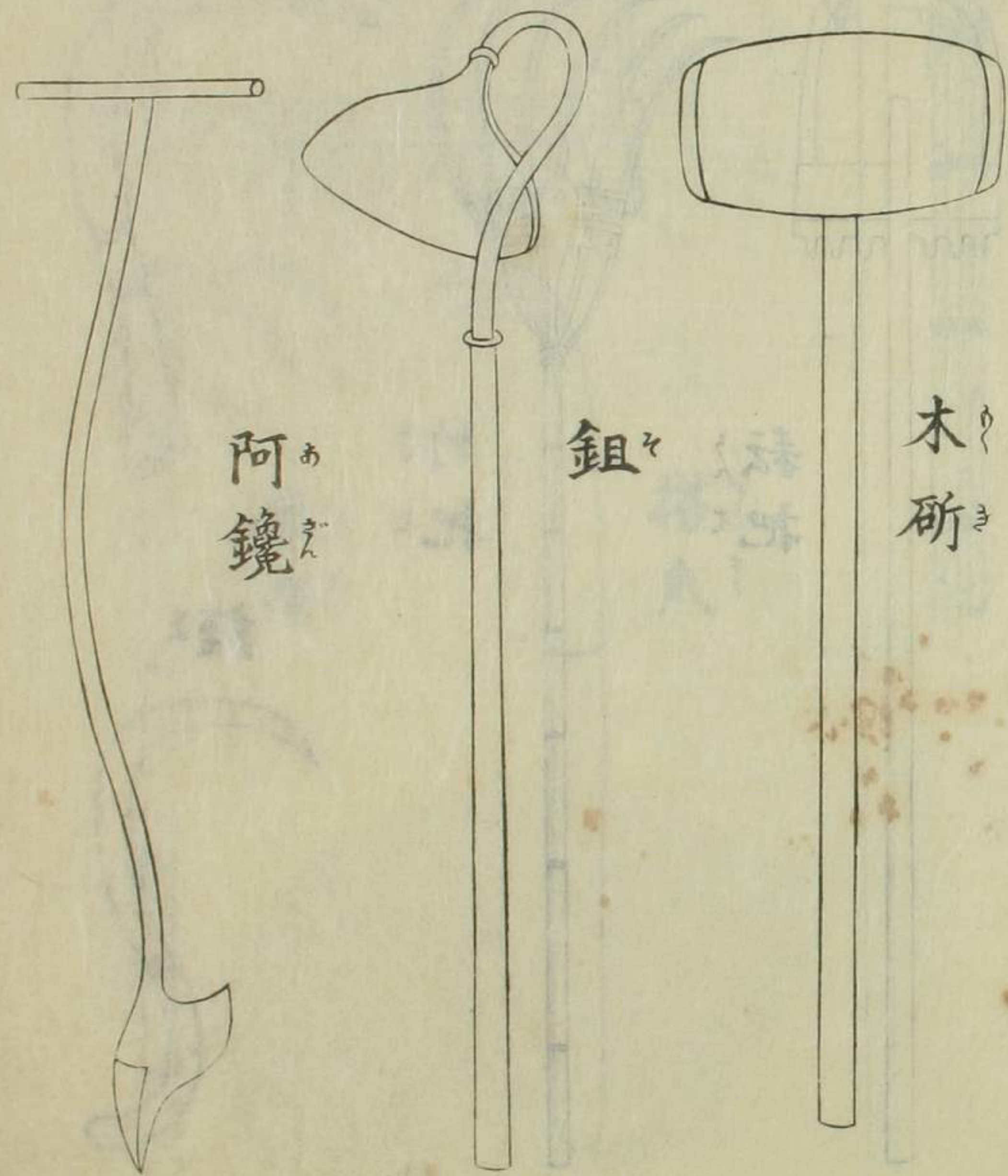
水碓

居家

六十二



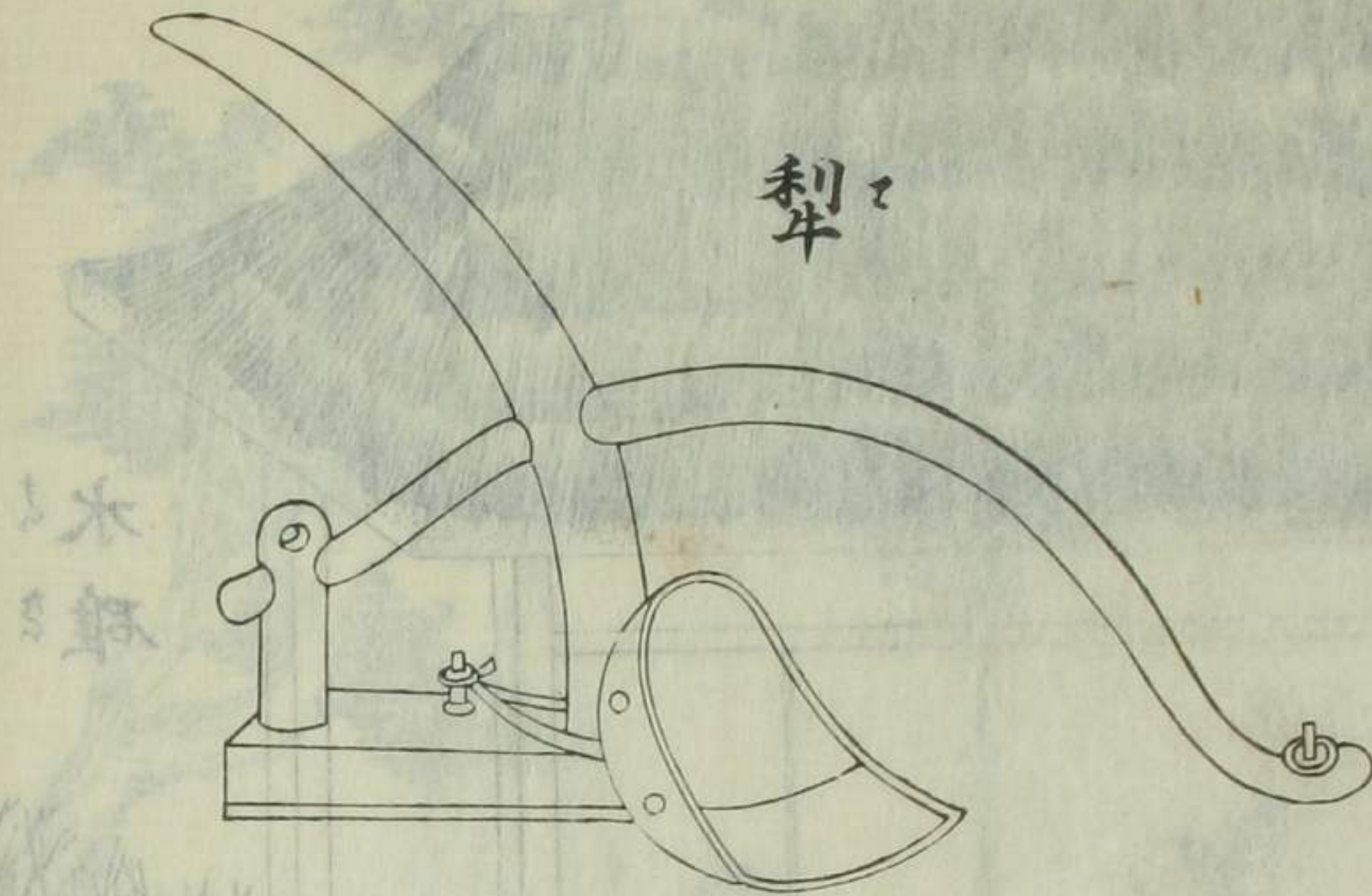
土羅



阿あ鏡かみ

鉤かぎ

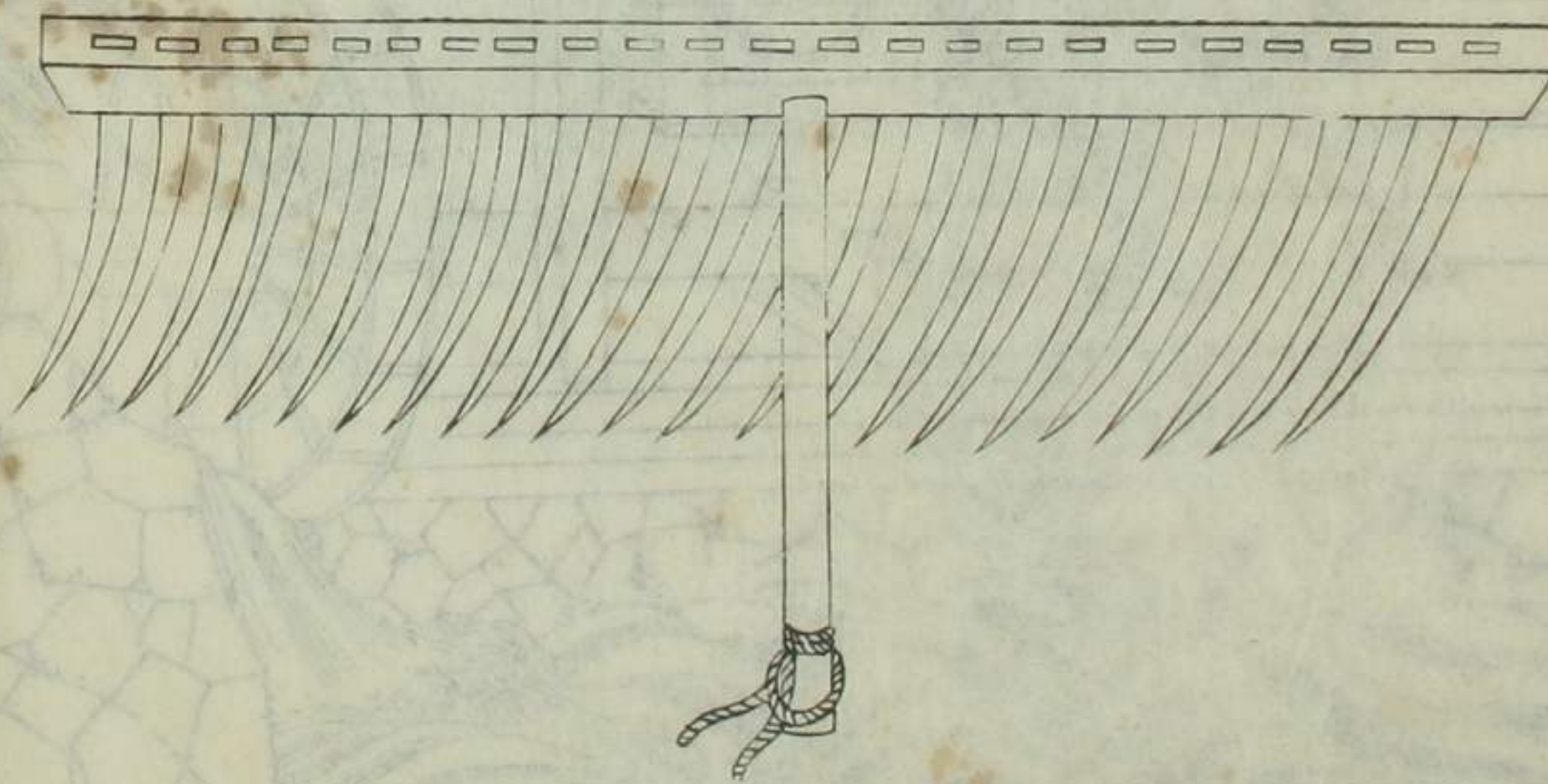
木き斫きり



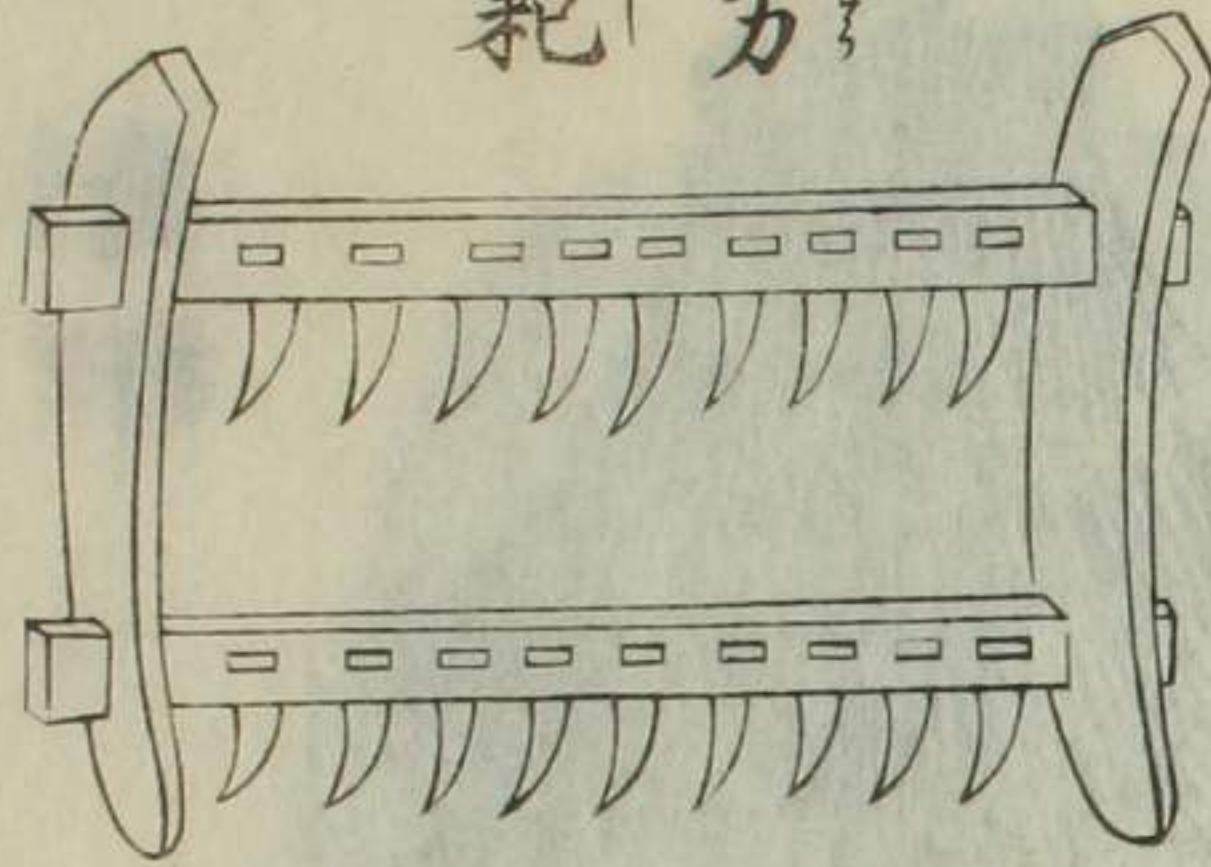
犁り

木
車

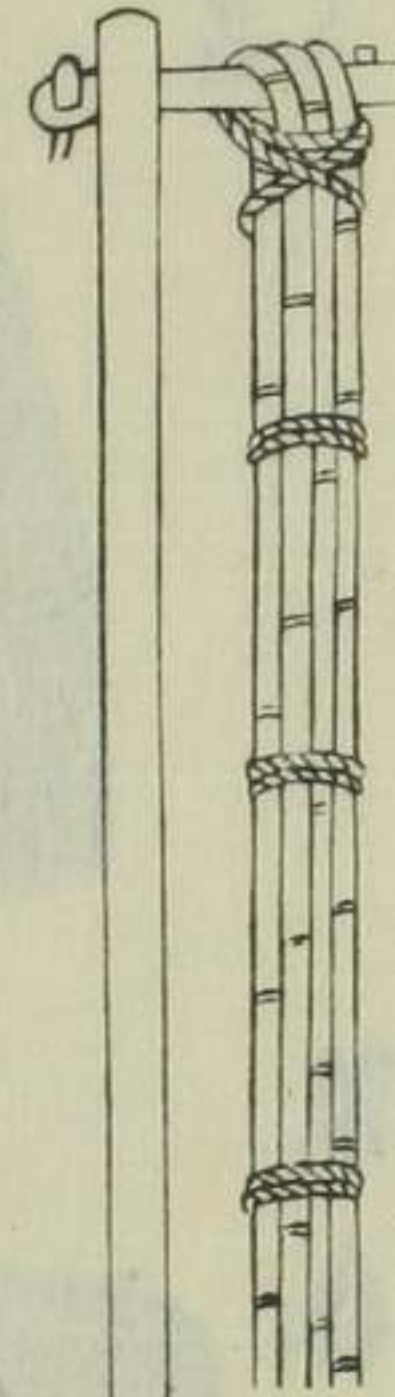
把た拖ひ



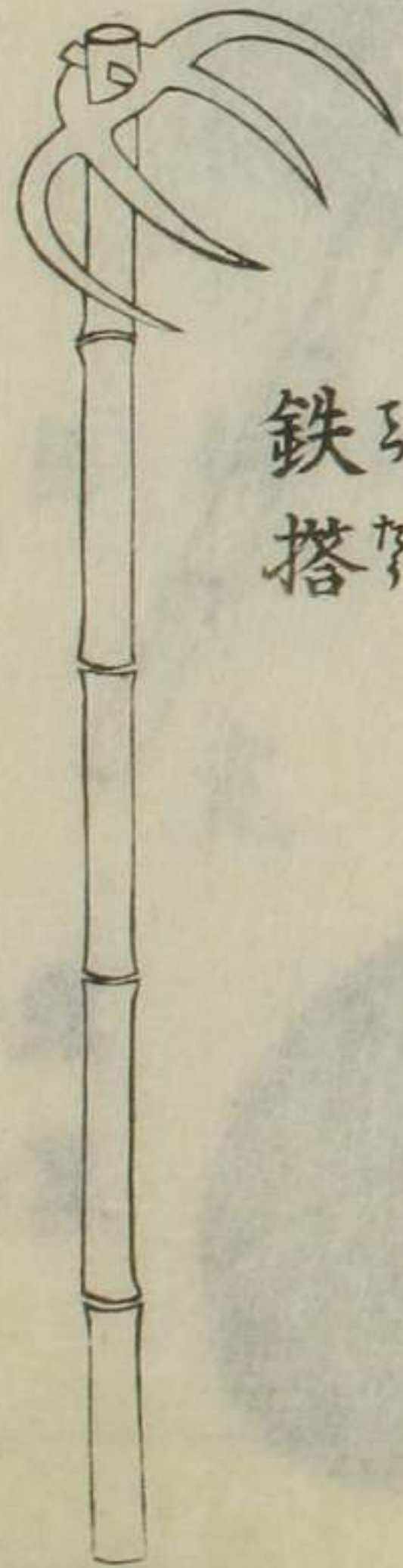
方耜



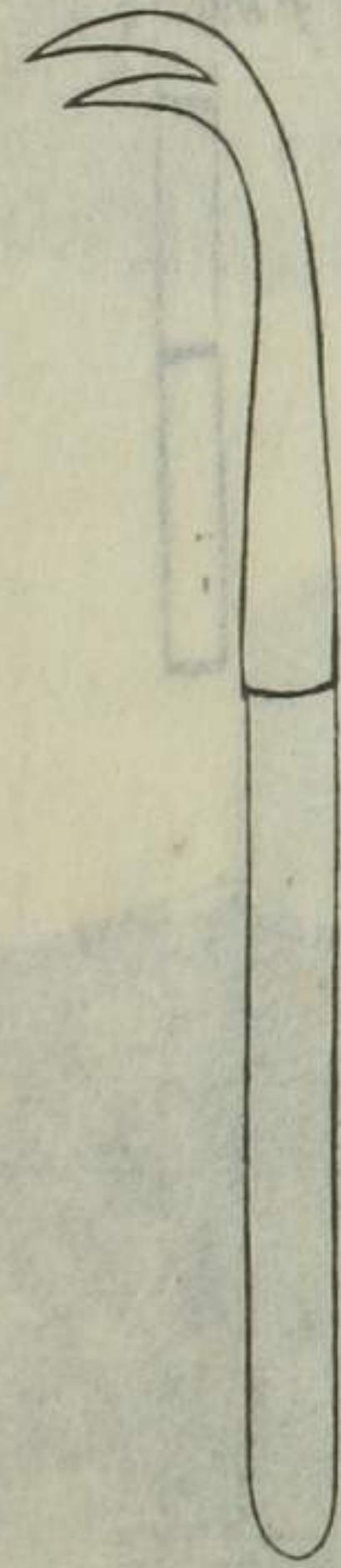
連耒



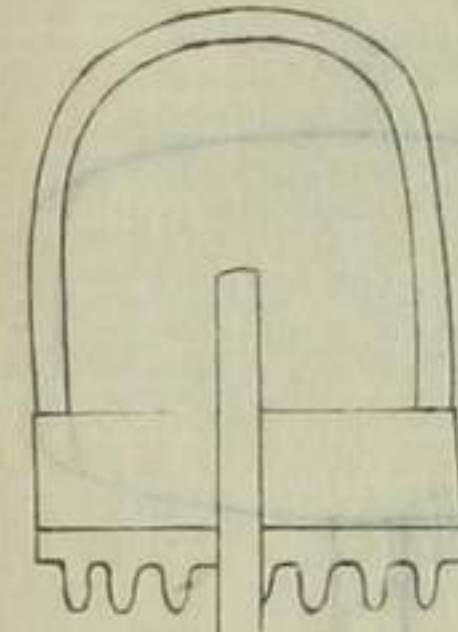
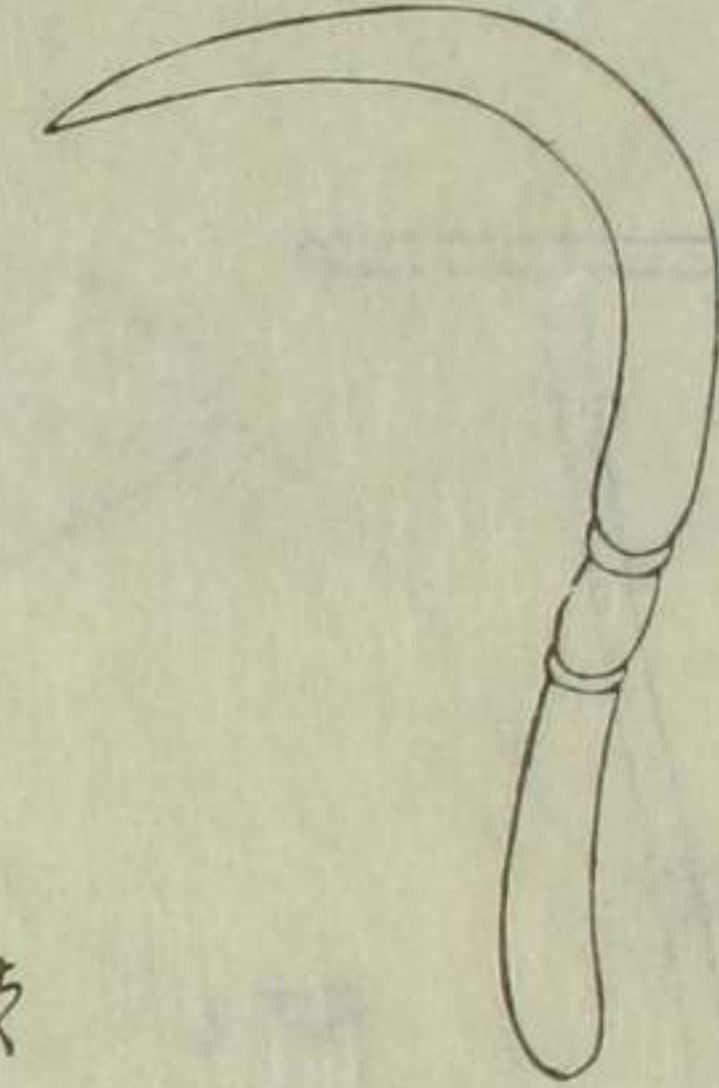
鐵搭



搭爪



艾

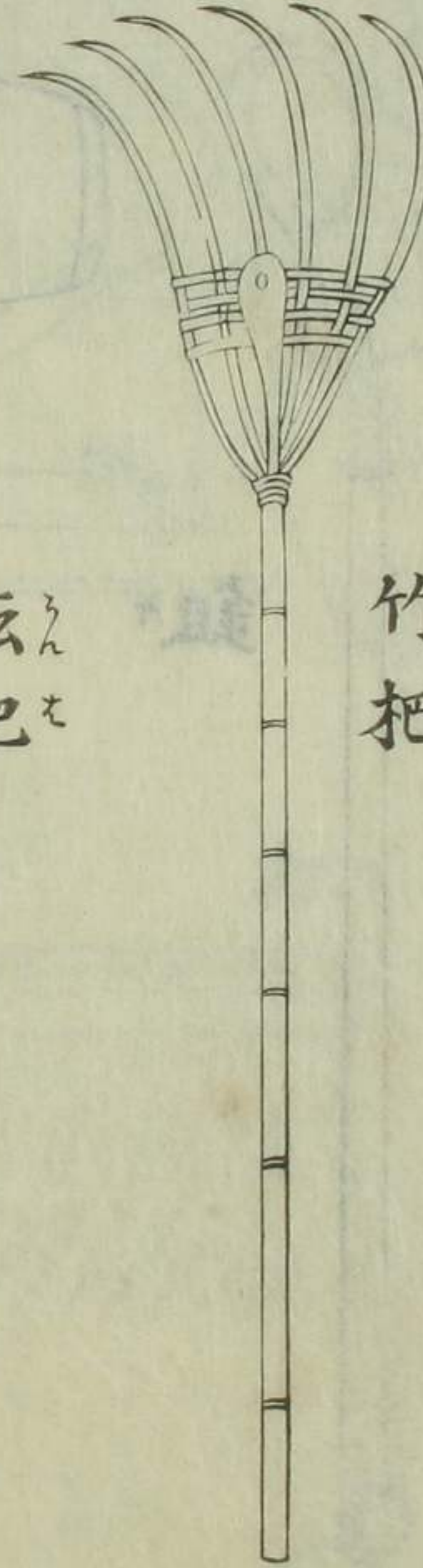


耘把

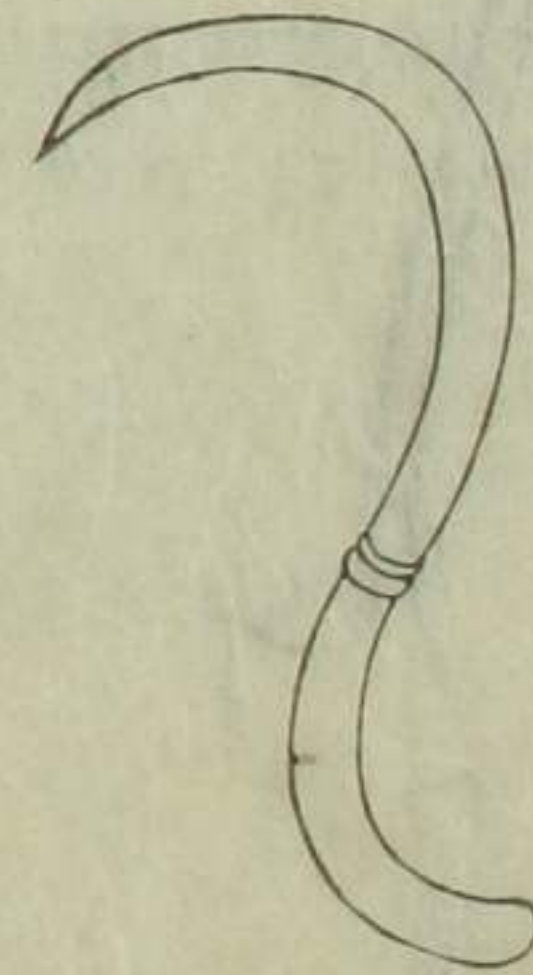
休海



竹把



鉿





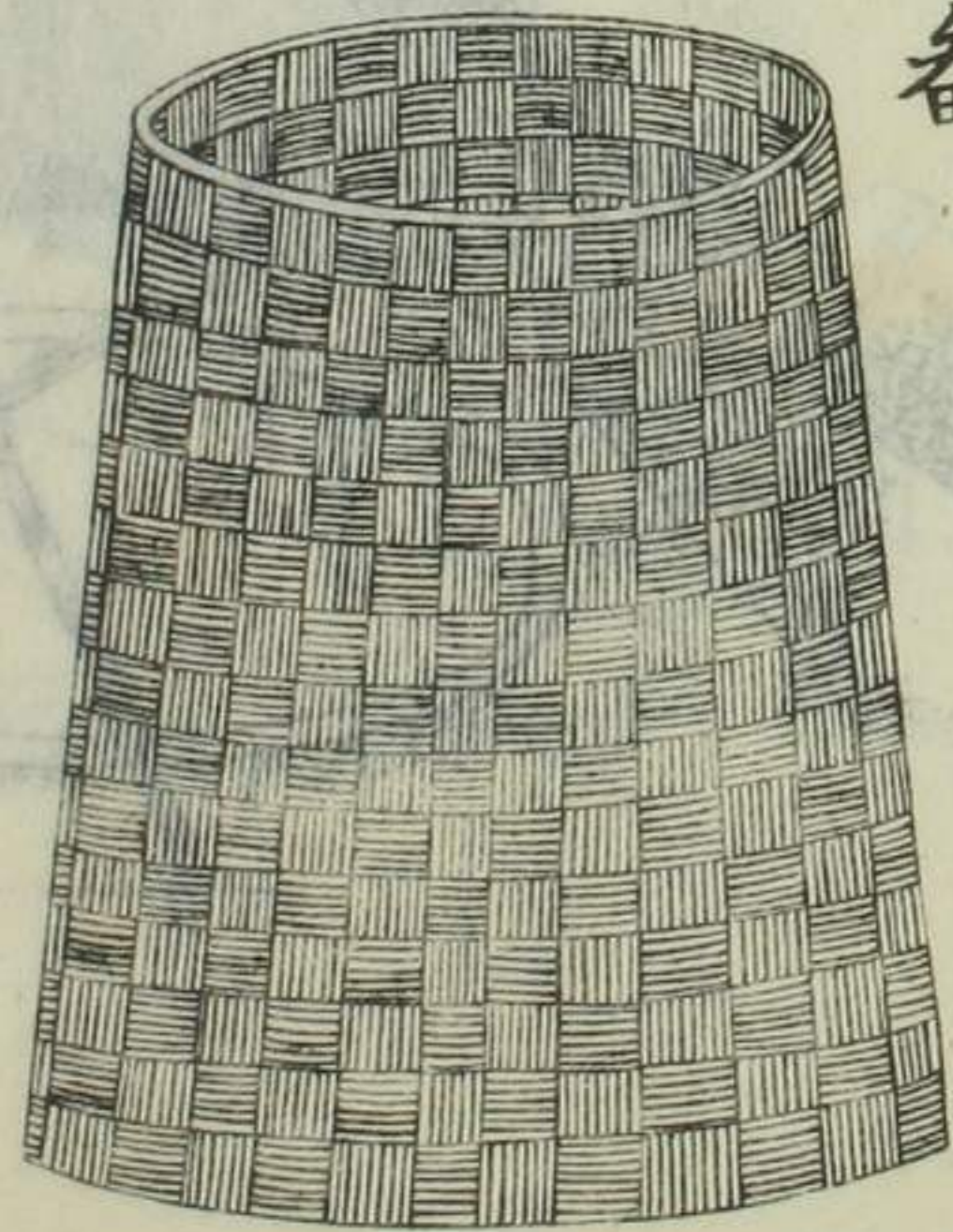
積せき苦く

筒すん銀ぎん包ぱく

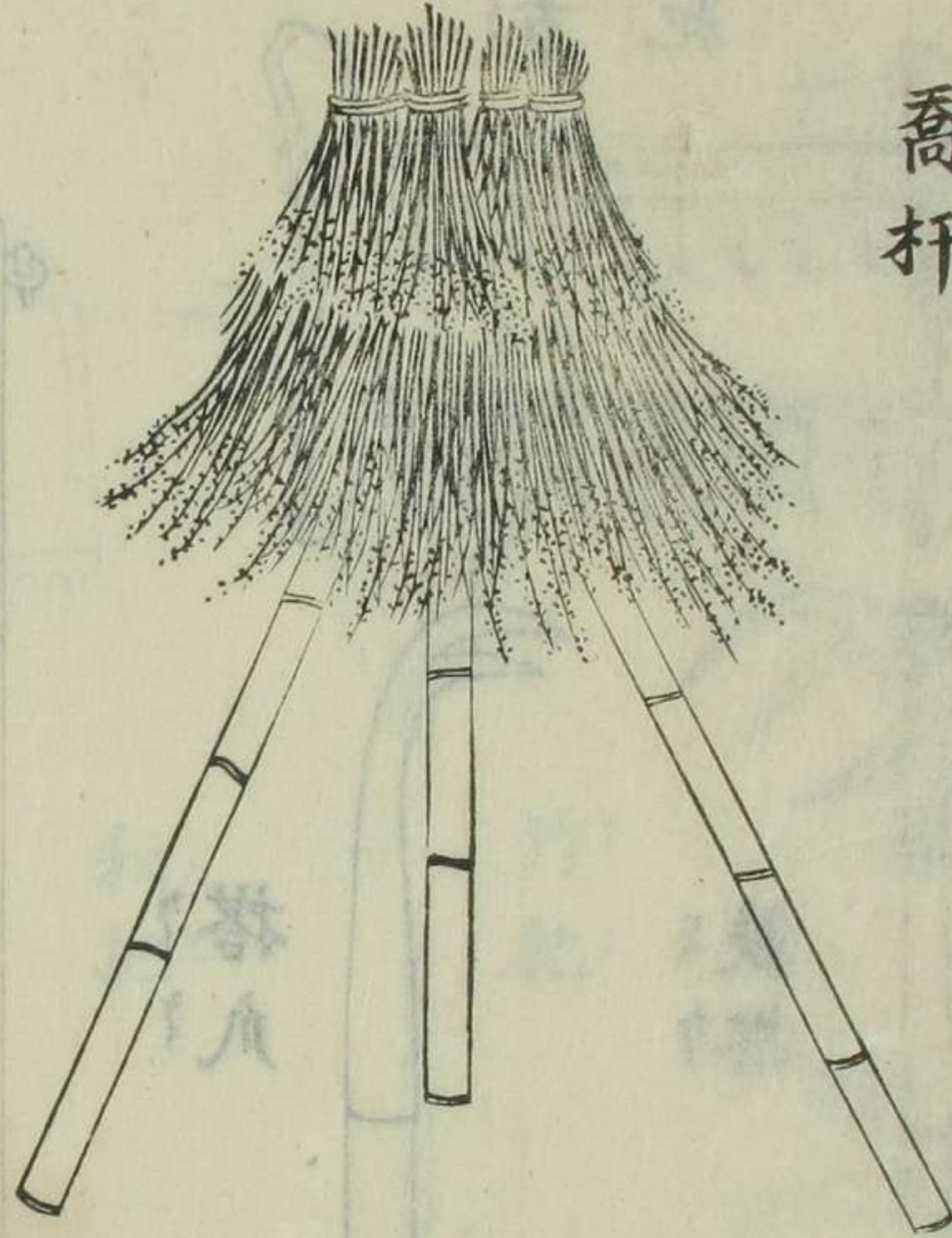


定

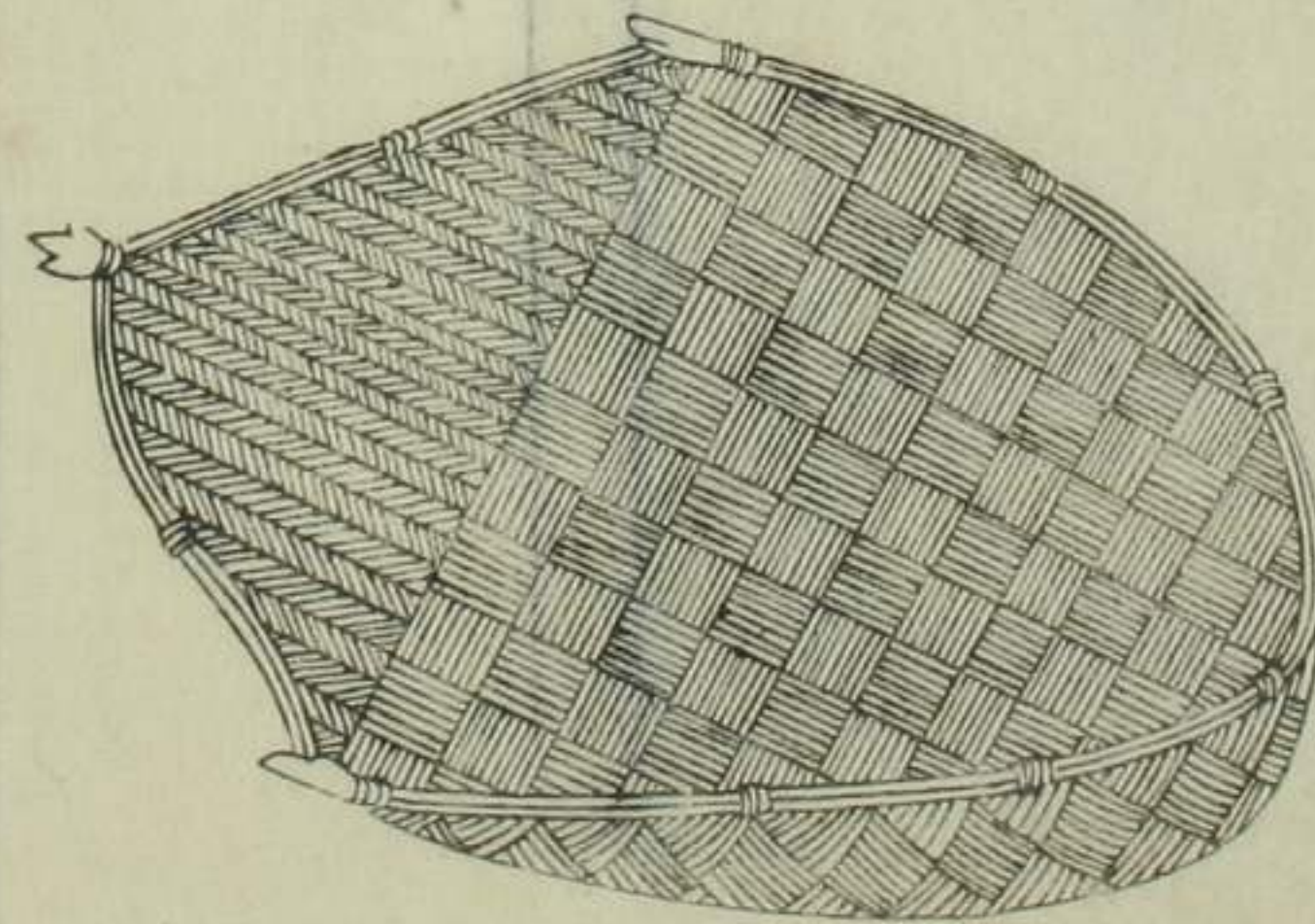
草くさ畚べん

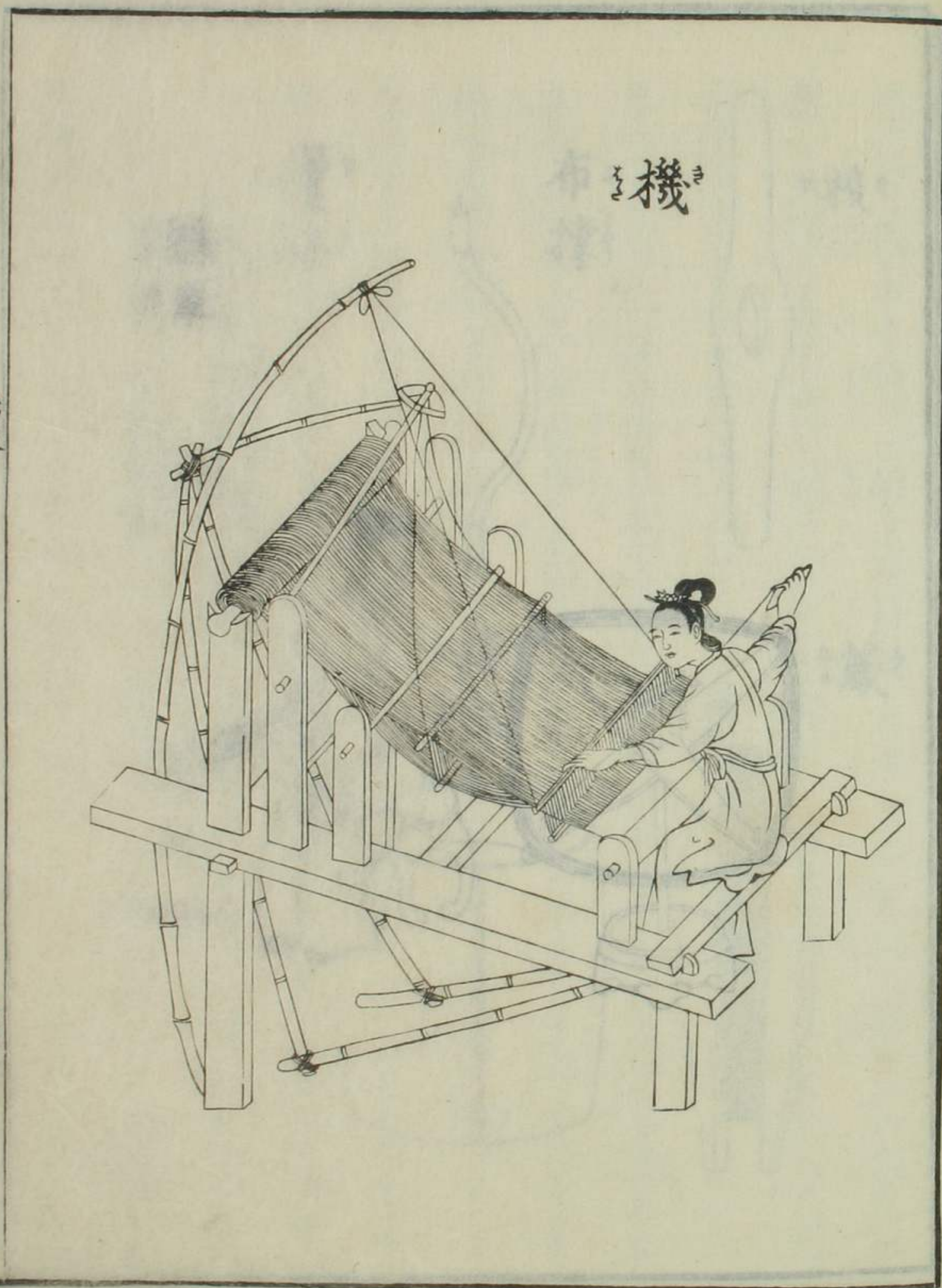


喬たか杆かん

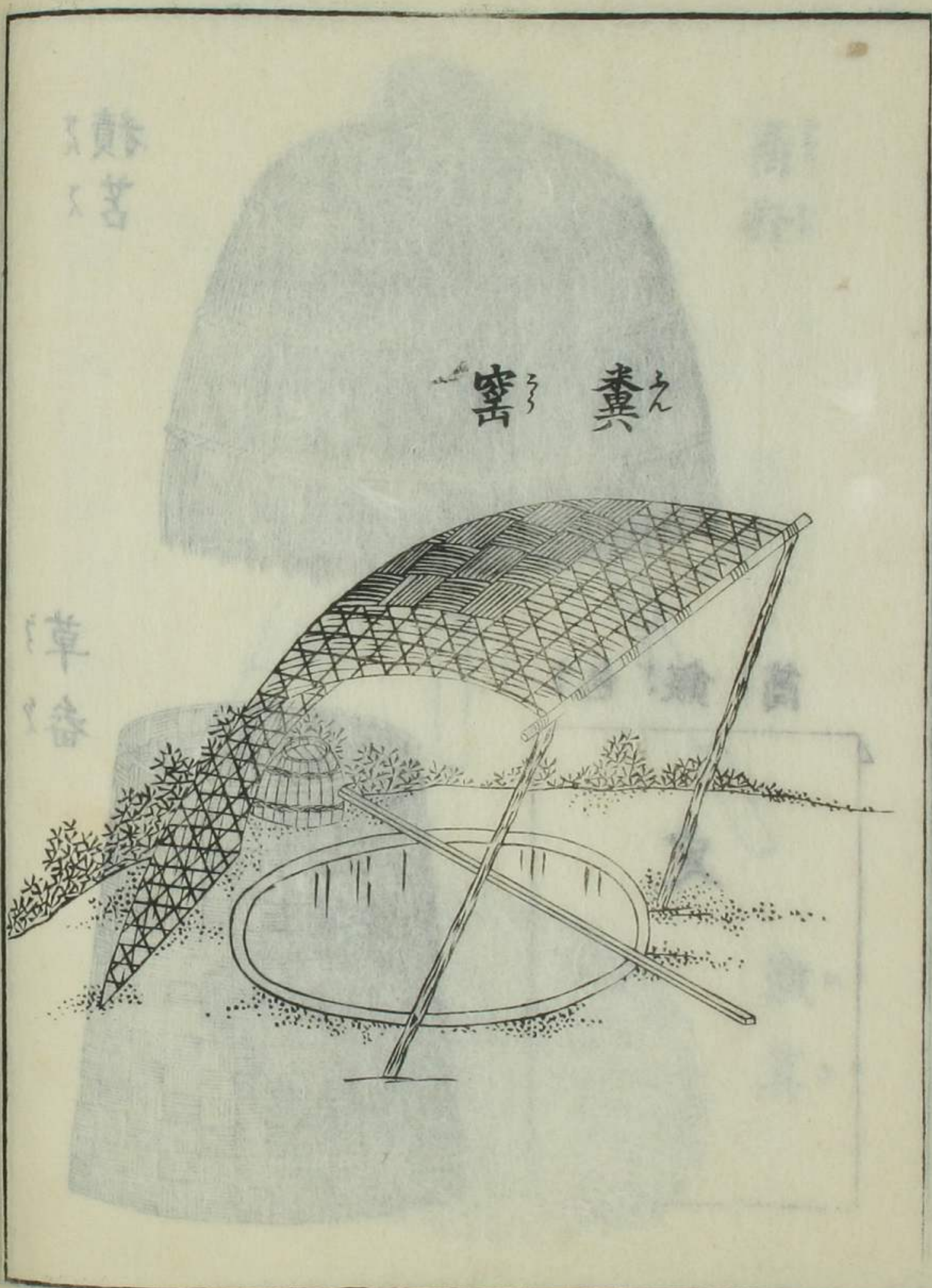


簸ひ箕き

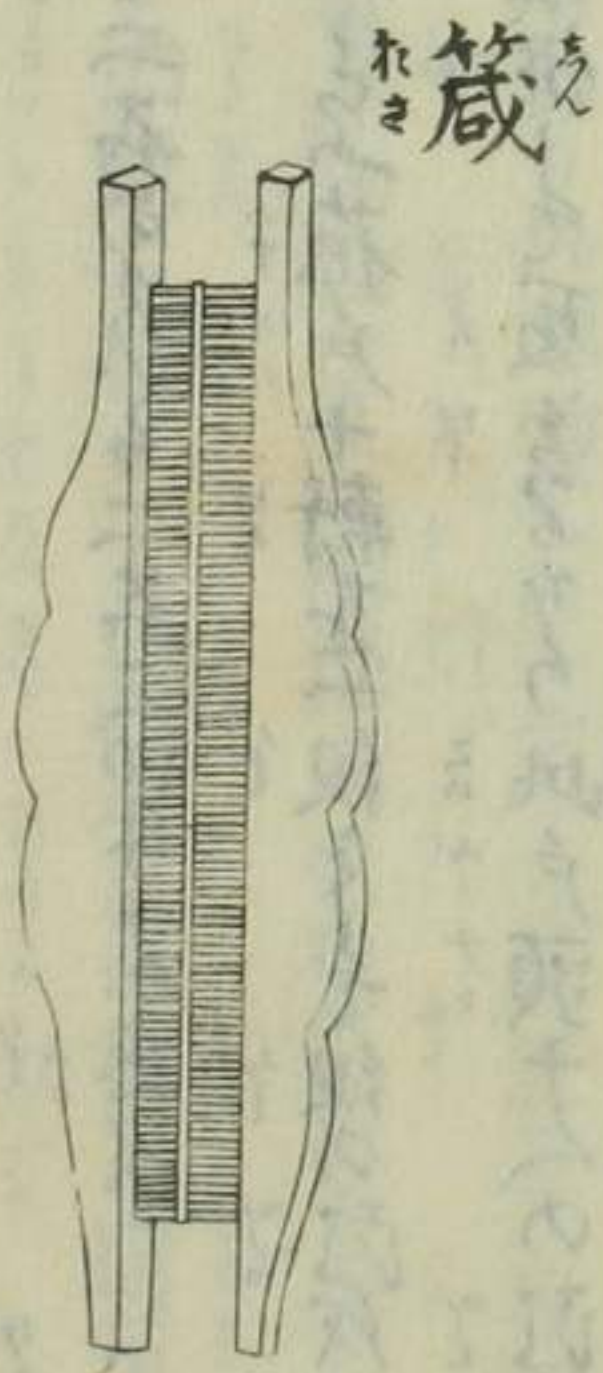
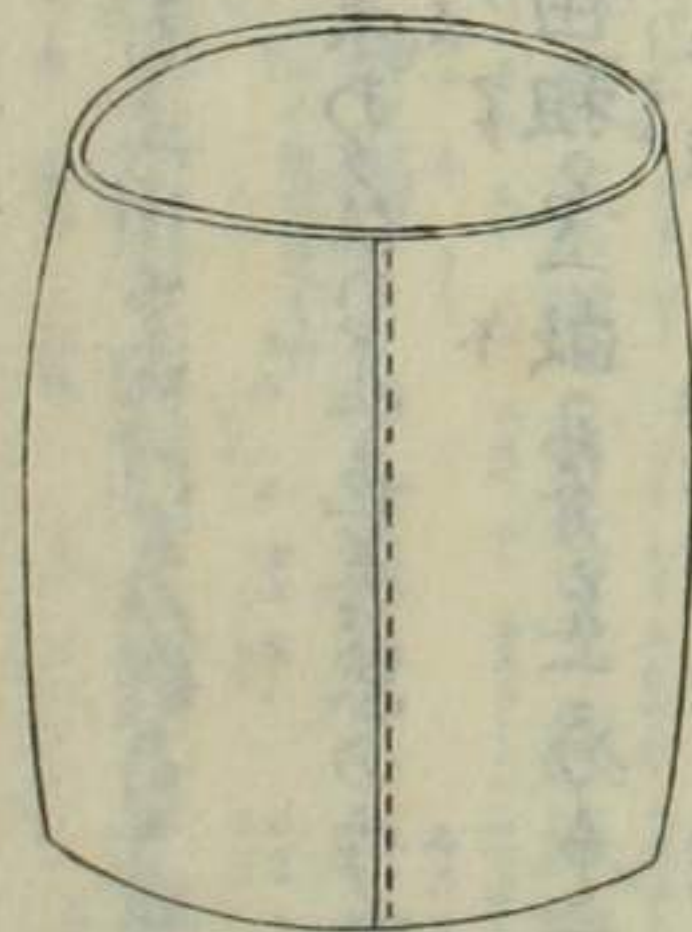
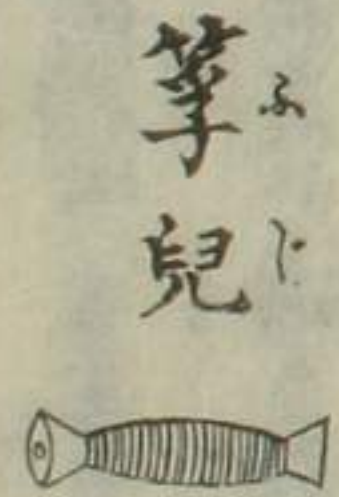
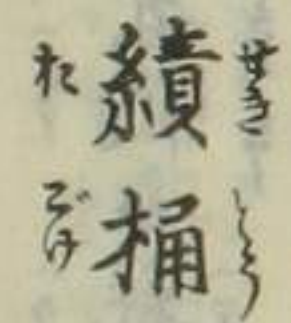
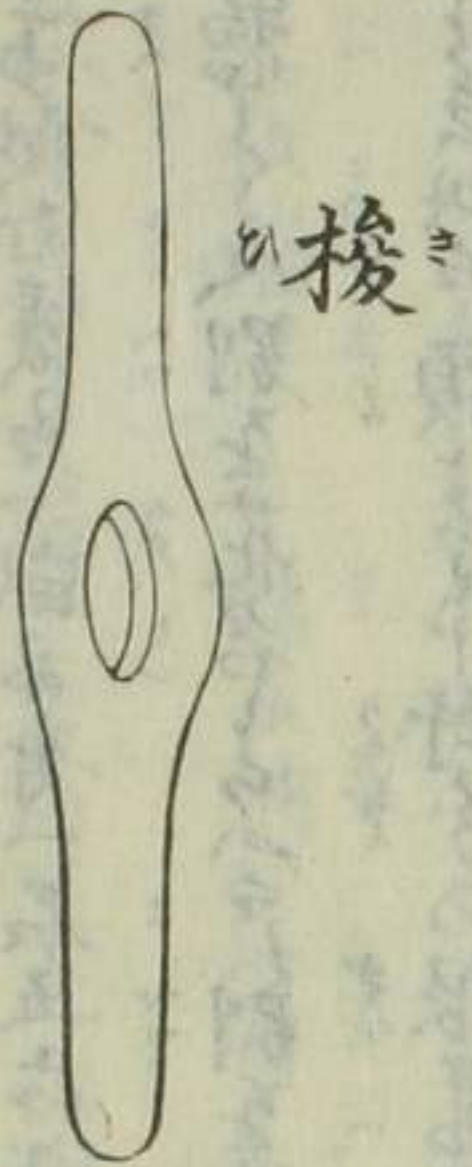
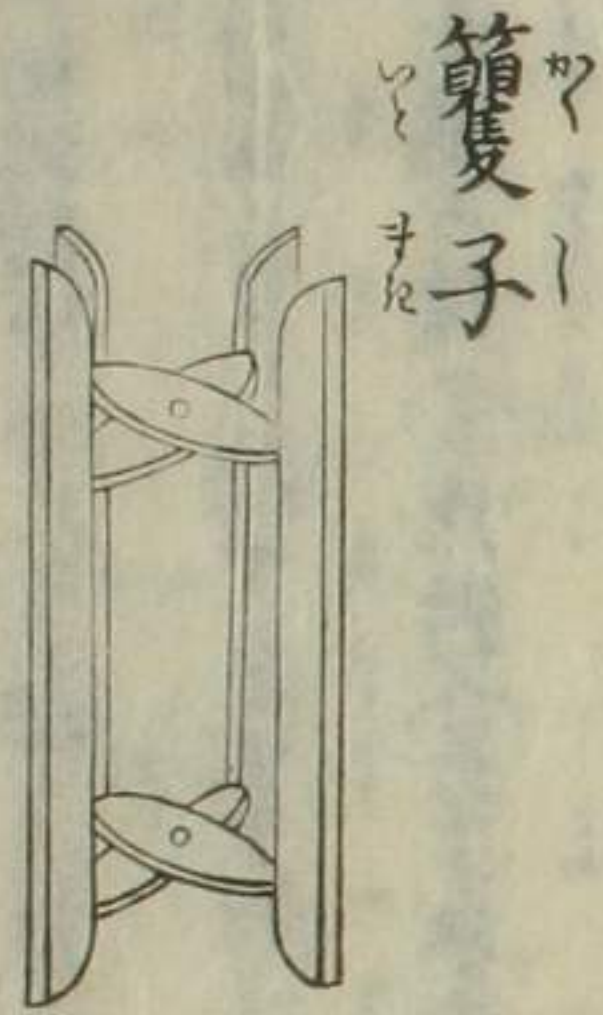




機

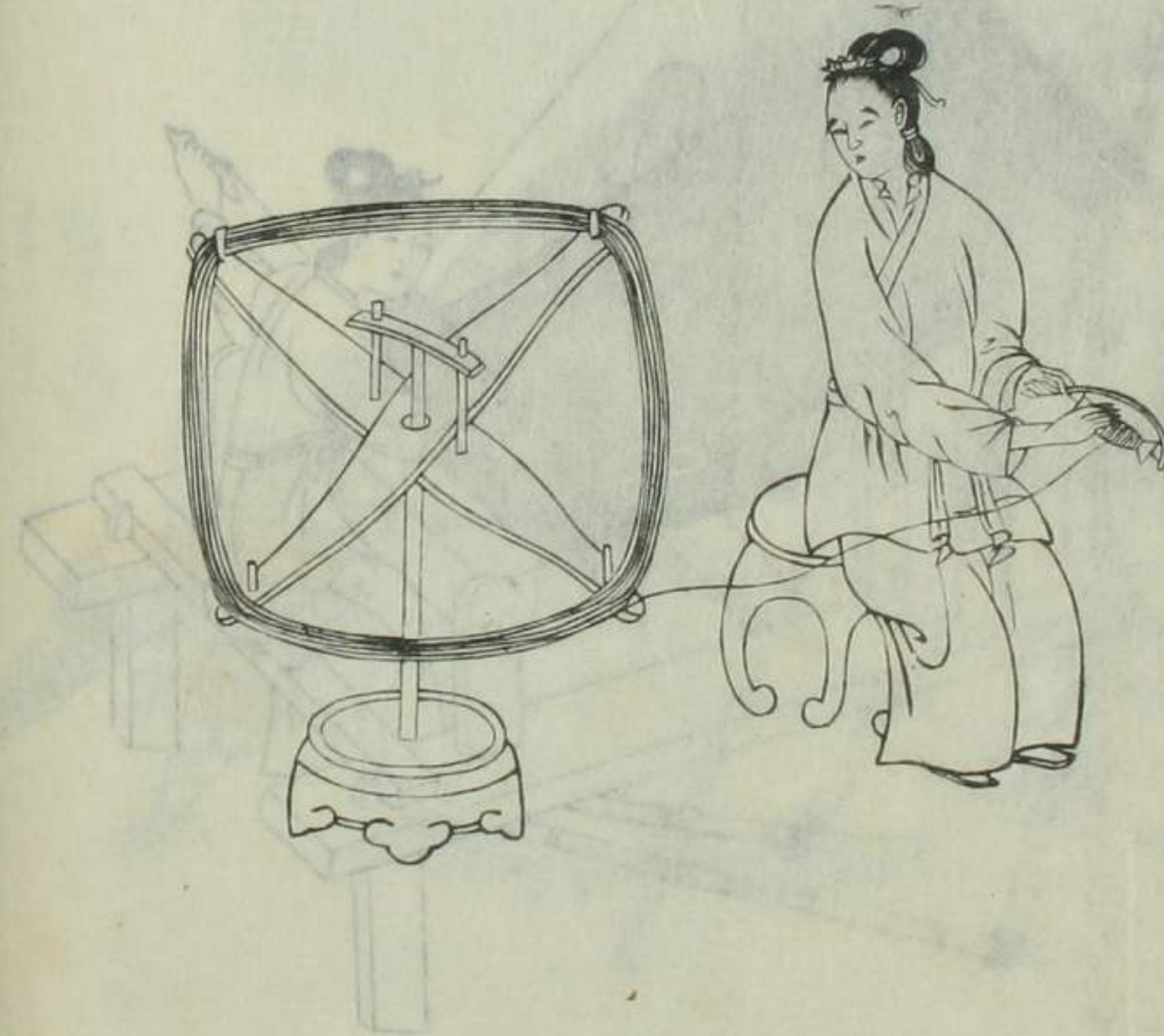


窠 糞



繅

繅車



家内丹野へ至時かまふひ賣るもわ

○大戸田地持さか入ら都て農ま命て耕作先年分何程と不田租を

官種を納め残る成貯へ至家内年分此食種を存苗餘分の時時随ひ賣去

官種を九田一畝み付と米一斗程税を納む上田下田此差別あり米め

○納れも何り銀納ありい銀米納あり米納を耗米ありい米色善悪の作難ありて

至く面倒あり大戸の家あり多り銀納あり田租一畝み付九一石と一石五斗

を不同あり田地の善悪農夫の貧富による不同あり官種の穀を去糠米

を納む麦一畝み付一石五斗と二石ありい二石三斗と出

○物と人別を花名とふ戸別を花戸とふ花戸十軒を二組とて組の成戸頭

と云此戸頭と十軒分の銀成催促して取らり此戸頭十人の成甲

長とふ村里の大小に依り甲長多あり此惣頭を里長とふ此里長一村の納銀

成催促して縣み納む此時花戸自身み納む其納銀成包む袋あり厚紙二

枚合せめて造定の字此摺あり納銀を櫃吏とふ役人包の銀を請取袋此

上み某の村某此項納銀成何程何月何日請取役人某と相認收簿も同様

み記も成納成上倉文糧とふ納成の外み加耗茶果倉書斗級紙張量斛

看倉等れ入目あり又船運漕み水脚塾船神福等の入目あり

○成成貯へ至め倉の下に五寸角の木の板を埋れ上み板をみて成積

時倉の扉懸門を開れ風成透し虫入る板成用也一年貯へ至新

糧を收ふまで餘り残ありい皆陳米を賣出し新成貯へ倉の方位を空

地の有さみ従ひて制れ等かゞ家道殷實み善事を行ふと思ふ人

官に顔なく年分何程の成納り非常の備へみすべしと穀を輸納するも有

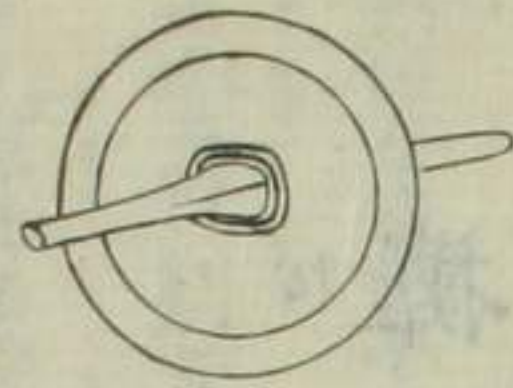
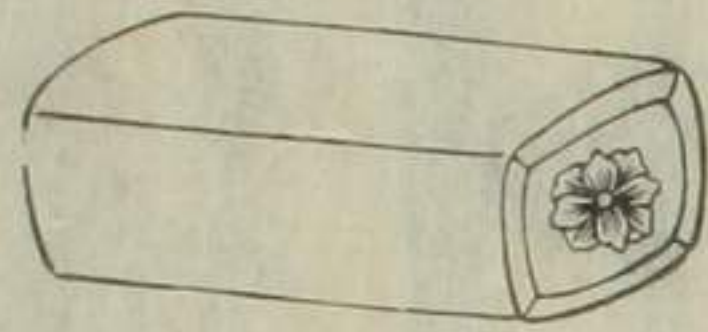
乞を捐米と云ふ乞等の人は官を朝廷に奉還し相當に官職を授け事と又
官職を好まざる人其の品級頂帯斗衣終つて獎勵し或は其子孫の内學同儂
長ある者成卒く官職を授け事あり是を捐納官と云ふ又村内ゆく思ひに
志ある者成卒し合せ倉を建てる成貯金と村中の非常に備ふる是を義倉
と云ふ ○ 米一俵又斗俵二俵の重九銅錢二貫二百文を年の豊歉に依り不同を
雇役の一日五十五文七十五文の包飯として自身に食事を備ふ時八百四十文位より二百
文位辰の刻より申の中刻頃まであり
輕き吏役は朝より衙門におく事成辦理つた食事を衙門の門前の酒店飯店
ゆく吃す并當中の事なり又衙門より食成給す事なり
○ 醫家と呂洞賓を組んで都く門前にお招牌を出し是其内めも醫術切者ゆても
療用にお倦る醫醫師を招牌を引く掛せとて懇懇知音ありこれ行事なり

衙門より請す事なり招牌を掛る醫醫師を出して行けば又官醫醫師都く招牌をか
きし事を得也 ○ 病人あるを醫醫師を請す事なり僮僕使として中入る時
み事おもむく近道を止り多く歩行せし事なり主家より轎子を持せ遣す事なり
官醫大醫成請す事なり使し請帖並銀二十日或は五六十日役包持
甚道し門番まで中入る門番人帖並銀成持入達し是を醫醫師受取り意頂
より多く其家に事あるを大醫の家ゆ毎日病人多く事なり診脈を打む故
朝身仕止終つて虫に病人を順く見し事なり守子に三月て薬法成書せし事なり
一會食を仕止直りし事なり出宅也 有るの病人を順く見し事なり何正可自れ轎子
を用い醫醫師到来の時外廳の口で出迎ふ初見の醫醫師あり門外出迎ふ
廳上にお請ふ事なり成進め事なり醫醫師より有病貴府何人と問主人某々と答
委しく容辭成し醫醫師詳み聞くと是と病床みまると容辭を見し事なり

成る病人と起り坐し脈を診せしむる起坐が死病人と外を伺ひて
を出る脈床の上を至静に脈を診し容解によきて舌頭眼中腹中並に脊背仰上
身を篤と見よして臆上み出至人備るる書案に倚り椅子に坐し主人み病
解の大畧成結と薬法成書或は醫書を書き事ありて書きて主人より茶或
は糕餅を出し暫く談話して病を承るる薬法成薬舗み持せ遣し薬舗
よる法の通る茶成調合して遣す都て醫師より茶成遣は事れし何程の急病
ゆくと醫師薬成持来せし御村遠路を請すふら茶箱を持よるは此の
御村と薬舗とくもゆく市中近と遠路とて醫師茶箱成持行あり先病解を見
診脈して方成書書く茶成調合は茶紙と川練紙五寸方み切稱子をぬく薬
味成總調劑すふ茶成匙を用ひて謝儀の日く請ふな成紙に送り遣は
懇意の者ありて日く送ふみ及ぶ端午中秋年邊の三季み送ふ大醫者請

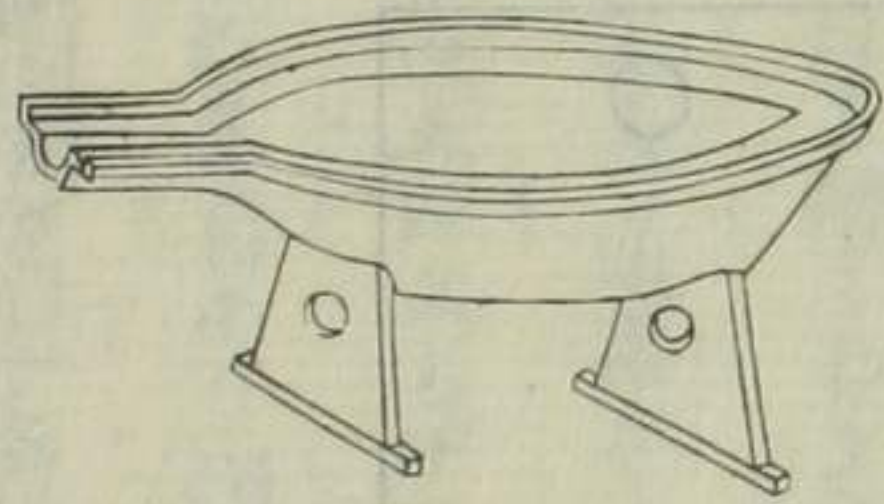
みら必まの謝儀を送ると請す夫謝儀の輕微又と招請の不敢あるは行肯
せむ病家をお頼ら轎夫の心得ぬく頼便成考へ行あり急病ありはらと
見せし病人の早廻りと轎夫を遣し頼入し何れ何方を早くあり
りしと頼まらぬの吹み連りあり轎儀と都て病家より謝儀の外みわら
とも踏の遠近みより二百文三百文五百文位とてかば急病ありと
出中食はみあるは店みより中食すふあり懇懇に家止り中食は
あり又手輕便小醫者常み轎子み承る事ありすかき歩行して僕一人連り
止病家を自ら此勝手にはらふ
○外科も内科同様み招はみ應ずる膏薬とて命許すと攤もちるは箱
の止剪刀小刀等成包袱み包く持来せ

枕^{まくら} 脉^ま



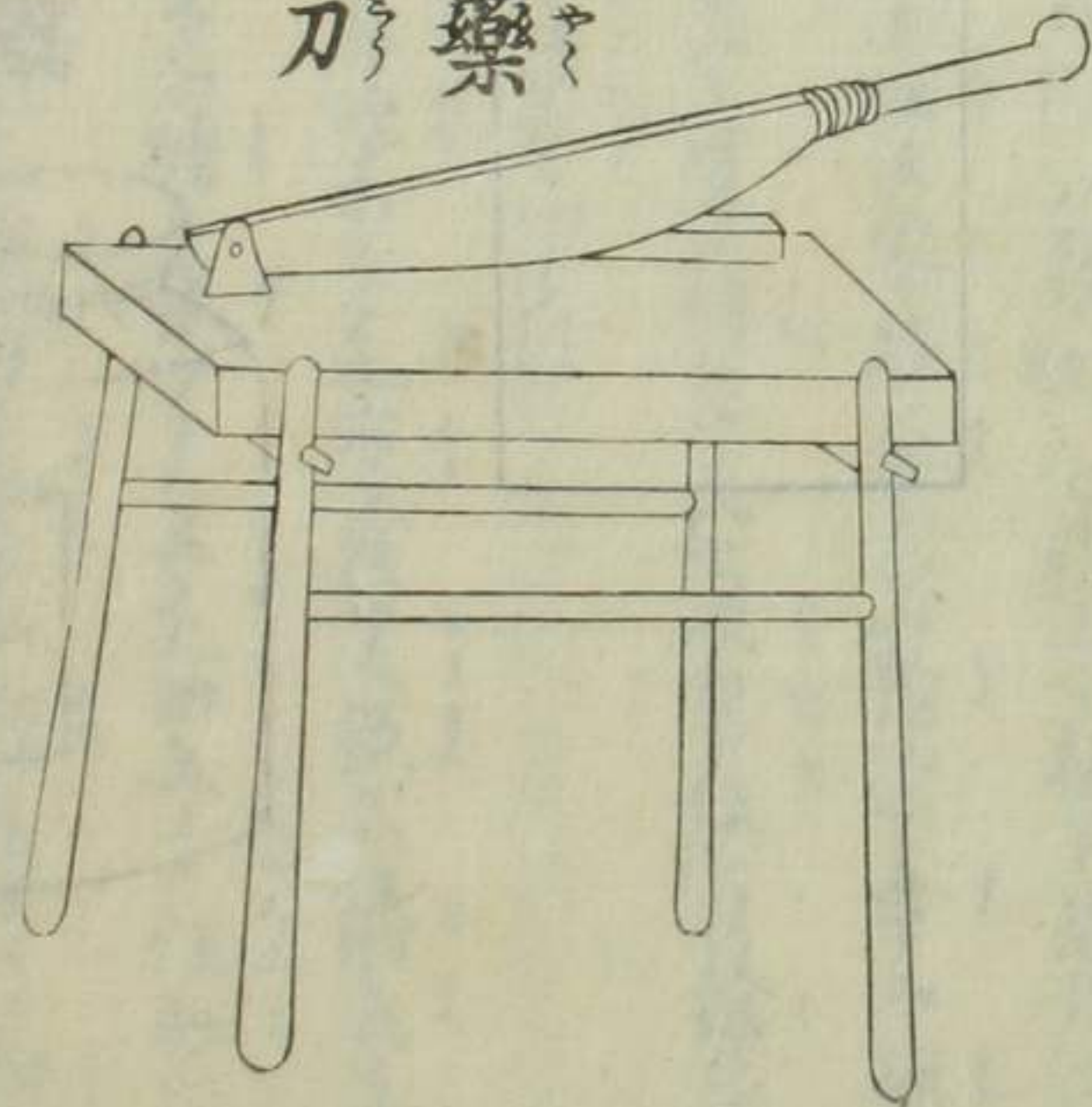
藥^{くすり} 研^{けん}

褥^{むしろ} 脉^ま



刀^{かみ} 藥^{くすり}

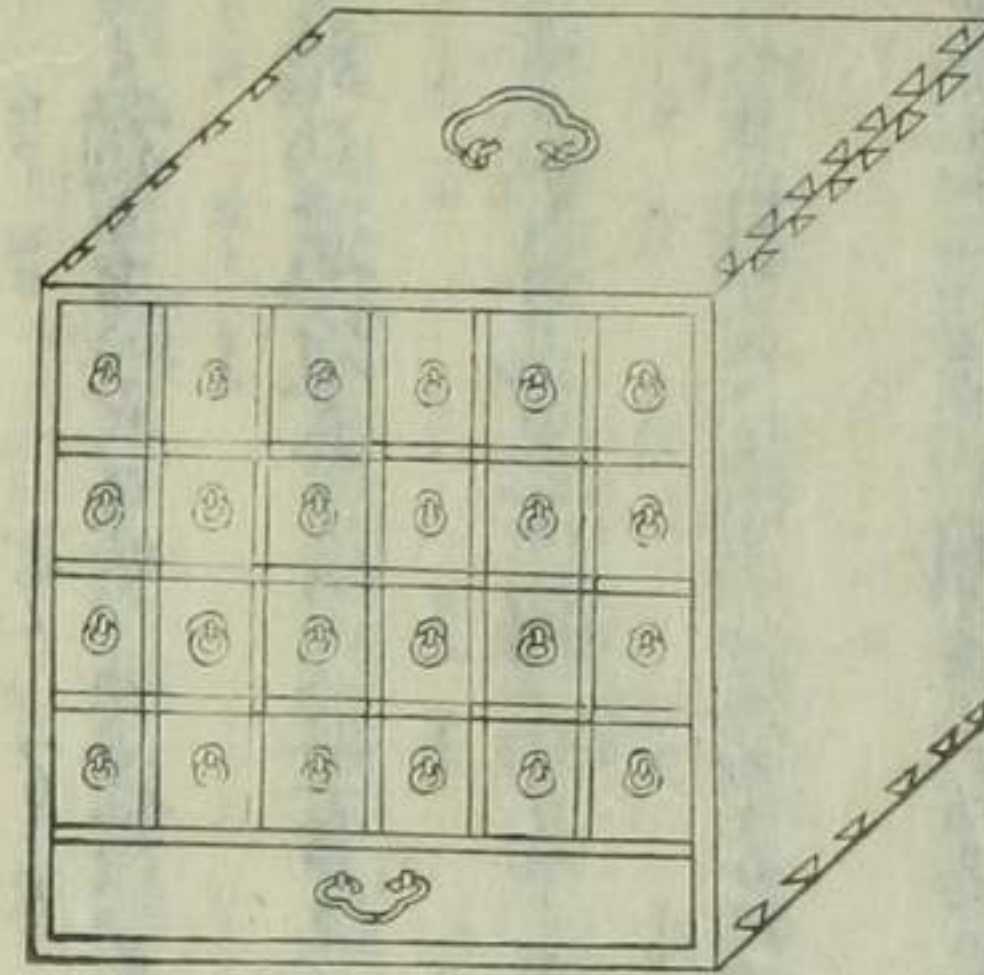
床^{とこ} 脉^ま



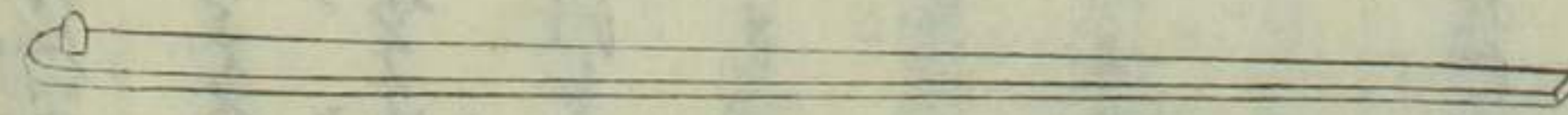
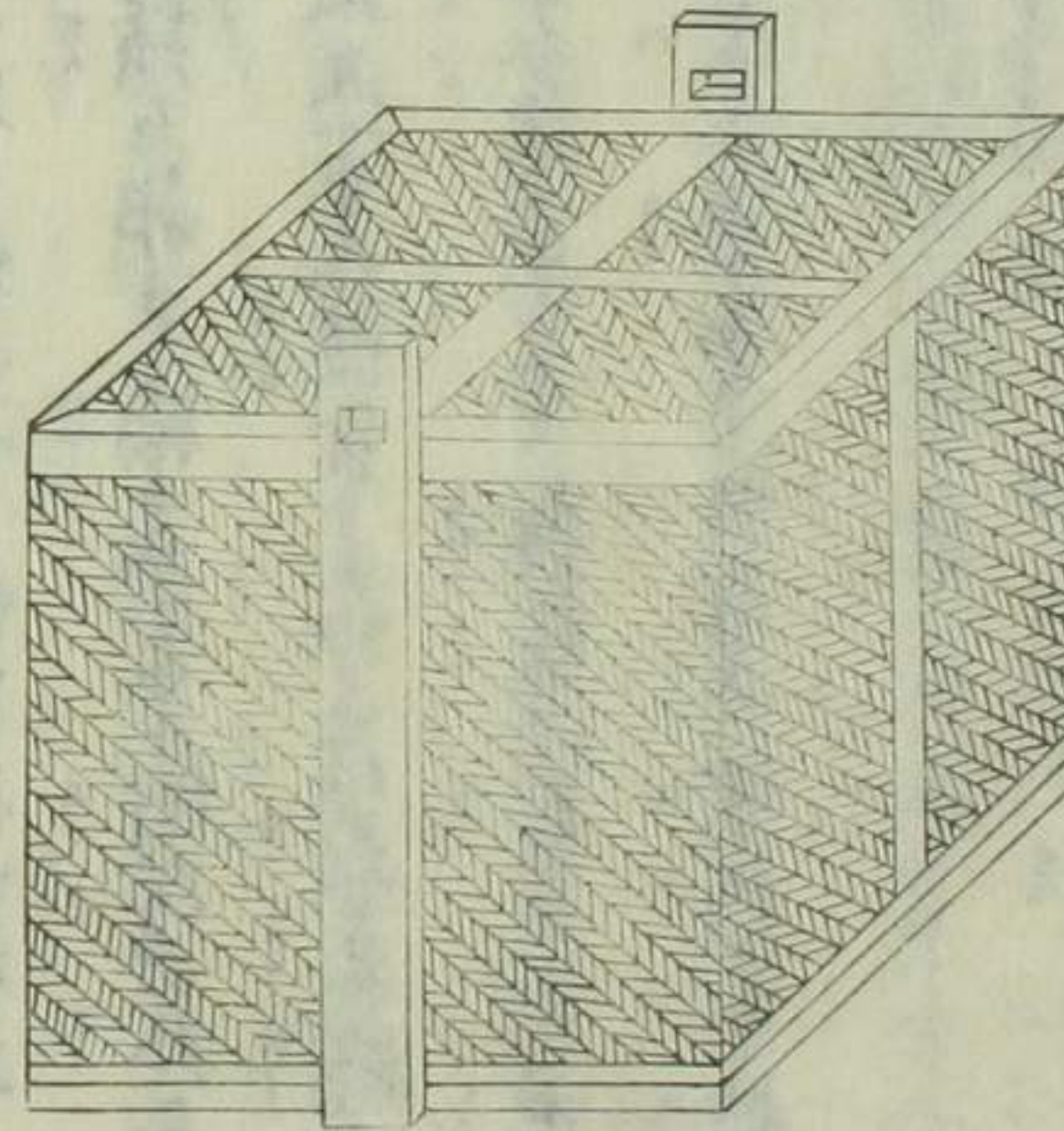
居家

坐

藥^{くすり} 箱^{ばこ}



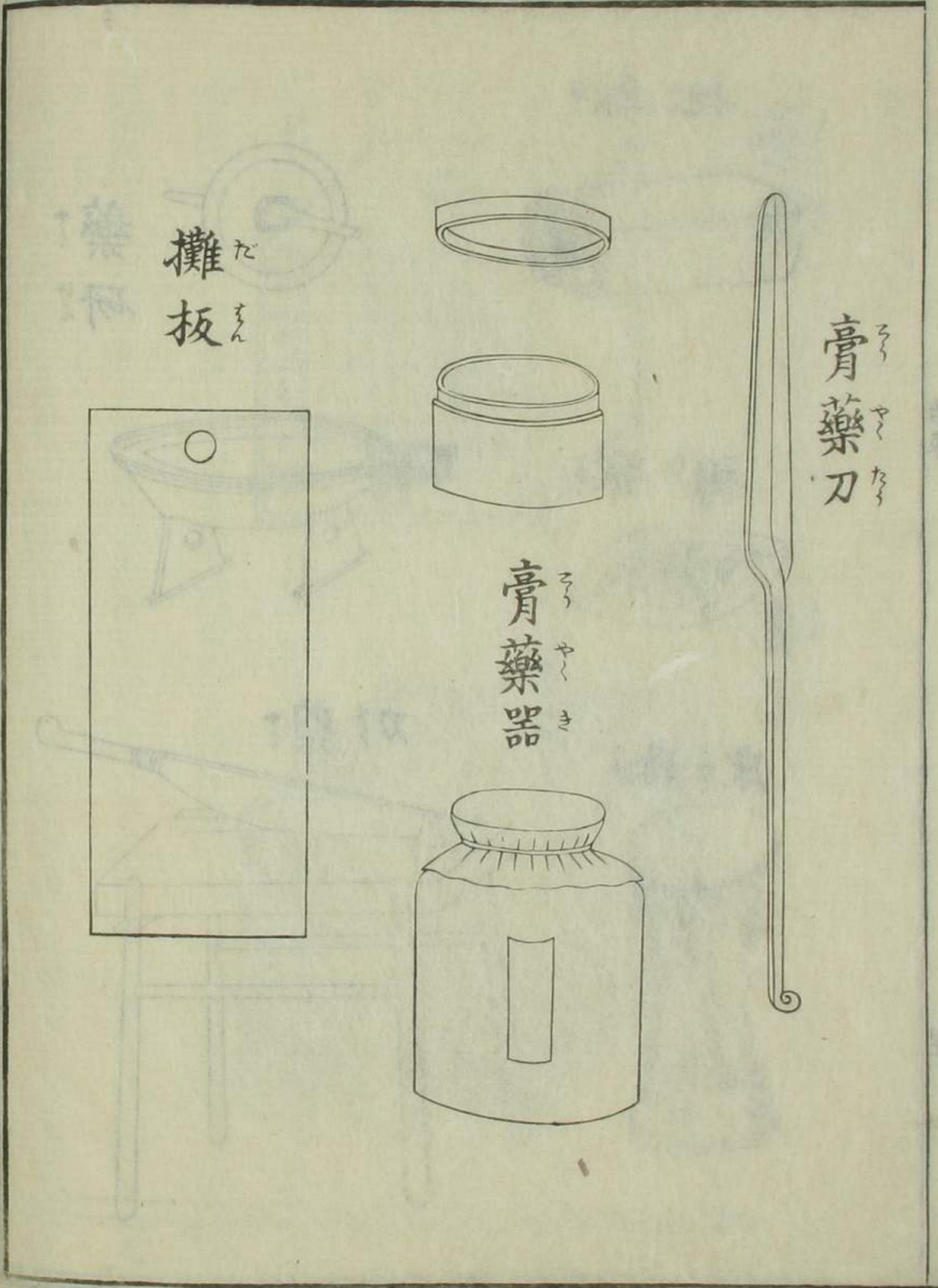
套^{かぶせ} 子^こ



○金の上品足赤金と云ふ正金其次を九程一歩八程二歩七程と極下品成六程
 三厘量目通例五百目以下折あり分厘の小切成零碎金と云ふ惣じて金と國の
 珍宝あり少平日調物等の通用なり銀中く買ふ時ハ十二七双替位その餘の金ハ
 足赤金の別再準ト十二五双又十二三双位等加ハル
 ○銀と元寶足成元系此名目あり何れも真味あり元寶成足成再鑄する付ハ
 銅成少く歩差成り足成を元系に鑄する時ハ銀十とみ九四五分位此二品を
 上品と成中品成封と下品成三輕と成三輕と元系の別あり一割五
 歩差成封と元系銀と五歩差成の割合あり元寶銀一挺量目五百
 足成銀ハ二十三と成元系銀一挺量目十一と成小形成磅子と云ふ又碎
 銀と云ふと入用ハ切けりみす
 ○金銀の産る者府州縣ともみあり布政司の下司ハ庫司と云ふあり此庫司

居家

七三二



攤板

膏藥器

膏藥刀

ゆく金銀成改多事あり西多産を金とらふ又元鋪と云則金銀又傾限道座あり
少て金銀を溶化して鑄利を出入し足紋元糸等色くみ鑄をふりて元宝銀
ちりり以年月比各金銀通の姓名成記也

○銭と銅錢一文の量目二分五分吹と成定法と成相場當時下吏の所
ゆく七と八九分八分程あり錢の鑄み貫元百文二百文あり子文を一串と成
鑄と麻成ととて錢を費たり銀札はくは絶くあり

○河後等み民間有徳の者をして金銀成出して公用をゆふまありと成代
捐とらふ○官庫み貯ふ金銀と皆元寶此形みして貯とらふ

○米の高下等かくは江浙の米成上穀と成今當地み持紙米の湖廣等の
産みと私米と稱し下穀あり而早稻あり江浙上穀の並成とらふ一刻二
刻も相場下成たり一石二十五文との米は江浙の上穀あり一日一人乃食

○元米一升と成○惣して馬具成成負せ馬の驛路の用成あり也(駟をせ成

一人ゆく米成成荷と成元九百二十斤程米二三俵成と成小車一載せ一人とて
推致又と牛に挽りて十俵成は此時と大車も載せ牛一疋又と二疋も挽りて又山

東と大場都會と成はと成挽成場ありと成牛車に櫓を立帆を懸成風
み吹りせふまあり也○市中米問屋あり表向定りたるまたり素と成定りる

○米一斛と成五斗二斛を一石と成又一擔又一擔重三百二十斤俵造り八通例五斗俵あり

一石代銀元二五文と成程一升は此方の升ゆく五合は此の當分白米と成米もは
一店小賣あり貧民と成日買して日用成并成○麦一升錢十三文江浙福建山東

○赤豆一升同文成豆類の穀物成店ゆく賣出もあり又此品のく小賣の所も有

○糠一斗同三十文程屠定も買く家猪の飼養用ひ又牛馬の飼養も用ひ
 兼く得意ありて麻布或持越く買調ひ ○米麦等の柄くみ限り外養也
 其の余の諸物皆行賣 ○絹本綿類品々名目多く代銀等かゝる本綿一端
 七八分より十分位衣類一、表裏本綿中して一番虫限九十六七分綿入と二十目
 二十二三分程掛ふ在綿上も本綿を持越して城下の同巻柄の二割み賣込一本あり
 是を字號と唱ふ是へ兼行ある遠い格別之金成貯へたり者ありこれに能く
 紙類品々多く代銀等かゝる奏本紙あつて一本十回五分又二十目位川練紙
 と一帖百廿八枚あつて三分位時あつて二分位の事もあつて上品は三分四五分位
 もあり松江養とて五色の紙と一帖二十五枚又二十枚づつ定式なり上品と一帖
 七八分位ありひの拾分位下品と三四分位のともあり
 ○茶一升中品の一割九銀二分位上品と二三目四五目まであり亀井雨前武夷

を上品とす ○塩一升九錢五十分位是も江南浙江の産成上品とす
 ○酒一升九同三十分位又三十分位六七分位程 飲食の部 ○種油一升百四十五文惣じて燈
 油あけ物何れも種油成用と種油成菜油と唱ふ菜種を油とす
 ○薪百斤九銀二分位蘆柴本柴両品成用白蘆柴若くは草かゝる成長三三二尺位
 切竹あつて胴二所に輪を入持運ふ本柴も同じ九二尺位あつて一把重三斗五斤
 位 ○銅一升九錢百四十五文位 ○鉄一升銀三分位鉄釘一升七八十分位
 ○石大小による代銀等かゝる長六尺位方一尺位あつて礎石も一率九十分
 位礎の稍粗あつて七八分位もあり ○竹長さ四間程あつて四り九寸位一本錢
 二百文程 ○枿本大小長短本料美悪本名の差別ありて代銀等かゝる枿
 六七寸角長さ一丈五尺位の二割あつて十分程より二十目位まであり又六七分位
 よると八九分のもあり松々杉より二割も下並なり本の上下によるて代銀等かゝる

○石炭百斤銀四文程 ○炭百斤同十文程 ○大根一斤錢二文程 ○水菜一斤
 同二文程 ○たむと上品一斤同四五文程 下品百六七十文程まで ○鶏一斤同五六
 十文程 ○い七十文程 ○鳩一斤同八十文程又を白文程 ○麦粉一斤銀二分又
 三分程 ○錫一斤同三十分程 ○鉛一斤同一分五分程 ○大工手同賃錢百
 四十文程 手不納ありは二百文程 上細工人を二つ程 ○日雇人足手同賃
 一日同百文又尤官石匠等も百四十文宛 ○在郷者月奉一人一人一月の
 給科同二百文程 ○金汁一年分請なる作人より代り物とて種油つらひ
 ○家屋舗地租銀一畝廿一年九銀三分程 上納田地と科別あり等かき
 ○家賃と家秋の大小廣狭みよと等かき九五間表はみよと店張べき家江種
 の地みよと一年九銀三貫目程又二三間口の屋敷一ヶ月家賃五六十文位の所
 とあり好場所ありは二三十日位のもあり 賣家と月掛者等々の類とて賣家

の人ら三季掛 ○下賤の者一人暮一方一人茶錢三四十文みよと八番一か
 めととも二人合食ありは百文程みよと安く暮らす食事は魚野菜等也
 肉食を出來程 ○中々商人賤めよと家口九十人程ありは一年暮りか
 三貫目程みよと ○吉凶音物諸雜費貧富み應と等かき

清俗紀聞卷之二

居家

十五

紙幣の流通状況

昭和

1931

1. 紙幣の流通状況
 2. 紙幣の流通状況
 3. 紙幣の流通状況
 4. 紙幣の流通状況
 5. 紙幣の流通状況
 6. 紙幣の流通状況
 7. 紙幣の流通状況
 8. 紙幣の流通状況
 9. 紙幣の流通状況
 10. 紙幣の流通状況

